北斗市

矢不来６遺跡
矢不来11遺跡
館野４遺跡

―高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書―

平成17年度

財団法人　北海道埋蔵文化財センター

遺跡遠景　木地挽高原より　（北から）

遺跡遠景　旧上磯町市街地より　（北東から）

土層断面

口絵２

基本土層　矢不来11遺跡

窪みに堆積した火山灰　矢不来11遺跡

メインセクション　館野４遺跡Ｌ－３・４　（北西から）

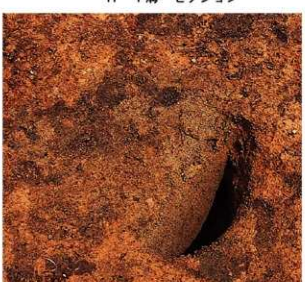
Ｈ－１　全景　（南東から）

Ｈ－１ＨＰ－１　セクション

Ｈ－１　セクション　（北東から）

Ｈ－１溝　セクション

Ｈ－１床面土器出土状況　（南から）



Ｈ－１ＨＰ－８　セクション　（南から）

Ｂ地区　遺構検出状況　（北東から）

Ｂ地区　調査終了状況　（北から）

Ｈ－２・３　全景　（北西から）

Ｈ－２・Ｐ－68　セクション　（南西から）

Ｈ－２埋設土器・ＨＦ－１セクション（西から）

Ｈ－２　床面出土土器

Ｈ－４　セクション　（南西から）

Ｈ－６・Ｐ－22～29　（北西から）

Ｈ－６　セクション　（西から）

例　　言

1．本書は、高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事に伴い、平成17年度に財団法人北海道埋蔵文化財センターが実施した北斗市矢不来6遺跡、矢不来11遺跡、館野4遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2．本書の執筆は、工藤研治、鎌田　望、福井淳一、柳瀬由佳が行なった。編集は鎌田が担当した。
3．現地での写真撮影は担当調査員が行なった。遺物撮影および写真整理は柳瀬が行なった。
4．調査報告終了後の出土遺物は北斗市教育委員会が保管する。
5．調査にあたっては次の機関および諸氏のご指導・ご協力をいただいた（順不同、敬称略）。

北海道教育庁生涯学習部文化課
函館開発建設部函館道路事務所
上磯町（現：北斗市）教育委員会
北海道立地質研究所
株式会社相互建設
石井　淳平、大沼　忠春、木元　　豊、
佐藤　智雄、田近　　淳、中村　公宣、
長沼　　孝、野辺地初雄、長谷部一弘、
畑　　宏明、廣瀬　　亘、福田　裕二、
藤原　秀樹、三上　英則、森　　靖裕、
山田　　央、横山　英介、吉田　　力

記号等の説明

1．遺構の表記は以下に示す記号を使用し、原則として確認順に番号を付した。
　H：住居跡　P：土坑　F：焼土
　SP：小ピット　TP：Tピット
2．遺構図の方位は真北を示す。遺構平面図・メインセクション図の＋はグリッドライン交点で、傍らの名称記号は右下のグリッドを示している。遺構断面図・メインセクション図のセクションレベルは、標高（単位はm）である。
3．遺構の最大規模は、「確認面での長軸長×短軸長／底面での長軸長×短軸長／確認面からの最大深・最大厚(単位はm)の順に記した。一部破壊されているものは現存長を（　）で示し、不明のものは－で示した。
4．実測図の縮尺は原則として下記のとおりである。下記以外の図および、例外については図内にスケールを付して示した。

遺　構	1／40	剥片石器	1／2
石　斧	1／2	土製品	1／2
石製品	1／2	拓影土器	1／3
礫石器	1／3	復元土器	1／4

5．土層の表記については、基本土層はローマ数字、遺構の層位はアラビア数字で示した。
6．土層の色調は、『新版標準土色帖2002年版』(小川・竹原　2002）に従った。
7．火山灰の略号は、『北海道の火山灰』（北海道火山灰命名委員会　1982）による。
8．土器、石器、土製品、石製品の大きさは、「最大長×最大幅×最大厚」で記した。剥片石器、礫石器は図正面の縦の長さを「長さ」、横の長さを「幅」とした。厚さは最大値を採用した。破損しているものは現存長を（　）で示した。なお、実測図中において、たたき痕は∨－∨、すり痕は←→で範囲を表した。

目　　次

口　　絵
例　　言
記号等の説明
目　　次
挿図目次
表 目 次
写真図版目次

Ⅰ　調査の概要
1　調査要項 …… 1
2　調査体制 …… 1
3　調査にいたる経緯 …… 1
4　遺跡の位置と環境 …… 2
5　周辺の遺跡 …… 2
6　調査結果の概要 …… 6
（1）矢不来６遺跡・矢不来11遺跡 …… 6
（2）館野４遺跡 …… 6

Ⅱ　調査の方法
1　発掘区の設定 …… 12
（1）矢不来６遺跡・矢不来11遺跡 …… 12
（2）館野４遺跡 …… 12
2　発掘調査の方法と経過 …… 12
（1）矢不来６遺跡 …… 12
（2）矢不来11遺跡 …… 13
（3）館野４遺跡 …… 13
3　整理の方法 …… 18
（1）一次整理 …… 18
（2）二次整理 …… 18
（3）記録類・遺物の収納・保管 …… 18
4　土層の区分 …… 19
（1）観察項目と記載順序 …… 19
（2）基本層序 …… 19
5　遺物の分類 …… 25
（1）土　器 …… 25
（2）石器等 …… 26

Ⅲ　矢不来６遺跡
1　遺　構 …… 27
（1）住居跡 …… 27
（2）土　坑 …… 30
（3）焼　土 …… 30
（4）配　石 …… 30
2　包含層出土の遺物 …… 46
（1）土　器 …… 46
（2）石器等 …… 51

Ⅳ　矢不来11遺跡
1　遺　構 …… 59
2　包含層出土の遺物 …… 60
（1）土　器 …… 60
（2）石器等 …… 62

Ⅴ　館野４遺跡
1　遺　構 …… 67
（1）住居跡 …… 69
（2）土　坑 …… 101
（3）焼　土 …… 115
（4）小ピット …… 128
（5）埋設土器 …… 128
（6）Ｔピット …… 128
2　包含層出土の遺物 …… 142
（1）土　器 …… 142
（2）石器等 …… 148

Ⅵ　自然科学的分析
1　館野４遺跡
放射性炭素（ＡＭＳ）測定結果 …… 155
2　館野４遺跡焼失住居出土
炭化材の樹種同定 …… 158

写真図版
引用・参考文献
報告書抄録

挿　図　目　次

Ⅰ　調査の概要

図Ⅰ－１　周辺の遺跡 …… 4
図Ⅰ－２　矢不来６遺跡・矢不来11遺跡調査最終面地形図・遺構位置図 …… 8
図Ⅰ－３　館野４遺跡調査最終面地形図・遺構位置図 …… 9
図Ⅰ－４　矢不来６遺跡・矢不来11遺跡遺物分布図 …… 10
図Ⅰ－５　館野４遺跡遺物分布図 …… 11

Ⅱ　調査の方法

図Ⅱ－１　矢不来６遺跡・矢不来11遺跡の調査範囲と周辺の地形 …… 14
図Ⅱ－２　館野４遺跡の調査範囲と周辺の地形 …… 15
図Ⅱ－３　矢不来６遺跡・矢不来11遺跡のグリッド設定図 …… 16
図Ⅱ－４　館野４遺跡のグリッド設定図 …… 17
図Ⅱ－５　土層断面観察位置図（１） …… 20
図Ⅱ－６　土層断面観察位置図（２）・基本土層柱状図 …… 21
図Ⅱ－７　矢不来６遺跡土層断面図 …… 22
図Ⅱ－８　矢不来11遺跡土層断面図 …… 23
図Ⅱ－９　館野４遺跡土層断面図 …… 24

Ⅲ　矢不来６遺跡

図Ⅲ－１　遺構密集部分拡大図 …… 28
図Ⅲ－２　Ｈ－１、Ｆ－10 …… 31
図Ⅲ－３　Ｈ－１の遺物（１） …… 32
図Ⅲ－４　Ｈ－１の遺物（２） …… 33
図Ⅲ－５　Ｈ－２、Ｆ－２・11 …… 34
図Ⅲ－６　Ｈ－３、Ｆ－12・18・19 …… 35
図Ⅲ－７　Ｈ－４ …… 36
図Ⅲ－８　Ｈ－２・３・４の遺物 …… 37
図Ⅲ－９　Ｐ－１・２、Ｆ－１～５ …… 38
図Ⅲ－10　Ｆ－６～９・13～15 …… 39
図Ⅲ－11　Ｆ－16・17・20～22、配石、埋設土器 …… 40
図Ⅲ－12　焼土の遺物、埋設土器 …… 41
図Ⅲ－13　小ピット（１） …… 42
図Ⅲ－14　小ピット（２） …… 43
図Ⅲ－15　包含層出土の土器（１） …… 47
図Ⅲ－16　包含層出土の土器（２） …… 48
図Ⅲ－17　包含層出土の土器（３） …… 49
図Ⅲ－18　包含層出土の土器（４） …… 50
図Ⅲ－19　包含層出土の石器（１） …… 52
図Ⅲ－20　包含層出土の石器（２） …… 53
図Ⅲ－21　包含層出土の石器（３） …… 54
図Ⅲ－22　包含層出土の石器（４） …… 55
図Ⅲ－23　包含層出土の石器（５） …… 56
図Ⅲ－24　包含層出土の石製品・金属製品 …… 57

Ⅳ　矢不来11遺跡

図Ⅳ－１　Ｆ－１～５ …… 59
図Ⅳ－２　包含層出土の土器（１） …… 61
図Ⅳ－３　包含層出土の土器（２） …… 62
図Ⅳ－４　包含層出土の石器（１） …… 63
図Ⅳ－５　包含層出土の石器（２） …… 64
図Ⅳ－６　包含層出土の石製品・金属製品 …… 65

Ⅴ　館野４遺跡

図Ⅴ－１　Ｈ－１とその遺物 …… 67
図Ⅴ－２　遺構密集部分拡大図 …… 68
図Ⅴ－３　Ｈ－２（１） …… 70
図Ⅴ－４　Ｈ－２（２） …… 71
図Ⅴ－５　Ｈ－２（３）、Ｆ－20・23～26・32、Ｓ－１ …… 72
図Ⅴ－６　Ｈ－２（４） …… 73
図Ⅴ－７　Ｈ－２の遺物（１） …… 74
図Ⅴ－８　Ｈ－２の遺物（２） …… 75
図Ⅴ－９　Ｈ－２の遺物（３） …… 76
図Ⅴ－10　Ｈ－２の遺物（４） …… 77
図Ⅴ－11　Ｈ－３ …… 79
図Ⅴ－12　Ｈ－３の遺物 …… 80
図Ⅴ－13　Ｈ－４（１） …… 82
図Ⅴ－14　Ｈ－４（２）、Ｆ－11・18・30・33、Ｓ－３、埋設土器１ …… 83
図Ⅴ－15　Ｈ－４（３） …… 84

図Ⅴ－16　Ｈ－４の遺物（１）…… 85
図Ⅴ－17　Ｈ－４の遺物（２）…… 86
図Ⅴ－18　Ｈ－４の遺物（３）…… 87
図Ⅴ－19　Ｈ－５・８（１）…… 88
図Ⅴ－20　Ｈ－５・８（２）…… 89
図Ⅴ－21　Ｈ－５・８（３）、Ｆ－31 …… 90
図Ⅴ－22　Ｈ－５の遺物 …… 91
図Ⅴ－23　Ｈ－８の遺物 …… 92
図Ⅴ－24　Ｈ－６（１）…… 94
図Ⅴ－25　Ｈ－６（２）…… 95
図Ⅴ－26　Ｈ－６（３）、Ｆ－15～18 …… 96
図Ⅴ－27　Ｈ－６の遺物 …… 97
図Ⅴ－28　Ｈ－７（１）、Ｓ－２ …… 98
図Ⅴ－29　Ｈ－７（２）・９・10、
　Ｆ－29 …… 99
図Ⅴ－30　Ｈ－７の遺物 ……100
図Ⅴ－31　Ｈ－９の遺物 ……101
図Ⅴ－32　Ｐ－１～７、Ｆ－10・34 ……102
図Ⅴ－33　Ｐ－８～10・12～14 ……103
図Ⅴ－34　Ｐ－15～18、Ｆ－19・21 ……104
図Ⅴ－35　Ｐ－19～24 ……105
図Ⅴ－36　Ｐ－25～29・31～35 ……106
図Ⅴ－37　Ｐ－36～42 ……107
図Ⅴ－38　Ｐ－43～49・65・66・72、
　Ｆ－７・27 ……108
図Ⅴ－39　Ｐ－50・52～55 ……109
図Ⅴ－40　Ｐ－56～63 、Ｆ－６ ……110
図Ⅴ－41　Ｐ－67・69～71・73・80、
　Ｆ－14 ……111
図Ⅴ－42　Ｐ－68（１）……112
図Ⅴ－43　Ｐ－68（２）・74～76・79、
　Ｆ－２ ……113
図Ⅴ－44　Ｐ－77・78、Ｆ－３ ……114
図Ⅴ－45　土坑の遺物（１）……116
図Ⅴ－46　土坑の遺物（２）……117
図Ⅴ－47　土坑の遺物（３）……118
図Ⅴ－48　土坑の遺物（４）……119
図Ⅴ－49　Ｆ－１・４・５・８・11・12、
　埋設土器２・３ ……120
図Ⅴ－50　小ピット（１）……121
図Ⅴ－51　小ピット（２）……122
図Ⅴ－52　小ピット（３）……123
図Ⅴ－53　小ピット（４）……124
図Ⅴ－54　小ピット（５）……125
図Ⅴ－55　小ピット（６）……126
図Ⅴ－56　小ピットの遺物、埋設土器 ……127
図Ⅴ－57　Ｔピット（１）……129
図Ⅴ－58　Ｔピット（２）……130
図Ⅴ－59　包含層出土の土器（１）……143
図Ⅴ－60　包含層出土の土器（２）……144
図Ⅴ－61　包含層出土の土器（３）……145
図Ⅴ－62　包含層出土の土器（４）……146
図Ⅴ－63　包含層出土の石器（１）……149
図Ⅴ－64　包含層出土の石器（２）……150
図Ⅴ－65　包含層出土の石器（３）……151
図Ⅴ－66　包含層出土の石器（４）
　・石製品 ……153

Ⅵ　自然科学的分析

暦年代較正結果 ……157

表　目　次

Ⅰ　調査の概要

表Ⅰ－１　周辺の遺跡一覧 …… 4
表Ⅰ－２　遺跡別検出遺構数一覧 …… 6
表Ⅰ－３　遺跡別出土遺物点数一覧 …… 7

Ⅲ　矢不来６遺跡

表Ⅲ－１　遺構一覧 …… 44
表Ⅲ－２　付属遺構一覧 …… 44
表Ⅲ－３　遺構出土遺物点数一覧 …… 45
表Ⅲ－４　遺構掲載土器一覧
　（復元土器）…… 45
表Ⅲ－５　遺構掲載土器一覧（拓影）…… 45
表Ⅲ－６　遺構掲載石器一覧 …… 46
表Ⅲ－７　包含層掲載土器一覧
　（復元土器）…… 50
表Ⅲ－８　包含層掲載土器一覧（拓影）… 50
表Ⅲ－９　包含層掲載石器等一覧 …… 58

Ⅳ　矢不来11遺跡
表Ⅳ－１　焼土一覧 …… 59
表Ⅳ－２　包含層掲載土器一覧（拓影）… 62
表Ⅳ－３　包含層掲載石器等一覧 …… 66
Ⅴ　館野４遺跡
表Ⅴ－１　Ｔピット一覧 ……128
表Ⅴ－２　遺構一覧 ……131
表Ⅴ－３　付属遺構一覧 ……134
表Ⅴ－４　遺構出土遺物点数一覧 ……135
表Ⅴ－５　遺構掲載土器一覧
（復元土器）……140
表Ⅴ－６　遺構掲載土器一覧（拓影）……140
表Ⅴ－７　遺構掲載石器一覧 ……141
表Ⅴ－８　包含層掲載土器一覧
（復元土器等）……147
表Ⅴ－９　包含層掲載土器一覧（拓影）…147
表Ⅴ－10　包含層掲載石器等一覧 ……154
Ⅵ　自然科学的分析
表Ⅵ－１　試料一覧 ……157
表Ⅵ－２　館野４遺跡縄文時代中期住居跡出土
炭化材の樹種同定結果一覧 ……160

写真図版目次

矢不来６遺跡
図版１　Ｈ－１・２・３（西から）
調査状況（南から）
図版２　Ｈ－１　全景（南から）
Ｈ－１　セクション（北東から）
Ｈ－１　床面土器出土状況（南から）
Ｈ－１　ＨＰ－２・３　セクション
（南東から）
図版３　Ｈ－２　全景（南東から）
Ｈ－２　セクション（南西から）
Ｈ－２　覆土土器出土状況（南から）
Ｈ－２　セクション（南東から）
Ｈ－２　覆土土器出土状況（東から）
図版４　Ｈ－３　全景（南東から）
Ｈ－３　セクション（南から）
Ｈ－３　ＨＰ－１セクション（南から）
Ｈ－３　セクション（西から）
Ｈ－３　ＨＰ－２セクション（南から）
図版５　Ｈ－４　全景（南西から）
Ｈ－４　セクション（東から）
Ｈ－４　覆土遺物出土状況（東から）
Ｈ－４　ＨＰ－１セクション（南から）
Ｈ－４　ＨＰ－２セクション（東から）
図版６　配石２・埋設土器　検出状況（南から）
Ｐ－１　セクション（南から）
配石１　検出状況（南東から）
埋設土器　セクション（南東から）
包含層遺物出土状況　Ⅱ群ｂ類土器
（東から）
図版７　Ｈ－１
Ｈ－１
Ｈ－２（図Ⅲ－８－１）
図版８　Ｈ－２・３・４
Ｈ－４（図Ⅲ－８－８）
埋設土器（図Ⅲ－12－２）
Ⅱ群ｂ類（図Ⅲ－15－１）
Ⅳ群ａ類（図Ⅲ－15－２）
図版９　Ⅰ群ａ類・Ⅰ群ｂ類・Ⅱ群ｂ類
Ⅱ群ｂ類・Ⅳ群ａ類
図版10　剥片石器１
剥片石器２
図版11　石斧・たたき石
扁平打製石器・北海道式石冠・石錘
図版12　石皿（図Ⅲ－23－40）
石製品（図Ⅲ－24－41・42）
金属製品（図Ⅲ－24－43・44）
矢不来11遺跡石製品
（図Ⅳ－６－22・23）
矢不来11遺跡金属製品
（図Ⅳ－６－24）
矢不来11遺跡
図版13　遺物出土状況（北東から）
調査状況（東から）
図版14　Ⅳ群ａ類

図版15　剥片石器・石斧
　　礫石器

館野４遺跡

図版16　調査状況（北から）
　　Ｂ地区　調査前状況（北西から）
図版17　Ｂ地区　遺構検出状況（北東から）
　　Ｂ地区　調査終了状況（北から）
図版18　Ｈ－１　全景（南西から）
　　Ｈ－１　セクション（北西から）
　　Ｈ－１　セクション（南西から）
図版19　Ｈ－２・３　全景（北西から）
　　Ｈ－２　セクション（南から）
　　Ｈ－２　ＨＰ－２セクション（南から）
　　Ｈ－２　ＨＰ－３セクション（南から）
　　Ｈ－２　ＨＰ－５セクション（南から）
図版20　Ｈ－２　炭化材出土状況（南西から）
　　Ｈ－２　炭化材出土状況（西から）
　　Ｈ－２　炭化材出土状況（南から）
　　Ｈ－２　埋設土器（西から）
　　Ｈ－２　床面遺物出土状況（南西から）
　　Ｈ－２　床面遺物出土状況（北西から）
図版21　Ｈ－２・Ｐ－68
　　覆土の焼土・礫検出状況（西から）
　　Ｈ－２　覆土土器出土状況（東から）
　　Ｓ－１・Ｆ－20　セクション（南から）
　　Ｆ－25　セクション（南東から）
　　Ｆ－23　セクション（南西から）
図版22　Ｈ－３　全景（北西から）
　　Ｈ－３　セクション（南東から）
　　Ｈ－３　セクション（北西から）
図版23　Ｈ－３　ＨＦ－１セクション(南西から)
　　Ｈ－３　床面遺物・炭化材出土状況
　　（北東から）
　　Ｈ－３　ＨＰ－２セクション(南西から)
　　Ｈ－３　ＨＰ－３セクション(南西から)
　　Ｈ－３　床面遺物出土状況（北から）
図版24　Ｈ－４　全景（北西から）
　　Ｈ－４　セクション（南から）
　　Ｈ－４　セクション（南西から）
図版25　Ｈ－４　床面炭化材出土状況（西から）
　　Ｈ－４　ＨＦ－１直上遺物出土状況
　　（南から）
　　Ｈ－４　ＨＰ－６セクション(南西から)
　　Ｈ－４　ＨＰ－３セクション（南から）
　　Ｓ－３　セクション（東から）
　　埋設土器１　検出状況（北から）
図版26　Ｈ－５・８　全景（北東から）
　　Ｈ－８　周溝検出状況（南西から）
図版27　Ｈ－５・８　セクション（北西から）
　　Ｈ－５・８　セクション（北東から）
図版28　Ｈ－５・８　検出面遺物出土状況
　　・Ｆ－31セクション（北西から）
　　Ｈ－５・８　検出面Ⅳ群ａ類土器出土状
　　況（北から）
　　Ｆ－31　セクション（北西から）
　　Ｈ－８　覆土Ⅲ群ａ類土器出土状況
　　（北東から）
　　Ｈ－８　周溝セクション（北から）
図版29　Ｈ－６　全景（南西から）
　　Ｈ－６　セクション（南から）
　　Ｈ－６　セクション（西から）
図版30　Ｈ－６　覆土内の土坑とＦ－16・17検出
　　（南西から）
　　Ｈ－６　覆土土器出土状況（北西から）
　　Ｈ－６　覆土土器出土状況（西から）
　　Ｈ－６　覆土上Ⅲ層土器出土状況
　　（南から）
図版31　Ｈ－７　全景（南から）
　　Ｈ－７　ＨＰ－１セクション（北から）
　　Ｈ－７　ＨＰ－４セクション（南から）
　　Ｈ－７　ＨＰ－１遺物出土状況
　　（南西から）
　　Ｓ－２　検出（西から）
図版32　Ｈ－７　セクション（西から）
　　Ｈ－７　セクション（南から）
図版33　Ｈ－９　全景（南東から）
　　Ｈ－９・Ｆ－29セクション（南西から）
図版34　Ｈ－10　全景（南西から）
　　Ｈ－10　セクション（南西から）
図版35　Ｐ－１～３・７　全景（南西から）
　　Ｐ－１　セクション（南西から）
　　Ｐ－４・５、ＳＰ－11セクション
　　（南から）
　　Ｐ－６　全景（北東から）

Ｐ－14　セクション（南から）
図版36　Ｐ－13　セクション（北から）
Ｐ－13　全景（北東から）
Ｐ－15　セクション（北から）
Ｐ－22　セクション（西から）
Ｐ－23　セクション（北から）
Ｐ－24　セクション（南西から）
図版37　Ｐ－25　遺物出土状況・Ｆ－35(南から)
Ｐ－27　小蝶出土状況（南東から）
Ｐ－22・23・25～29　全景（北から）
図版38　Ｐ－19・20・35～42・44・58～60　全景（北から）
Ｐ－35　セクション（南から）
Ｐ－38　遺物出土状況（北西から）
Ｐ－39・40　セクション（南から）
Ｐ－41　セクション（西から）
図版39　Ｐ－42　遺物出土状況（南東から）
Ｐ－59　セクション（南東から）
Ｐ－60　遺物出土状況（南から）
Ｐ－32～34　セクション（南東から）
Ｐ－54・64　セクション（南東から）
Ｐ－46・47　セクション（北から）
図版40　Ｐ－50　全景（西から）
Ｐ－50　セクション（南東から）
図版41　Ｐ－67　遺物出土状況（南西から）
Ｐ－77　遺物出土状況（北東から）
Ｐ－68　ＰＰ－１・ＰＦ－１セクション（南から）
Ｐ－50　ＰＰ・ＰＦセクション（南東から）
Ｐ－68　セクション（西から）
図版42　Ｐ－68　全景（北東から）
Ｐ－68　遺物出土状況・セクション（北から）
図版43　ＴＰ－１　全景（西から）
ＴＰ－２　セクション（東から）
ＴＰ－６　全景（西から）
ＴＰ－５　セクション（南から）
埋設土器２　検出（東から）
埋設土器３　検出（東から）
図版44　Ｈ－２（図Ⅴ－７－１）
Ｈ－２（図Ⅴ－７－２）
Ｈ－２（図Ⅴ－７－３）
Ｈ－２（図Ⅴ－７－５）
Ｈ－２（図Ⅴ－７－４・正面）
Ｈ－２（図Ⅴ－７－４・背面）
図版45　Ｈ－２（図Ⅴ－８－11）
Ｈ－２（図Ⅴ－８－12）
Ｈ－２
Ｈ－２（図Ⅴ－10－26）
図版46　Ｈ－３（図Ⅴ－12－１）
Ｈ－３（図Ⅴ－12－２）
Ｈ－３
Ｈ－４（図Ⅴ－16－１）
埋設土器１（図Ⅴ－16－10）
図版47　Ｈ－４
Ｈ－４（図Ⅴ－18－16）
Ｈ－５（図Ⅴ－22－１）
Ｈ－５
図版48　Ｈ－８（図Ⅴ－23－１）
Ｈ－８（図Ⅴ－23－２）
Ｈ－６（図Ⅴ－27－２）
Ｈ－６（図Ⅴ－27－３）
Ｈ－８・６
図版49　Ｈ－７　ＨＰ－１（図Ⅴ－30－３）
Ｈ－７（図Ⅴ－30－５）
Ｈ－７・９
Ｐ－４・13
Ｐ－14（図Ⅴ－46－18）
Ｐ－13（図Ⅴ－46－16）
図版50　Ｐ－15（図Ⅴ－45－１）
Ｐ－15（図Ⅴ－47－22）
Ｐ－25（図Ⅴ－45－５）
Ｐ－15・25・22・27
Ｐ－38（図Ⅴ－47－25）
Ｐ－38（図Ⅴ－47－26）
図版51　Ｐ－68（図Ⅴ－45－12）
Ｐ－68（図Ⅴ－48－28）
Ｐ－47（図Ⅴ－48－27）
Ｐ－73
Ｐ－77（図Ⅴ－48－30）
ＳＰ－14
図版52　ＳＰ－25（図Ⅴ－56－２）
ＳＰ－82

埋設土器２（図Ⅴ－56－４）
埋設土器３（図Ⅴ－56－５）
図版53　Ⅲ群ｂ類（図Ⅴ－59－１）
Ⅲ群ｂ類（図Ⅴ－59－２）
Ⅳ群ａ類（図Ⅴ－59－３）
Ⅳ群ｃ類（図Ⅴ－62－89）
Ⅳ群ａ類（図Ⅴ－59－４）
Ⅳ群ｃ類（図Ⅴ－62－90）
図版54　Ⅳ群ａ類
Ⅳａ類・Ⅳ群ｂ類
図版55　剥片石器
図版56　石斧・たたき石
扁平打製石器・北海道式石冠
石製品（図Ⅴ－66－41）
石製品（図Ⅴ－66－42）
石製品（図Ⅴ－66－43）

Ⅰ　調査の概要

1　調査要項

事 業 名：高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部
受 託 者：財団法人北海道埋蔵文化財センター
調査期間：平成17年４月１日～平成18年３月31日

遺　跡　名	館野４遺跡	矢不来６遺跡	矢不来11遺跡
北海道教育委員会登載番号	Ｂ－06－49	Ｂ－06－60	Ｂ－06－77
所在地	上磯郡上磯町字館野17－30	上磯郡上磯町字矢不来253－１・２、260、261ほか	上磯郡上磯町字矢不来252～254、269～271、273～276
調査面積	7,100㎡	4,660㎡	5,300㎡
現地調査期間	平成17年９月１日～10月27日	平成17年５月12日～８月31日	平成17年５月12日～８月31日

2　調査体制

財団法人　北海道埋蔵文化財センター
理 事 長　森重楯一
専務理事　宮崎　勝
常務理事　佐藤俊和
第２調査部長　西田　茂
第４調査課長　工藤研治（発掘担当者）
主　　査　鎌田　望（発掘担当者）
主　　任　福井淳一（発掘担当者）
主　　任　柳瀬由佳（発掘担当者）

3　調査にいたる経緯

函館・江差自動車道は、函館市を起点とし大野町・上磯町（現：北斗市）、木古内町を経油して江差町に至る総延長約70㎞の高規格幹線道路である。この道路は北海道縦貫自動車道・函館新道などと一体となって高速ネットワークを形成する自動車専用道路である。函館ＩＣ～茂辺地ＩＣ（仮称）の延長18㎞の函館茂辺地道路は平成２年度から事業が進められており、平成15年３月に函館ＩＣから上磯ＩＣ間の約８㎞が暫定供用された。

平成６年４月、北海道開発局函館開発建設部（現：国土交通省北海道開発局函館開発建設部）から北海道教育委員会に埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについての事前協議書が提出された。これを受けて、北海道教育委員会は平成６年４月に所在調査、その後順次試掘調査を行なっていった。その結果、平成15年12月、矢不来６遺跡は矢不来６遺跡・矢不来10遺跡・矢不来11遺跡・矢不来12遺跡に、矢不来７遺跡は矢不来７遺跡・矢不来８遺跡・矢不来９遺跡に分割されることになった。そして、平成16年度末には上磯町（現：北斗市）館野および矢不来において、工事に伴い調査が必要な遺跡は５か所増え、最終的には12か所となった。

これらの遺跡のうち、館野遺跡はすでに平成15・16年度に発掘調査を終了している。また、平成

16年度からは矢不来７遺跡の発掘調査、平成17年度は、矢不来６遺跡、矢不来７遺跡、矢不来９遺跡、矢不来11遺跡、館野４遺跡の５か所の調査を行なった。　（鎌田　望）

4　遺跡の位置と環境

上磯町（現：北斗市）の富川から茂辺地にかけて、標高60m内外の海岸段丘が続いている。西側は丘陵から鏡山（標高330m）へと連なる山地、東側は函館湾である（図Ⅰ－１）。この海岸段丘の南側の字名を「矢不来」、北側の字名を「館野」という。

矢不来６遺跡と矢不来11遺跡は、ＪＲ上磯駅の南西約５㎞の字矢不来に所在する。この２つの遺跡は隣接しており、標高は矢不来６遺跡が57～62m、矢不来11遺跡は60～65mである。両遺跡の所在する海岸段丘は、海岸線から400mほどのところで丘陵となり、そこから幾筋もの沢が発している。矢不来11遺跡の南側には、沢を挟んで矢不来10遺跡がある。これらの遺跡が所在する海岸段丘の縁辺部には、矢不来２遺跡や矢不来天満宮跡がある。館野４遺跡はＪＲ上磯駅の南西約３㎞、字館野の海岸段丘縁辺の標高47～55mに立地する。北には平成15・16年度に当センターが調査を行なった館野遺跡、南には昭和55年に北海道教育委員会と上磯町教育委員会により工事立会が行なわれた館野２遺跡があり、それぞれ沢で隔てられている（図Ⅰ－１）。

矢不来は、かつて「ヤンゲナイ」という地名であった。古くは「カムイヤンケナイ」「ヤンケナイ」「ヤギナイ」ともいい、後に矢不来の字を当てた（上磯町史編纂委員会　1917）。『北海道蝦夷語地名解』では「Yange nai　ヤンゲナイ　陸揚場」として、「舟ヨリ荷物ヲ揚ゲル処」と記述されている。

館野および矢不来には縄文時代から近代までの遺跡があるが、これらについては次節で触れる。ここでは、この地に関わる中世以降の歴史的背景について略述する。

『新羅之記録』によれば、糠部田名部（現在の青森県下北郡）を知行して家督を継いでいた安東政季は、享徳３（1454）年、蠣崎武田若狭守信広、相原周防守政胤、河野加賀右衛門尉越智政通と共に大畑より出船して蝦夷地に渡った（北海道　1969）。その後の居館は定かでないが、その本拠は矢不来の茂別館と推定されている（上磯町　1997）。この茂別館には矢不来天満宮が祀られている。矢不来天満宮は現在のＪＲ江差線の茂辺地トンネルの富川側にあったものだが、大正８年に茂辺地の集落に移転した後、昭和３年にこの茂別館跡の大館内に遷宮されたものである（上磯町史編纂委員会　1917）。また、矢不来は函館戦争の際の激戦地のひとつでもある。明治２（1869）年、新政府軍が茂辺地より進撃し、旧幕府軍は矢不来台場や矢不来天満宮の森に約500人が立てこもり新政府軍に頑強に抵抗した。新政府軍は海上からの砲撃を加え、陸海から攻撃した。これにより旧幕府軍は富川へと撤退した（菊地・横田　1999）。　（鎌田）

5　周辺の遺跡

館野と矢不来の海岸段丘には、縄文時代前期から近代までの遺跡が20か所以上所在する（図Ⅰ－１）。そのうち、当センターで整理作業中の館野遺跡と平成18年度に報告書が刊行される矢不来７遺跡、矢不来８遺跡を除いて、調査報告書の刊行されているものについて概要を北から順に記述する。

富川土塁跡　　昭和62年に一般国道228号上磯町矢不来法面工事に伴い、上磯町教育委員会が調査した近代の煉瓦窯跡である。館野の海岸段丘縁辺部に立地する。それまで砲台跡と考えられていたものは、煉瓦窯廃棄後に構築されたものと確認された。明治時代の煉瓦窯（登窯）跡が検出され、窯道具や瓦、「手抜」によって成形された煉瓦が出土した。この煉瓦窯は渡島製瓦合名会社もしくは富川煉瓦工場の煉瓦窯跡と推定されている。富川土塁跡はかつて「富川塁址」という名称だったが、平成13年に名称変更された。

館野２遺跡　　昭和55年に一般国道228号法面保護工事に伴い、北海道教育庁文化課と上磯町教育委員会により工事立会が行なわれた縄文時代中・後期の遺跡である。館野の海岸段丘先端部に立地する。住居跡５軒(中期後葉２軒、中期後葉～末１軒、中期末１軒)が検出され、遺物は縄文時代早期、中期前半、中期後半、後期初頭、後期前葉の土器などが出土した。今後、高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事に伴い発掘調査が予定されている。

矢不来館跡　　海岸線より300m内陸、下矢不来川とその支流の館の沢に挟まれ、突き出した標高50mほどの高台に立地する。安政３年にこの地を通った松浦武四郎の『渡島日誌』の絵図に「古館」として描かれている（松浦　1988）。平成11・12年に国庫補助による町内遺跡発掘調査等事業として上磯町教育委員会がトレンチ調査を行なった。これにより、館後方に空堀３本と土塁２本、館内部にも土塁と柵列跡が巡れされていたことが分かった。また、古道、土橋、館虎口、中世遺成の平場が確認された。遺物は舶載天目茶碗、瀬戸美濃系天目茶碗白磁、青磁碗・皿・盤・香炉、染付碗・皿・注水器、瓦質香炉（機内系）、古銭、銅製香炉脚、越前双耳壺・甕・擂鉢などが出土した。出土品から15世紀中葉～16世紀初頭の年代観が得られている。

矢不来台場跡　　平成11・12年に矢不来館跡と合わせて調査が行なわれた。第一砲台、第二砲台、火薬庫跡の位置関係と規模が把握された。遺物は陶磁器、銅製角釘、鉄製角釘などが出土した。対岸の函館山を望む港の入り口を防備する要害地で、早くから台場が構築されたが構築年代は不明である。幕府直轄時代の文化６（1809）年には、大砲１門、木砲３門を備え南部藩が守備していた。松前藩復領後の天保15（1844）年には鉄製大砲４門が装備された。明治２（1869）年の函館戦争の際には激戦地となった。昭和39年、上磯町指定史跡となった。

矢不来３遺跡　　平成元年に津軽海峡線上磯・茂辺地間信号所新設工事に伴い、上磯町教育委員会により調査された擦文時代前期の集落跡である。矢不来の海岸段丘下の町道と津軽海峡線に隣接した標高７～９ｍの低地にある。擦文時代前期の住居跡が２軒検出された。遺物は、ロクロ調整の行なわれる以前の、７世紀後半の土師器が出土した。特徴的な遺物としては底部に砂粒付着の土師器２個体がある。また、かまど跡の焼土からトネリコ属（ヤチダモ）の炭化物が確認された。

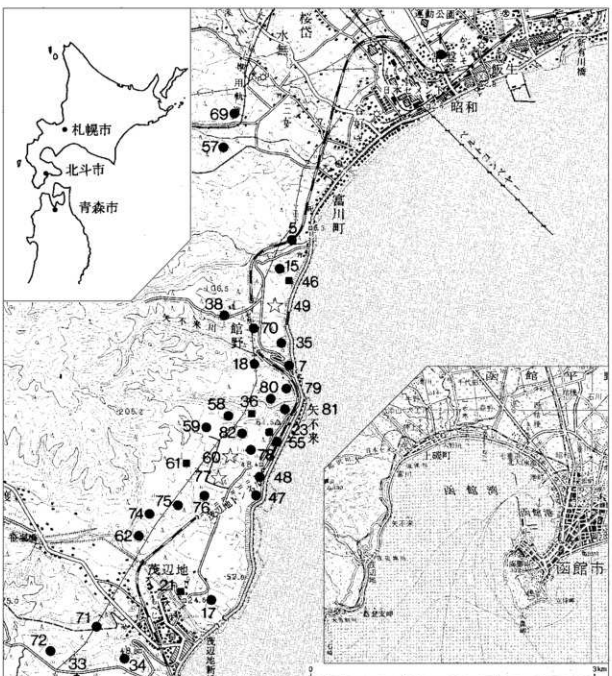
矢不来天満宮跡　矢不来の海岸段丘崖縁に立地する。付近には後述の矢不来２遺跡がある。また、中世の矢不来館跡や茂別館跡、幕末の矢不来台場跡などがある。昭和62年に一般国道228号上磯町茂辺地法面工事に伴い、当センターが調査した近世の遺跡である。調査の結果、拝殿、本殿とその付属施設、手水鉢、稲荷社を検出した。これら建物の建立時期には、Ⅰ期：天明３(1783)年～天保頃(1800)、Ⅱ期：天保頃（1800）～安政６（1859）年、Ⅲ期：安政６（1859）～大正６（1917）年の３時期がある。遺物は陶磁器、銭貨、釘、鑿、鋲、和鋏、煙管、鈴、ハバキガネ、簪、賽子、などが出土した。

矢不来２遺跡　　昭和61（1986）年に一般国道228号上磯町矢不来法面防災工事に伴い、当センターが調査した縄文時代後期前葉を主体とする遺跡である。縄文時代後期前葉の石器製作跡とみられる竪穴１基、焼土１か所を検出した。遺物は縄文時代前期の円筒土器下層式、後期前葉の浦元式、続縄文時代の恵山式土器などが出土した。

茂別遺跡　　茂辺地川河口左岸の海岸段丘上に立地する。平成３～９年に一般国道228号茂辺地防災工事に伴い、当センターが海側の5,340㎡調査を行なった。７か年の調査により、恵山文化の良好な資料が得られた。続縄文時代の住居跡６軒、土壙墓38基、土坑27基、焼土57か所（石囲い炉２基を含む）、縄文時代の住居跡12軒、住居跡様遺構２軒、壕の一部１基、土壙墓15基、土坑52基、粘土採掘跡１か所、集石３か所、焼土23か所を検出した。そのほか、函館戦争の際、旧幕府軍が構築した陣地の可能性のある塹壕１基を検出した。茂別館跡の後背地から海岸線にかけて32万㎡広がりをもつと推定されている。昭和７年に、茂別館と小館の間の泉（現酒化場）付近より縄文時代後期末の「人形装飾付異形注口土器」（昭和48年に重要文化財に指定）が出土した遺跡で、かつては茂辺地遺跡と呼ばれていた。　　（鎌田）

表Ⅰ－1　周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名称	種　別	所在地	立　地	標高(m)	時　期	調査歴等	文　献
1	下函山	遺物包含地	雷鳥町	神積地	3	縄縄文（恵山式）	1979－80（古崎昌一）	3, 7
5	寺屋敷	遺物包含地	富川	丘　陵	10～30	縄文	1983（道教委）	13
7	ヤギナイ	遺物包含地	館野	海岸段丘	2～5	縄文中～晩期	1960（千代肇）、1962（郷土史研究会）、1966（町教委）	14
15	館　野	遺物包含地	館野	海岸段丘	50	縄文前～晩期	2003－04（道埋文）	14
17	茂　別	集落跡	矢不来	海岸段丘	29～55	縄文早～晩期、続縄文（恵山式）、近世（幕末）	1991－97（道埋文）	17
18	矢不来	遺物包含地	館野	舌状台地	50～60	縄文中期		
21	茂別館跡	館　跡	矢不来	海岸段丘	30	中世	1968　道史跡指定	1, 4, 5
23	矢不来台場跡	台場跡	矢不来	海岸段丘	60	近世	1999（町教委）	1, 6, 10



この図は国土地理院発行の５万分の１地形図「函館」NK－54－22－6（函館６号）（平成３年３月１日発行）、20 万分の１地勢図「函館」NK－54－22・28（平成５年 12 月１日発行）を複製・加筆したものである。

図Ⅰ－1　周辺の遺跡

番号	遺跡名称	種　別	所在地	立　地	標高(m)	時　期	調査歴等	文　献
33	茂辺地１	遺物包含地	茂辺地	海岸段丘	65～70	縄文中・後期		
34	茂辺地２	遺物包含地	茂辺地	海岸段丘	55～65	縄文中期		
35	館野２	遺物包含地	館野	海岸段丘	50～57	縄文中・後期	1980（道教委）	2
36	矢不来館跡	館　跡	矢不来	舌状台地	55～60	中世	2000（町教委）	1, 3, 6, 10, 11
38	館野３	遺物包含地	館野	丘　陵	80	縄文中期		
46	富川土塁跡	土塁跡	館野	海岸段丘	50	近代	1987（町教委）	1, 8, 12, 14
47	矢不来２	遺物包含地	矢不来	海岸段丘	40	縄文前・後期、続縄文？	1986（道理文）	15
48	矢不来天満宮跡	神社跡	矢不来	海岸段丘	43～47	中・近世、近代	1987（道理文）	16
49	**館野４**	**集落跡**	**館野**	**海岸段丘**	**50～55**	**縄文前・後期**	**2005（道理文）**	**18（本書）**
55	矢不来３	集落跡	矢不来	海岸段丘	7～9	擦文	1989（町教委）	9
56	柳沢１	遺物包含地	柳沢	丘　陵	80～90	縄文早～中期		
57	柳沢２	遺物包含地	柳沢	河岸段丘	30	縄文後・晩期		
58	矢不来４	遺物包含地	矢不来	舌状台地	70	縄文中・後期		
59	矢不来５	遺物包含地	矢不来	傾斜地	80	縄文中期		
60	**矢不来６**	**集落跡**	**矢不来**	**台　地**	**60～66**	**縄文前・後期**	**2005（道理文）**	**18（本書）**
61	矢不来台場跡２	台場跡	矢不来	丘　陵	60	近世		
62	矢不来７	集落跡	矢不来	河岸段丘	20～30	縄文早期～後期	2004－05（道理文）	19
69	柳沢３	遺物包含地	柳沢	河岸段丘	15～25	縄文中・後期		
70	館野５	遺物包含地	館野	海岸段丘	52～60	縄文後期		
71	トドメキ川左岸	遺物包含地	茂辺地	海岸段丘	50～70	縄文後期		
72	茂辺地４	遺物包含地	茂辺地	海岸段丘	70～80	縄文後期		
74	矢不来８	遺物包含地	矢不来	台　地	50～60	縄文中・晩期、続縄文（恵山式）	2005（道理文）	19
75	矢不来９	遺物包含地	矢不来	台　地	60～70	縄文中・後期		
76	矢不来10	遺物包含地	矢不来	台　地	60～65	縄文		
77	**矢不来11**	**遺物包含地**	**矢不来**	**台　地**	**60～65**	**縄文後期**	**2005（道理文）**	**18（本書）**
78	矢不来12	遺物包含地	矢不来	海岸段丘	60～65	縄文後期		
79	館野６	集落跡	館野	海岸段丘	50～55	縄文		
80	館野７	遺物包含地	館野	海岸段丘	50～55	縄文後期		
81	矢不来13	遺物包含地	矢不来	海岸段丘	50～55	縄文後期		
82	矢不来14	遺物包含地	矢不来	海岸段丘	55～60	縄文中・後期		

＊一覧表の「番号」は、図Ⅰ－１遺跡位置図と登載番号に同じである。「遺跡名称」欄で「館跡」「陣屋跡」「台場跡」以外の「遺跡」の文字、「所在地」欄で字名の「字」の文字と地番を省略した。「調査歴等」欄で「町教委」は上磯町教育委員会、「道理文」は財団法人北海道理蔵文化財センターを示す。

（文　献）

1　河野常吉　1924　『北海道史蹟名勝天然記念物調査報告書』
2　武内収太　1968　『函館戦争』　五稜郭タワー
3　千代　肇　1960　「魚形石器の考察」『貝塚』100
4　永田富智　1966　「道南十二館の史的考察」『新しい道史』第18号
5　藤本英夫編　1980　『日本域郭大系１　北海道・沖縄』　新人物往来社
6　森　靖裕　2002　「北海道・上磯町の中世館跡と近世台場跡」『日本歴史』2002年５月号　吉川弘文館
7　吉崎昌一　1982　「下添山遺跡」『北海道における農耕の起源（予報）』
8　上磯町教育委員会　1988　『富川砲塁跡』
9　上磯町教育委員会　1990　『矢不来３遺跡』
10　上磯町教育委員会　2001　『町内遺跡発掘調査事業報告書－平成11・12年度発掘調査概要報告－』
11　上磯町史編纂委員会編　1917　『茂別郷土史』上磯町史資料集第二集
12　知内町教育委員会　1986　「幕末の知内」『知内町史』
13　北海道教育委員会　1984　『昭和58年度　渡島地区道跡分布特別調査報告書』
14　北海道文化財保護協会編　1981　『館野２遺跡』
15　(財)北海道理蔵文化財センター　1987　『矢不来２遺跡』北埋調報37
16　(財)北海道理蔵文化財センター　1988　『矢不来天満宮跡』北埋調報47
17　(財)北海道理蔵文化財センター　1998　『茂別遺跡』北埋調報121
18　(財)北海道理蔵文化財センター　2006　『館野４遺跡・矢不来６遺跡・矢不来11遺跡』北埋調報235
19　(財)北海道理蔵文化財センター　2006　『矢不来７遺跡・矢不来８遺跡』北埋調報232

6　調査結果の概要

（1）矢不来６遺跡、矢不来11遺跡

矢不来６遺跡では、住居跡４軒、土坑２基、焼土22か所、配石２か所、小ピット12基、埋設土器１か所を検出した。調査範囲は二つの沢に開析され、南西側が湿地である。沢の西南側と北側には沢との比高差２～３ｍの平坦部があり、遺構はこの平坦部から湿地に向かう斜面の肩部分に分布する。

遺構の時期は縄文時代前期後半を主体とする。住居跡３軒（Ｈ－１～３）の覆土で焼土を検出した。Ｈ－１～３は近接しており、構造がそれぞれ異なっている。３軒が異なる機能を持ち、同時に存在した可能性もある。また、Ｍ～Ｏ－54・55グリッドにかけて、「捨て場」といえる状況で遺物が出土しており、縄文時代前期後半の小集落の様相を表している。後期前葉の遺構としては焼土と配石がある。焼土は平坦部から斜面の肩部分、湿地に分布する。前期の住居跡の窪みで火を焚くなどの行為が行なわれている。湿地の焼土は規模が小さい。遺物は13,227点出土した。土器10,107点、石器等3,120点である。土器は縄文時代前期後半のもの76.7％、後期初頭～前葉のもの21.1％と両者で土器の約97.8％を占める。定型的な石器のうち、スクレイパーが40.1％、扁平打製石器が12.5％、つまみ付きナイフが9.8％を占める。

矢不来11遺跡では、焼土を５か所検出した。遺物は6,575点出土した。土器3,023点、石器等3,552点である。土器は縄文時代後期初頭から前葉のものが99.7％を占める。そのほか、鐸形土製品、石製品が出土した。なお、両遺跡から函館戦争の際の銃弾が出土した。

（2）館野４遺跡

遺構は、住居跡10軒、土坑76基、焼土34か所、小ピット99基、石囲炉３か所、埋設土器３か所、Ｔピット７基を検出した。Ｔピットは35ラインより北側で、遺構確認調査により検出した。Ｔピット以外の遺構は12ラインより南側に集中していた。

住居跡のうちＨ－２～４・６～８は中期前半、Ｈ－１・９・10は後期前葉のものである。中期前半の住居跡は主柱穴４本、地床炉を有する。Ｈ－２とＨ－４は焼失住居である。構造材の樹種はクリであった。放射性炭素年代測定結果は4,430～4,520±40yrＢＰである。後期前葉の住居跡には明確な付属施設が認められなかった。中期前半の住居跡の窪みには、後期前葉とみられる焼土や石囲炉が検出された。特に、Ｈ－２・４・６では重層的に形成されている。同時期とみられる土坑が、Ｈ－６周辺とＫ・Ｌ５－グリッド周辺にまとまっている。土坑の分布はＫ・Ｌ－４・５区、Ｎ－７・８区、Ｍ－10区、Ｐ－８・９区と大きく４つのまとまりがある。また、土坑には、覆土上位に焼土のあるもの、礫が多数含まれるもの、礫が１～３個含まれるもの、土器等が含まれるものがある。ほとんどは後期前葉のものであるが、Ｐ－４・15・22・25・26・74の坑底や覆土からは中期前半の土器が出土している。また、Ｐ－52からは中期後半の土器が出土している。

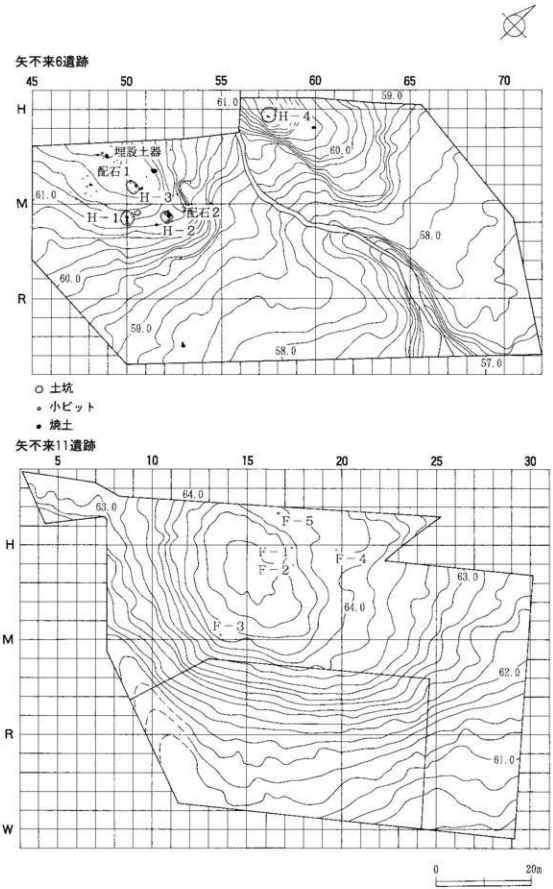
遺物は20,744点出土した。土器15,492点、石器等5,252点である。土器は後期初頭から前葉のものが32.2％、中期前半のものが36.7％、中期後半のものが11.2％を占める。また、石核、フレイク類、礫を除く定型的な石器のうち、スクレイパーが40％、扁平打製石器が13.5％、たたき石が9.8％を占める。そのほか、土製品、石製品、平玉が出土した。（鎌田）

表Ⅰ－２　遺跡別検出遺構数一覧

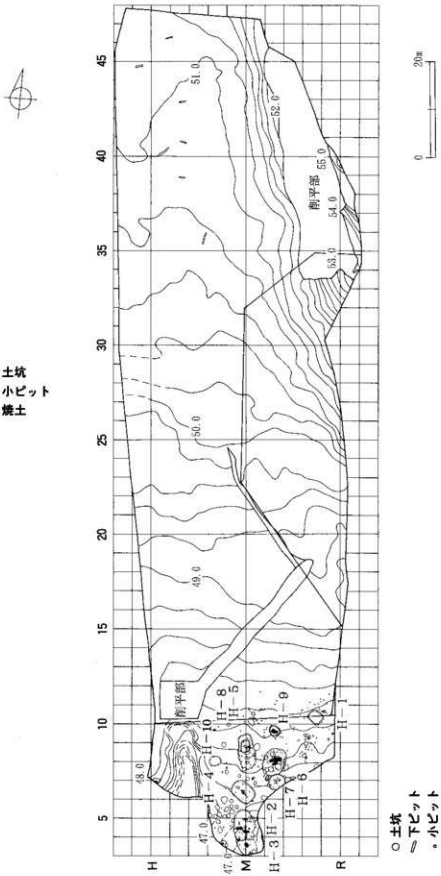
	住居跡	土坑	焼土	埋設土器	配石	小ピット	Ｔピット
矢不来６遺跡	4	2	22	1	2	12	
矢不来11遺跡			5				
館野４遺跡	10	76	34	3	3	99	7

表Ⅰ－3　遺跡別出土遺物点数一覧

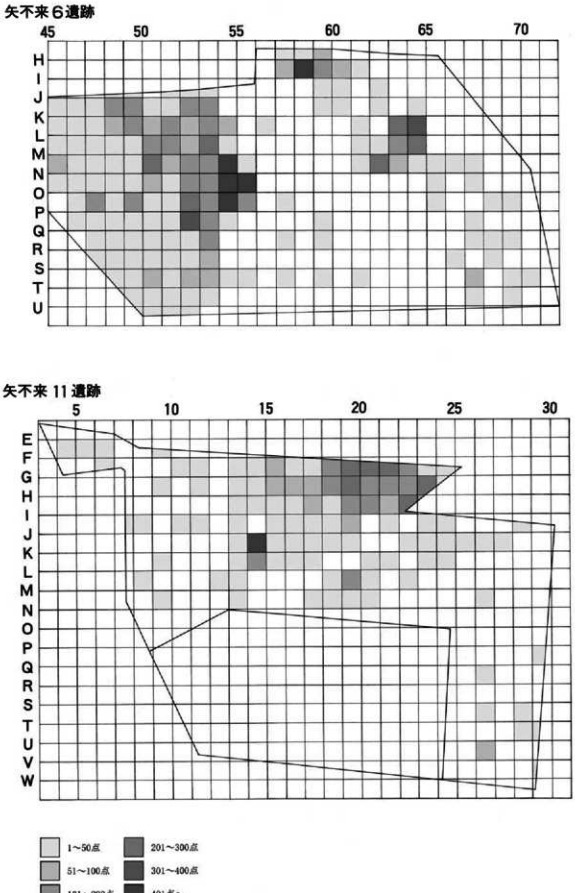
		土器												石器等																						土製品			石製品		金属製品			
		Ⅰa	Ⅰb	Ⅱb	Ⅲ	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	Ⅳa	Ⅳb	Ⅳc	木偶	計	石鏃	石槍	石錐	つまみ付きナイフ	スクレイパー	楔状石器	長頸鏃型石器	磨製石斧	石鍬	Sフレイク	Uフレイク	剥片	フレイク	石斧	たたき石	すり石	敲・磨石類	北海道式石冠	石錘	紡錘車	石皿	台石	加工痕のある礫	礫	計	耳飾り状製品	土製品	計	砥石	計	石製品	鉄鏃	ヤス	鉄製品	金属製品	計	合計
北大水洗地区	遺構				764				11				775				2	9				5	4	1		45	1	1	2		4	3			6		2	158	243		1	1									1019
	Ⅰ				16				40				56					3					1			30		1		1							14	50									1	3	1	5	111
	Ⅱ				277		1		386	82	1		747	1			1	21		2		8	13		3	275	1	2		9						2	163	501												1248
	Ⅲ	2	47		6658		9		1602	14	18		8350	9		7	26	86		7		31	54		11	1313	15	24	11	2	22	1	2	1	9	1	4	555	2191				3	3							10544
	北大水洗地区 Ⅳ				1				2				3																																						3
	表採など				34		10		3	91	38		176				1	1				1			1	50			1		1							69	125									1			1	302
	計	2	47		6986		20		3	2121	134	19	9332	10		7	28	111		9		40	68		15	1668	16	26	13	2	33	1	2	1	9	1	6	801	2867				3	3	2	3	1	6	12208
	合計	2	47		7750		20		3	2132	134	19	10107	10		7	30	120		9		45	72	1	15	1713	17	27	15	2	37	4	2	1	15	1	8	959	3110		1	1		3	3	2	3	1	6	13227
北大水洗第二地区	遺構Ｆ－4																									1													1											1
	Ⅰ								34				34													4												9	13									1		1	48
	Ⅱ						1		572				573	1								7	4		1	88		2										68	171	2		1	3								747
	Ⅲ		1				4		2	2300			2307	2			3	3				14	22		2	435	3	5	1				1					2158	2649		6	6	1	1						4963
	北大水洗第二地区 Ⅳ								1				1													1												11	12												13
	Ⅴ																																	1				592	593												593
	表採など								108				108				1			2			1			31		1							2			63	101				1	1							210
	計		1				5		2	3015			3023	3			4	3		2		21	27		3	559	3	8	1				1	1	2			2901	3539	2		7	9	2	2			1		1	6574
	合計		1				5		2	3015			3023	3			4	3		2		21	27		3	560	3	8	1				1	1	2			2901	3540	2		7	9	2	2			1		1	6575
国鉄千歳工場	遺構					130	3592	512	1	886	36	243	2	5402	9	4	2	2	40		6		10	21	6	11	784	6	23	9	10	19		1	5	19	4	12	1128	2131		3	3		3	3					7539
	Ⅰ						12	2		24		3		41									1			5												7	13												54
	Ⅱ						50			37		10		97									1	3		6	1											5	16												113
	Ⅲ	1				249	2416	1138		5498		238		9540	7		1	5	118	2	12	3	55	113	11	21	2088	15	16	2	3	19		3	1	4	1	10	415	2939		2	5	7	1	3	4					12490
	Ⅳ					3	6	1		39		20		69	1											13													19	33												102
	表採など					22	90	86		142		3		343	1			1	6					1	3	2	70				1	3				1		2	12	103												446
	計	1				274	2574	1227		5760		274		10090	8	1	1	6	124	2	12	3	56	118	14	23	2182	16	16	2	4	36		3	1	5	1	12	458	3104		2	5	7	1	3	4					13205
	合計	1				404	6166	1739	1	6626	36	517	2	15492	17	5	3	8	164	2	18	3	66	139	20	34	2966	22	39	11	14	55		4	6	24	5	24	1586	5235		2	8	10	1	6	7					20744
総計		3	48		7750	404	6191	1741	4	11773	170	536	2	28622	30	5	10	42	287	2	27	5	132	238	21	52	5239	42	74	27	16	92	4	7	8	41	6	32	5446	11885	2	2	16	20	1	11	12	2	4	1	7	40546



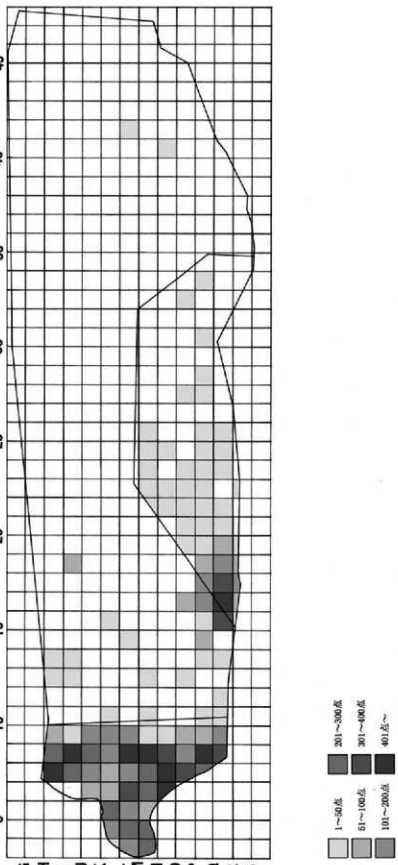
図Ⅰ－2　矢不来６遺跡・矢不来11遺跡調査最終面地形図・遺構位置図



図Ⅰ－３　館野４遺跡調査最終面地形図・遺構位置図



図Ⅰ－４　矢不来６遺跡・矢不来11遺跡遺物分布図



図Ⅰ－5　館野4遺跡遺物分布図

第Ⅱ章　調査の方法

1　発掘区の設定

（1）矢不来６遺跡・矢不来11遺跡

発掘区の設定は、工事区予定中央線上の中心杭ＳＰ.15400とＳＰ.15500を結んだ線を基準のＰラインとし、Ｐラインから４ｍ毎に北西側をＯ、Ｎ、Ｍ・・・とした。さらにＳＰ.15500を通り、Ｐラインに直交する線を40ラインとし、それより南西側を４ｍごとに39、38、37・・・とした。発掘区はこの４ｍ方眼を基準に、その西側の交点（図では左上）のアルファベットと数字の組み合わせでグリッドの名称とした。アルファベットラインは、真北に対して54°東偏している。また、調査の必要に応じて２ｍ方眼に分割し、遺物の取上げ等を行った。その際は、グリッドの基準（南西角）から反時計回りにａ、ｂ、ｃ、ｄとした。

なお、基準杭の座標第ⅩⅠ系における世界測地系の平面直角座標（Ｘ、Ｙ）、および緯度（Ｂ）・経度（Ｌ）は以下のとおりである。なお、緯度・経度に関しては、ConvBLXY2000 － 座標変換関数アドインVer2.00を用いて、エクセル上で平面直角座標値から計算した。

ＳＰ.15500（調査区Ｐ－40）	Ｘ＝－246444.744	Ｙ＝＋29973.957
	Ｂ＝41°46′50″8815	Ｌ＝140°36′38″101
ＳＰ.15400（調査区Ｐ－65）	Ｘ＝－246381.628	Ｙ＝＋30051.497
	Ｂ＝41°46′52″9169	Ｌ＝140°36′41″47

（2）館野４遺跡

発掘区の設定は、工事区予定中央線上の中心杭ＳＰ.13500とＳＰ.13600を結んだ線を基準のＭラインとし、Ｍラインから４ｍ毎に西側をＬ、Ｋ、Ｊ・・・とした。さらにＳＰ.13600を通り、Ｍラインに直交する線を５ラインとし、それより南側を４ｍごとに４、３、２・・・とした。発掘区はこの４ｍ方眼を基準に、その南西側の交点（図では左上）のアルファベットと数字の組合せでグリッドの名称とした。アルファベットラインは、真北に対して11.5°西偏している。また、調査の必要に応じて２ｍ方眼に分割し、遺物の取上げ等を行った。その際は、グリッドの基準（南西角）から反時計回りにａ、ｂ、ｃ、ｄとした。

なお、基準杭の座標第ⅩⅠ系における世界測地系の平面直角座標（Ｘ、Ｙ）、および緯度（Ｂ）・経度（Ｌ）は以下のとおりである。

ＳＰ.13500（調査区Ｍ－30）	Ｘ＝－244628.889	Ｙ＝＋30494.432
	Ｂ＝41°47′49″6707	Ｌ＝140°37′00″9766
ＳＰ.13600（調査区Ｍ－５）	Ｘ＝－244728.776	Ｙ＝＋30498.801
	Ｂ＝41°47′46″4323	Ｌ＝140°37′01″1474

2　発掘調査の方法と経過

（1）矢不来６遺跡

発掘調査に先行し重機により表土の除去を行い、調査区の設定杭を打設した。基準杭の設定は４ｍ方眼とし、業者に委託した。

調査は、遺物の分布状況を把握するために部分的にトレンチ調査を行った。トレンチは、Ｊ－45～49、Ｑ～Ｒ－52、Ｔ～Ｕ－52について、１ｍ幅で設定した。その結果、調査範囲内の高地部に遺

物が集中することが判明したため、残る低地部の状況を確認するため、Ⅰ－59・61・63、K－60・61・63・65・67、M－45・47・49・51・53・61・65・67・69、O－45・47・49・51・53・57・65・67・69、Q－47・49・51・53・57・59・61・67・69、S－49・53・57・59・61・63・67・69のグリッド調査、O・S－55のトレンチ調査を行い、遺物分布を把握した。結果、Ⅰ～Pライン、45～55ライン内に遺物の集中が含まれることが判明し、その部分について移植ゴテを用いた手掘り調査を行った。それ以外の部分については、主にスコップにより調査した。

（2）矢不来11遺跡

発掘調査に先行し重機により表土の除去を行った。また、遺構確認調査範囲については、表土～黒色土までを除去し、調査区の設定杭を打設した。基準杭の設定は４ｍ方眼とし、業者に委託した。遺構確認調査範囲については、ジョレンによる遺構確認後、測量を行った。また、黒色土の落ち込みを掘り下げ、遺構の有無を確認した。

調査は、まず遺物の分布状況を把握するためにトレンチ調査を行った。トレンチは、F－５～15、G－16～23、Ⅰ－８～15・17～19、J－25～29、L－７～15、M－16～24、F～H－11、F～L－15、Ⅰ～K－28、N～V－28、Ⅰ～J－29について、１ｍ幅で設定した。その後、トレンチ間を埋めるように、Ⅰ－５～７、G－９、J－９・24・26、K－28、M－９・21・23・25、L－18・19、N－29、O－25、P－29、Q－25、R－29、S－25、T－29、U－25、V－29のグリッド調査を行い、遺物分布を把握した。結果、F～Mライン、13～24ライン内に遺物の集中が含まれることが判明し、その部分について移植ゴテを用いた手掘り調査を行った。それ以外の部分については、スコップにより調査した。

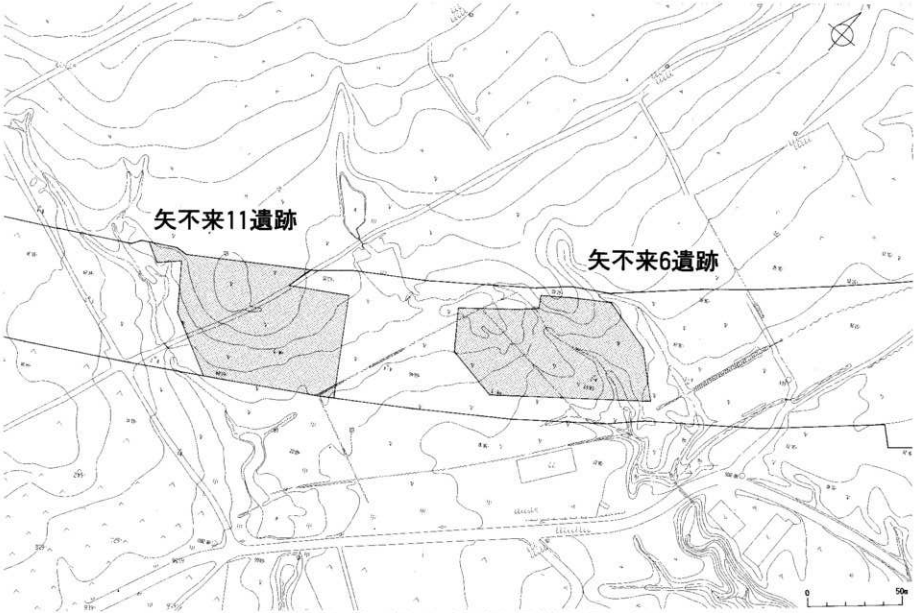
（3）館野４遺跡

発掘調査に先行し重機により表土の除去を行った。また、遺構確認調査範囲については、表土～黒色土までを除去し、調査区の設定杭を打設した。基準杭の設定は４ｍ方眼とし、業者に委託した。遺構確認調査範囲であるC・D・E地区については、ジョレンによる遺構確認後、測量を行った。また、黒色土の落ち込みを掘り下げ、E地区ではTピットを確認した。

B地区については、地形やB調査の結果から遺構の集中が考えられたため、グリッド毎に漸移層まで移植ゴテを用いた手掘り調査を行った。焼土については、黒色土中で確認されたものが多いが、他の遺構については主に漸移層上面で確認された。

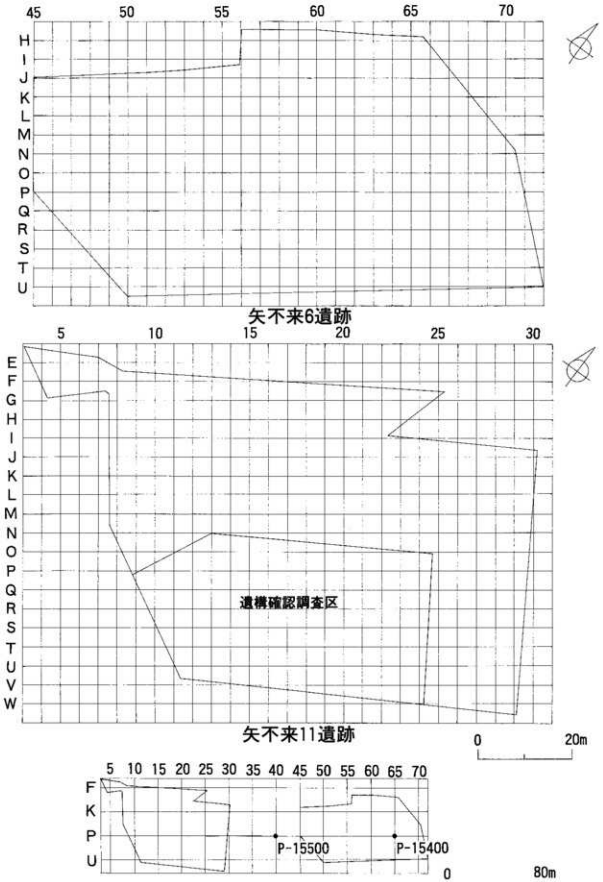
A地区については、まず遺物の分布状況を把握するために部分的にグリッド調査を行った。先行調査を行ったグリッドは、N－22・25・28・31、P－19・22・25・28・31、Q－16、R－16・19・20・22・23。その後、さらに21・24・27・30ラインのグリッドについて１ｍ幅のトレンチを設定し、調査した。結果、遺物の分布は希薄なことから、残るグリッドについて主にスコップにより調査した。

（福井淳一）

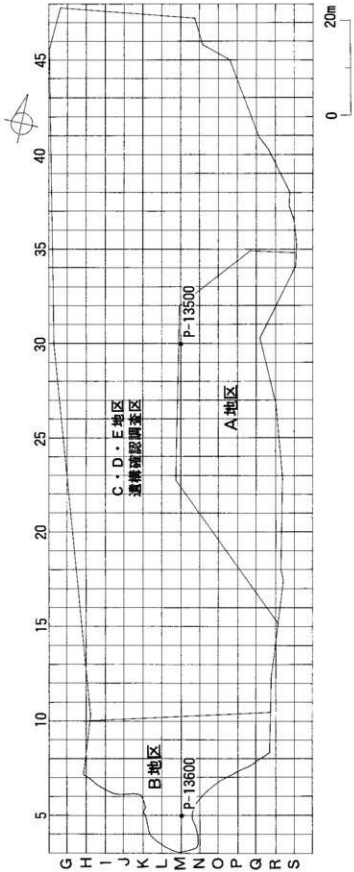


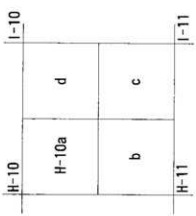
図Ⅱ－1　矢不来６遺跡・矢不来11遺跡の調査範囲と周辺の地形

図Ⅱ－２　館野４遺跡の調査範囲と周辺の地形



図Ⅱ－３　矢不来６遺跡・矢不来11遺跡のグリッド設定図





図Ⅱ－4　館野4遺跡のグリッド設定図

3　整理の方法

（1）一次整理

包含層の遺物は位置や層位を記録し、発掘区ごとに取り上げた。遺構の遺物は必要に応じて実測図により位置、層位、標高を記録し、番号を付けて取り上げた。出土状況に応じて、写真や出土状況図など詳細な記録化に努めた。

取り上げた遺物は水洗・乾燥→分類→遺物カード作成→遺物台帳作成→注記の順に現地で一次整理を行なった。注記は白色のポスターカラーと面相筆により、遺跡名の略称（矢不来６遺跡ではヤフ６、矢不来11遺跡ではヤフ11、館野４遺跡ではタテ４）、遺構出土のものは遺構名、出土層位、遺物番号を、包含層出土のものは、遺跡名の略称の後にグリッド名、出土層位、遺物番号を記入した。注記の乾燥後、その上にラッカーを塗布した。

（包含層出土の場合の例）ヤフ6. M54. Ⅲ. 7

（遺構出土の場合の例）　ヤフ6. H－1. 床. 5

遺物カードには、日付・層位・点数・分類名、石器の場合は石材等も記入してそれぞれ遺物に添付してチャック付きポリエチレン袋に収納した。石器の中にはこの時点で重量を含む計測をおこなったものもある。

その後、遺構出土のものは遺構別、包含層出土のものは分類別に分けて現地でコンテナに仮収納した。10月末の現地調査終了時、江別の当センター作業所に搬送し、再び整理作業を開始した。

（2）二次整理

現地調査終了後は江別市内の整理作業所において、現地での実測図面の整理および各種図面の作成・トレース、出土遺物の再・細分類、台帳の補正、集計、表作成、土器・石器の接合・復元作業、報告書掲載遺物の実測・トレース図作成、写真撮影等の報告書作成作業を行った。

分類後の土器は、遺構出土のものは遺構ごと、包含層出土のものは、グリッドごとに点数を集計した。復元にあたっては欠損部分を石油化学樹脂製品の「バイサム」で補填した。

分類後の石器は、遺構出土のものは遺構ごと、包含層出土のものは分類器種ごとに点数を集計した。同時に分類と台帳の訂正をおこなった。報告書掲載遺物は、遺構出土、包含層出土を問わず、残存状態が良好であるもの、その器種の特徴を反映しているものを抽出しており、器種ごとの掲載点数はかならずしも出土点数と比例してはいない。

石器の計測は「長さ」、「幅」、「厚さ」、「重さ」の項目についておこない、計測値を表に示した。前者３項目は、実測図上で互いに直交する軸の数値を計測した。「長さ」は最大長である。欠損部分があるものは、残存長の数値を（丸括弧）でくくった。「重さ」の数値は剥片石器については小数点第１位まで計測、100ｇ以上の石器は１ｇを最小単位とする数値で示した。

（3）記録類・遺物の収納・保管

調査現場、および整理作業で作成した各種図面、写真フィルム、遺物整理台帳は当面は北海道立埋蔵文化財センターで保管される。

遺物の収納にあたっては、遺跡ごとに報告書掲載のものと未掲載のものとに分けた。さらに、遺構出土のものと包含層出土のものに分け、遺構出土のものは遺構ごとあるいは遺構の種別ごとのまとまりでコンテナに収納した。包含層出土のものは器種分類ごとに分けてコンテナに収納した。これらのコンテナには通し番号を付け、収納台帳を作成した。（鎌田）

4　土層の区分

（1）観察方法

基本層序および遺構の土層は、以下の項目について観察・記載した。色調については『新版標準土色帳2002年版』を用い、土性・粘着性・堅密度の区分は『土壌調査ハンドブック』（ペドロジスト懇談会　1984）の基準を用いた。

・**色調**：色相・明度・彩度を記号および数値で表した。

・**土性**：砂土・砂壌土・壌土・シルト質壌土・埴壌土・埴土に区分し、必要に応じて記載した。

・**粘着性**：なし・弱・中・強に区分した。

・**堅密度**：すこぶるしょう・しょう・軟・堅・すこぶる堅・固結に区分した。

その他、主に混入物について種類・大きさ・混入割合（%）などを記載した。

（2）基本層序

基本層序は矢不来６遺跡・矢不来11遺跡・館野４遺跡に共通である。

Ⅰ層：表土・耕作土。層厚５～30cm。

部分的に駒ヶ岳d火山灰（Ko-d）が斑状に認められる。また、遺構などのくぼみでは、Ko－dの下位に噴出源不明の砂質火山灰が認められることがある（館野４遺跡Ｐ－15・68など）。この火山灰については、本報告の矢不来11遺跡・館野４遺跡、また平成15・16年度に当センターで調査した館野遺跡など、旧上磯町内の複数の遺跡で確認されており、当センターで分析中である。分析結果は、館野遺跡の平成16年度調査の報告に掲載される予定である。

Ⅱ層：黒褐色～暗褐色土。層厚５～20cm。

白頭山苫小牧火山灰（B-Tm）が多く混入する部分が断続的に含まれる。遺構などのくぼみではB-Tmが明瞭に認められる。

Ⅲ層：黒色土。遺物包含層。層厚５～30cm。

矢不来11遺跡の12ラインより南東側の斜面から低地にかけては、以下のように分層される。

Ⅲａ層：黒色～黒褐色土。Ⅲ層よりも若干赤みを帯びる。

Ⅲｂ層：Ⅲ層に相当。

Ⅲｃ層：黒色土。Ⅲ層より黒色が強い。くぼみにのみ認められる。

なお、矢不来11遺跡では、Ⅲ層中に、褐色～赤褐色を呈する部分が複数認められた。規模は１～２ｍほど、分布は、調査範囲の南側を流れる沢へ至る斜面の下半、標高62～63ｍ付近にほぼ限られる。斜面の下半は、現在でも降雨の際には湿地になることから、褐色～赤褐色土の分布範囲は度々冠水するような環境であると考えられた。また、斜面からはほとんど遺物が出土しておらず、褐色～赤褐色土の近辺には炭化物が認められなかった。これらのことから、褐色～赤褐色土については、人為的な焼土ではなく、水に関わる何らかの作用による変色の可能性がある。

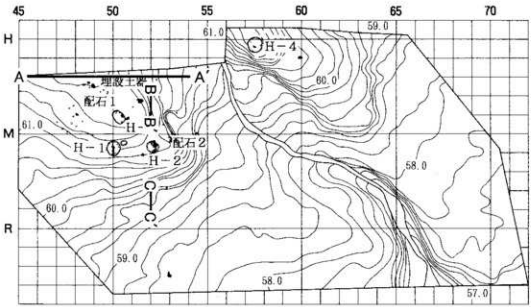
Ⅳ層：黒褐色～オリーブ褐色土。漸移層。層厚５～15cm。

Ⅴ層：黄褐色土。ローム層。層厚60cm以上。

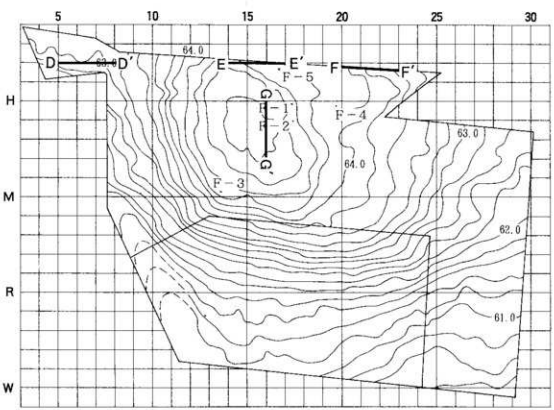
矢不来11遺跡の12ラインより南東側の斜面や低地、矢不来６遺跡の低地部などでは脱色し、オリーブ黄色（５Ｙ６／４）を呈する。

（柳瀬由佳）

矢不来６遺跡



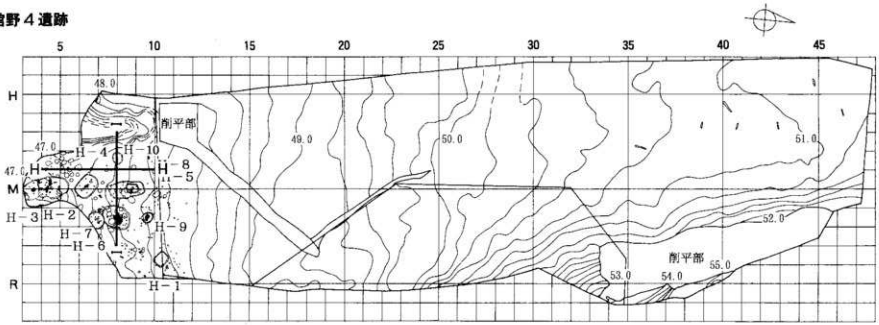
矢不来11遺跡



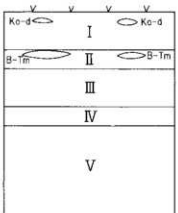
○ 土坑
◦ 小ピット
● 焼土

図Ⅱ－５　土層断面観察位置図（１）

館野４遺跡

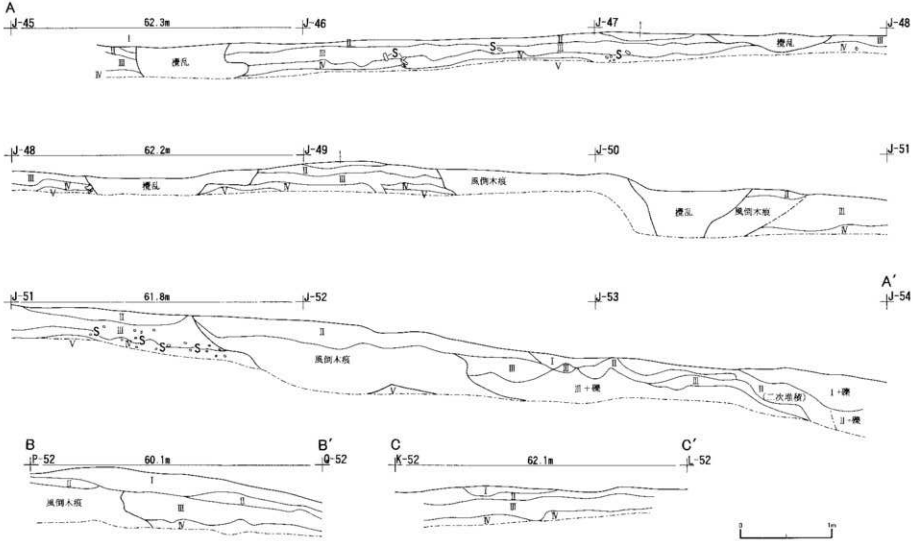


○ 土坑
下ピット
• 小ピット
• 焼土

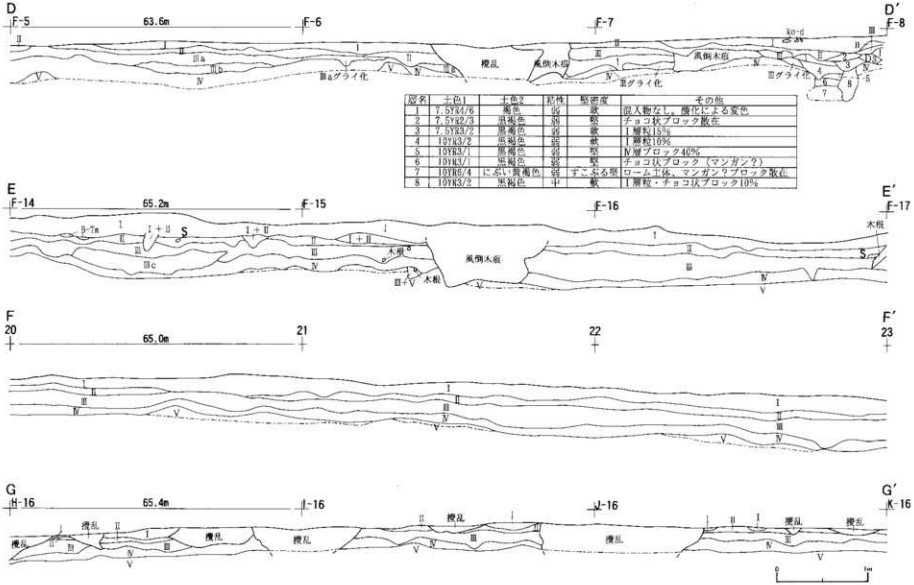


層名	土色1	土色2	土性	粘性	堅密度	その他
Ⅰ	10YR2/1	黒色	埴土	弱	軟～堅	部分的にKo-d・砂質火山灰を含む。
Ⅱ	10YR2/2～3/3	黒褐色～暗褐色	埴壌土	弱	軟～堅	断続的にB-Tmを含む。
Ⅲ	10YR1.7/1～2/1	黒色	埴壌土	中	軟	縄文時代早期～後期の遺物包含層
Ⅳa	10YR2/1～2/2	黒色～黒褐色	埴壌土	弱	堅	
Ⅳb		Ⅲに同じ				くぼみでは黒色が強い
Ⅳc	10YR 7/1	黒色	埴壌土	中	すこぶる堅	くぼみにのみ発達。ト位ではブロック状
Ⅳ	2.5Y3/2～4/3	黒褐色～オリーブ褐色	埴壌土	中	堅	漸移層
Ⅴ	10YR5/6	黄褐色	埴土	中	すこぶる堅	ローム層

図Ⅱ－６　土層断面観察位置図（２）・基本土層柱状図

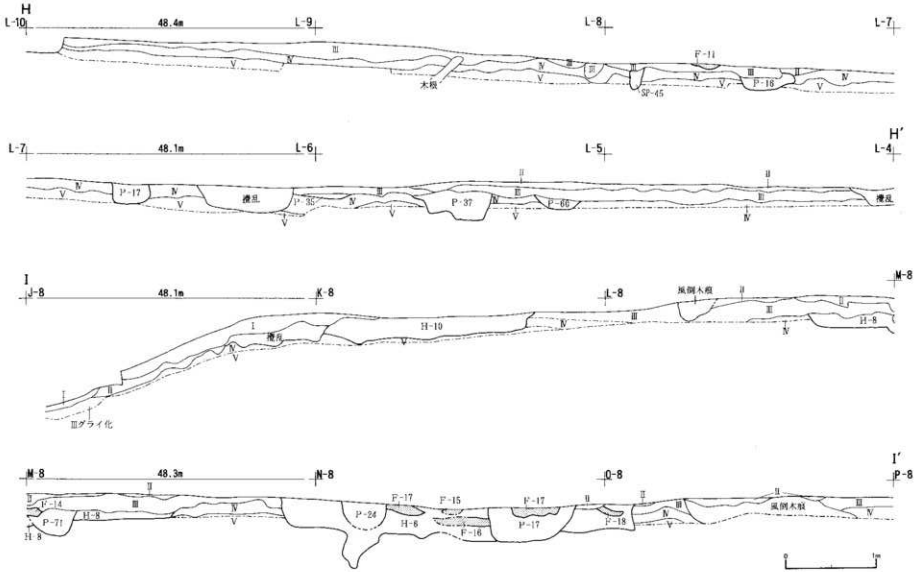


図Ⅱ－７　矢不来６遺跡土層断面図



層名	土色1	土色2	粘性	堅密度	その他
1	7.5YR3/6	褐色	弱	軟	混入物なし。酸化による変色
2	7.5YR2/3	黒褐色	弱	堅	チョコ状ブロック散在
3	7.5YR3/2	黒褐色	弱	軟	Ⅰ層粒15%
4	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	Ⅰ層粒10%
5	10YR3/1	黒褐色	弱	堅	Ⅳ層ブロック40%
6	10YR3/1	黒褐色	弱	堅	チョコ状ブロック（マンガン？）
7	10YR6/4	にぶい黄褐色	弱	すこぶる堅	ローム土体、マンガン？ブロック散在
8	10YR3/2	黒褐色	中	軟	Ⅰ層粒・チョコ状ブロック10%

図Ⅱ－８　矢不来11遺跡土層断面図



図Ⅱ－9　館野４遺跡土層断面図

5　遺物の分類

（1）土　器

矢不来６遺跡、矢不来11遺跡、館野４遺跡で出土した資料には縄文時代早期、前期、中期、後期のものがある。便宜的にⅠ群を早期、Ⅱ群を前期、Ⅲ群を中期、Ⅳ群を後期相当のものにあて、さらに二、三の類別を設けて記載する。

Ⅰ群土器

縄文時代早期の資料。

ａ類：貝殻文の施された前半期の資料。

ｂ類：縄文が施された後半期の資料。

Ⅱ群土器

縄文時代前期の資料。

ａ類：縄文の施された尖底を主体とするグループ。今年度の調査では出土していない。

ｂ類：円筒土器下層式に相当するもの。

Ⅲ群土器

縄文時代中期に属する資料。本群も大きく二分される。

ａ類：円筒上層ａ式、ｂ式、サイベ沢Ⅶ式、見晴町式に相当する前半期の資料。

ｂ類：榎林式、大安在Ｂ式、ノダップⅡ式、煉瓦台式に相当する後半期の資料。

Ⅳ群土器

縄文時代後期の資料。

ａ類：天祐寺式、涌元式、トリサキ式、大津式、白坂３式、に相当する前葉の資料。

ｂ類：ウサクマイＣ式、手稲式、鮏淵式に相当する中葉の資料。

ｃ類：堂林式、三ツ谷式、湯の里３式に相当する後葉の資料。

縄文時代晩期、続縄文時代および擦文時代の資料は出土していない。

（工藤研治）

（2）石器等

石器の分類にあたっては、下記に示した器種別の分類にとどめ、細分は行っていない。

今回調査した3か所の遺跡から出土した石器には、石鏃、石槍、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、両面調整石器、楔形石器、Rフレイク、Uフレイク、フレイク、石核、石斧、たたき石、すり石、北海道式石冠、扁平打製石器、石錘、石鋸、砥石、石皿、台石、原石、礫などがある。また、これらのほかに土製品、石製品、金属製品がある。

石器の石材には、石斧を除く剥片石器には頁岩、メノウが多く使われ、黒曜石を利用したものは少ない。石斧は泥岩製が多く、まれに片岩や砂岩が使われている。礫石器はほとんどが安山岩を使用している。礫として分類したものには、安山岩のほか、凝灰岩、砂岩もみられた。

分類に使用した名称、および掲載順は以下の通りである。

剥片石器

石鏃
石槍
石錐
つまみ付きナイフ（原則として基部は片面加工であり、「ナイフ」という呼称と矛盾するが慣習的にこの名称を使用した）
スクレイパー（原則として片面加工、刃部が周縁の3分の1以上）
両面調整石器
楔形石器
Rフレイク（加工痕のある剥片）
Uフレイク（使用痕のある剥片）
フレイク（剥片・細片）
石核
石斧

礫 石 器

たたき石
扁平打製石器
すり石
北海道式石冠
石錘
石鋸
砥石
石皿
台石
原石
礫

そ の 他

土製品、石製品、金属製品など

（鎌田）

第Ⅲ章　矢不来６遺跡

１　遺　構

住居跡４軒、土坑２基、焼土22か所、配石２基、小ピット12基、埋設土器１基が検出された。調査区は、二つの小河川に開析され、南西側に湿地が存在する状況であった。大半の遺構が、Ｎ－53杭より西側の乾燥した平坦部、ないし湿地に向かう斜面の肩部分に分布していた(図Ⅲ－１)。また、Ｈ－４については、小河川をはさんだ乾燥した平坦部に立地していた。ただ、焼土に関しては、湿地にかかる斜面下部にも分布した。

住居跡Ｈ－１～３は縄文時代前期後半の時期とみられる。３軒は近接するが、それぞれの構造は異なっていた。この状況からすると、３軒が異なる機能を持って、同時に存在した可能性が考えられる。また、Ｍ～Ｏ－54・55グリッドにかけては、捨て場といえる状況で遺物が出土している。この時期の小集落の様相を表したものと思われる。

縄文時代後期前葉の遺構には、焼土と配石がある。前期の住居跡の窪みで火を焚くなどの行為が行われたものとみられる。（福井）

（１）住居跡

Ｈ－１（図Ⅲ－２～４、表Ⅲ－１～５、図版１・２・７）

立　地：湿地に向かう斜面の肩部分にあたる。

確　認：Ｎ・Ｍ－49・50グリッド掘り下げ時、Ⅲ層において遺物の集中がみられ、Ⅳ層上面まで掘り下げた結果、確認した。

覆　土：覆土上面からは、焼土が確認され、Ｆ－10とした。また、Ｆ－10周辺の覆土上位には人頭大の礫がまとまって出土した。覆土は、Ⅲ＋Ⅳ＋Ⅴ層からなる土層で、屋根土の崩落による堆積とみられる。覆土上面の窪みは、住居範囲の中央より北西側に寄っている。

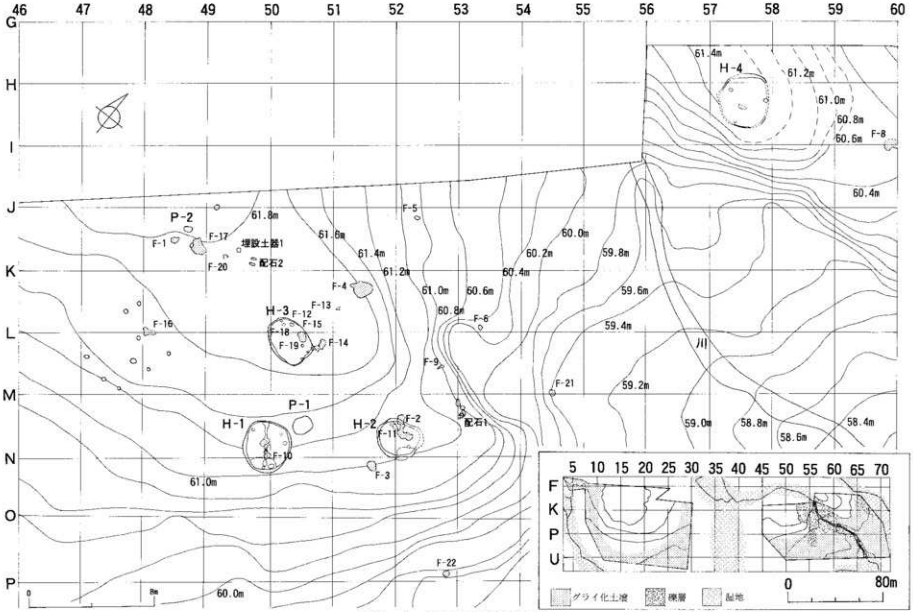
構　造：中央に地床炉が設置され、ＨＰ－１・２・４の三本を主柱穴とするようである。炉を通り、斜面に並行するように浅い溝が確認され、床面は溝に向かうように緩く傾斜していた。また、南東側には、壁に接してごく僅かであるが窪みが確認され、出入り口に伴うものとみられる。窪みに接する壁は立ち上がりが緩くなっており、窪み内には、ＨＰ－３・５が確認された。

付属遺構：炉の南東側からいわゆる砂ピット（ＨＰ－８）が確認された。また、地床炉直下からも、柱穴（ＨＰ－７）が確認された。ＨＰ－７については、覆土上部が焼けていることから、住居構築時以降、地床炉形成以前に設置されたものとみられる。

遺物出土状況：床面からは、扁平打製石器、スクレイパー転用の石鋸（図Ⅲ－４－９・10・13）が、地床炉南西側にややまとまって出土している。その北西側の壁よりからはⅡ群ｂ類の土器（図Ⅲ－３－２）が、南東側からは台石が確認された。

掲載遺物：図Ⅲ－３－１は覆土、２は床面から出土したⅡ群ｂ類土器。いずれも円筒下層ｃ式である。１は口縁部の無文地に２段の縄の縄線文が施されたものである。胎土には海綿骨針が含まれている。２は撚り戻し原体による縄文が施されたもの。比較的薄手で脆い。

３はつまみ付きナイフ、４～６はスクレイパーである。いずれも縦長剥片を素材としている。７・８は打面と作業面を不規則に入れ替えながら作業を行なった石核である。図Ⅲ－４－９～11は石鋸である。９・10はスクレイパーを転用したもの。12はたたき石で、下端部と礫の長軸両端に敲打痕が



図Ⅲ－１　遺構密集部分拡大図

ある。13・14は扁平打製石器である。すり面の幅は13が0.5㎝未満、14は１㎝ほどである。３・５～８・14は覆土、４・12・13は床付近、９～11は床出土である。石材は３～10が頁岩、11・12・14は砂岩、13は安山岩である。

時　期：床面から出土した土器により、縄文時代前期後半とみられる。なお、覆土上面の焼土は、縄文時代後期前葉のものとみられる。（福井）

Ｈ－２（図Ⅲ－５・８、表Ⅲ－１～４・６、図版１・２・７・８）

立　地：湿地に向かう斜面の肩部分にあたる。

確　認：Ｍ－51・52グリッドをⅣ層上面まで掘り下げた結果、確認した。

覆　土：覆土上面からは、焼土が確認され、Ｆ－２・11とした。また、Ｆ－２の一部には人頭大の礫が、環状に出土し、石囲炉を形成していた可能性がある。覆土は、Ⅲ＋Ⅳ＋Ⅴ層からなる土層で、屋根土の崩落による堆積とみられる。覆土上面の窪みは、住居範囲の中央より東側に寄っている。

構　造：ＨＰ－１・３を主柱穴とするようである。南東側には、壁に接して窪みが確認され、住居外側にも同様の窪みが見られた。出入り口に伴うものと思われる。床面は凹凸があり、安定していない。

付属遺構：南東側の窪みに接して、浅い小ピットが検出された。

遺物出土状況：覆土中位からⅡ群ｂ類の土器が出土した（図Ⅲ－５－ｅ～ｈ囲み、図Ⅲ－８－１）。

掲載遺物：図Ⅲ－８－１は覆土出土の円筒下層ｃ式土器。口縁に４か所の山形突起がある。口縁部には横位の条痕文の地に絡条帯圧痕文が施されている。体部には３段と２段の２種類の撚り戻しの原体による縄文が施されている。２は覆土出土のⅣ群ａ類土器。

３～５は頁岩製のスクレイパーである。４は平面形態が篦状で、背面に原石面・剥離面が広く残る。右側刃部の腹面側に光沢がある。３・５は欠損している。直刃削器と思われる。３は床、４・５は覆土から出土した。

時　期：覆土中位から出土した土器により、縄文時代前期後半とみられる。なお、覆土上面の焼土は、縄文時代後期前葉のものとみられる。（福井）

Ｈ－３（図Ⅲ－６・８、表Ⅲ－１～６、図版１・４・８）

立　地：平坦部に位置する。

確　認：Ｋ・Ｌ－50グリッドをⅣ層上面まで掘り下げた結果、確認した。

覆　土：覆土上部から焼土が確認され、Ｆ－12・18・19とした。覆土中・下部は、Ⅲ＋Ⅳ＋Ⅴ層からなる土層で、屋根土の崩落による堆積とみられる。覆土上面の窪みは、住居範囲の中央より東側に寄っている。

構　造：ＨＰ－１・２を主柱穴とするようである。掘り込みは確認した限り４軒中もっとも深い。

付属遺構：東側の壁に接して、ＨＰ－３・４が確認された。径が細く、打ち込み柱の可能性がある。出入り口の構造に伴うものであろう。

遺物出土状況：覆土から遺物が散発的に出土している。

掲載遺物：図Ⅲ－８－６は覆土出土のⅡ群ｂ類土器。斜行縄文が施された薄手の資料である。円筒下層ｃ式に相当するものである。

７は覆土から出土した頁岩製のつまみ付きナイフである。背面周縁部に軽微な刃部調整加工が施される。

時　期：覆土から出土した土器により、縄文時代前期後半とみられる。（福井）

H－4（図Ⅲ－7・8、表Ⅲ－1～4・6、図版5・8）

立　地：平坦部に位置する。

確　認：H－58グリッドをⅤ層上面まで掘り下げた結果、確認した。周囲を抜根痕、風倒木痕により攪乱されていたため、確認が遅れた。

覆　土：Ⅲ＋Ⅳ＋Ⅴ層からなる土層で、屋根土の崩落による堆積とみられる。

構　造：中央南寄りに地床炉が設置され、HP－1・2・3の三本を主柱穴とするようである。地床炉の焼けは弱い。

遺物出土状況：覆土中からⅡ群b類の土器が1個体出土した（図Ⅲ－8－8）。遺構として認識する前の段階で、Ⅲ層として取り上げたものが多く、他の住居跡より、覆土からの遺物は多かったとみられる。

掲載遺物：図Ⅲ－8－8は覆土出土のⅡ群b類土器。撚り戻しの原体による縄文が施された小型の資料で、口縁にはごく低い山形突起が4か所みられる。円筒下層c式である。

9は流紋岩製の扁平打製石器である。すり面は幅0.5cmほどである。覆土から出土した。

時　期：覆土から出土した土器により、縄文時代前期後半とみられる。（福井）

（2）土　坑（図Ⅲ－9、表Ⅲ－1、図版6）

2基確認された。P－1は、H－1に隣接しているが、関係は不明。遺物は出土していない。P－2については、後述する埋設土器や焼土と関連するものとみられる。（福井）

（3）焼　土（図Ⅲ－9～12、表Ⅲ－1・3・5）

住居の窪みに形成された焼土以外に、16か所で確認された。Ⅲ層上面で確認されたF－7、Ⅲ層中位で確認されたF－5・6・9・15・20・22、Ⅲ層下部で確認されたF－4・8・14・16・21、Ⅳ層上面で確認されたF－1・3・13・17に分けられる。前二者は後期前葉、残りは前期後半の時期が考えられる。

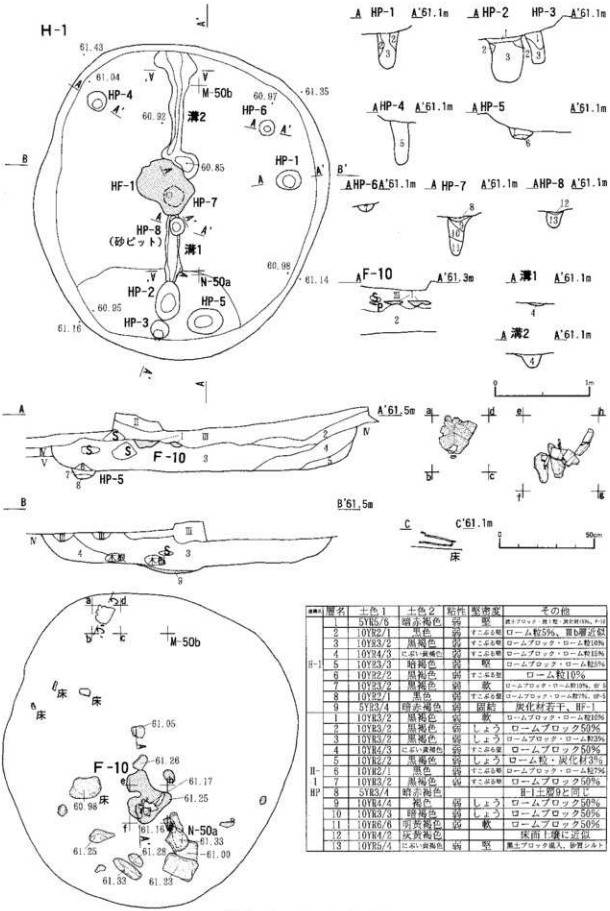
立地では、遺構分布範囲に位置するものと、湿地に位置するものがある。傾向として、湿地に位置するものの規模が小さい。（福井）

図Ⅲ－12－1はF－10出土のⅡ群b類土器。口縁部にはLRの原体による縄線文が施されている。体部には縦走する縄文が施されている。この縄文は撚り戻しの原体によるものかあるいは自縄自巻的原体によるものと思われる。

（4）配　石（図Ⅲ－11、表Ⅲ－1・3、図版6）

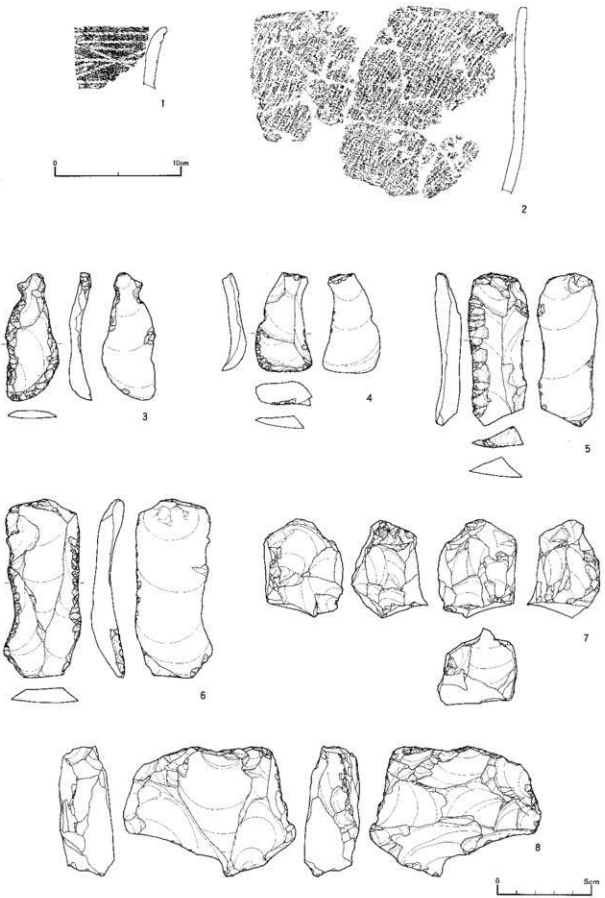
2か所で確認された。配石1は、低地に向かう斜面の肩部分に位置する。Ⅲ層上部に設置されており、周辺から出土した土器から後期前葉の時期と考えられる。

配石2は、扁平な2点の礫を＝形に配置されたもので、時期は明確ではないが、同グリッドからは後期前葉の土器が多く出土している。住居跡に関連する可能性もあったが、周囲は攪乱が多く、確認できなかった。なお、住居跡と仮定した場合、配石2の掘り方がⅣ層上部までであることからすると、Ⅳ層上面より上位に床面があったものと考えられる。（福井）

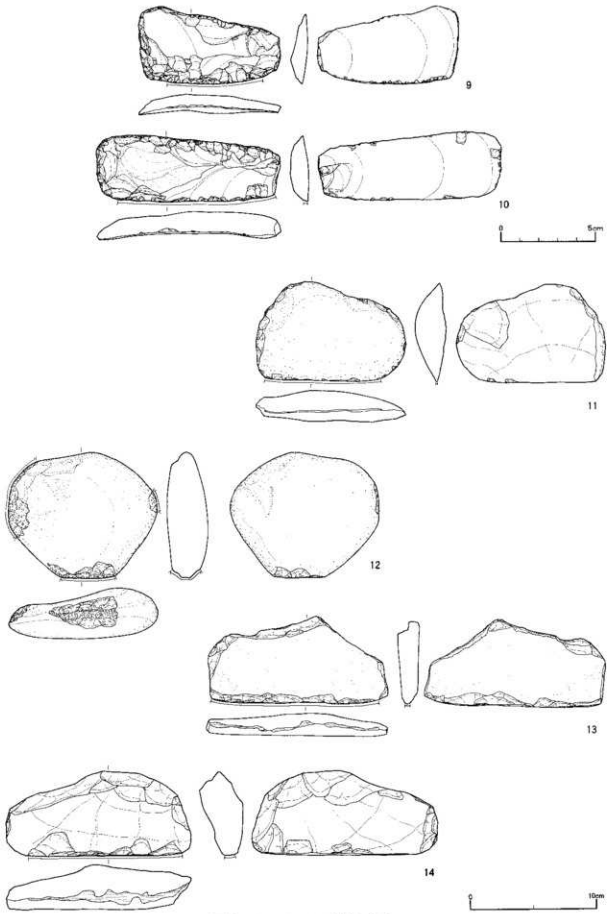


遺構名	層名	土色1	土色2	粘性	堅密度	その他
H-1	1	5YR5/8	明赤褐色	弱	堅	焼土ブロック・炭・粒・炭化材15%、ボ10
	2	10YR2/1	黒色	弱	すこぶる堅	ローム粒5%、黄褐色砂
	3	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒10%
	4	10YR4/3	にぶい黄褐色	弱	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒15%
	5	10YR3/3	暗褐色	弱	軟	ロームブロック・ローム粒5%
	6	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒10%
	7	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ロームブロック・ローム粒10%、砂5
	8	10YR2/1	黒色	弱	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒7%、HP-5
	9	5YR3/4	暗赤褐色	弱	固結	炭化材多干、HF-1
H-1 HP	1	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ロームブロック・ローム粒10%
	2	10YR3/2	黒褐色	弱	しょう	ロームブロック50%
	3	10YR3/2	黒褐色	弱	しょう	ロームブロック30%
	4	10YR4/3	にぶい黄褐色	弱	すこぶる堅	ロームブロック50%
	5	10YR2/2	黒褐色	弱	しょう	ローム粒・炭化材3%
	6	10YR2/1	黒色	弱	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒7%
	7	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ロームブロック50%
	8	5YR3/4	暗赤褐色			非-1土層9と同じ
F-10	1	10YR4/4	褐色	弱	しょう	ロームブロック50%
	10	10YR3/3	暗褐色	弱	しょう	ロームブロック50%
	11	10YR6/6	明黄褐色	弱	軟	ロームブロック50%
	12	10YR4/2	灰黄褐色			床面上壁に近似
	13	10YR5/4	にぶい黄褐色	弱	堅	黒土ブロック混入、砂質シルト

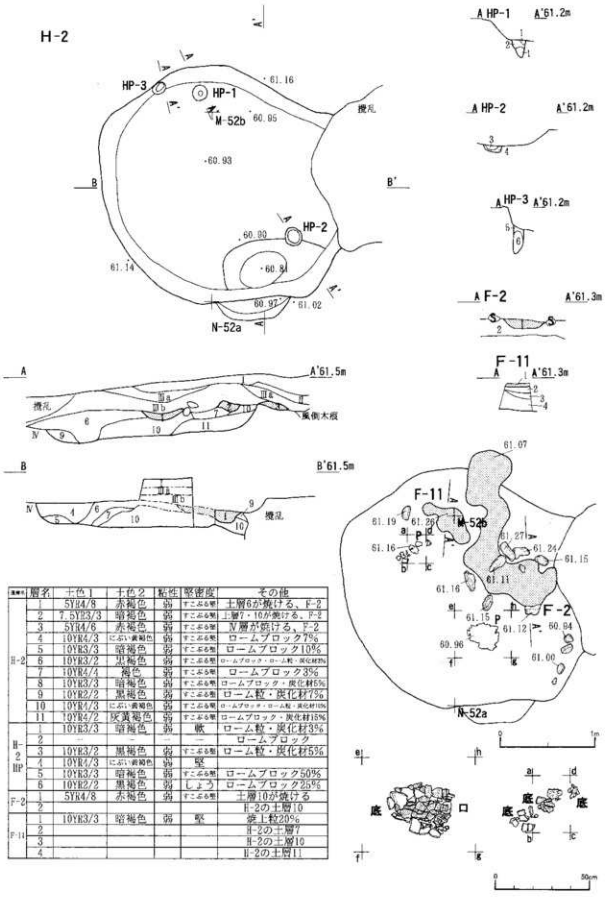
図Ⅲ－２　Ｈ－１、Ｆ－10



図Ⅲ－３　Ｈ－１の遺物（１）

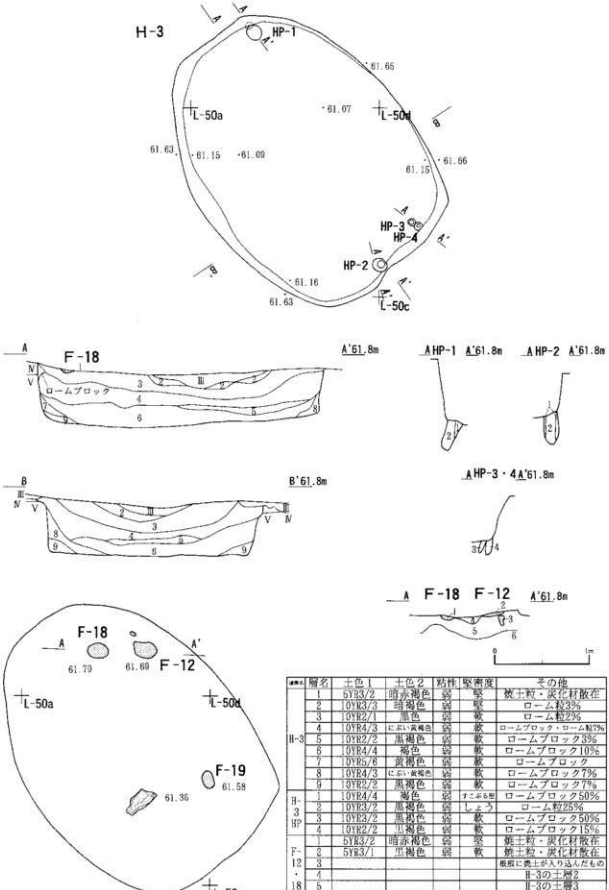


図Ⅲ－４　Ｈ－１の遺物（２）



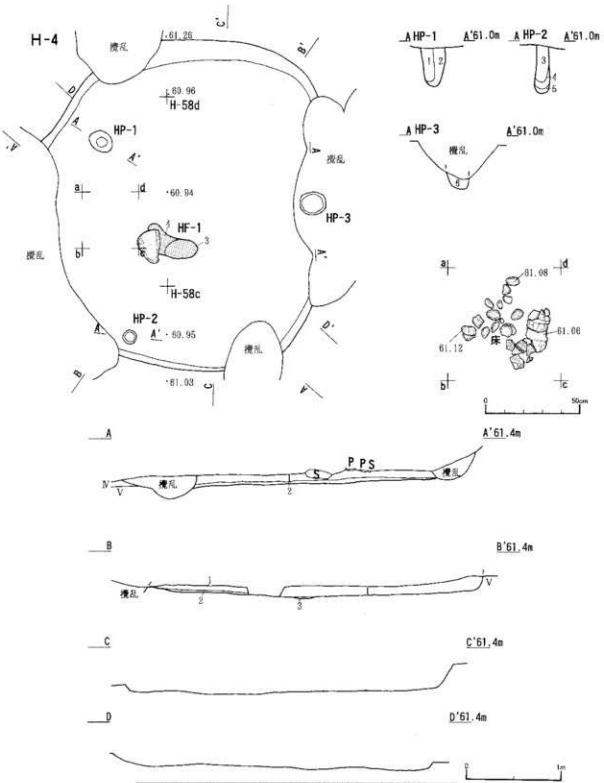
遺構名	層名	土色1	土色2	粘性	堅密度	その他
H-2	1	5YR4/8	赤褐色	弱	すこぶる堅	土層6が焼ける。F-2
	2	7.5YR3/3	暗褐色	弱	すこぶる堅	上層9・10が焼ける。F-2
	3	5YR4/6	赤褐色	弱	すこぶる堅	N層が焼ける。F-2
	4	10YR4/3	にぶい黄褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック7%
	5	10YR3/3	暗褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック10%
	6	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック・ローム粒・炭化材5%
	7	10YR4/4	褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック3%
	8	10YR3/3	暗褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック・炭化材5%
	9	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム 粒・炭化材7%
	10	10YR4/3	にぶい黄褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック・ローム粒・炭化材10%
	11	10YR4/2	灰黄褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック・炭化材15%
H-2 HP	1	10YR3/3	暗褐色	弱	軟	ローム 粒・炭化材3%
	2	—	—	—	—	ローム ブロック
	3	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム 粒・炭化材5%
	4	10YR4/3	にぶい黄褐色	弱	堅	
	5	10YR3/3	暗褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック50%
	6	10YR2/2	黒褐色	弱	しまり	ローム ブロック25%
F-2	1	5YR4/8	赤褐色	弱	すこぶる堅	土層10が焼ける
	2					H-2の土層10
F-11	1	10YR3/3	暗褐色	弱	軟	歩上粒20%
	2					H-2の土層1
	3					H-2の土層10
	4					H-2の土層11

図Ⅲ－5　H－2、F－2・11



遺構名	層名	土色１	土色２	粘性	硬密度	その他
H-3	1	5YR3/2	暗赤褐色	弱	堅	焼土粒・炭化材散在
	2	10YR3/3	暗褐色	弱	堅	ローム粒3%
	3	10YR2/1	黒色	弱	軟	ローム粒2%
	4	10YR4/3	にぶい黄褐色	弱	軟	ロームブロック・ローム粒7%
	5	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ロームブロック3%
	6	10YR4/4	褐色	弱	軟	ロームブロック10%
	7	10YR5/6	黄褐色	弱	軟	ロームブロック
	8	10YR4/3	にぶい黄褐色	弱	軟	ロームブロック7%
	9	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ロームブロック7%
H-3 HP	1	10YR4/4	褐色	弱	すこぶる堅	ロームブロック50%
	2	10YR3/2	黒褐色	弱	しょう	ローム粒25%
	3	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ロームブロック50%
	4	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ロームブロック15%
F-12・18	1	5YR3/2	暗赤褐色	弱	堅	焼土粒・炭化材散在
	2	5YR3/1	黒褐色	弱	軟	焼土粒・炭化材散在
	3					板状に焼土が入り込んだもの
	4					H-3の土層2
	5					H-3の土層3
	6					H-3の土層4

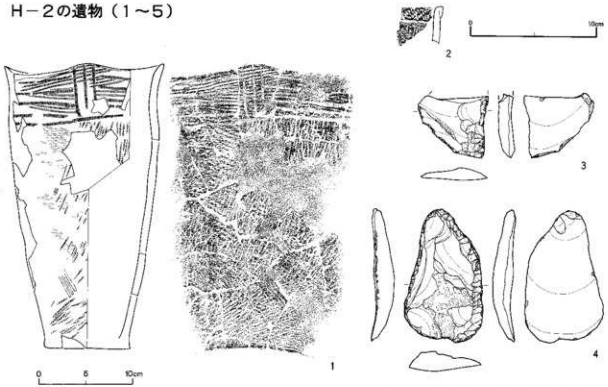
図Ⅲ－６　Ｈ－３、Ｆ－12・18・19



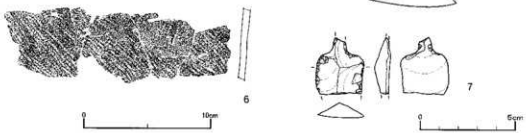
遺構	層名	土色1	土色2	粘性	堅密度	その他
H-4	1	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒15%
	2	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ロームブロック50%
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	弱	軟	
	4	7.5YR4/4	褐色	弱	すこぶる堅	炭化材5%
H-4 HP	1	10YR2/1	黒色	弱	しょう	ローム粒10%
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	弱	すこぶる堅	ロームブロック15%
	3	10YR3/3	暗褐色	弱	しょう	ローム粒・炭化材15%
	4	10YR5/6	黄褐色	弱	堅	黒土粒5%
	5	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒15%
	6	10YR4/4	褐色	弱	しょう	ローム粒15%

図Ⅲ－7　H－4

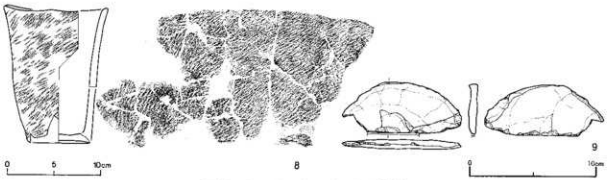
H－２の遺物（１～５）



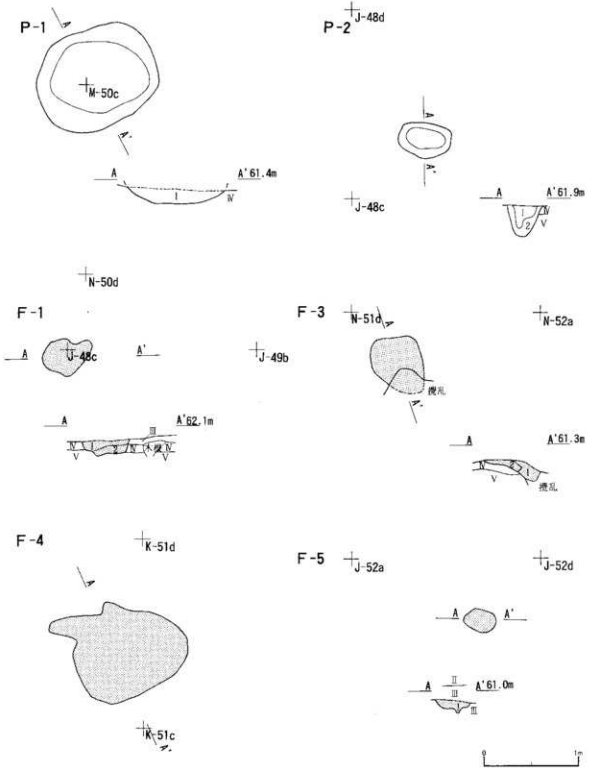
H－３の遺物（６・７）



H－４の遺物（８・９）

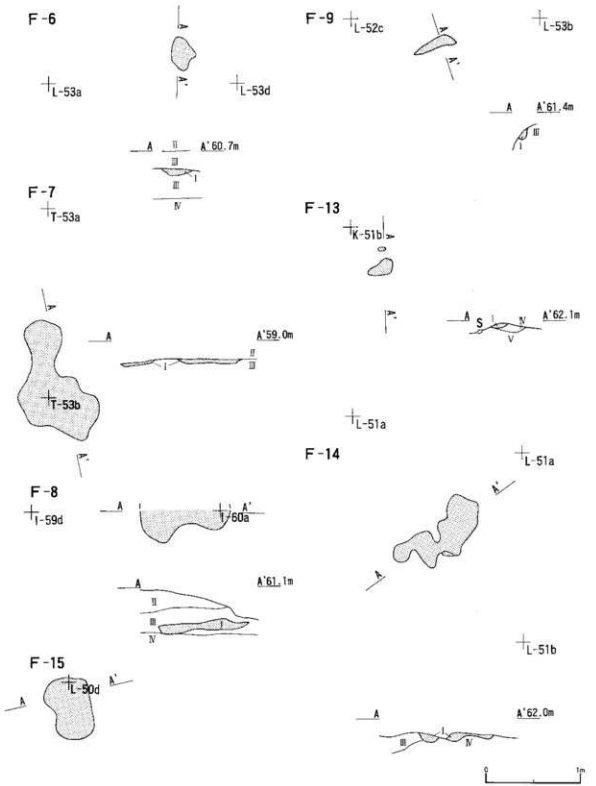


図Ⅲ－８　H－２・３・４の遺物



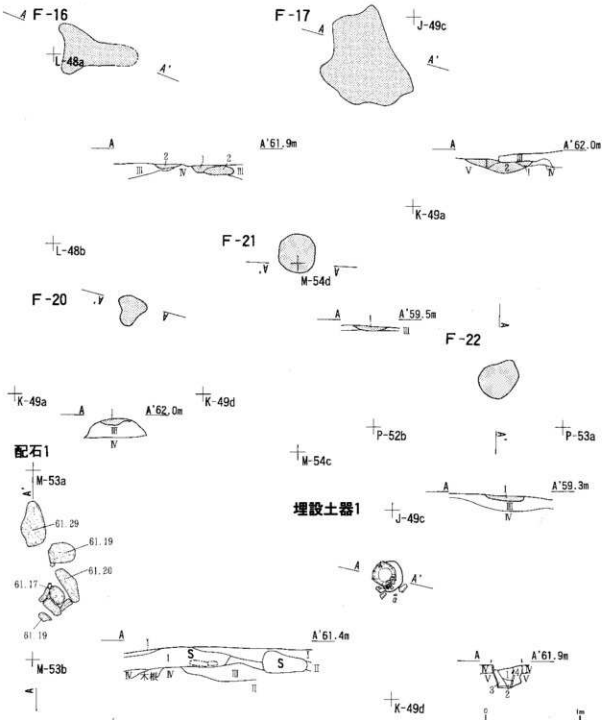
遺構名	層名	土色1	土色2	粘性	堅密度	その他
P-1	1	10YR2/1	黒色	弱	堅	ロームブロック・ローム粒10%
P-2	1	10YR2/1	黒色	弱	堅	ローム粒・炭化材5%
	2	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ロームブロック40%
F-1	1	5YR4/4	にぶい赤褐色	弱	堅	焼土粒少量、焼土
	2	5YR5/6	明赤褐色	弱	堅	焼土
F-3	1	5YR5/8	明赤褐色	—	—	覆乱された焼土
	2	5YR5/8	明赤褐色	弱	すこぶる堅	焼土
F-4	1	5YR5/8	明赤褐色	弱	すこぶる堅	焼土粒少量、炭化材微量、焼土
F-5	1	5YR4/6	赤褐色	弱	堅	焼土

図Ⅲ－9　P－1・2、F－1～5



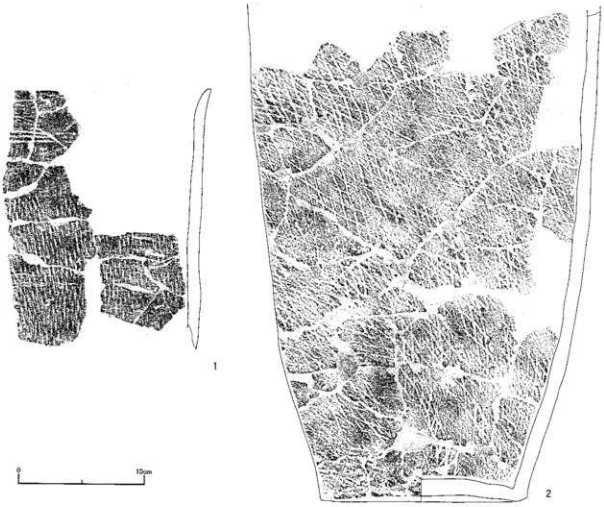
遺構名	層名	土色１	土色２	粘性	堅密度	その他
F-6	Ⅰ	5YR3/4	暗赤褐色	弱	堅	焼土
F-7	Ⅰ	5YR3/4	暗赤褐色	弱	軟	焼土粒少量、焼土
F-8	Ⅰ	5YR4/4	にぶい赤褐色	弱	堅	焼土粒・炭化材少量、焼土
F-9	Ⅰ	5YR3/3	暗赤褐色	弱	堅	炭化材少量、焼土
F-13	Ⅰ	7.5YR4/4	褐色	弱	堅	炭化材2%、焼土
F-14	Ⅰ	7.5YR4/4	褐色	弱	軟	焼土粒・炭化材3%、焼土
F-15	Ⅰ	7.5YR5/4	にぶい褐色	弱	堅	炭化材散在、焼土

図Ⅲ－10　Ｆ－６～９・13～15



遺構名	層名	土色1	土色2	粘性	堅密度	その他
F-16	1	5YR3/2	暗赤褐色	弱	軟	焼土粒15%、焼土
	2	5YR4/4	にぶい赤褐色	弱	堅	焼土
F-17	1	7.5YR3/2	黒褐色	弱	軟	焼土粒7%、焼土
	2	7.5YR4/6	褐色	弱	堅	炭化材1%、焼土
F-20	1	5YR3/2	暗赤褐色	弱	堅	焼土粒・炭化材散在、焼土
F-21	1	5YR4/8	赤褐色	弱	堅	炭化材2%、焼土
F-22	1	5YR4/4	赤褐色	弱	堅	焼土ブロック7%、焼土
埋設土器1	1	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒3%
	2	10YR3/3	暗褐色	弱	堅	ローム粒5%
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	弱	堅	ローム粒3%
	4	10YR4/4	褐色	弱	堅	ローム粒3%
配石1	1	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	すこぶる堅ロームブロック7%、風倒木の痕跡!

図Ⅲ－11　F－16・17・20～22、配石、埋設土器



図Ⅲ－12　焼土の遺物、埋設土器

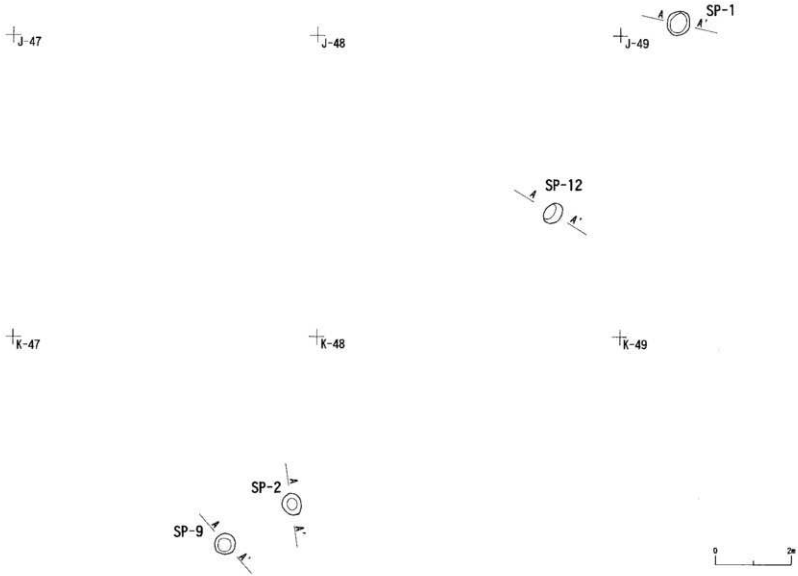
（５）埋設土器（図Ⅲ－11・12、表Ⅲ－１・３・４、図版６・８）

Ⅴ層上部まで掘り込んで、正立状態で土器が埋設されていた。Ｐ－２や、焼土（Ｆ－１・17・20）と関連するものとみられる。土器の径に対し、北東側に広く掘り込まれる。土器内の堆積土を予備的に水洗選別したが、遺物等は検出されなかった。

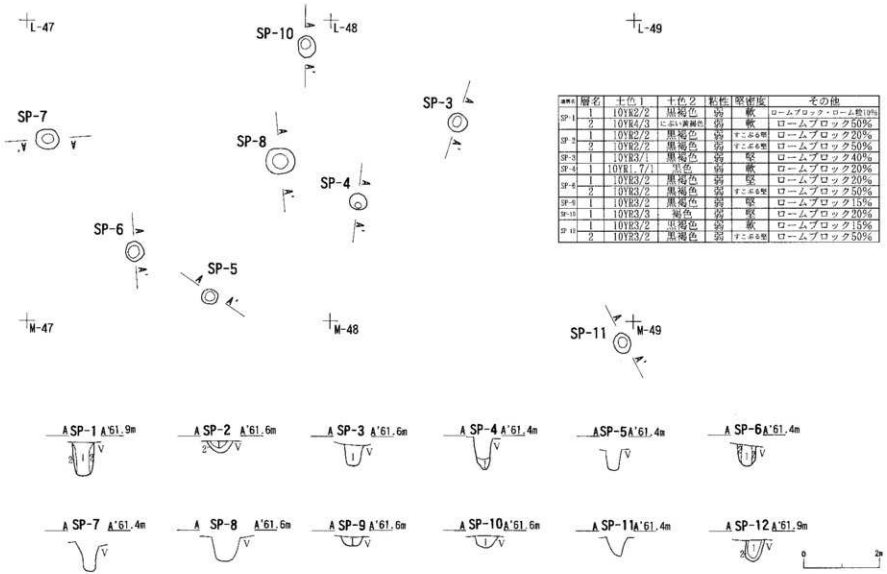
図Ⅲ－12－２は比較的大型のⅡ群ｂ類土器。口縁部を欠く。体部には網目状撚糸文が施されている。内面は丁寧に磨かれている。円筒下層ｃ式に相当するものである。（福井）

（６）小ピット（図Ⅲ－13～14、表Ⅲ－１）

Ｋ・Ｌ－47・48グリッドを中心に12基が検出された。調査最終段階での検出で、確認面はⅤ層。したがって、掘り込み面は明確ではない。配列は確定できていない。（福井）



図Ⅲ－13　小ピット（1）



遺構名	層名	土色1	土色2	粘性	堅密度	その他
SP-1	1	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ロームブロック・ローム粒10%
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	弱	軟	ロームブロック50%
SP-2	1	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ロームブロック20%
	2	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ロームブロック50%
SP-3	1	10YR3/1	黒褐色	弱	堅	ロームブロック40%
SP-4	1	10YR1.7/1	黒色	弱	軟	ロームブロック20%
SP-5	1	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ロームブロック20%
	2	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ロームブロック50%
SP-6	1	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ロームブロック15%
SP-10	1	10YR3/3	暗褐色	弱	堅	ロームブロック20%
SP-11	1	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ロームブロック15%
	2	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ロームブロック50%

図Ⅲ－14　小ピット（2）

表Ⅲ－1　遺構一覧

遺構名	時期	位置	規模(cm) 確認面 長軸	確認面 短軸	床面 長軸	床面 短軸	深さ	平面形態	長軸方向	確認面	重複関係	備考
H-1	前期後半	M-N･-49･50	332	300	302	270	22	円形	N-30°-W	Ⅳ層上面		
H-2	前期後半	M-N･-51･52	282	242	248	206	32	楕円形	N-81°-E	Ⅳ層上面		北スいに若干重なる?
H-3	前期後半	K･L-49･50	306	235	290	216	70	楕円形	N-39°-W	Ⅳ層上面	H-3より上位	
H-4	前期後半	G･H58	352	(272)	328	(264)	(14)	隅丸方形	N-26°-W	Ⅴ層上面		
P-1	不明	M50	130	110	104	76	16	楕円形	N-52°-E	Ⅳ層上面		
P-2	不明	J48	55	38	42	22	34	楕円形	N-63°-E	Ⅳ層上面		
F-1	前期後半?	J48	55	40			14			Ⅲ層下部		
F-2	後期前葉	M52	172	78			10			H-1層土上面	H-1より上位	一番平坦面が広い
F-3	前期後半?	N51	(64)	53			6			Ⅳ層上面		
F-4	前期後半?	N51	145	108			20			Ⅲ層下部		
F-5	後期前葉	J52	34	24			14			Ⅲ層中		
F-6	後期前葉?	K53	36	26			8			Ⅲ層中		
F-7	後期前葉?	T52･53	138	76			4			Ⅲ層中		
F-8	前期後半?	H･I59	96	(34)			12			Ⅲ層下部		
F-9	後期前葉?	L52	46	12			12			Ⅲ層中		最新水の影響あり
F-10	後期前葉	M49･50	52	43			4			H-2層土上面	H-2より上位	
F-11	後期前葉	M51･52	60	29			4			H-1層土上面	H-1より上位	
F-12	後期前葉	K50	27	18			3			H-3層土上面	H-3より上位	
F-13	前期後半?	K51	29	16			5			Ⅳ層上面		
F-14	前期後半?	L50	106	42			10			Ⅲ層下部		
F-15	後期前葉?	L50	67	48			8			Ⅲ層中		
F-16	前期後半?	K･L48	80	54			10			Ⅲ層下部		
F-17	後期前葉	J49	106	79			12			Ⅳ層上面		
F-18	後期前葉	K50	22	18			4			H-3層土上面	H-3より上位	
F-19	後期前葉	L50	19	12			-			H-3層土上面	H-3より上位	
F-20	後期前葉?	J49	32	30			6			Ⅲ層中		
F-21	前期後半?	L･M54	42	38			4			Ⅲ層中		
F-22	後期前葉?	P52	44	38			4			Ⅲ層中		
配石1	後期前葉?	M52･53								Ⅲ層上面		
配石2	後期前葉	J49								Ⅲ層下部		
墓穴土器1	前期後半	J49	32	26	14	14	24			Ⅳ層上面		
SP-1	不明	J49	35	30	25	20	44			Ⅴ層上面		
SP-2	不明	K47	25	30	17	15	16			Ⅴ層上面		
SP-3	不明	L48	25	25	15	12	28			Ⅴ層上面		
SP-4	不明	L48	22	22	10	8	42			Ⅴ層上面		
SP-5	不明	L47	22	20	12	12	26			Ⅴ層上面		
SP-6	不明	L47	27	25	15	15	28			Ⅴ層上面		
SP-7	不明	L47	30	25	15	12	29			Ⅴ層上面		
SP-8	不明	L47	40	35	20	20	32			Ⅴ層上面		
SP-9	不明	K47	30	30	20	17	12			Ⅴ層上面		
SP-10	不明	L47	30	22	12	12	16			Ⅴ層上面		
SP-11	不明	M48	27	22	15	10	24			Ⅴ層上面		
SP-12	不明	J48	30	22	22	12	28			Ⅴ層上面		

表Ⅲ－2　付属遺構一覧

遺構名	時期	位置	規模(cm) 確認面 長軸	確認面 短軸	床面 長軸	床面 短軸	深さ	平面形態	長軸方向	確認面	重複関係	備考
H-1HP-1		M50	26	21	14	14	40					主柱穴
H-1HP-2		N49	42	26	20	15	48					主柱穴
H-1HP-3		N49	19	19	12	10	34					
H-1HP-4		M49	21	20	10	10	46					主柱穴
H-1HP-5		N49･50	37	27	19	12	13					
H-1HP-6		M50	16	16	7	6	8					
H-1HP-7		M49	22	21	6	6	40			HP-1より古い		
H-1HP-8		M49	18	16	10	9	16					砂ピット
H-1HF-1		M49･50	62	48			3			HP-7より新しい		
H-2HP-1		M51	16	16	4	4	9					主柱穴
H-2HP-2		M52	20	18	14	13	8					
H-2HP-3		M51	16	11	10	6	30					主柱穴
H-3HP-1		K59	18	15	8	9	32					主柱穴
H-3HP-2		L50	16	14	8	8	34					主柱穴
H-3HP-3		L50	8	8	4	4	12					
H-3HP-4		L50	9	8	4	3	18					
H-4HP-1		H58	26	21	11	10	40					主柱穴
H-4HP-2		H58	15	14	10	10	52					主柱穴
H-4HP-3		H58	28	24	23	20	49					主柱穴
H-4HF-1		H58	57	22			1					

表Ⅲ－３　遺構出土遺物点数一覧

遺構名	層位	土器			石器等															土製品	合計
		Ⅱb	Ⅳa	計	つまみ付きナイフ	スクレイパー	石核	Rフレイク	Uフレイク	フレイク	石斧	たたき石	すり石	扁平打製石器	石錐	石皿	加工痕のある礫	礫	計	焼成粘土塊	
H－1	覆土	49		49	1	3	2			16	1							78	101	1	151
	覆土２						1	1		6				1		2	1	2	14		14
	床付近	4		4		1						1		2			1		5		9
	床面	106		106											3	1		1	5		111
	ＨＦ－１焼土	7		7																	7
	計	166		166	1	4	3	1		22	1	1		3	3	3	2	81	125	1	292
H－2	覆土	190		190	1	4		2		13			1					30	51		241
	覆土上部	38		38																	38
	覆土２																	1	1		1
	床面						1												1		1
	計	228		228	1	5		2		13			1					31	53		281
H－3	覆土	24		24				1								2		2	5		29
H－4	覆土	70		70						1				1				28	30		100
	覆土１															1			1		1
	計	70		70						1				1		1		28	31		101
F－2	焼土		2	2			2											6	8		10
F－5	焼土		3	3																	3
F－10	焼土	26		26																	26
F－17	焼土	6	6	12					1	7									8		20
F－18	焼土	1		1						2									2		3
配石１	—												1					7	8		8
配石２	—																	2	2		2
埋設土器	—	243		243														1	1		244
合計		764	11	775	2	9	5	4	1	45	1	1	2	4	3	6	2	158	243	1	1019

表Ⅲ－４　遺構出土掲載土器一覧（復元土器）

挿図番号		掲載番号	分　類	遺構名・発掘区	層　位	点　数	口径(cm.)	底径(cm)	器高(cm)	備　考
Ⅲ	8	1	Ⅱb	H－2	覆土	82	16.9	9.1	30.1	
Ⅲ	8	8	Ⅱb	H－4	覆土	31	11.1	6.7	14.6	
Ⅲ	12	2	Ⅱb	埋設土器１		148	—	16.4	(38.5)	J48、J49
				J49	Ⅲ	20				

表Ⅲ－５　遺構出土掲載土器一覧（拓影）

挿図番号		掲載番号	分類	発掘区	層位
Ⅲ	3	1	Ⅱb	H－1	覆土
Ⅲ	3	2	Ⅱb	H－1	床

挿図番号		掲載番号	分類	発掘区	層位
Ⅲ	8	6	Ⅱb	H－3	覆土

挿図番号		掲載番号	分類	発掘区	層位
Ⅲ	12	1	Ⅱb	F－10	

表Ⅲ－６　遺構掲載石器一覧

挿図番号		挿図番号	遺構名	分　類	層　位	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石　材	備　考
Ⅲ	3	3	H－1	つまみ付きナイフ	覆土	37	6.7	2.8	0.9	14.6	頁　岩	
Ⅲ	3	4	H－1	スクレイパー	覆土床付近	49	5.2	3	0.8	10.7	頁　岩	
Ⅲ	3	5	H－1	スクレイパー	覆土	39	8.1	3.1	1.3	28.4	頁　岩	
Ⅲ	3	6	H－1	スクレイパー	覆土	46	9.4	4.1	1.4	48.1	頁　岩	
Ⅲ	3	7	H－1	石核	覆土	48	5.2	4.1	3.5	86.5	頁　岩	
Ⅲ	3	8	H－1	石核	覆土	34	6.8	9	3.4	158.8	頁　岩	
Ⅲ	3	9	H－1	石鏃	床	57	5.1	7.5	0.9	30.5	頁　岩	スクレイパー転用
Ⅲ	3	10	H－1	石鏃	床	55	3.6	9.7	1.2	46	頁　岩	スクレイパー転用
Ⅲ	4	11	H－1	石鏃	床	56	7.8	11.8	2.5	257	砂　岩	
Ⅲ	4	12	H－1	たたき石	覆土床付近	13	9.9	11.8	3.8	535	砂　岩	
Ⅲ	4	13	H－1	扁平打製石器	覆土床付近	10	6.9	14.3	1.7	218	安山岩	
Ⅲ	4	14	H－1	扁平打製石器	覆土	54	6.6	14.7	3.5	369	砂　岩	
Ⅲ	8	3	H－2	スクレイパー	床	25	(3.3)	3.7	0.7	(9.2)	頁　岩	欠損
Ⅲ	8	4	H－2	スクレイパー	覆土	23	7	4.2	1.1	29.2	頁　岩	
Ⅲ	8	5	H－2	スクレイパー	覆土	16	(4.9)	4.6	1.3	23	頁　岩	欠損
Ⅲ	8	7	H－3	つまみ付きナイフ	覆土	3	(3.0)	2.5	0.8	4.6	頁　岩	欠損
Ⅲ	8	9	H－4	扁平打製石器	覆土	7	4	9.4	0.8	29.6	流紋岩	

2　包含層出土の遺物

（1）土　器

土器にはⅠ群からⅣ群に属するものまである。

Ⅰ群ａ類土器（図Ⅲ－16－３）

貝殻条痕文が施された小片である。下縁には横位の爪形文が施されている。焼成は良好で堅い。胎土は緻密である。爪形文が施されていることから、ノダップⅠ式に近いとみられる。

Ⅰ群ｂ類土器（図Ⅲ－16－４・５）

東釧路Ⅳ式に相当するもの。４・５は同一個体である。口縁部には無文地に縄端圧痕文と縄線文が施され、体部には縄文が施されている。

Ⅱ群ｂ類土器（図Ⅲ－15－１、図Ⅲ16－６～20）

本類はさらにｂ１類、ｂ２類に細分される。

ｂ－１類（１・６～17）：円筒下層ｃ式に相当するものである。

ａ（６～８）は口縁部に絡条体圧痕文が施されたもの。６・７は同一個体。口縁部に絡条体圧痕文が綾杉状に施されている。薄手で脆い。８は口縁部に絡条体圧痕文が６条めぐり、体部には横走縄文が施されている。

ｂ（１・９～13・17）は口縁部に縄線文が施されたもの。１はM55グリッドでつぶれた状態で出土した。平縁、筒形で、頸部がややくびれるものである。全面に斜行縄文が施され、口縁と頸部に縄線文が施されている。９の体部には横走縄文が施されている。17は撚糸文の地に縄線文が施されたもの。焼成は良く、堅い。便宜的に本類に含めている。

ｃ（14～16）はａ・ｂいずれにも属さないものである。14は口縁部に横位の条痕文が施されたもの。15は網目状撚糸文が施されたもの。16は撚り戻しの縄文が施された小型の土器。

ｂ－２類（18～20）：円筒下層ｄ式に相当するもの。

18は縄線文が施された口縁部片。19・20は同一個体とみられる。19には縄線文が施されている。20は体部に多軸絡条体の回転文が施されたもので、半截竹管状の工具による押し引き文で口縁部の文様帯と画されている。

Ⅲ群ａ類土器（図Ⅲ－16－21）

21はサイベ沢Ⅶ式に相当するものである。体部には綾絡文が施されている。

Ⅲ群ｂ類土器（図Ⅲ－17－22～26）

22～26は比較的薄手で縄文が施されたものである。22～24・26は口唇が磨かれ、内面も丁寧に調整されている。胎土は緻密である。25は内面の調整や胎土からここに含めている。

Ⅳ群ａ類土器（図Ⅲ－15－２、図Ⅲ－17－27～図Ⅲ－18－48）

本類はさらに細分される。

ａ－１類（27～45）：天祐寺式ないし浦元１式に相当するもの。

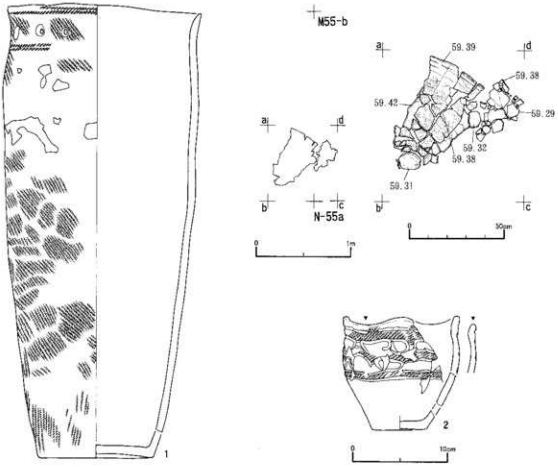
ａ（27～34・38）は貼付帯のあるもの。27・29～31は貼付帯に縄文が施されたもの。32～34は貼付帯に縄線文が施されたものである。38は貼付帯があることから便宜的に含めたものである。

ｂ（35～37）は口縁部に縄線文の施されたものである。35にはボタン状の貼付文がある。

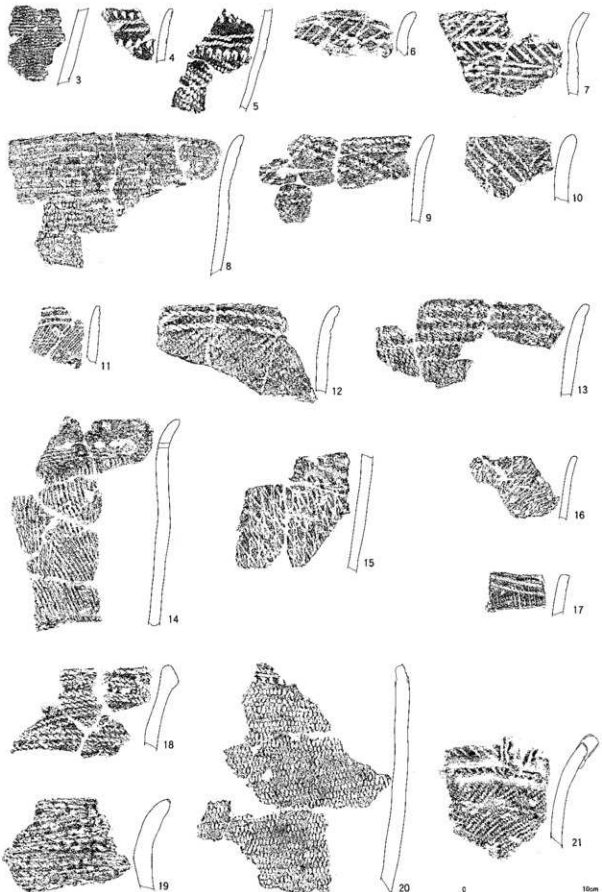
ｃ（39）は網目状の撚糸文が施されたもの。

ｄ（40～43）は縄文のみのもの。40には複節の縄文が施されている。

ｅ（44・45）は無文のものである。44の口縁は折り返されている。

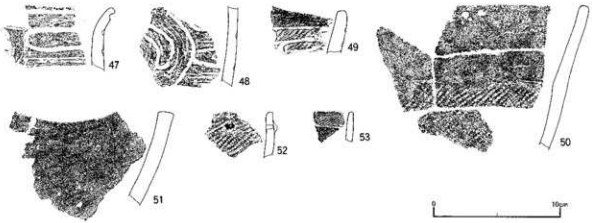


図Ⅲ－15　包含層出土の土器（１）



図Ⅲ－16　包含層出土の土器（2）

図Ⅲ－17　包含層出土の土器（３）



図Ⅲ－18　包含層出土の土器（4）

a－2類（2・46）：木古内町新道4遺跡（北埋調報52）の盛土1類に相当するものである。
2は4か所の低い山形突起のある小型の土器。磨消縄文が施されている。

a－3類（47・48）：木古内町新道4遺跡の盛土2類に相当するものである。
47、48は櫛状工具で文様を描き、沈線で縁取りしている。

Ⅳ群b類土器（図Ⅲ－18－49～51）
手稲式に相当するものである。

Ⅳ群c類土器（図Ⅲ－18－52・53）
52は内面からの突瘤文が施されたもの。53の口縁には細い沈線で画された縄文が施されている。

（工藤）

表Ⅲ－7　遺構出土掲載土器一覧（復元土器）

挿図番号		掲載番号	分類	遺構名・発掘区	層位	点数	口径(cm.)	底径(cm)	器高(cm)	備考
Ⅲ	15	1	Ⅱb	L6	Ⅲ	4	20.5	12.2	48.0	
				M54	Ⅲ	176				
Ⅲ	15	2	Ⅳa	H58	Ⅲ	22	12.3	5.6	12.1	

表Ⅲ－8　包含層出土掲載土器一覧（拓影）

挿図番号		掲載番号	分類	発掘区	層位
Ⅲ	16	3	Ⅰa	L53	Ⅲ
Ⅲ	16	4	Ⅰb	S67	Ⅲ
Ⅲ	16	5	Ⅰb	S67	Ⅲ
Ⅲ	16	6	Ⅱb	Q53	Ⅲ
Ⅲ	16	7	Ⅱb	Q53	Ⅲ
Ⅲ	16	8	Ⅱb	M62	Ⅲ
Ⅲ	16	9	Ⅱb	M61	Ⅲ
Ⅲ	16	10	Ⅱb	P52	Ⅲ
Ⅲ	16	11	Ⅱb	H58	Ⅲ
Ⅲ	16	12	Ⅱb	P52	Ⅲ
Ⅲ	16	13	Ⅱb	M62	Ⅲ
Ⅲ	16	14	Ⅱb	L64	Ⅲ
Ⅲ	16	15	Ⅱb	N54	Ⅲ
Ⅲ	16	16	Ⅱb	H58	Ⅲ
Ⅲ	16	17	Ⅱb	M50	Ⅲ
Ⅲ	16	18	Ⅱb	M58	Ⅲ
Ⅲ	16	19	Ⅱb	H58	Ⅲ

挿図番号		掲載番号	分類	発掘区	層位
Ⅲ	16	20	Ⅱb	H58	Ⅲ
Ⅲ	16	21	Ⅲa	K49	Ⅲ
Ⅲ	17	22	Ⅲb	M53	Ⅲ
Ⅲ	17	23	Ⅲb	M51	Ⅲ
Ⅲ	17	24	Ⅲb	L53	Ⅲ
Ⅲ	17	25	Ⅲb	M50	Ⅲ
Ⅲ	17	26	Ⅲb	N53	Ⅱ
Ⅲ	17	27	Ⅳa	L50	Ⅲ
Ⅲ	17	28	Ⅳa	J45	Ⅲ
Ⅲ	17	29	Ⅳa	K49	Ⅲ
Ⅲ	17	30	Ⅳa	L51	Ⅲ
Ⅲ	17	31	Ⅳa	L51	Ⅲ
Ⅲ	17	32	Ⅳa	K53	Ⅲ
Ⅲ	17	33	Ⅳa	K51	Ⅲ
Ⅲ	17	34	Ⅳa	K51	Ⅲ
Ⅲ	17	35	Ⅳa	N49	Ⅲ
Ⅲ	17	36	Ⅳa	L52	Ⅲ

挿図番号		掲載番号	分類	発掘区	層位
Ⅲ	17	37	Ⅳa	L51	Ⅲ
Ⅲ	17	38	Ⅳa	N45	Ⅲ
Ⅲ	17	39	Ⅳa	L48	Ⅲ
Ⅲ	17	40	Ⅳa	J52	Ⅲ
Ⅲ	17	41	Ⅳa	N52	Ⅱ
Ⅲ	17	42	Ⅳa	L53	Ⅲ
Ⅲ	17	43	Ⅳa	M50	Ⅲ
Ⅲ	17	44	Ⅳa	K52	Ⅲ
Ⅲ	17	45	Ⅳa	L45	Ⅲ
Ⅲ	17	46	Ⅳa	L53	Ⅲ
Ⅲ	18	47	Ⅳa	O51	Ⅰ
Ⅲ	18	48	Ⅳa	M51	Ⅱ
Ⅲ	18	49	Ⅳb	J45	Ⅲ
Ⅲ	18	50	Ⅳb	H58	Ⅲ
Ⅲ	18	51	Ⅳb	J53	Ⅲ
Ⅲ	18	52	Ⅳc	M63	Ⅲ
Ⅲ	18	53	Ⅳc	M45	Ⅲ

（２）石器等

器種・層位ごとの点数は表Ⅰ－３、掲載遺物のデータは表Ⅲ－９、実測図は図Ⅲ－19～24、写真は図版10～12に掲載した。実測図の掲載番号は１～44の通し番号となっている。そのためこの番号で記述する。矢不来６遺跡包含層出土の石器等で掲載したものは、石鏃４点、石錐１点、つまみ付きナイフ５点、スクレイパー13点、石核１点、石斧３点、たたき石５点、扁平打製石器４点、すり石２点、石錘１点、北海道式石冠１点、石皿１点、石製品２点、銃弾２点である。

石　鏃（１～３）

10点（Ⅱ層：１点、Ⅲ層：９点）出土した。すべて完形もしくは器体の２/３以上が残存する。Ⅲ層出土の黒曜石製２点のほかは頁岩製である。１は長身鏃で抉りがあり、被熱している。基部が欠損している。２は薄手木葉形鏃、３は木葉形有茎鏃である。いずれもⅢ層出土で頁岩製である。

石　槍

１点（K51、Ⅲ層、黒曜石製）出土した。器体の１/３以下しか残存していないため掲載していない。

石　錐（４）

７点（Ⅲ層、頁岩製）出土した。４は機能部のみが加工されており、錐部末端断面が三角形である。

つまみ付きナイフ（図Ⅲ－19－５～９）

27点（Ⅱ層：１点、Ⅲ層：25点、撹乱：１点）出土した。Ⅲ層出土の泥岩製１点のほかは頁岩製である。完形もしくは器体の２/３以上が現存するものはⅢ層出土の頁岩製９点である。５～９はいずれも縦長剥片を素材としたものである。７～９は器体が大きく捩れている。

スクレイパー（10～22）

112点（Ⅰ層：３点、Ⅱ層：21点、Ⅲ層：87点、表採１点）出土した。Ⅲ層出土の黒曜石製２点のほかは頁岩製である。完形もしくは器体の２/３以上現存するものは64点である。10は篦状石器と称されるもの。11～17は掻器である。短軸端に刃部をもつもの、長軸端に刃部をもつものがある。18・20・22は複刃削器で22には抉りがある。19は外湾刃削器、21は内湾刃削器である。15は黒曜石製、ほかは頁岩製である。

石　核（23）

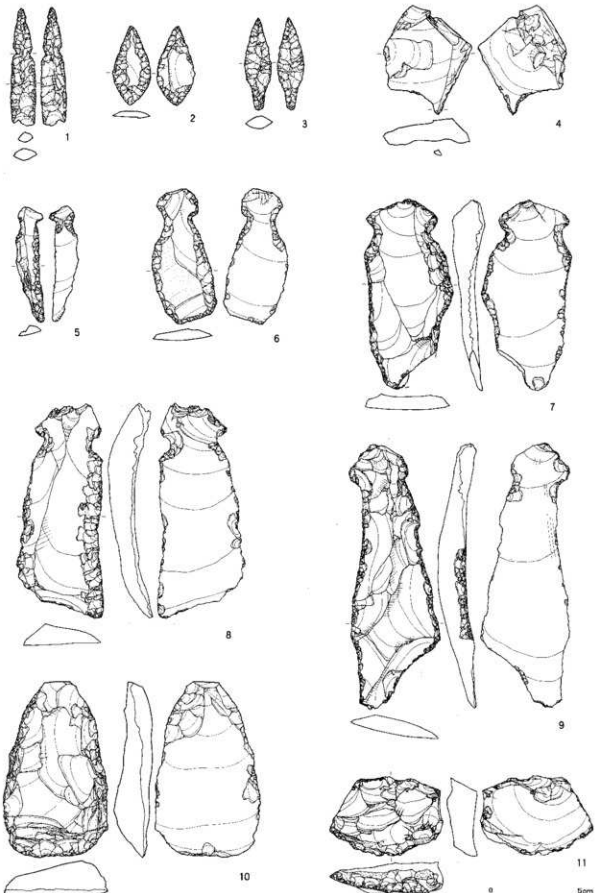
40点（Ⅱ層：８点、Ⅲ層：31点、撹乱１点）出土した。泥岩はⅡ層とⅢ層で各１点、メノウはⅢ層で１点出土している。ほかは頁岩である。23はH58区Ⅲ層から出土した。被熱している。

石　斧（24～26）

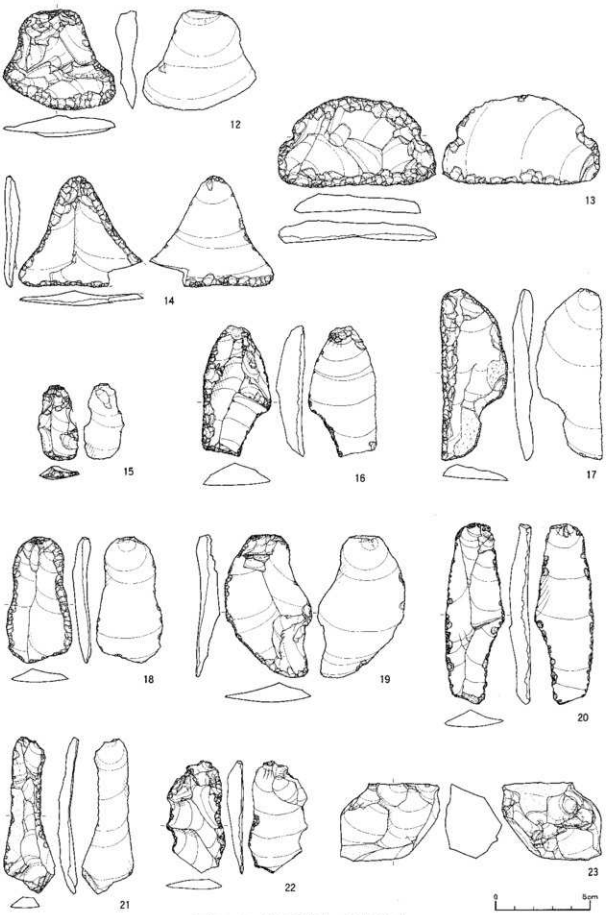
16点（Ⅱ層：１点、Ⅲ層：15点）出土した。石材は緑色泥岩が10点（Ⅱ層：１点、Ⅲ層：９点）、砂岩が３点（Ⅱ層：１点、Ⅲ層：２点）、片岩が２点（Ⅲ層）、凝灰岩が１点（Ⅲ層）である。完形もしくは器体の２/３以上残存するものは６点（砂岩３点、緑色泥岩２点、凝灰岩１点）である。24は円刃の両刃石斧、25は偏刃の擦切両刃石斧、26は円刃の片刃石斧である。石材は24が砂岩、25は緑色泥岩、26は凝灰岩である。いずれもⅢ層から出土した。

たたき石（27～31）

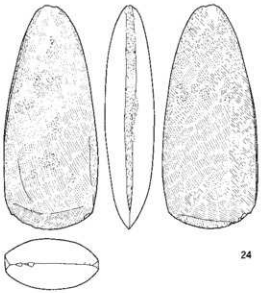
26点（Ⅱ層：２点、Ⅲ層：24点）出土した。石材は砂岩21点、チャート２点、凝灰岩２点、流紋岩１点である。完形が22点、２/３以上が残存するもの４点である。27はチャートの円礫、28・29は砂岩の楕円礫、30は凝灰岩の扁平撥形礫、31は砂岩の山形礫を素材としている。敲打痕は、27は長軸下端部、28は長軸両端・平坦面、29は長軸両端・短軸端、30は長軸両端・平坦面・右側縁、31は頂部にある。

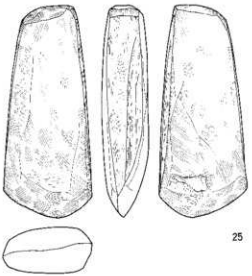


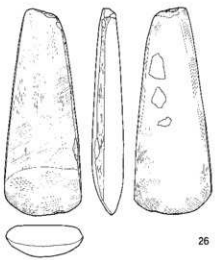
図Ⅲ－19　包含層出土の石器（1）

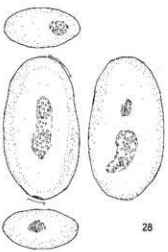


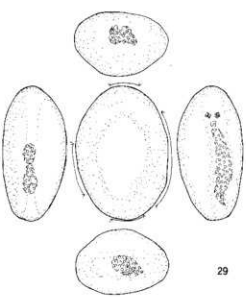
図Ⅲ－20　包含層出土の石器（２）

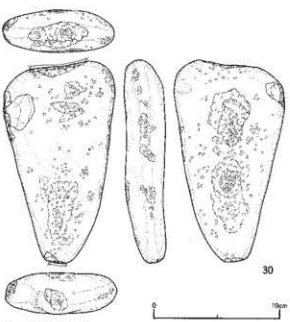




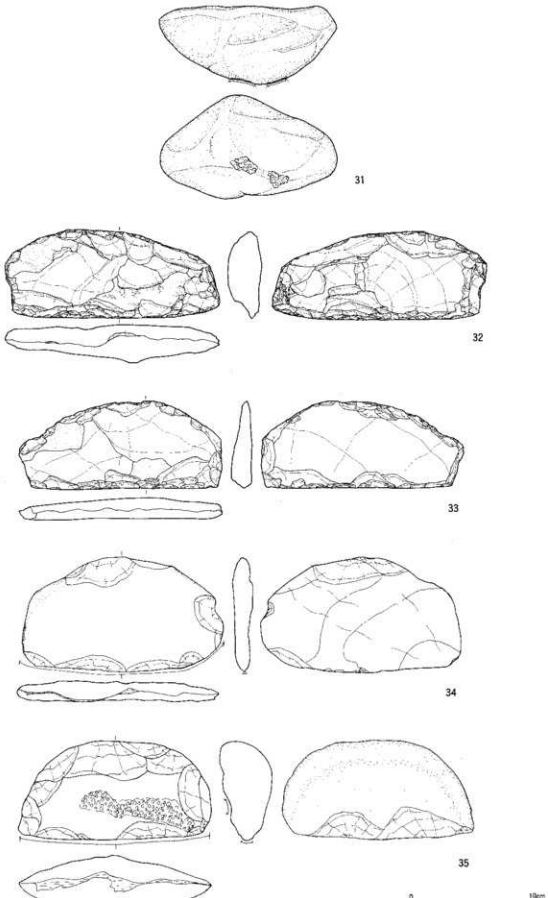




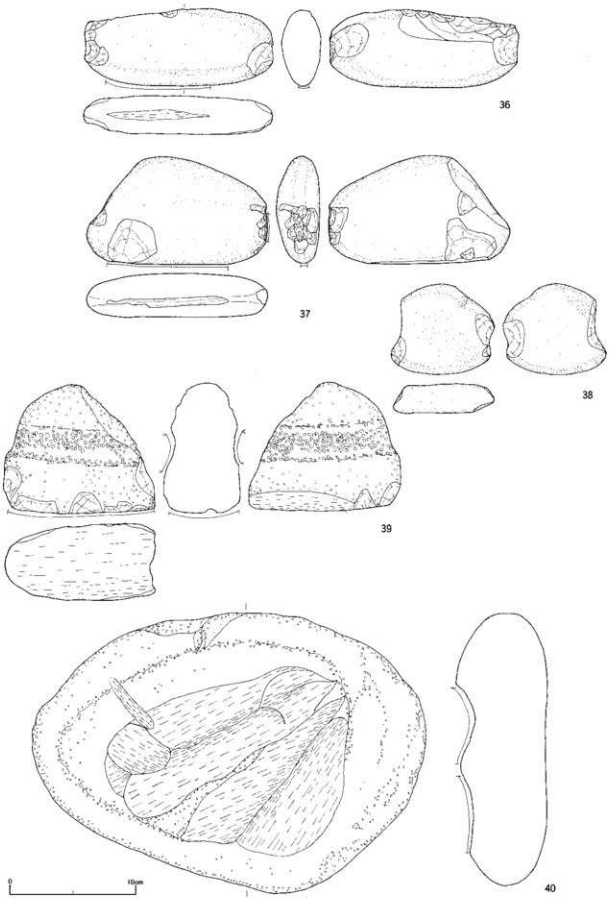




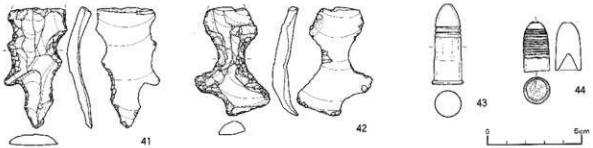
図Ⅲ－21　包含層出土の石器（3）



図Ⅲ－22　包含層出土の石器（４）



図Ⅲ－23　包含層出土の石器（5）



図Ⅲ－24　包含層出土の石製品・金属製品

扁平打製石器（32～35）

33点（Ⅰ層：１点、Ⅱ層：９点、Ⅲ層：22点、攪乱：１点）出土した。石材は砂岩11点、安山岩９点、流紋岩５点、凝灰岩６点、頁岩２点である。完形もしくは２／３以上残存するものは16点である。32～35は器体平面を半円状に整形している。すり面幅は0.5㎝前後の狭いもの（32・34）と１㎝を超える広いもの（35）がある。石材は32が頁岩。33は安山岩。34は流紋岩。35は砂岩である。

すり石（36・37）

13点（Ⅰ層：１点、Ⅲ層：11点、風倒攪乱：１点）出土した。石材は砂岩９点、安山岩２点、閃緑岩１点、片岩１点である。完形もしくは２／３以上残存するものは８点である。36・37は扁平楕円礫の側縁に沿って細長いすり面がある。石材は36が安山岩、37は砂岩である。

石　錘（38）

２点（Ⅲ層）出土した。石材は砂岩と凝灰岩である。38は砂岩の扁平楕円礫の両長軸端に打ち欠きがある。

北海道式石冠（39）

Ⅲ層から２点（砂岩、安山岩）出土した。39は安山岩の板状礫を素材とする。表裏面は平坦であり、敲打により整形されている。長さと厚さの比は２未満である。器体は斜めに欠損する。

台　石

１点（Ｊ52、Ⅲ層、砂岩製）出土した。欠損品のため掲載していない。

石　皿（40）

Ⅲ層から９点、６個体出土した。石材は砂岩６点（３個体）、安山岩３点である。40は複数のすり面が長軸方向を揃えて楕円形に凹んでいる。石材は安山岩である。

石製品（41・42）

Ⅲ層から３点出土した。石材は流紋岩が１点、頁岩が２点である。41・42は頁岩の異形石器である。

銃　弾（43・44）

Ⅰ層から３点出土している。うち１点は日露戦争以降のものなので掲載していない。43・44は函館戦争の際の弾丸である。43は径14㎜、最大径17㎜の薬莢が付いている。スペンサー騎兵銃の弾丸である。スペンサー騎兵銃は世界最初の後装式連発銃であり、アメリカ南北戦争の際、北軍の制式銃として採用されたものである。44は径14㎜である。エンフィールド銃のブリチェット弾である。エンフィールド銃はイギリス、アメリカ、ベルギー、オランダなどで生産された。なかでも、イギリスのエンフィールド兵器工廠で生産されたものはイギリスで制式採用されたほか、南北戦争中の南部連合に輸出された。いずれの銃も南北戦争の終結と共に、幕末の日本に輸出された。　（鎌田）

表Ⅲ－9　包含層掲載石器等一覧

挿図番号		掲載番号	分　類	発掘区	層　位	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石　材	備　考
Ⅲ	19	1	石　鏃	O52	Ⅲ	24	6.2	1.3	0.6	4.3	頁　岩	抉りあり、被熱。
Ⅲ	19	2	石　鏃	K50	Ⅲ	23	4.1	2.0	0.4	2.8	頁　岩	
Ⅲ	19	3	石　鏃	L64	Ⅲ	5	4.9	1.4	0.7	3.4	頁　岩	
Ⅲ	19	4	石　錐	H58	Ⅲ	32	5.7	4.7	1.2	27.5	頁　岩	
Ⅲ	19	5	つまみ付きナイフ	N55	Ⅲ	13	6.1	1.4	0.6	3.8	頁　岩	
Ⅲ	19	6	つまみ付きナイフ	N52	Ⅲ	19	6.6	3.5	0.7	14.3	頁　岩	
Ⅲ	19	7	つまみ付きナイフ	P53	Ⅲ	11	10.0	4.5	1.7	49.4	頁　岩	
Ⅲ	19	8	つまみ付きナイフ	O46	Ⅲ	2	11.2	4.5	1.6	65.4	頁　岩	
Ⅲ	19	9	つまみ付きナイフ	H59	Ⅲ	16	14.0	4.7	1.5	63.5	頁　岩	
Ⅲ	19	10	スクレイパー	L52	Ⅲ	3	9.3	5.5	1.9	98.2	頁　岩	抉りあり。
Ⅲ	19	11	スクレイパー	M62	Ⅲ	9	4.2	5.9	1.7	43.1	頁　岩	
Ⅲ	20	12	スクレイパー	M61	Ⅲ	4	5.3	6.0	1.1	27.0	頁　岩	
Ⅲ	20	13	スクレイパー	O47	Ⅲ	6	4.8	8.3	1.1	43.0	頁　岩	抉りあり。
Ⅲ	20	14	スクレイパー	N55	Ⅲ	2	5.8	(6.5)	0.8	17.3	頁　岩	欠損、光沢あり。
Ⅲ	20	15	スクレイパー	L48	Ⅲ	19	4.0	(2.1)	0.7	4.3	黒曜石	欠損。
Ⅲ	20	16	スクレイパー	M51	Ⅱ	7	6.8	3.6	1.4	29.2	頁　岩	
Ⅲ	20	17	スクレイパー	H58	Ⅲ	23	9.0	3.5	1.0	24.3	頁　岩	光沢あり。
Ⅲ	20	18	スクレイパー	M54	Ⅲ	18	6.7	3.5	0.8	15.4	頁　岩	光沢あり。
Ⅲ	20	19	スクレイパー	R68	Ⅲ	1	7.5	5.5	1.1	25.8	頁　岩	
Ⅲ	20	20	スクレイパー	H59	Ⅲ	12	9.5	3.1	1.1	24.2	頁　岩	
Ⅲ	20	21	スクレイパー	G59	Ⅲ	12	8.2	2.7	0.8	13.0	頁　岩	
Ⅲ	20	22	スクレイパー	P52	Ⅲ	15	5.9	3.0	0.8	12.3	頁　岩	
Ⅲ	20	23	石　核	H58	Ⅲ	22	4.1	5.3	3.1	64.4	頁　岩	被熱。
Ⅲ	21	24	石　斧	O52	Ⅲ	7	11.8	5.0	2.7	213	砂　岩	
Ⅲ	21	25	石　斧	O65	Ⅲ	1	11.2	4.7	2.5	225	緑色泥岩	
Ⅲ	21	26	石　斧	M66	Ⅲ	1	10.9	4.1	1.7	86	凝灰岩	
Ⅲ	21	27	たたき石	I60	Ⅲ	2	7.8	8.1	6.5	534	チャート	
Ⅲ	21	28	たたき石	K50	Ⅲ	22	11.3	6.0	3.1	305	砂　岩	
Ⅲ	21	29	たたき石	K45	Ⅲ	17	11.2	7.2	5.1	530	砂　岩	
Ⅲ	21	30	たたき石	N54	Ⅲ	28	15.9	8.7	3.3	534	凝灰岩	
Ⅲ	22	31	たたき石	O55	Ⅲ	3	6.3	13.9	8.2	711	砂　岩	
Ⅲ	22	32	扁平打製石器	O54	Ⅲ	11	7.0	16.9	3.0	359	頁　岩	
Ⅲ	22	33	扁平打製石器	P52	Ⅲ	11	6.9	16.0	1.6	191	安山岩	
Ⅲ	22	34	扁平打製石器	H58	Ⅲ	29	9.0	15.8	1.6	281	流紋岩	
Ⅲ	22	35	扁平打製石器	M54	Ⅲ	17	7.7	14.9	4.2	586	砂　岩	
Ⅲ	23	36	すり石	N54	Ⅲ	20	6.0	14.8	3.0	405	安山岩	
Ⅲ	23	37	すり石	N54	Ⅲ	25	8.5	14.3	3.4	605	砂　岩	
Ⅲ	23	38	石　錘	O69	Ⅲ	1	7.2	7.8	2.3	190.4	砂　岩	
Ⅲ	23	39	北海道式石冠	O54	Ⅲ	24	10.2	(12.0)	6.0	910	安山岩	破損。
Ⅲ	23	40	石　皿	H59	Ⅲ	17	41.5	28.7	9.5	9,500	安山岩	
Ⅲ	24	41	石製品	K47	Ⅲ	16	6.4	3.3	0.7	11.5	頁　岩	異形石器。
Ⅲ	24	42	石製品	N54	Ⅲ	35	(5.8)	4.0	0.9	13.4	頁　岩	異形石器。
Ⅲ	24	43	銃　弾	J52	Ⅰ	33	4.2	1.7	1.7	30.0	鉛・真鍮	スペンサー騎兵銃弾。
Ⅲ	24	44	銃　弾	O49	Ⅰ	9	2.5	1.4	1.4	30.2	鉛	エンフィールド銃のブリチェット弾。

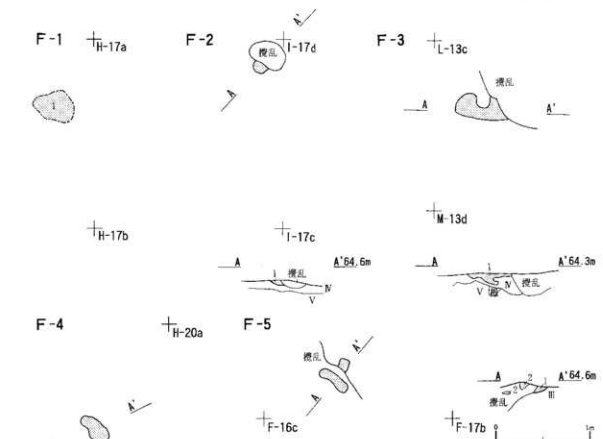
第Ⅳ章　矢不来11遺跡

1　遺　構

焼土が、5か所で検出された。いずれもⅢ層下部の検出。根抜痕による攪乱を受け明瞭ではないが、いずれも規模は小さい。遺物が分布する範囲の縁辺に散在する分布状況で、おそらく縄文時代後期前葉の時期と考えられる。なお、調査区は、土壌がグライ化した湿地部分と、乾燥した高地部分に分かれ（図Ⅲ－１右下）、遺構、遺物とも後者の高地の平坦部から検出されている。　（福井）

表Ⅳ－１　焼土一覧

遺構名	時期	位置	規模(cm) 確認面 長軸	規模(cm) 確認面 短軸	規模(cm) 深さ	確認面	備考
F-1	後期前葉?	H16	(45)	(32)	-	攪乱中	
F-2	後期前葉?	I17	16	(11)	5	Ⅳ層上面	
F-3	後期前葉?	L13	(56)	26	12	Ⅳ層上面	
F-4	後期前葉?	H19	37	16	6	Ⅲ層下部	
F-5	後期前葉?	F16	(14)	10	7	Ⅲ層下部	



遺構名	層名	土色1	土色2	粘性	堅密度	その他
F-1	1	5YR4/8	赤褐色	弱	軟	攪乱された焼土
F-2	1	5YR3/2	黒褐色	弱	堅	焼土粒30%
F-3	1	5YR3/2	黒褐色	弱	堅	焼土粒15%
F-4	1	5YR5/8	明赤褐色	弱	軟	粘土、炭化材散在
F-5	1	5YR2/1	黒褐色	弱	軟	炭化材散在
	2	5YR4/8	赤褐色	弱	軟	攪乱された焼土

図Ⅳ－１　F－１～５

2　包含層出土の遺物

（1）土　器

土器にはⅠ群からⅣ群に属するものまである。

Ⅰ群b類土器（図Ⅳ－２－１）

１は撚糸文が施された薄手の小片。胎土には繊維が含まれている。東釧路Ⅳ式に相当するものとみられる。

Ⅳ群a類土器（図Ⅳ－２－２～図Ⅳ－３－54）

Ⅳ群a類はさらに細分される。

a－１類（２～29）：天祐寺式ないし浦元１式に相当するもの。

a（２～４）は口縁部に貼付帯のあるもの。貼付帯の縄文はＬＲの原体を横位に施文し、体部の縄文は同じ原体を縦位に施文したものである。４の貼付帯には縄文施文後にＬＲの原体による縄線文が施されている。

b（５～11）は縄文のみのもの。11は複節の縄文が施されたものである。

c（12）は縄文地にごく浅い沈線文の施されたもの。

d（13）は撚糸文が施されたもの。

e（14）は網目状撚糸文が施されたもの。

f（15～28）は無文のもの。15、16は口縁が折り返されている。無文のものは一応本類に含めている。

g（29）は磨消縄文の施されたもの。29は内外面ともに丁寧になで調整されている。胎土は緻密で、焼成は良い。

a－２類（30～52）：新道４遺跡の盛土１類に相当するもの。

a（30～33）は貼付帯と沈線文で文様が施されるもの。30には山形突起の部分に貼付帯が垂下している。31には口縁直下の貼付帯に半截竹管状工具による刺突文が施されている。この貼付帯から垂れる貼付帯とその下位にめぐる貼付帯にも刺突文が施されている。摩滅して判然としないが、これは縄端による刺突文かもしれない。32には口縁に「８」の字の貼付帯がある。33は口縁に一条の細い貼付帯がめぐるものである。貼付帯の下位には細い沈線文が等間隔で数条めぐる。隆帯の上や沈線の間には竹ひご状の工具による刺突文が施されている。隆帯上は左方向から、沈線の間は垂直に刺突されている。口唇にも施文されている。

b（34～52）は沈線で文様が描かれたもの。34～45は横走する数条の沈線文を基調とするもので、それを縦につなぐ沈線が施されたものもある。42は横走する沈線の間に円形文が描かれたものである。46・47は横走沈線と斜め方向の沈線で文様が描かれるもの。48～52は文様が縦方向に展開するもの。

a－３類（53・54）：新道４遺跡の盛土２類に相当するもの。

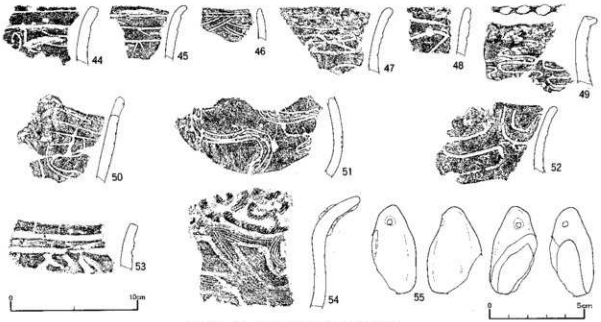
54は太めの沈線で「く」の字状の文様が施されたもの。54は櫛状工具で文様を描いた後、沈線で縁取りするものである。口縁は貼付帯で文様が描かれている。

土製品（図Ⅳ－３－55）

55は無文の鐸形土製品である。

（工藤）

図Ⅳ－２　包含層出土の土器（１）



図Ⅳ－3　包含層出土の土器（2）

表Ⅳ－2　包含層出土掲載土器一覧（拓影）

挿図番号		掲載番号	分類	発掘区	層位
Ⅳ	2	1	Ⅰb	F15	Ⅲ
Ⅳ	2	2	Ⅳa	F16	Ⅲ
Ⅳ	2	3	Ⅳa	G15	Ⅲ
Ⅳ	2	4	Ⅳa	H14	Ⅲ
Ⅳ	2	5	Ⅳa	G21	Ⅲ
Ⅳ	2	6	Ⅳa	M17	Ⅱ
Ⅳ	2	7	Ⅳa	H19	Ⅲ
Ⅳ	2	8	Ⅳa	H22	Ⅲ
Ⅳ	2	9	Ⅳa	F23	Ⅲ
Ⅳ	2	10	Ⅳa	G19	Ⅲ
Ⅳ	2	11	Ⅳa	H18	Ⅲ
Ⅳ	2	12	Ⅳa	F16	Ⅲ
Ⅳ	2	13	Ⅳa	K24	Ⅲ
Ⅳ	2	14	Ⅳa	G21	Ⅲ
Ⅳ	2	15	Ⅳa	F21	Ⅲ
Ⅳ	2	16	Ⅳa	F20	Ⅲ
Ⅳ	2	17	Ⅳa	G18	Ⅱ
Ⅳ	2	18	Ⅳa	F22	Ⅱ
Ⅳ	2	19	Ⅳa	G22	Ⅱ

挿図番号		掲載番号	分類	発掘区	層位
Ⅳ	2	20	Ⅳa	G22	Ⅱ
Ⅳ	2	21	Ⅳa	L19	Ⅲ
Ⅳ	2	22	Ⅳa	G19	Ⅲ
Ⅳ	2	23	Ⅳa	G23	Ⅲ
Ⅳ	2	24	Ⅳa	G19	Ⅲ
Ⅳ	2	25	Ⅳa	I18	Ⅲ
Ⅳ	2	26	Ⅳa	H19	Ⅱ
Ⅳ	2	27	Ⅳa	F21	Ⅲ
Ⅳ	2	28	Ⅳa	F22	Ⅲ
Ⅳ	2	29	Ⅳa	E9	Ⅲ
Ⅳ	2	30	Ⅳa	F22	Ⅲ
Ⅳ	2	31	Ⅳa	G18	Ⅲ
Ⅳ	2	32	Ⅳa	G18	Ⅲ
Ⅳ	2	33	Ⅳa	G20	Ⅲ
Ⅳ	2	34	Ⅳa	G18	Ⅲ
Ⅳ	2	35	Ⅳa	G19	Ⅲ
Ⅳ	2	36	Ⅳa	G19	Ⅲ
Ⅳ	2	37	Ⅳa	I18	Ⅲ
Ⅳ	2	38	Ⅳa	F19	Ⅲ

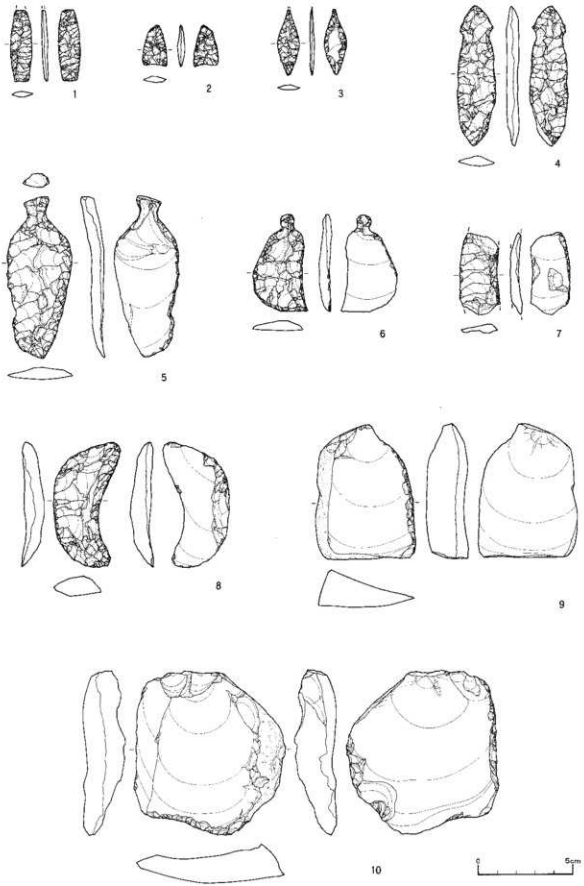
挿図番号		掲載番号	分類	発掘区	層位
Ⅳ	2	39	Ⅳa	I18	Ⅲ
Ⅳ	2	40	Ⅳa	H18	Ⅲ
Ⅳ	2	41	Ⅳa	F20	Ⅲ
Ⅳ	2	42	Ⅳa	G23	Ⅲ
Ⅳ	2	43	Ⅳa	F19 G19	Ⅲ Ⅲ
Ⅳ	3	44	Ⅳa	F19	Ⅱ
Ⅳ	3	45	Ⅳa	F20	Ⅱ
Ⅳ	3	46	Ⅳa	F21	Ⅲ
Ⅳ	3	47	Ⅳa	G18	攪乱
Ⅳ	3	48	Ⅳa	F18	Ⅲ
Ⅳ	3	49	Ⅳa	G18	Ⅲ
Ⅳ	3	50	Ⅳa	F22	Ⅲ
Ⅳ	3	51	Ⅳa	F18	Ⅲ
Ⅳ	3	52	Ⅳa	F18	Ⅲ
Ⅳ	3	53	Ⅳa	L18 L19	Ⅲ Ⅲ
Ⅳ	3	54	Ⅳa	M18	Ⅲ
Ⅳ	3	55	土偶	M18	Ⅲ

（2）石器等

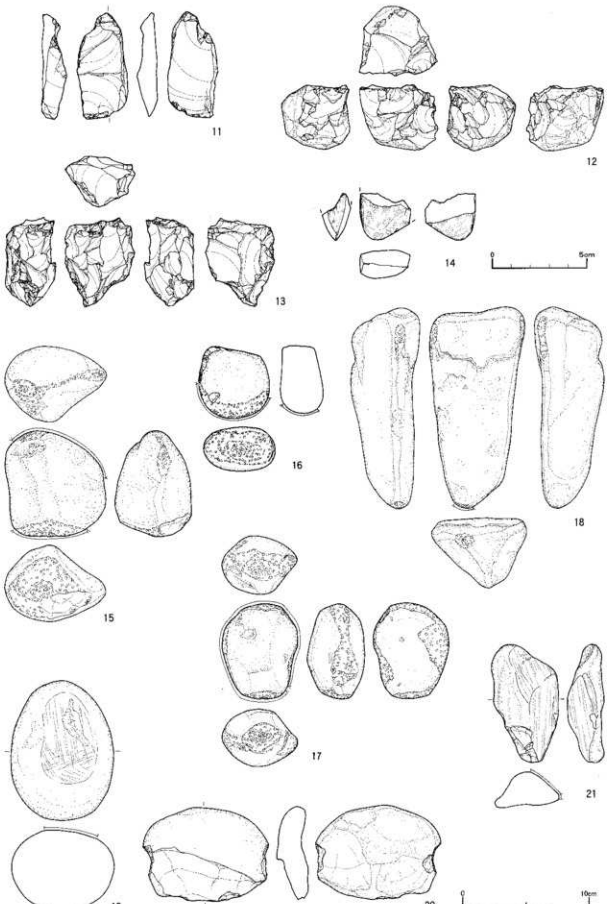
器種・層位ごとの点数は表Ⅰ－3、掲載遺物のデータは表Ⅳ－3、実測図は図Ⅳ－4～6、写真は図版12・15に掲載した。実測図の掲載番号は1～24の通し番号なので、この番号で記述する。

剥片石器

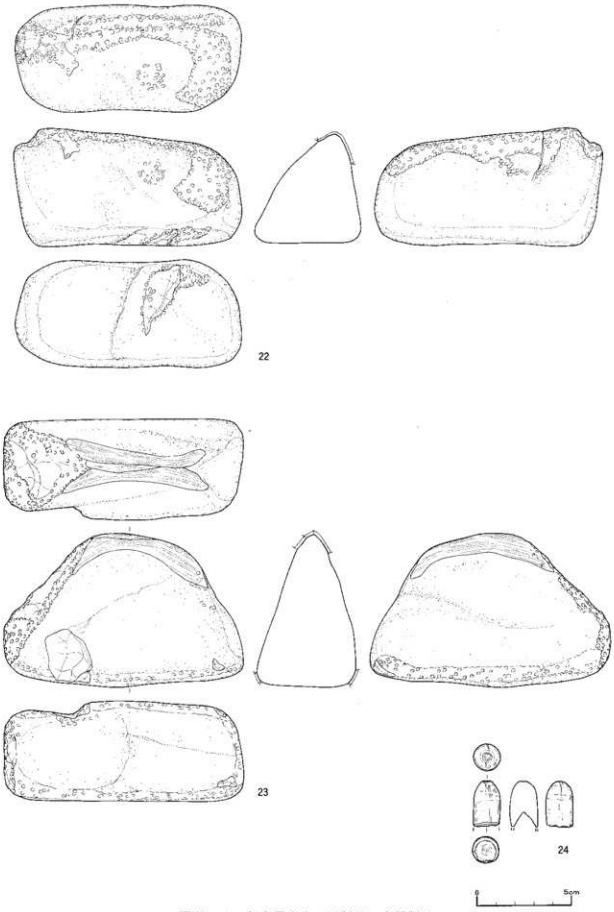
1～3は石鏃、4～7はつまみ付きナイフ、8～10はスクレイパー、11は楔形石器、12・13は石核である。1は長身鏃、2は三角形平基鏃、3は薄手木葉形鏃である。1・3は先端が欠損している。石材は1が黒曜石、2・3は頁岩である。4は両面調整、5～7は片面調整である。6にはアスファルト様のものが付着している。7は被熱している。また、つまみ部と先端部が欠損している。いずれも石材は頁岩である。8・10は両面調整、9は片面調整である。8は三日月形の素材背面は全面調整、



図Ⅳ－4　包含層出土の石器（1）



図Ⅳ－5　包含層出土の石器（2）



図Ⅳ－6　包含層出土の石製品・金属製品

腹面は右側縁に刃部調整が施されている。9は一辺に礫皮面を残し、対にある一片に刃部をもつ。10も背面に礫皮面をもち、背面では長軸端、腹面では両短軸端に刃部をもつ。いずれも石材は頁岩である。11は下端部に階段状剥離、右側縁に樋状剥離がある。石材は頁岩である。12・13は打面と作業面を不規則に入れ替えて作業した、サイコロ状の石核である。頁岩である。

礫石器

14は石斧、15～18はたたき石、19はすり石、20は石錘、21は砥石である。14は緑色泥岩製の両刃石斧である。刃部の一部のみ残存している。15は円礫の両長軸端と稜部、16は扁平円礫の長軸端、17は円礫の両長軸端と側縁のほぼ全周、18は断面三角形の棒状礫長軸端とそれに対する端部付近稜部に敲打痕がある。石材は15・18が砂岩、16は凝灰岩、17はメノウである。19は安山岩の円礫の広い平坦面にすり痕がある。20は砂岩の扁平楕円礫の長軸両端に打ち欠きがある。下半部は剥離している。21は凝灰岩の山形礫の稜線右側にすり面がある。

石製品

22・23は断面三角形の稜部に敲打痕やすり痕がある。たたき石・すり石に類するものかもしれない。

銃　弾

Ⅰ層から出土した。径14㎜、エンフィールド銃のブリチェット弾である（57頁参照）。　（鎌田）

表Ⅳ－3　包含層掲載石器等一覧

挿図番号		掲載番号	分　類	発掘区	層　位	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石　材	備　考
Ⅳ	4	1	石　鏃	J 27	Ⅲ	2	(3.8)	1.2	0.3	1.4	黒曜石	欠損。
Ⅳ	4	2	石　鏃	H18	Ⅱ	7	2.2	1.3	0.4	0.7	頁　岩	
Ⅳ	4	3	石　鏃	H21	Ⅲ	9	(3.5)	1.2	0.3	0.8	頁　岩	欠損。
Ⅳ	4	4	つまみ付きナイフ	I 18	Ⅲ	2	7.4	2.1	0.6	(0.4)	頁　岩	
Ⅳ	4	5	つまみ付きナイフ	I 23	Ⅲ	2	8.5	3.4	0.8	20.4	頁　岩	
Ⅳ	4	6	つまみ付きナイフ	E 5	撹乱	1	5.1	3.0	0.6	8.1	頁　岩	
Ⅳ	4	7	つまみ付きナイフ	H20	Ⅲ	12	(4.3)	1.1	0.5	5.0	頁　岩	欠損、被熱。
Ⅳ	4	8	スクレイパー	E 4	Ⅲ	1	6.6	3.5	1.0	20.9	頁　岩	
Ⅳ	4	9	スクレイパー	H22	Ⅲ	8	7.1	5.3	2.1	79.8	頁　岩	
Ⅳ	4	10	スクレイパー	H20	Ⅲ	16	8.6	8.0	2.1	123.2	頁　岩	
Ⅳ	5	11	楔形石器	I 19	撹乱	5	5.6	2.7	1.1	18.7	頁　岩	
Ⅳ	5	12	石　核	H18	Ⅱ	3	3.4	4.1	3.4	59.4	頁　岩	
Ⅳ	5	13	石　核	G20	Ⅲ	13	4.7	3.7	2.6	40.8	頁　岩	
Ⅳ	5	14	石　斧	J 17	Ⅲ	3	(2.5)	(2.7)	(1.5)	9.2	緑色泥岩	欠損。
Ⅳ	5	15	たたき石	F 19	Ⅲ	4	8.3	8.0	6.0	467	砂　岩	
Ⅳ	5	16	たたき石	G 19	Ⅱ	5	5.8	5.6	3.5	136	凝灰岩	
Ⅳ	5	17	たたき石	F 15	Ⅲ	1	7.6	6.0	4.6	680	メノウ	
Ⅳ	5	18	たたき石	H21	Ⅱ	14	15.9	7.6	5.3	680	砂　岩	
Ⅳ	5	19	すり石	H23	Ⅲ	6	11.0	8.2	6.4	735	安山岩	
Ⅳ	5	20	石　錘	F 19	Ⅲ	8	7.4	9.9	2.2	207.4	砂　岩	欠損。
Ⅳ	5	21	砥　石	J 14	Ⅴ	29	9.3	5.3	3.0	100	凝灰岩	
Ⅳ	6	22	石製品	G 18	撹乱	7	6.3	12.1	5.6	610	砂　岩	
Ⅳ	6	23	石製品	G 18	Ⅲ	25	8.1	12.7	5.3	684	砂　岩	
Ⅳ	6	24	銃　弾	F 16	Ⅰ	5	(2.4)	1.4	1.4	29.6	鉛	エンフィールド銃のブリチェット弾。

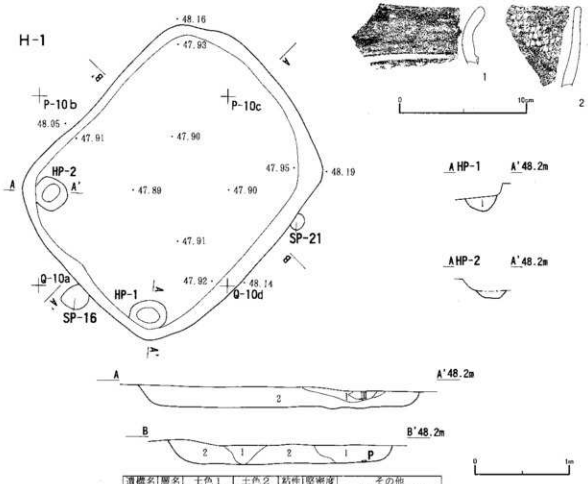
第Ⅴ章　館野４遺跡

１　遺　構

住居跡10軒、土坑76基、焼土34か所、小ピット99基、石囲炉３か所、埋設土器３基、Ｔピット７基を検出した。Ｔピットは、35ラインより北での確認。焼土１か所を除く他の遺構は、12ラインより南側に集中していた。したがって、ほとんどの遺構が、調査区南側の無名の沢に突出する部分に集中していた（図Ⅴ－２）。

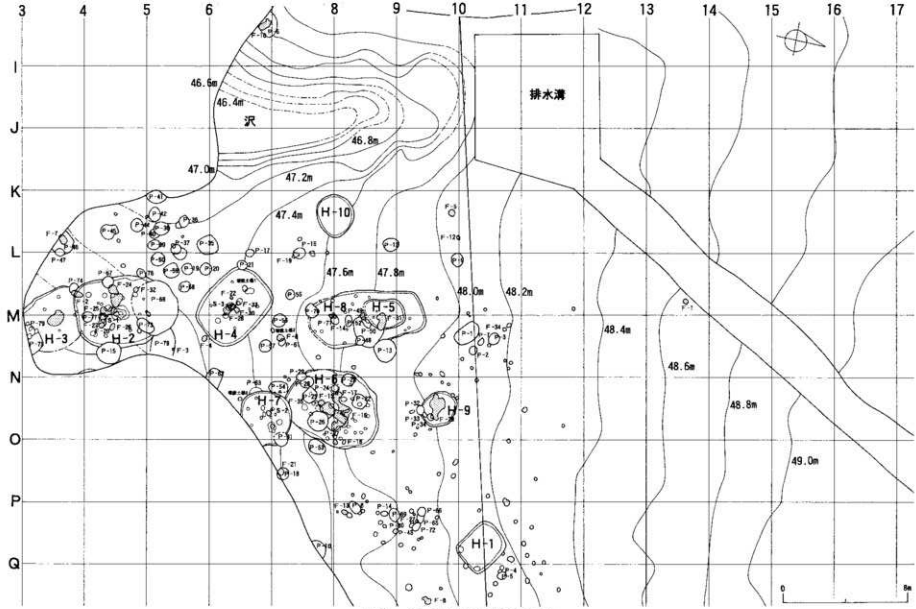
住居跡は、Ｈ－２～４・６～８は縄文時代中期前半、Ｈ－１・９・10については縄文時代中期後半～後期前葉の時期とみられる。中期前半の住居跡は、後期前葉の攪乱が著しいものの、四本主柱穴を基本とし、地床炉を有する。中期後半～後期前葉の住居跡に関しては、明確な付属施設は認められなかった。

住居跡の窪みには、おもに後期前葉とみられる焼土、石囲炉が確認された。なかでも、Ｈ－２・４・６では重層的に形成されていた。また、同時期と見られる土坑が、Ｈ－６周辺とＫ・Ｌ－５グリッド周辺にまとまって検出された。（福井）



遺構名	層名	土色１	土色２	粘性	堅密度	その他
H－1	1	10YR3/3	暗褐色	粘	堅	ロームブロック・炭化材2%
	2	10YR3/3	暗褐色	粘	堅	ロームブロック・炭化材30%
H-1HP	1	10YR4/4	褐色	粘	堅	ロームブロック30%

図Ⅴ－１　Ｈ－１とその遺物



図Ⅴ－２　遺構密集部分拡大図

（1）住居跡

Ｈ－１（図Ⅴ－１、表Ⅴ－２～４・６、図版18）

立　地：調査区南側の無名の沢に突出した平坦部。

確　認：遺構確認範囲であったため、Ⅴ層上面で確認。

覆　土：Ⅲ＋Ⅳ＋Ⅴ層からなる土層で、屋根土の崩落による堆積とみられる。

構　造：隅丸方形で、明瞭な掘り込みを持つ。床面は平坦。

付属遺構：浅いピット２基が検出されている。

遺物出土状況：散発的に土器片が出土。

掲載遺物：図Ⅴ－１－１・２は覆土出土のⅢ群ｂ類土器である。１は口縁部に沈線文で区画された隆帯があり、隆帯上には刺突文が施されている。２は縄文の施されたものである。

時　期：出土土器から縄文時代中期後半とみられる。（福井）

Ｈ－２（図Ⅴ－３～10、表Ⅴ－２・４～７、図版19～21・44・45）

立　地：調査区南側の無名の沢に突出した平坦部の南際。

確　認：Ｌ・Ｍ－３～５グリッドのⅣ層上面で検出した。落ち込みの中央～北側には人頭大の礫が並んで出土した。また、落ち込みの中央付近では石囲炉と焼土が検出された。トレンチ調査の結果、少なくとも２軒の住居跡が重複していることを確認し、南側に位置する古い住居跡をＨ－３、北側に位置する新しい住居跡をＨ－２として調査を行なった。ベルトを残し床面まで掘り下げた段階で改めて土層断面などを精査した結果、検出面で礫が出土した付近から北側に、Ｈ－２より新しい土坑を確認したため、Ｐ－68とした。

覆　土：土層１～５は、流れ込みによる自然堆積と考える。土層６は自然堆積の黒色土である。土層７以下は、住居跡の焼失の際に堆積したものと考えられる。屋根の葺き土などの可能性がある。土層11からは焼土とともに多量の炭化材が出土し、床面直上では材の形をとどめた炭化材が出土した。炭化材は住居の構築材と思われるが、出土状況から上屋構造の推定できるような残存状態ではなかった。樹種同定を行った結果、同定した資料はすべてクリであった。

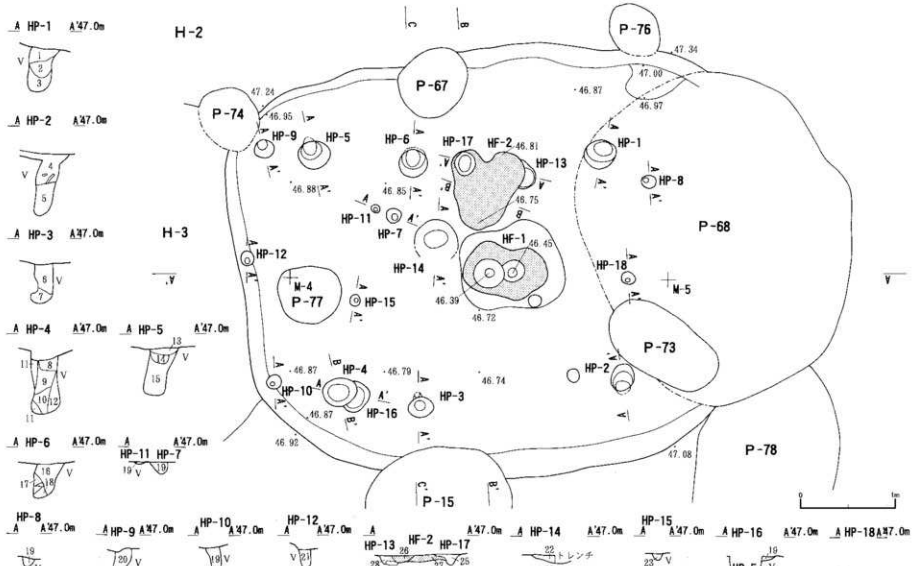
覆土の中～上位からは、遺構の確認時から検出されていたものも含めて石囲炉１基、焼土６か所が重複して検出され、多量の礫が出土した。遺構廃絶後のくぼみを利用したものと考えられる。

構　造：ＨＰ－１～６の６つが主柱穴である。短軸方向で対向する２つが対になり、３対が長軸方向に並ぶように配列されている。

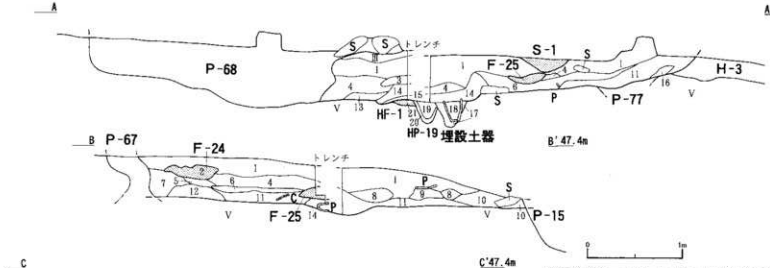
床面は概ね平坦である。南側のＨ－３に隣接する付近は徐々に浅くなる。また、北西部のＰ－76の付近では、床面より若干高まった平坦な部分があり、出入り口であった可能性がある。

ほぼ中央に土器埋設炉ＨＦ－１が、西側に隣接して地床炉ＨＦ－２が検出された。双方とも浅い掘り込みに焼土が形成されている。ＨＦ－１の埋設土器の掘り方の南側に重複して、古い埋設土器の掘り方とみられるＨＰ－19が検出されている。なお、ＨＦ－３は床面のローム層が直接被熱しており、ＨＦ－１・２との比較から、住居跡に伴うものではなく、住居跡の焼失時に形成されたものと判断した。

遺物出土状況：床面から出土したものは、土器はすべてⅢ群ａ類で、ほぼ完形のもの３個体（１～３）、埋設土器として口縁部が打ち欠かれたもの１個体（４）などが出土している。埋設土器の打ち欠かれた断面は磨耗しており、Ｌ－３グリッドおよびＨ－２覆土から出土した口縁部破片が接合した。石器では、ＨＦ－１に隣接して石皿（26）が出土したほか、たたき石・扁平打製石器が多く出土


H-2
H-3
P-67
P-68
P-73
P-74
P-75
P-76
P-77
P-78
P-15
HP-1
HP-2
HP-3
HP-4
HP-5
HP-6
HP-7
HP-8
HP-9
HP-10
HP-11
HP-12
HP-13
HP-14
HP-15
HP-16
HP-17
HP-18
HF-1
HF-2
M-4
M-5
A 47.0m
47.34
47.00
46.97
46.87
47.24
46.95
46.88
46.85
46.81
46.75
46.45
46.39
46.72
46.79
46.74
46.87
46.92
47.08
トレンチ
0
1m

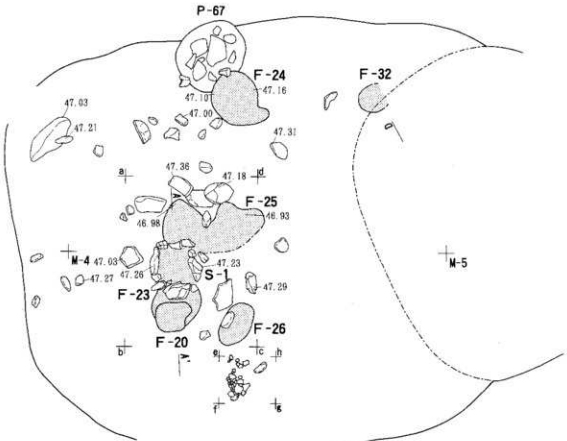
図V－3　H－2（1）



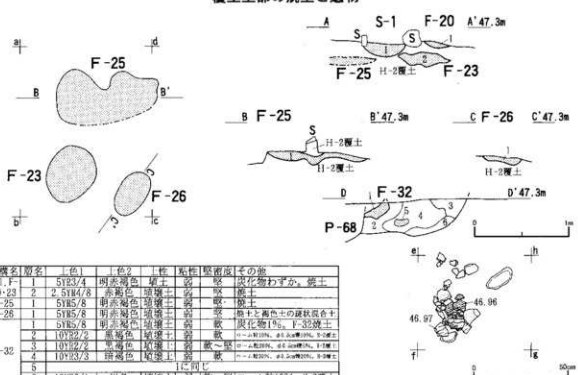
遺構名	層名	土色1	土色2	土性	粘性	堅密度	その他
H-2	1	10YR3/2	黒褐色	埴壌土	弱	すこぶる軟	ローム粒5%、炭化物3%
	2	5YR5/8	明赤褐色	埴壌土	弱	軟	炭化物1%、ﾄﾞﾛﾄﾞﾛ土。
	3	10YR2/2	黒褐色	埴壌土	弱	軟	ローム粒5%、焼土塊1%
	4	10YR3/2	黒褐色	埴壌土	弱	軟	ローム粒・φ1～5cm塊20%、炭化物3%
	5	7.5YR3/3	暗褐色	埴壌土	弱	軟	ローム粒30%、炭化物1%
	6	10YR2/1	黒色	埴壌土	弱	軟	ローム粒10%、炭化物1%
	7	10YR3/2	黒褐色	埴壌土	弱	軟	ローム粒・φ1～10mm20%、炭化物1%
	8	2.5Y4/3	オリーブ褐色	埴壌土	弱	軟	ローム状3%
	9	7.5YR3/2	黒褐色	埴壌土	弱	軟	ローム粒20%、炭化物1%、焼土塊
	10	10YR3/4	暗褐色	埴壌土	弱	軟	ローム粒5%、炭化物1%
	11	10YR3/4	暗褐色	埴壌土	弱	軟	ローム粒・φ1～10mm塊30%、炭化物1%、焼土粒1%未満
	12	10YR3/3	暗褐色	壌土	弱	軟	ローム粒・φ1～10mm塊30%、炭化物1%
	13	10YR2/2	黒褐色	埴壌土	弱	すこぶる軟	ローム粒・φ1～5cm塊40%、炭化物3%
	14	10YR3/3	暗褐色	埴壌土	弱	軟	ローム粒～φ2cm塊30%
	15	10YR2/1	黒色	埴壌土	弱	軟	ローム粒10%、焼土粒20%
	16	10YR3/3	暗褐色	埴壌土	弱	すこぶる軟	ローム粒30%、焼土塊5%
	17	7.5YR4/4	褐色	埴土	中	軟	焼土ｻﾗﾄﾗ、炭混土物が多くみる
	18	7.5YR2/3	極暗褐色	壌土	中	なし	炭土粒20%、炭化物20%
	19	7.5YR7/6	橙色	埴土	中	すこぶる軟	ローム がわずかに複雑した焼土
	20	7.5YR6/6	橙色	埴土	中	軟	ローム が複雑した焼土、ﾄﾞﾛﾄﾞﾛ土混成が
	21	5YR4/8	赤褐色	埴壌土	中	すこぶる軟	焼土

遺構名	層名	土色1	土色2	土性	粘性	堅密度	その他
H-2 HP・HF	1	10YR3/2	黒褐色	埴土	中	すこぶる軟	ローム粒～φ5cm塊40%
	2	10YR2/1	黒色	埴土	中	軟	ローム粒20%
	3	10YR5/4	にぶい黄褐色	埴土	中	なし	風状でしまりのないローム
	4	10YR2/2	黒褐色	埴壌土	弱	軟	ローム粒10%、焼土塊ﾄﾞﾛﾄﾞﾛ状
	5	10YR3/3	暗褐色	埴壌土	弱	なし	ローム粒30%
	6	10YR2/2	黒褐色	埴壌土	弱	軟	ローム粒・φ1～5cm塊20%、焼土粒20%、炭化物1%未満
	7	10YR3/3	暗褐色	埴壌土	弱	なし	ローム粒30%、炭化物5%
	8	10YR2/2	黒褐色	埴壌土	弱	すこぶる軟	ローム粒10%、φ～5cmローム塊3%
	9	10YR2/2	黒褐色	埴壌土	弱	なし	ローム粒50%、φ2cmローム塊3%
	10	10YR4/3	にぶい黄褐色	埴土	中	なし	ローム＞1.層2
	11	10YR5/6	黄褐色	埴土	中	軟	黄褐色ローム
	12	10YR5/6	黄褐色	埴土	中	なし	風状のローム
	13	10YR3/2	黒褐色	埴壌土	弱	すこぶる軟	ローム粒20%、焼土粒5%、炭化物1%未満
	14	10YR5/6	黄褐色	埴土	弱	軟	ローム粒・φ1～5cm塊40%、炭化物1%未満
	15	10YR5/6	黄褐色	埴土	中	軟	風状のローム、5～15cm塊程度のローム塊10%
	16	10YR2/2	黒褐色	埴壌土	弱	軟	ローム粒30%、焼土塊・炭化物1%
	17	10YR6/4	にぶい黄褐色	埴土	中	軟	ローム塊
	18	10YR4/2	灰黄褐色	埴土	中	なし	ローム粒＋褐色土粒
	19	10YR2/2	黒褐色	埴壌土	弱	軟	ローム粒20%、炭化物1%
	20	10YR4/4	褐色	埴土	弱	軟	ローム粒＋褐色土粒、φ3cm以下ローム塊1%
	21	10YR3/4	暗褐色	埴土	弱	軟	ローム粒～φ1cm塊20%
	22	10YR2/2	黒褐色	埴壌土	弱	軟	ローム粒10%
	23	10YR3/3	暗褐色	埴土	弱	すこぶる軟	φ1cm以色ローム塊10%
	24	10YR4/3	にぶい黄褐色	埴土	中	すこぶる軟	ローム粒～φ3cm塊20%、炭化物1%
	25	10YR2/1	黒色	埴壌土	弱	軟	
	26	7.5YR4/4	褐色	埴壌土	弱	軟	樹十
	27	7.5YR6/6	橙色	埴土	弱	軟	樹十
	28	10YR3/4	暗褐色	埴壌土	弱	軟	ローム粒20%
	29	5YR5/6	明赤褐色	埴土	中	すこぶる軟	
	30	10YR3/4	暗褐色	埴壌土	弱	軟	ローム粒20%

図V－4　H－2（2）

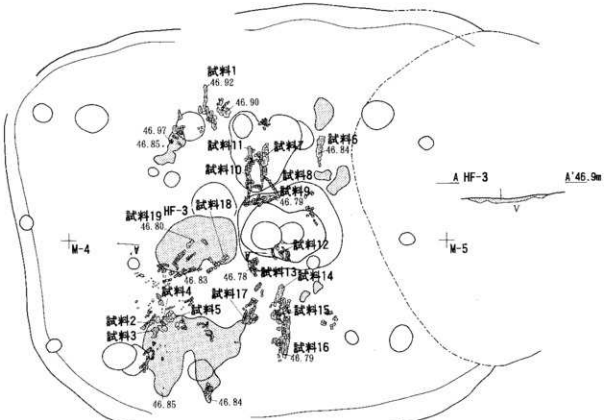


覆土上部の焼土と遺物

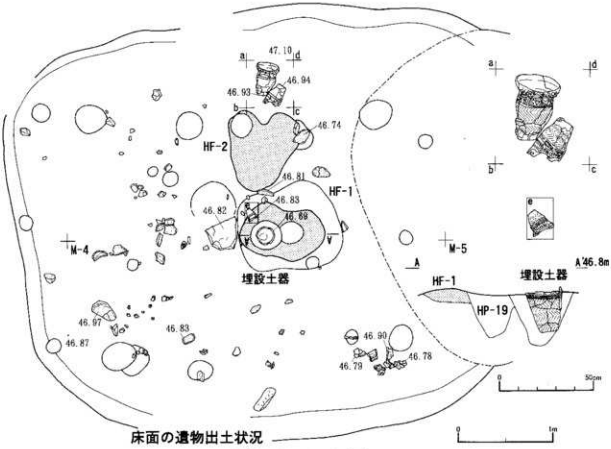


遺構名	層名	土色1	土色2	土性	粘性	堅密度	その他
S-1, F-	1	5YR3/4	明赤褐色	埴土	弱	堅	炭化物わずか。焼土
20・23	2	2.5YR4/8	赤褐色	埴壌土	弱	堅	焼土
F-25	1	5YR5/8	明赤褐色	埴壌土	弱	堅	焼土
F-26	1	5YR5/8	明赤褐色	埴壌土	弱	堅	焼土と黄色土の縞状混合土
	1	5YR5/8	明赤褐色	埴壌土	弱	軟	炭化物1%。F-32焼土
F-32	2	10YR2/2	黒褐色	埴壌土	弱	軟	ローム粒10%。φ0.5cm粒10%。F-2覆土
	3	10YR2/2	黒褐色	埴壌土	弱	軟～堅	ローム粒20%。φ0.5cm粒10%。H-1覆土
	4	10YR3/3	暗褐色	埴壌土	弱	軟	ローム粒30%。φ0.5cm粒10%。H-2覆土
	5	1に同じ					
	6	10YR2/1	黒色	埴壌土	弱	軟～堅	ローム粒10%。H-2覆土

図V－5　H－2（3）、F－20・23～26・32、S－1

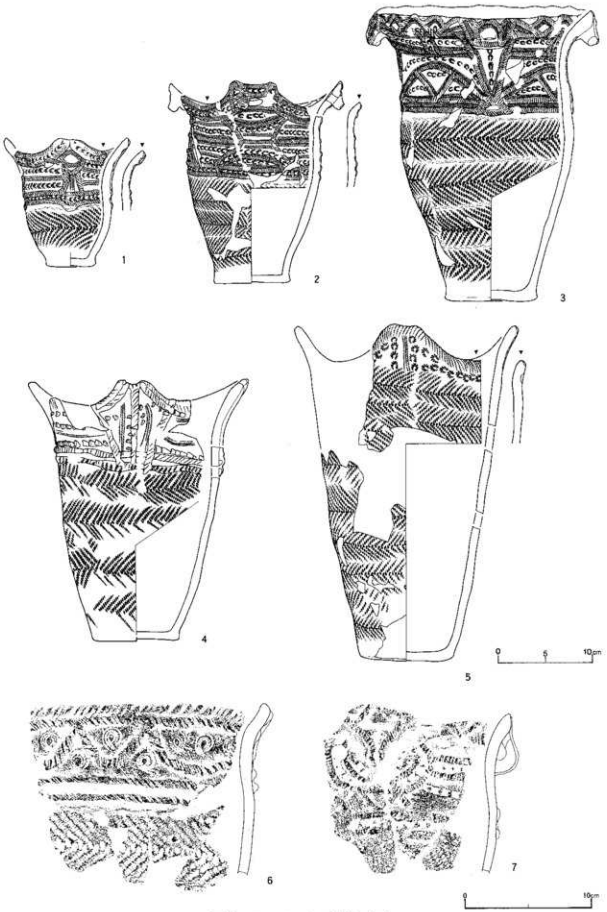


覆土下部の焼土と炭化材

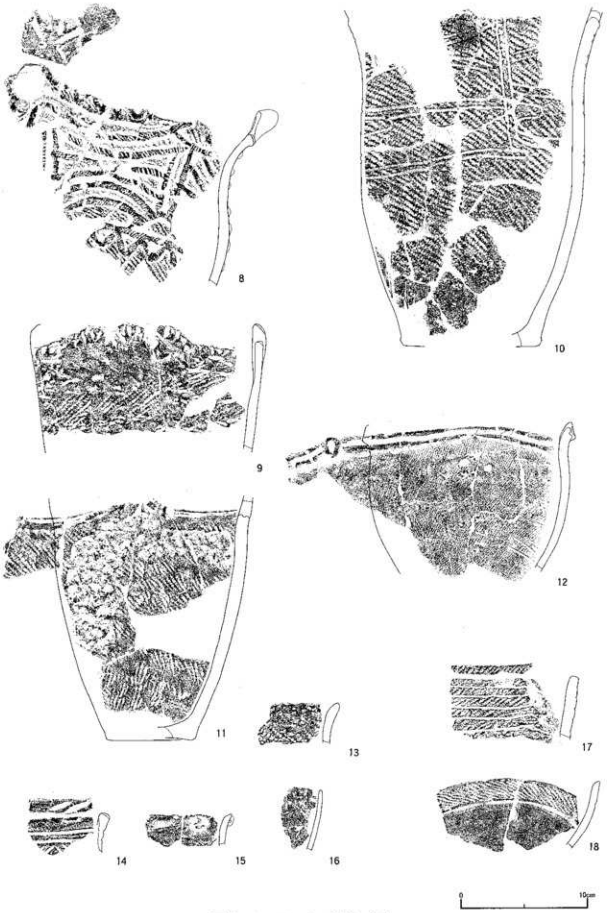


床面の遺物出土状況

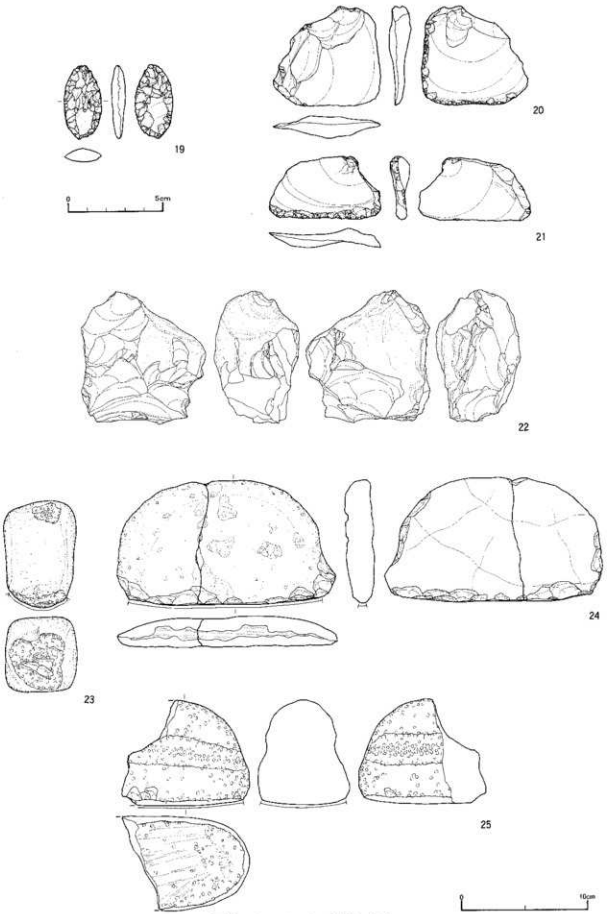
図Ⅴ－６　Ｈ－２（４）



図V－7　H－2の遺物（1）



図Ⅴ－８　Ｈ－２の遺物（２）



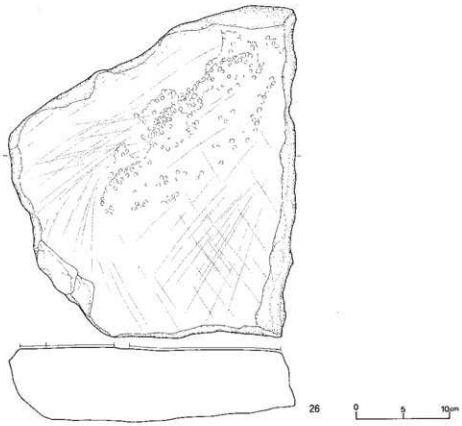
図Ⅴ－9　H－2の遺物（3）

している。覆土の中～上位からは、石囲炉・焼土とともに礫が多数と出土したほか、Ｆ－25などとほぼ同レベルからⅢ群ａ類土器１個体がまとまって出土している（10）。

掲載遺物：床面から出土したⅢ群ａ類土器（図Ⅴ－７－１～３・５・７）、床に埋設されていたⅢ群ａ類土器（４）、覆土出土のⅢ群ａ類土器（６・８～12）、Ⅲ群ｂ類土器（13）、Ⅳ群ａ類土器（14・15）、Ⅳ群ｂ類土器（17）、Ⅳ群ｃ類土器（18）、Ⅲ群土器（16）を図示した。１～７は円筒上層ｂ式に相当するもの。１～４・６・７は無文地に貼付帯で文様が施されたもの、５は縄文地に馬蹄形圧痕文が施されたものである。８～10はサイベ沢Ⅶ式に相当するもの。８は縄文地に細い貼付帯で文様が施されたものである。11・12は大木８ａ式に関連するとみなされるものである。14・15は木古内町新道４遺跡の盛土１類に相当するもの。17はウサクマイＣ式に相当するものである。

19・20は柱穴ＨＰ－２の覆土、21～26は床から出土した。19は木葉形の石鏃で、背・腹面に剥離面を残す。20・21はスクレイパーで、20は腹面の側縁・下端に、21は背面の下端に連続的な調整剥離が施されている。22は石核である。縮尺は１/３で掲載した。石材はいずれも頁岩である。23はたたき石である。チャートの礫下端部と上端部角に敲打痕がある。24は扁平打製石器で、すり面の幅は１㎝ほど、石材は安山岩である。25は平面形が半円形を呈し、器体中央に鉢巻き状の敲打が施された北海道式石冠である。斜めに割れている。石材は閃緑岩である。図Ⅴ－10－26は安山岩の石皿である。破損している。

時　期：床面出土遺物と重複関係から、縄文時代中期前半、円筒上層ｂ式の時期で、Ｈ－３より新しい。なお、床面直上から出土した炭化材の^{14}Ｃ年代測定を行ったところ、4,430±40BPおよび4,520±40BPの値が得られた。また、覆土中～上位の石囲炉・焼土および多数の礫は、覆土出土の遺物から、縄文時代中期後半～後期前葉に属すると考える。（柳瀬）



図Ⅴ－10　Ｈ－２の遺物（４）

Ｈ－３（図Ⅴ－11・12、表Ⅴ－２～７、図版19・22・23・46）

立　地：調査区南側の無名の沢に突出した平坦部の南際。

確　認：Ｌ・Ｍ－３グリッドのⅣ層上面で、Ｈ－２と重複する。

覆　土：Ⅲ層に類似する黒褐色土主体で、自然堆積と考える。

構　造：ＨＰ－１～４が主柱穴と考えられる。床面の中央に地床炉ＨＦ－１が検出された。斜面の下方に当たる東側では遺物包含層が薄く、遺構検出時にはすでにⅤ層が露出していたために壁を検出できなかった。床面については、Ⅴ層に黒色土が斑状に入り込んでいる範囲を床面と判断した。

遺物出土状況：床面から、Ⅲ群ａ類土器２個体と石器が出土している。Ⅲ群ａ類土器の１つは、南東の壁際から、大形の個体がつぶれた状態で出土した（１）。石器はすり石（６）が出土している。すり石に隣接して炭化材が出土した。また、ＨＦ－１の焼土下辺付近からは燃焼材と考えられる炭化材が出土しており、樹種同定の結果、アサダとされている。

なお、床面出土としたⅢ群ａ類土器（２）は、現場段階ではＨ－３に伴うものと考えたが、他の床面出土遺物より新しいことから、現場では検出できなかったＨ－３より新しい遺構に伴うものと考えられる。

掲載遺物：図Ⅴ－12－１～３は床面、４は焼土（ＨＦ１）から出土したⅢ群ａ類土器。１・３・４は円筒上層ｂ式に相当するものである。１・３は無文地に太い貼付帯で文様が施されるもの。馬蹄形圧痕文が施されている。４は縄文のみのもの。２は見晴町式に相当するとみなされるもので、口縁にはヘラ状の工具による斜めの刻み目が施されている。体部には複節の縄文が施されている。

５は床面出土の石核である。２点接合した。６は平面形が半円形を呈し、平坦部中央に持ち手状に敲打痕があるすり石である。重量約1.6kg、すり面の幅は４㎝ほどである。石材は５が頁岩、６は閃緑岩である。

時　期　床面の遺物と重複関係から、縄文時代中期前半、円筒上層ｂ式の時期である。　（柳瀬）

Ｈ－４（図Ⅴ－13～18、表Ⅴ－２～７、図版24・25・46・47）

立　地：調査区南側の無名の沢に突出した平坦部。

確認：Ｍ・Ｎ－５・６グリッドをⅣ層上面まで掘り下げた結果、確認した。確認面では、人頭大の礫が散在していた。

覆　土：上半の土層２・４～７・９は、流れこみによる自然堆積土。下半の土層10～15はⅢ＋Ⅳ＋Ⅴ層からなる土層で、屋根土の崩落による堆積とみられる。なお、下半には多数の炭化材が確認され、当住居跡が焼失住居であることが判明した。炭化材は、主に屋根材のものとみられるが、樹種同定の結果は、すべてクリと出ている（第Ⅳ章２参照）。

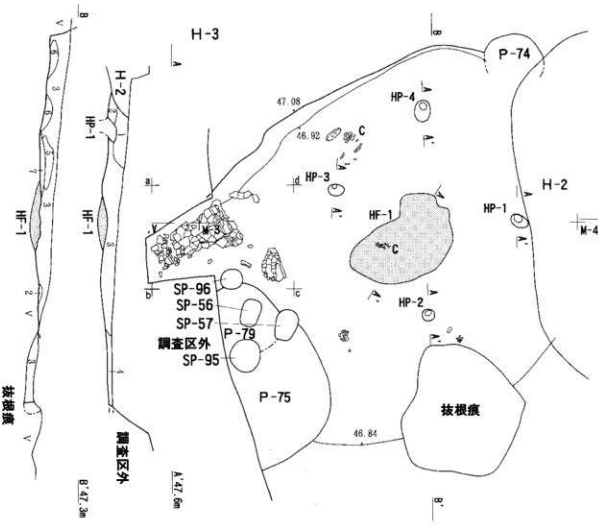
住居跡中央付近の覆土上半には、焼土、石囲炉が重層的に確認され、Ｓ－３、Ｆ－22・28・30・33とした。ほかに、礫が散在していた。覆土上面の窪みは、住居範囲の中央付近にある。

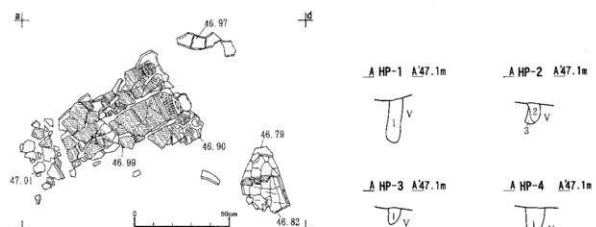
また、後期中葉Ⅳ群ｃ類の埋設土器１（図Ⅴ－16－10）が確認された。それに蓋をするように図Ⅴ－17－11が出土している。掘り込みは確認できなかったが、焼土の分布する範囲からずれており、礫や焼土を避けたものとみられる。

構　造：ＨＰ－１～４の四本を主柱穴とするようである。地床炉は２基あり浅い掘り込みを伴う。

付属遺構：住居長軸の中軸に沿って３基の小ピットが検出された。ＨＰ－７覆土上位には、焼土が見られた。

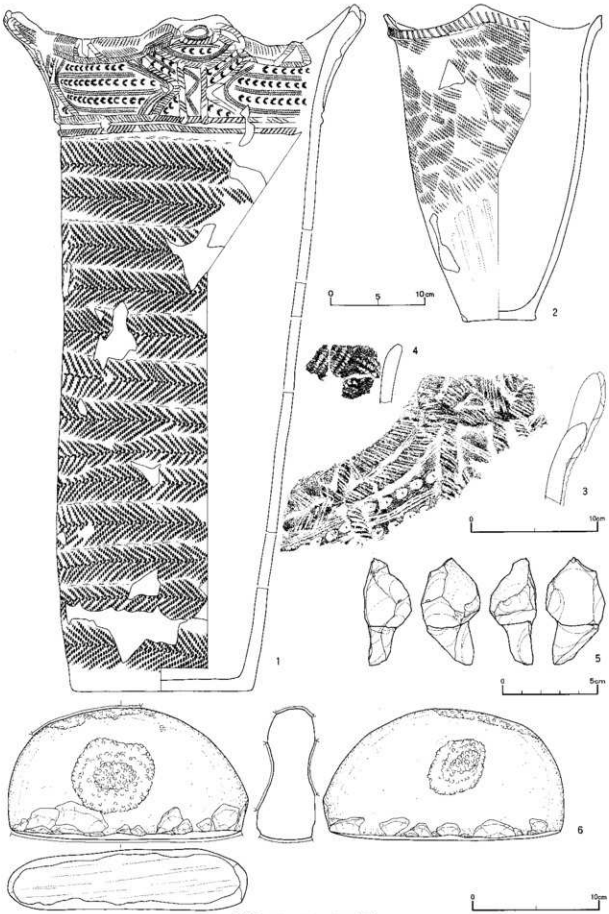
遺物出土状況：床面から石槍、磨製石斧、砥石が出土した（図Ⅴ－17・18－13・15・16）。覆土からは、





遺構名	層名	土色1	土色2	土性	粘性	堅密度	その他
H－3	1	10YR4/4	褐色	埴壌土	弱	堅	ローム粒～φ1cm含10%
	2	10YR3/2	黒褐色	埴壌土	弱	すこぶる軟	強い
	3	10YR2/2	黒褐色	埴壌土	弱	堅	ローム粒～φ1cm含20%、φ3.5cm焼土ブロック含1%
	4	10YR2/1	黒色	埴壌土	弱	軟	ローム粒20%
	5	2.5Y3/2	黒褐色	埴壌土	中	軟	ローム粒40%、φ3cmローム塊5%
	6	10YR2/2	黒褐色	埴土	弱	堅	ローム粒30%、φ3cmローム塊5%
	7	10YR2/1	黒色	埴壌土	弱	堅	ローム粒20%
H－3HP	1	5YR4/6	赤褐色	埴壌土	弱	堅	Ⅴが被触した焼土
	2	5YR4/8	赤褐色	埴壌土	中	すこぶる軟	Ⅴが被触した焼土
H－3HP	1	10YR2/2	黒褐色	埴壌土	弱	軟	ローム粒30%
	2	10YR2/1	黒色	埴壌土	中	すこぶる軟	ローム粒～φ1cm含30%
	3	10YR3/1	黒褐色	埴壌土	弱	軟	ローム粒～φ1cm含40%

図Ⅴ－11　H－3



図V－12　H－3の遺物

個体となる土器が６個確認された。図Ⅴ－16－１は、ＨＦ－１直上より出土したもの。

掲載遺物：図Ⅴ－16－１はＨＦ－１直上から出土したⅢ群ａ類土器。２～11はいずれも覆土出土の資料で、２はⅢ群ａ類、３・４はⅢ群ｂ類、５～９はⅣ群ａ類、10・11はⅣ群ｃ類土器である。１・２はサイペ沢Ⅶ式に相当するもの。１は縄文地に沈線で文様が施されるもの、２は縄文のみのものである。３・４は縄文のみのもので、胎土には海綿骨針が含まれている。５・６は口縁部に貼付帯の施されるもの。口唇上は磨かれている。縄文は、貼付帯上では横位、体部ではは縦位に施文されている。７・８は縄文のみのもので、縦位に縄文が施されてる。９は無文のものである。10は覆土に埋設されていたものである。埋設土器１として取り上げているが、便宜的にここに掲載している。11は10と共に出土したものである。

12・13は石槍である。12は凸基有茎で明瞭なかえしをもつ。13は木葉形で基部は平らである。14は平面形が篦状を呈したスクレイパーである。石材は12が黒曜石、13・14は頁岩である。15は緑色泥岩製の石斧である。破損している。図Ⅴ－18－16は砂岩のいわゆる四面砥石である。13・15・16は床、12・14は覆土から出土した。

時　期：ＨＦ－１直上出土土器より、縄文時代中期前半とみられる。なお、焼失に伴う炭化材の^{14}Ｃ年代測定を２点について行ったところ、4,450±40ＢＰ、4,460±40ＢＰの測定値が得られた（第Ⅳ章１参照）。覆土からは、中期後半、後期前葉の土器も出土しており、覆土上位の焼土等はこれらの時期に属するものと考えられる。（福井）

Ｈ－５（図Ⅴ－19～22、表Ⅴ－２・４～７、図版26～28・47）

立　地：調査区南側の無名の沢に突出した平坦部。

確　認：Ｌ・Ｍ－８・９グリッドのⅣ層上面で検出した。検出面では、焼土Ｆ－31、Ⅳ群類土器のまとまり、礫が検出された。

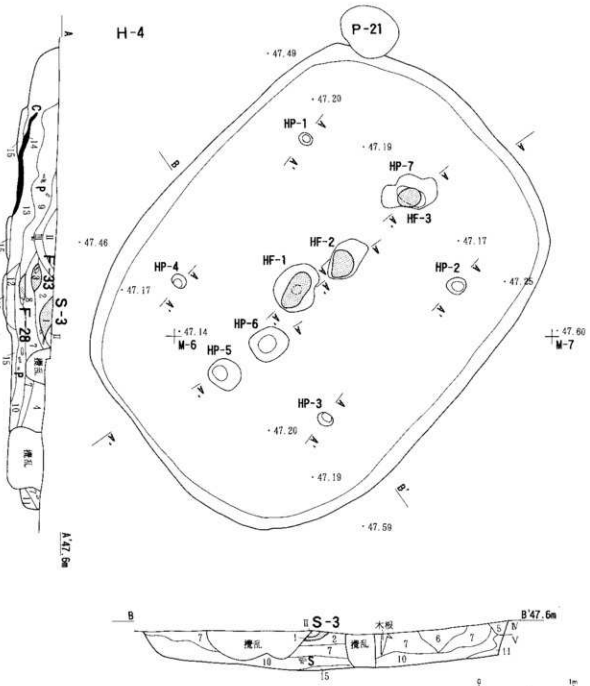
当初、Ｈ－５とＨ－８を一軒の住居跡として調査していた。しかし、土層断面の精査の結果、２軒の住居跡が入れ子になっていることが判明した。なお、Ｈ－５は、Ｈ－８を壊して構築されている。

覆　土：Ⅱ層に類似する黒色土・黒褐色土が主体で、自然堆積と考える。

構　造：床面は概ね平坦だが、中央部に不整な楕円形の凹みが認められる。窪みは、東側では壁がはっきりしているが、西側では立ち上がりが不明瞭である。炉は検出されなかった。小ピットは３か所検出されたが、分布は遺構の南側に偏っており、配列などは不明である。

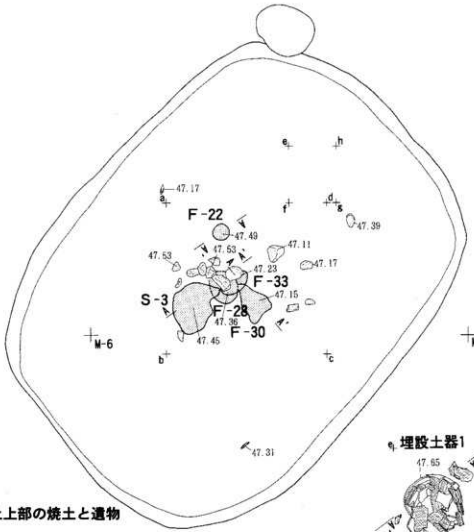
遺物出土状況：床面から、Ⅲ群ａ類の羽状縄文が施された嗣部破片と、スクレイパー・すり石（９・10）が出土している。また、検出面においては、Ｆ－31に伴ってⅣ群ａ類土器が１個体（１）と、Ｈ－８の範囲にまたがって、たたき石・すり石・石皿などの石器や、拳から人頭大の礫が多数出土している。住居跡廃棄後の窪みを利用したものである。

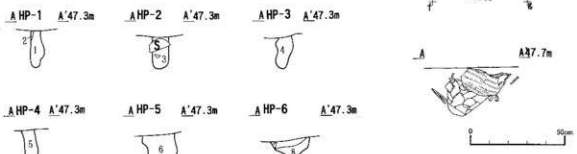
掲載遺物：覆土（図Ⅴ－22－２～７）及び確認面（１）出土の土器を図示した。２～４はⅢ群ａ類土器。２・３は無文のもので同一個体である。４は縄文地に貼付帯で文様が施されるもの。円筒上層ｂ式に相当するものである。５・６はⅢ群ｂ類土器。５は縄文のみのもので、胎土に細かい砂を多く含む。図Ⅴ－45－10と同一個体。６は撚糸文が施されたもの。１・７はⅣ群ａ類土器。無文地に沈線で文様が施されたものである。新道４遺跡の盛土１類に相当するとみなされる。



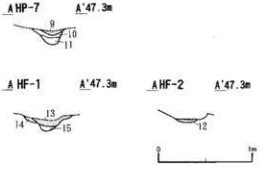
遺構名	層名	土色1	土色2	粘性	堅密度	その他
H-4	1	7.5YR4/4	にぶい黄褐色	弱	堅	S-3、焼土
	2	10YR2/3	黒褐色	弱	堅	ローム粒5%
	3	5YR4/6	赤褐色	弱	堅	F-33、焼土
	4	10YR1.7/1	黒色	弱	堅	ローム粒5%
	5	10YR3/3	暗褐色	弱	堅	ローム粒5%
	6	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒5%
	7	10YR3/3	暗褐色	弱	堅	ローム粒・炭化材7%
	8	5YR3/2	暗赤褐色	弱	堅	F-28、焼土
	9	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒7%
	10	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒・炭化材15%
	11	10YR3/3	暗褐色	弱	堅	ロームブロック30%
	12	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒・炭化材10%
	13	10YR3/3	暗褐色	弱	堅	ローム粒・炭化材15%
	14	—	—	—	—	炭化材
	15	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒・炭化材20%
	16	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒・炭化材15%
	17	5YR4/8	赤褐色	—	—	F-30、焼土
	18	5YR4/4	にぶい赤褐色	—	—	F-22、焼土

図V－13　H－4（1）

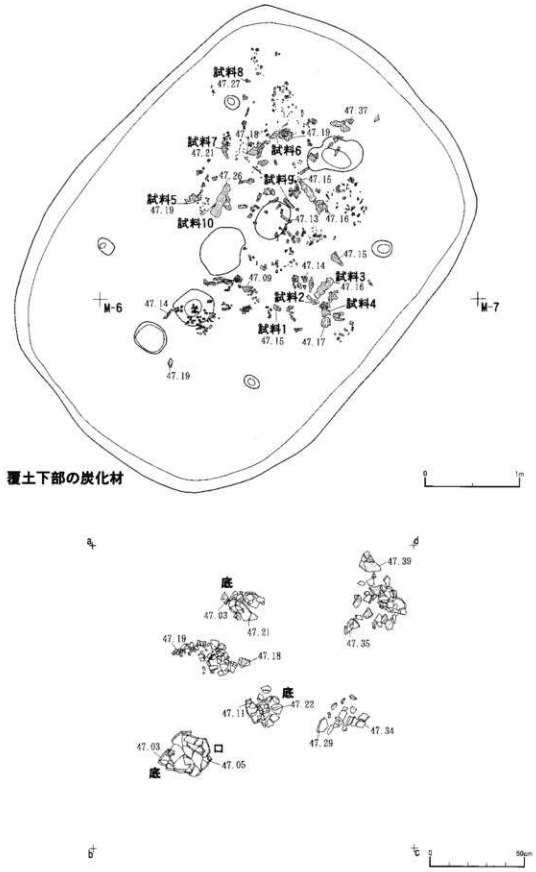




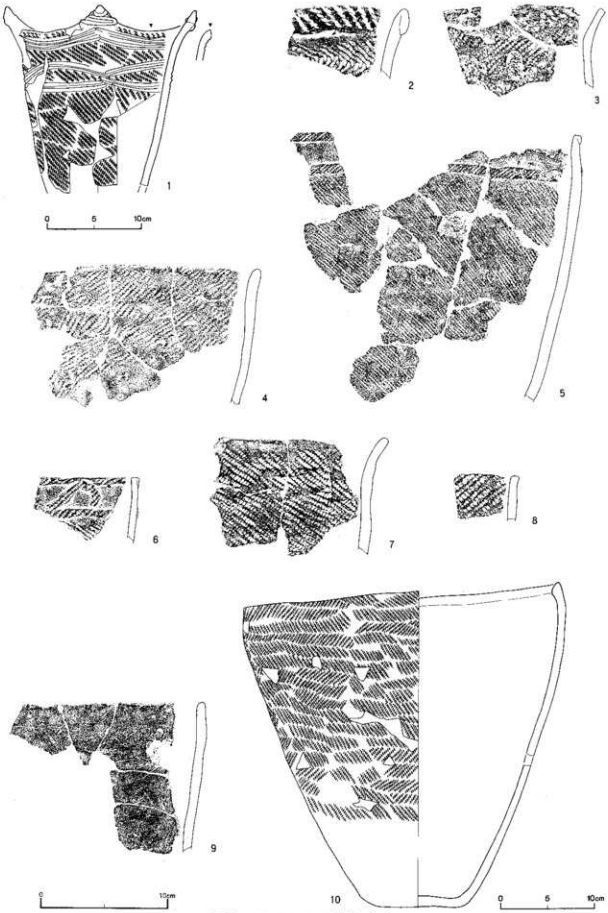
遺構名	層名	土色１	土色２	粘性	堅密度	その他
H-4 BP・HP	1	10YR1.7/1	黒色	弱	軟	ローム粒5%
	2	10YR3/3	暗褐色	弱	軟	ローム粒・炭化材7%
	3	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒10%
	4	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒15%
	5	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ロームブロック・ローム粒18%
	6	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒・炭化材5%
	7	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ロームブロック・ローム粒10%
	8	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒・焼土粒20%
	9	5YR4/4	にぶい赤褐色	弱	固結	焼土
	10	10YR4/2	灰黄褐色	弱	すこぶる軟	ロームブロック30%
	11	10YR4/2	灰黄褐色	弱	すこぶる軟	ロームブロック50%
	12	7.5YR5/4	にぶい褐色	弱	軟	焼土
	13	5YR5/6	明赤褐色	弱	固結	焼土
	14	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒・炭化材5%
	15	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ロームブロック15%



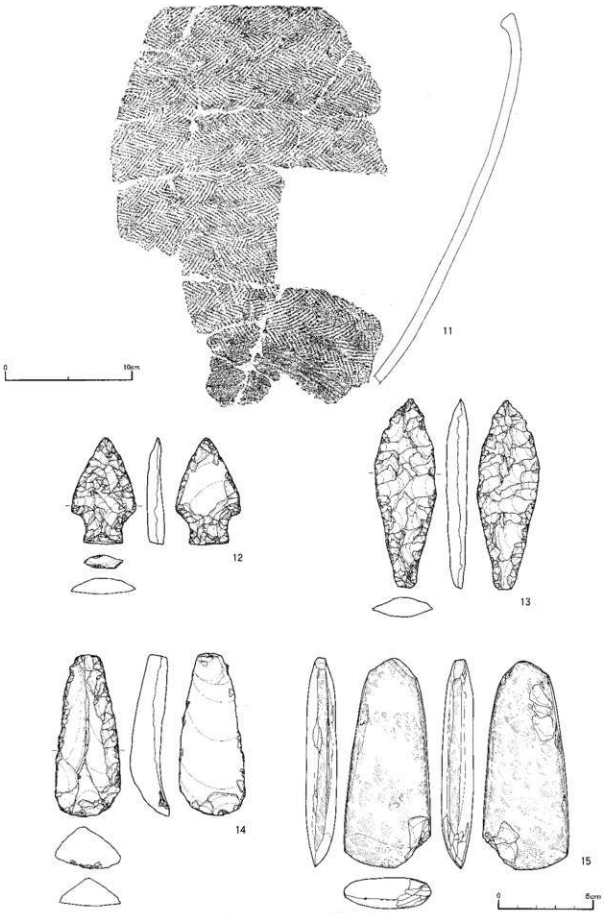
図Ⅴ－14　Ｈ－４（２）、Ｆ－11・18・30・33、Ｓ－３、埋設土器１


試料8
47.27
47.37
47.18
47.19
試料7
47.21
試料6
47.26
試料9
47.15
試料5
47.19
試料10
47.13
47.16
47.15
47.14
47.09
試料3
47.18
M-6
47.14
試料2
試料4
M-7
試料1
47.15
47.17
47.19
覆土下部の炭化材
0
1m
a
d
47.39
底
47.03
47.21
47.35
47.19
47.18
底
47.11
47.22
47.34
47.29
47.03
口
47.05
底
b
c
0
50cm

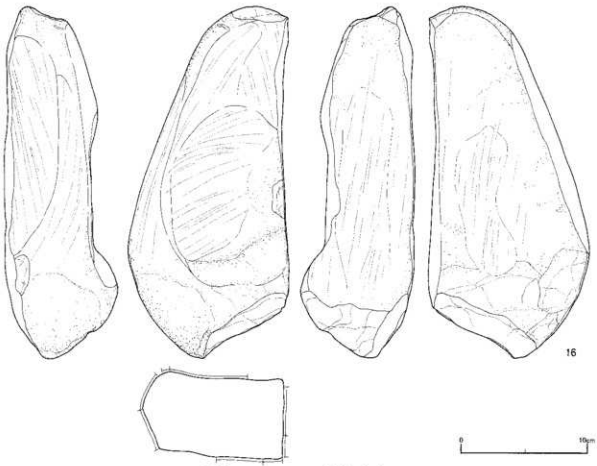
図V－15　H－4（3）



図V－16　H－４の遺物（１）



図Ⅴ－17　Ｈ－４の遺物（２）



図Ⅴ－18　Ｈ－４の遺物（３）

８は覆土から出土した木葉形の石槍である。基部は突出し丸みを帯びる。９・10は床面から出土した。９はスクレイパーで、幅広の先端部には礫面が残る。胴半部が欠損する。10は床面から出土したすり石である。すり面幅は３㎝ほどである。石材は８・９が頁岩、10は砂岩である。

時　期：床面出土の土器から、縄文時代中期前半のⅢ群ａ類の時期の可能性がある。また、検出面のＦ－31と多数の礫は、後期前葉のⅣ群ａ類の時期のものである。　（柳瀬）

Ｈ－８（図Ⅴ－19～21・23、表Ⅴ－２・４～７、図版26～28・48）

立　地：調査区南側の無名の沢に突出した平坦部。

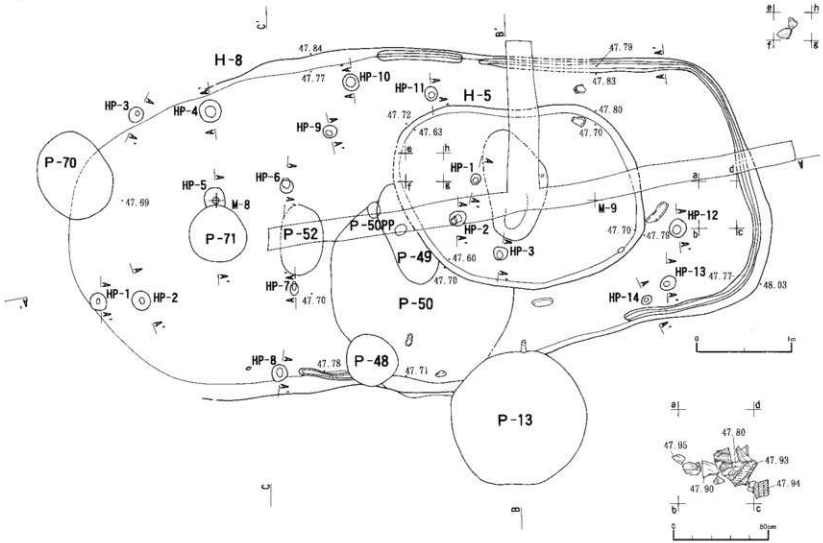
確　認：Ｌ・Ｍ－７～９のⅣ層上面およびⅤ層上面で検出した。Ｈ－５と重複する。

覆　土：Ⅲ層に類似する黒褐色土・暗褐色土が主体で、自然堆積と考える。

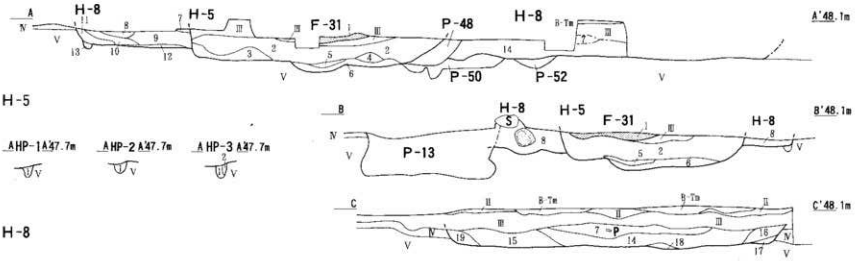
構　造：８ラインより南側では、遺構検出時、すでにⅤ層上面まで掘り下げてしまっていたため、壁は検出できなかった。床面については、Ⅴ層に黒色土が斑状に入り込む範囲を床面範囲と想定した。

床面は概ね平坦である。壁際で周溝が検出された。北側では断続的に認められるが、南側ではほとんど確認できなかった。８ラインより南側では壁とともに掘り下げてしまった可能性がある。炉は検出されなかった。小ピットは14か所検出されたが、分布には偏りがあり、明確な配置は認められなかった。炉跡や小ピットは、Ｈ－５など、重複するより新しい遺構により、失われてしまったものもあると思われる。

遺物出土状況：床面からは、小形のⅢ群ａ類土器（２）やスクレイパー（５）、石斧の原材の可能性が

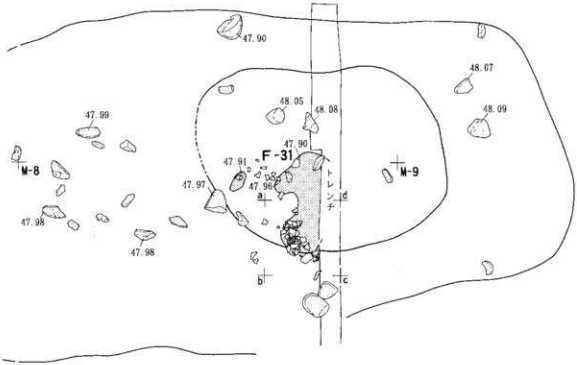

H-8
H-5
P-70
P-71
P-52
P-50PP
P-49
P-50
P-48
P-13
M-8
M-9
HP-1
HP-2
HP-3
HP-4
HP-5
HP-6
HP-7
HP-8
HP-9
HP-10
HP-11
HP-12
HP-13
HP-14
47.84
47.77
47.79
47.83
47.80
47.72
47.63
47.70
47.69
47.60
47.78
47.71
48.03
47.95
47.93
47.90
47.94

図V－19　H－5・8（1）

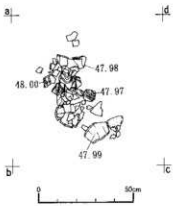


遺構名	層名	土色1	土色2	土性	粘性	堅固度	その他
H-5・8	1	5YR4/8	赤褐色	埴土	中	すこぶる堅	F-31粘土
	2	10YR2/2	黒褐色	埴壌土	弱	すこぶる堅	ローム粒5%、炭化物1%
	3	10YR3/3	暗褐色	埴壌土	弱	軟	ローム粒20%
	4	10YR2/2	黒褐色	埴土	中	軟	ローム粒20%、炭化物5%
	5	10YR1.7/1	黒色	埴土	中	すこぶる堅	
	6	10YR2/1	黒色	埴壌土	弱	堅	φ10mmローム塊10%、炭化物3%
	7	2.5Y7/4	浅黄色	埴土	中	すこぶる堅	白色粘土
	8	10YR3/3	暗褐色	埴壌土	中	軟	ローム粒30%
	9	10YR3/2	黒褐色	埴壌土	弱	軟	ローム粒5%
	10	10YR2/1	黒色	埴壌土	弱	軟	ローム粒1%
	11	10YR1.7/1	黒色	埴土	弱	軟～堅	
	12	10YR4/2	灰黄褐色	埴土	中	堅	
	13	2.5Y5/2	明灰黄色	埴土	中	すこぶる堅	ローム粒と褐色土の混合土
	14	10YR3/3	暗褐色	埴壌土	弱	堅	ローム粒7%、高熱小礫粒片3%
	15	7.5Y3/3	暗褐色	埴壌土	弱	堅	ローム粒10%、高熱小礫粒片5%
	16	10YR3/1	暗褐色	埴壌土	弱	堅	ローム粒10%、高熱小礫粒片3%
	17	10YR4/4	褐色	埴壌土	弱	堅	ローム粒と褐色土の黄伏混合土
	18	10YR2/1	黒色	埴壌土	弱	堅	ローム粒5%
	19	10YR2/2	黒褐色	埴壌土	弱	堅	
H-5HP	1	10YR2/1	黒色	埴土	弱	すこぶる堅	ローム粒20%
	2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	埴土	中	すこぶる堅	ローム土と褐色土の混合土
H-8HP	1	10YR1.7/1	黒色	埴壌土	弱	堅	ローム粒～φ1cm塊15%
	2	10YR2/2	黒褐色	埴壌土	弱	堅	ローム粒10%、30～40cm大～塊1%
	3	10YR3/1	黒褐色	埴壌土	弱	すこぶる堅	ローム粒10%、褐～褐色土・ローム塊1%
	4	2.5Y4/2	暗灰黄色	埴土	中	堅	褐色土とローム粒混合土、黒色塊1%
	5	10YR3/1	黒褐色	埴壌土	弱	堅	ローム粒20%、φ10mmローム塊10%
	6	10YR1.7/1	黒色	埴土	弱	すこぶる堅	ローム粒～φ1cm塊15%
	7	10YR3/1	黒褐色	埴壌土	弱	すこぶる堅	ローム粒20%
	8	10YR2/1	黒色	埴壌土	弱	軟	ローム粒5%
	9	10YR2/1	黒色	埴壌土	弱	軟	ローム粒～φ2cm塊10%
H-8周溝	1	10YR2/2	黒褐色	埴壌土	弱	軟	ローム粒20%

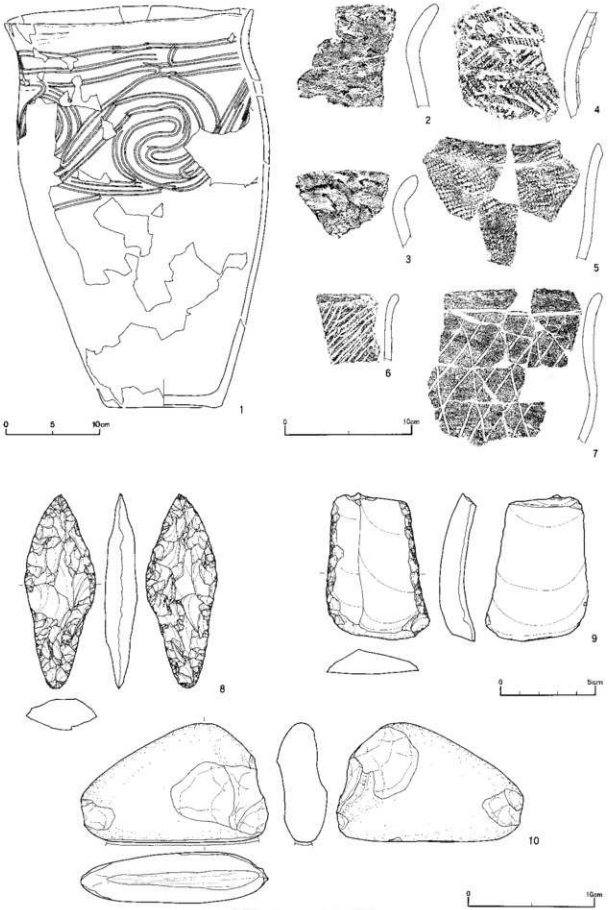
図V－20 H－5・8（2）



覆土上部の焼土と遺物



図Ⅴ−21　H−5・8（3）、F−31



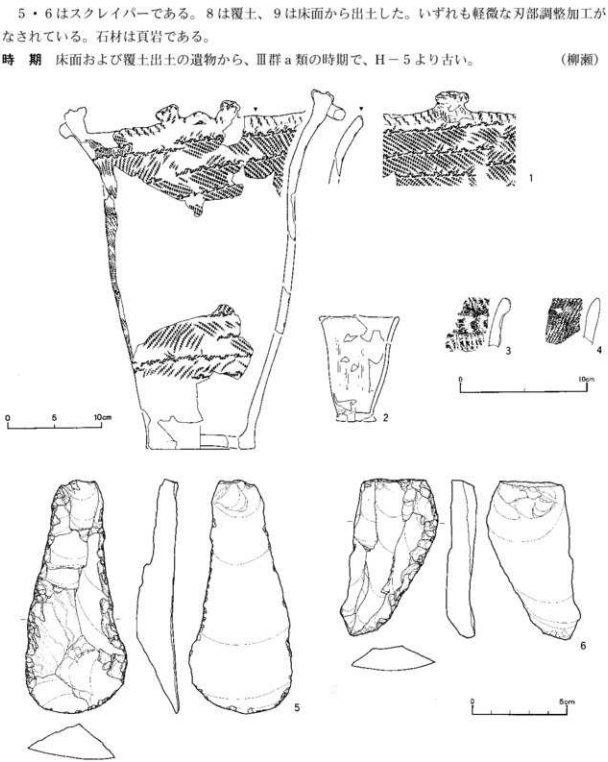
図Ⅴ－22　Ｈ－５の遺物

ある片岩の礫などが出土した。また北側壁際の覆土から、Ⅲ群ａ類土器がまとまって出土している（1）。検出面では、Ｈ－５の項のとおり、Ⅳ群ａ類土器や礫が出土している。

掲載遺物：図Ⅴ－23－１～４は覆土出土のⅢ群ａ類土器。３は貼付帯で文様が施されるもので、無文地に馬蹄形圧痕文がみらる。円筒上層ｂ式に相当するものである。１はサイベ沢Ⅶ式に相当するもので、内面は丁寧に磨かれている。２は小型の無文土器。胎土に繊維を含む。器面には縦位のナデ調整が認められる。底部が張り出すことから本類に含めている。４は縄文のみのもの。

５・６はスクレイパーである。８は覆土、９は床面から出土した。いずれも軽微な刃部調整加工がなされている。石材は頁岩である。

時　期　床面および覆土出土の遺物から、Ⅲ群ａ類の時期で、Ｈ－５より古い。　（柳瀬）



図Ⅴ－23　Ｈ－８の遺物

Ｈ－６（図Ⅴ－24～27、表Ⅴ－２～４・６・７、図版29・30・48）

立　地：調査区南側の無名の沢に突出した平坦部。

確　認：Ｍ・Ｎ・Ｏ－７・８グリッドをⅣ層上面まで掘り下げた結果、確認した。

覆　土：上半の土層10～18は、流れこみによる自然堆積土。下半の土層20・21はⅢ＋Ⅳ＋Ⅴ層からなる土層で、屋根土の崩落による堆積とみられる。

住居跡中央付近の覆土上半には、焼土が重層的に確認され、Ｆ－15・16・17・18とした。覆土上面からは、複数の土坑が掘り込まれ、焼土と関連性を持ちながら構築されたものとみられる。覆土上面の窪みは、住居範囲の中央付近にある。

構　造：ＨＰ－１・４・８・18の四本を主柱穴とするようである。地床炉があるが、焼けは弱い。床面は凹凸があり、安定していなかった。南側の掘り込みは、他の部分に比べ浅く、壁の立ち上がりは、緩やかであった。

付属遺構：小ピットが、北側３分の２部分に集中して検出された。重複する土坑に破壊されたものもあることから、配列等は明瞭ではない。ただ、比較的浅いものが多い。

遺物出土状況：覆土から個体となる土器が３個出土している。

掲載遺物：１～７はⅢ群ａ類土器。１・２は無文地、３・４は縄文地に貼付帯で文様が施されるもの。５・６は縄文のみのもの。７は口縁に刻み目がある。１～６は円筒上層ｂ式、７はサイベ沢Ⅶ式に相当するものである。８～10はⅣ群ａ類土器。８は新道４遺跡盛土１類、10は盛土２類に相当するもの。

11は床出土の両面調整石器である。石材は頁岩である。

時　期：出土土器より、縄文時代中期前半とみられる。

覆土からは、中期後半、後期前葉の土器も出土しており、覆土上位の焼土等はこれらの時期に属するものと考えられる。なお、覆土上半焼土Ｆ－17に伴う炭化材の^{14}Ｃ年代測定を１点について行ったところ、3,530±40ＢＰの測定値が得られた（第Ⅳ章１参照）。他の遺跡と比較すると、後期前葉の時期に符合する。（福井）

Ｈ－７（図Ⅴ－28～30、表Ⅴ－２～４・６・７、図版31・32・49）

立　地：調査区南側の無名の沢に突出した平坦部。

確　認：Ｎ・Ｏ－６・７グリッドをⅣ層上面まで掘り下げた結果、確認した。

覆　土：土層２はⅢ＋Ⅳ＋Ⅴ層からなる土層で、屋根土の崩落による堆積とみられる。

住居跡中央付近の覆土上面には、石囲炉が確認され、Ｓ－２とした。２基の土坑と重複関係にあったが、前後関係は明らかにできなかった。覆土上面の窪みは、住居範囲の中央付近にある。

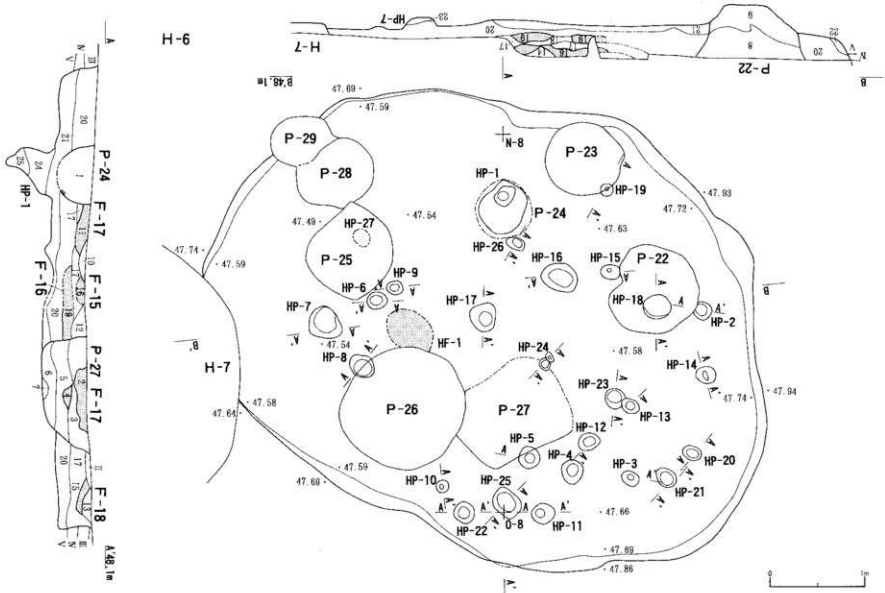
構　造：ＨＰ－４・５・７を主柱穴とするようである。地床炉は２基あり、ＨＦ－１には浅い掘り込みを伴う。また、小礫で石囲いもなされていた。

付属遺構：ＨＦ－１に接して、土坑が検出された。坑底からは有孔礫が出土した。また、北側の壁際では部分的に周溝も確認された。

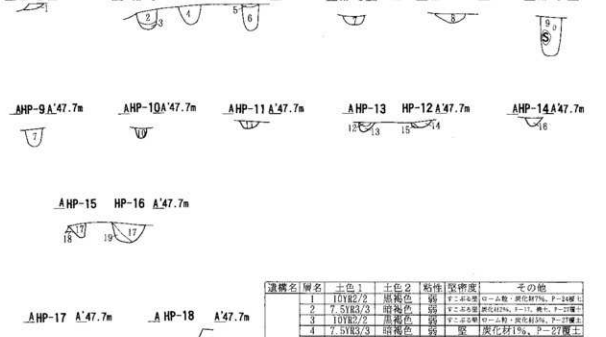
遺物出土状況：覆土から礫が散在して出土した。

掲載遺物：１は覆土出土のⅢ群ｂ類土器。撚糸文が施されている。２は覆土出土のⅣ群ａ類土器。

３はＨＰ－１の坑底から出土した石製品である。平面形が円形の扁平な泥岩に穿孔している。４は床から出土した偏刃の両刃石斧である。胴半部を欠損している。石材は片岩である。５は覆土から出土した台石である。平坦部に擦痕がある。石材は砂岩である。


H-6
H-7
P-29
P-28
P-23
P-24
P-25
P-22
P-26
P-27
N-8
HP-1
HP-2
HP-3
HP-4
HP-5
HP-6
HP-7
HP-8
HP-9
HP-10
HP-11
HP-12
HP-13
HP-14
HP-15
HP-16
HP-17
HP-18
HP-19
HP-20
HP-21
HP-22
HP-23
HP-24
HP-25
HP-26
HP-27
HF-1
O-8
F-15
F-16
F-17
F-18
0
1m

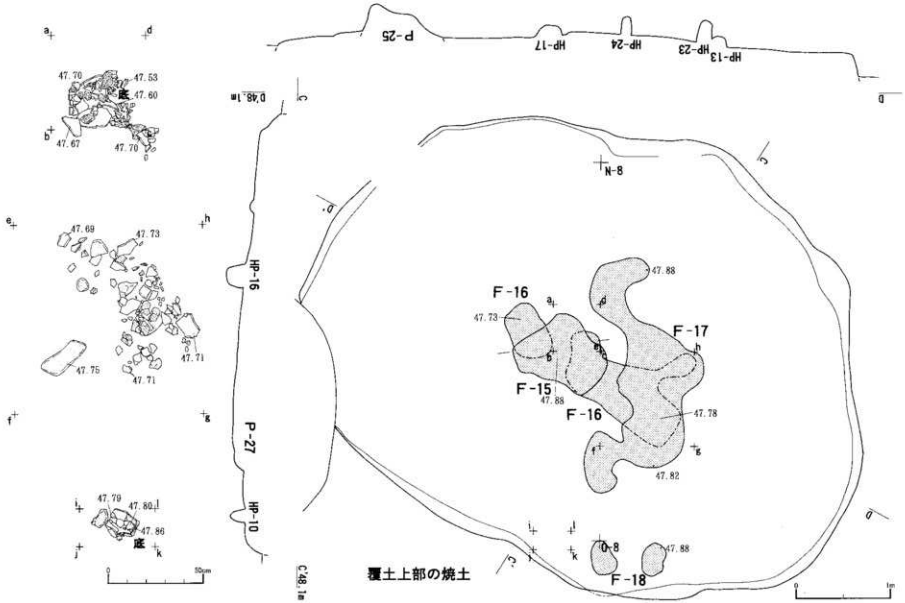
図V－24　H－6（1）



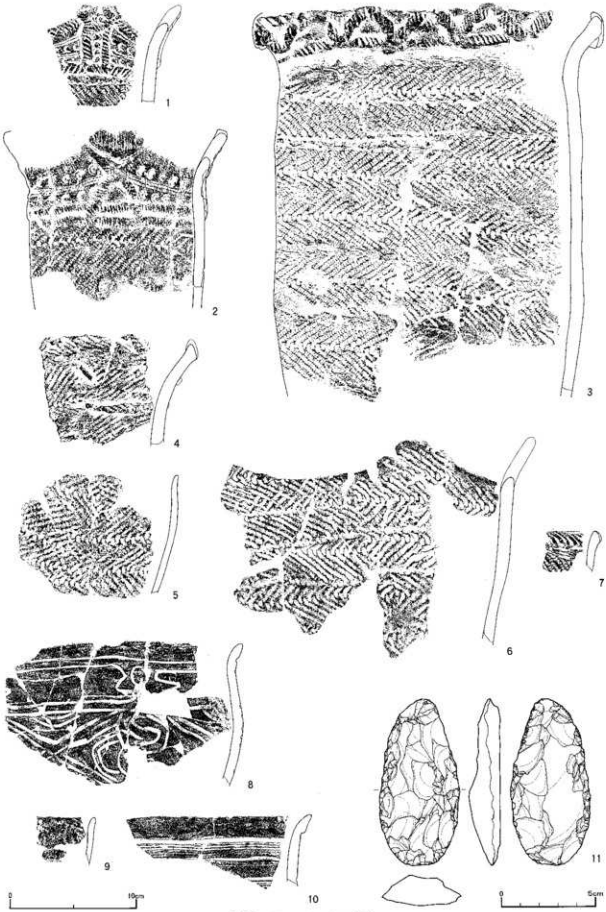
遺構名	層名	土色1	土色2	粘性	堅密度	その他
H-6	1	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒・炭化材7%、F-24覆土
	2	7.5YR3/3	暗褐色	弱	すこぶる堅	炭化材2%、F-17、焼土、F-23覆土
	3	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒・炭化材3%、F-23覆土
	4	7.5YR3/3	暗褐色	弱	堅	炭化材1%、F-23覆土
	5	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒・炭化材7%、F-23覆土
	6	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム7ロック30%、F-23覆土
	7	10YR2/1	黒色	弱	堅	ローム7ロック15%、F-23覆土
	8	10YR2/1	黒色	弱	すこぶる堅	ローム粒7%、F-23覆土
	9	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム7ロック・ローム粒10%、F-23覆土
	10	10YR2/3	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒7%
	11	7.5YR3/4	暗褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒7%、F-17、焼土
	12	10YR4/3	にぶい黄褐色	弱	堅	ローム7ロック20%
	13	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム7ロック15%
	14	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	焼土粒・炭化材5%
	15	7.5YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	炭化材1%、F-18、焼土
	16	7.5YR3/4	暗褐色	弱	すこぶる堅	F-15、焼土
	17	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	焼土粒・炭化材・骨片7.5%
	18	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒・焼土粒5%
	19	7.5YR4/6	褐色	弱	すこぶる堅	F-16、焼土
	20	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒・炭化材5%
	21	10YR3/3	暗褐色	弱	すこぶる堅	ローム7ロック・ローム粒・炭化材15%
	22	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム7ロック40%
	23	10YR4/3	にぶい黄褐色	弱	堅	ローム7ロック20%
	24	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒・炭化材15%
	25	10YR3/3	暗褐色	弱	堅	ローム7ロック25%

遺構名	層名	土色1	土色2	粘性	堅密度	その他
H-6 HP	1	10YR4/2	灰黄褐色	弱	堅	ローム粒5%
	2	10YR1.7/1	黒色	弱	堅	ローム7ロック7%
	3	10YR3/3	暗褐色	弱	堅	ローム粒10%
	4	10YR2/1	黒色	弱	堅	ローム7ロック・ローム粒10%
	5	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒5%
	6	10YR1.7/1	黒色	弱	堅	ローム7ロック・ローム粒15%
	7	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒・炭化材10%
	8	10YR4/3	にぶい黄褐色	弱	堅	ローム粒5%
	9	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム7ロック・ローム粒15%
	10	10YR4/2	灰黄褐色	弱	堅	ローム7ロック・ローム粒10%
	11	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒5%
	12	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒3%
	13	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム7ロック20%
	14	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム7ロック・ローム粒15%
	15	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム7ロック25%
	16	10YR3/3	暗褐色	弱	堅	ローム粒15%
	17	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒・炭化材5%
	18	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム7ロック20%
	19	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム7ロック10%
	20	10YR3/3	暗褐色	弱	堅	ローム7ロック・ローム粒20%
	21	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム7ロック・ローム粒・炭化材10%
	22	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒15%
	23	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒10%
	24	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒7%
	25	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム7ロック・ローム粒15%
	26	10YR4/3	にぶい黄褐色	弱	堅	ローム7ロック・ローム粒・炭化材10%
	27	10YR3/1	黒褐色	弱	堅	ローム7ロック・ローム粒15%

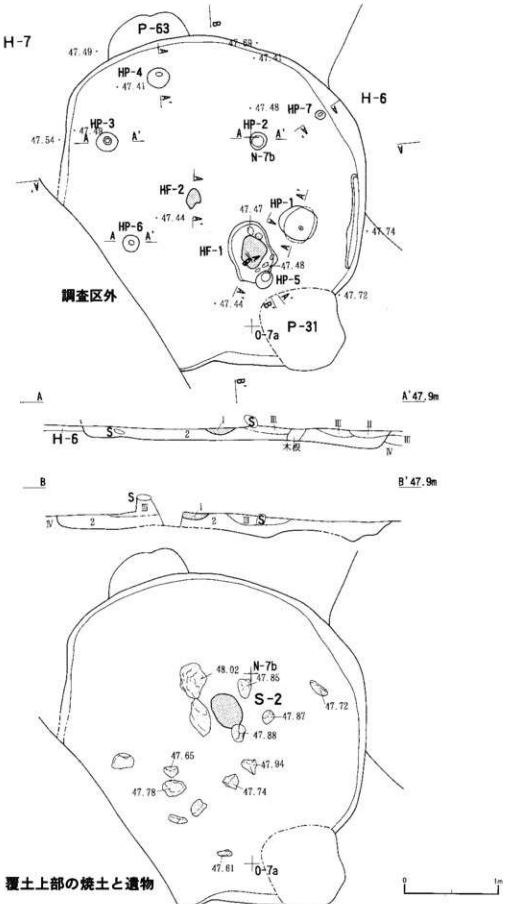
図V－22　H－5の遺物


47.70
47.53
底
47.60
47.67
47.70
47.69
47.73
47.75
47.71
47.71
47.79
47.80
47.86
底
0
50cm
D.48.1m
HP-16
P-27
HP-10
C.48.1m
P-25
HP-17
HP-24
HP-23
HP-13
N-8
47.88
F-16
47.73
F-17
F-15
47.88
F-16
47.78
47.82
O-8
47.88
F-18
覆土上部の焼土
0
1m

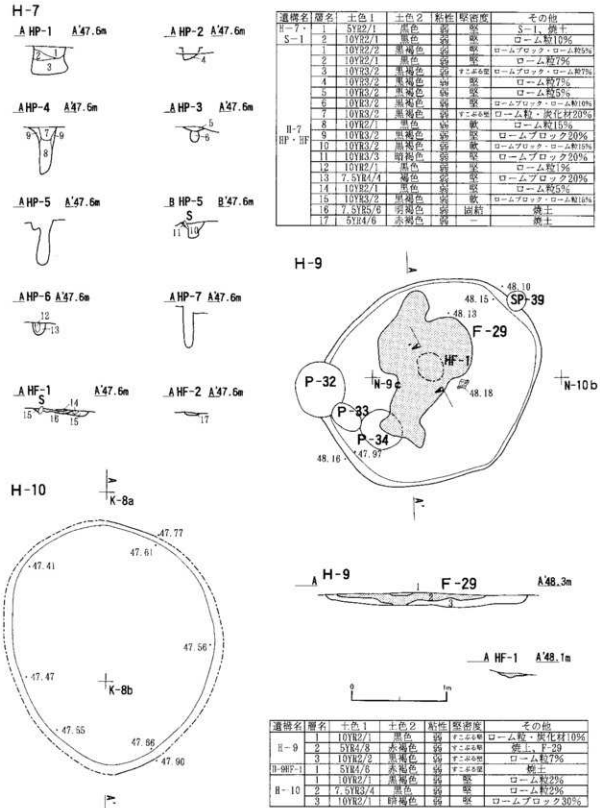
図V－24　H－6（1）



図V－27　H－6の遺物


H-7
P-63
47.49
47.53
47.41
HP-4
47.41
47.48
HP-7
H-6
HP-3
47.54
HP-2
N-7b
HF-2
47.47
HP-1
47.44
HP-6
47.74
HF-1
47.48
HP-5
調査区外
47.44
47.72
P-31
0-7a
A
A'47.9m
H-6
S
2
1
S
III
III
II
III
木根
IV
B
B'47.9m
S
IV
2
1
2
S
48.02
N-7b
47.85
S-2
47.72
47.87
47.88
47.65
47.94
47.78
47.74
47.61
0-7a
覆土上部の焼土と遺物
0
1m

図Ⅴ－28　Ｈ－７（１）、Ｓ－２



遺構名	層名	土色1	土色2	粘性	堅密度	その他
H-7・S-1	1	5Y2/1	黒色	弱	堅	S-1：焼土
	2	10YR2/1	黒色	弱	軟	ローム粒10%
H-7 HP・HF	1	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム ブロック・ローム粒5%
	2	10YR2/1	黒色	弱	堅	ローム粒7%
	3	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック・ローム粒7%
	4	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒7%
	5	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒5%
	6	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム ブロック・ローム粒10%
	7	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒・炭化材20%
	8	10YR2/1	黒色	弱	軟	ローム粒15%
	9	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム ブロック20%
	10	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ローム ブロック・ローム粒15%
	11	10YR3/3	暗褐色	弱	堅	ローム ブロック20%
	12	10YR2/1	黒色	弱	堅	ローム粒1%
	13	7.5YR4/4	褐色	弱	堅	ローム ブロック20%
	14	10YR2/1	黒色	弱	堅	ローム粒5%
	15	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ローム ブロック・ローム粒10%
	16	7.5YR5/6	明褐色	弱	固結	焼土
	17	5YR4/6	赤褐色	弱	—	焼土

遺構名	層名	土色1	土色2	粘性	堅密度	その他
H-9	1	10YR2/1	黒色	弱	すこぶる堅	ローム粒・炭化材10%
	2	5YR4/8	赤褐色	弱	すこぶる堅	焼土：F-29
	3	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒7%
H-9HF-1	1	5YR4/8	赤褐色	弱	すこぶる堅	焼土
H-10	1	10YR2/1	黒褐色	弱	堅	ローム粒2%
	2	7.5YR3/4	黒色	弱	堅	ローム粒2%
	3	10YR2/1	暗褐色	弱	堅	ローム ブロック30%

図V－29　H－7（2）・9・10、F－29

時　期：出土土器より、縄文時代中期前半～後半とみられる。また、H－6の一部を壊しており、それよりは新しい。覆土からは、後期前葉の土器も出土しており、覆土上位の石囲炉はその時期に属するものと考えられる。（福井）

H－9（図Ⅴ－29・31、表Ⅴ－2～4・6・7、図版33・49）

立　地：調査区南側の無名の沢に突出した平坦部。

確　認：N－9グリッドをⅣ層上面まで掘り下げた結果、確認した。当初は土坑としていたが、規模から住居跡とした。

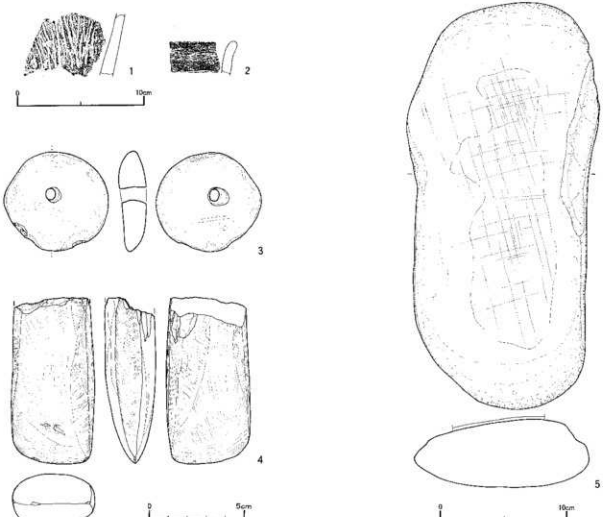
覆　土：土層はⅢ＋Ⅳ層からなる土層で、屋根土の崩落による堆積とみられる。住居跡中央付近の覆土上半には、焼土が確認され、F－29とした。

構　造：中央に地床炉を1基持つが、F－29が床面におよんだ可能性もある。

掲載遺物：図Ⅴ－31－1は覆土出土のⅢ群a類土器。2～4は覆土出土のⅢ群b類土器。1は無文地に貼付帯が施されるもの。馬蹄形圧痕文が施されている。円筒上層b式に相当するものである。

5はスクレイパーである。6は扁平打製石器である。下部は欠損している。石材は5が頁岩、6は砂岩である。いずれも覆土から出土した。

時　期：出土土器より、縄文時代中期後半～後期前葉の可能性がある。（福井）



図Ⅴ－30　H－7の遺物

Ｈ－10（図Ⅴ－29、表Ⅴ－２・４、図版34）

立　地：調査区南側の無名の沢に突出した平坦部。

確　認：Ｋ－７・８グリッドを８ラインにベルトを残しながらⅤ層上面まで掘り下げた結果、確認した。そのため、床面のみの検出で、ベルト部分以外の壁の立ち上がりは不明である。当初は土坑としていたが、規模から住居跡とした。

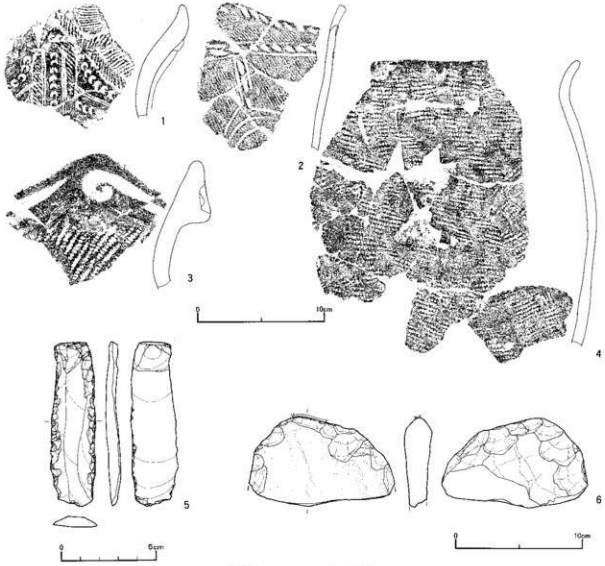
覆　土：土層はⅢ＋Ⅳ層からなる土層で、屋根土の崩落による堆積とみられる。

時　期：出土土器より、縄文時代後期前葉の可能性がある。　（福井）

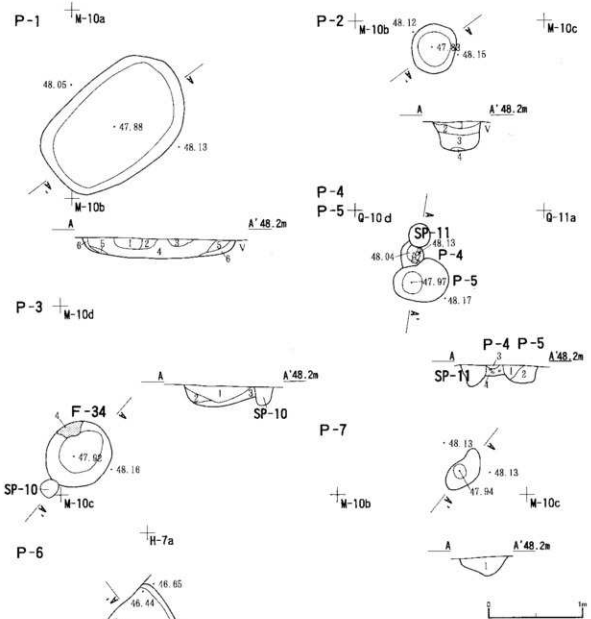
（２）土　坑（図Ⅴ－32～48、表Ⅴ－２・４～７、図版35～42・49～51）

分布は、Ｋ・Ｌ－４・５、Ｎ－７・８において、集中している。また、Ｍ－10、Ｐ－８・９においてもややまとまっている。

特徴的なものとしては、覆土上位に焼土があるもの（Ｐ－６・16・18・27・43・46・71・74）、礫が多数含まれるもの（Ｐ－38・46・47・59・60・67・68）、礫が単体ないし２・３個で含まれるもの（Ｐ－８・９・10・13・14・15・20・21・37・42・47・74・77）、土器等が含まれるもの（Ｐ－４・25・32）

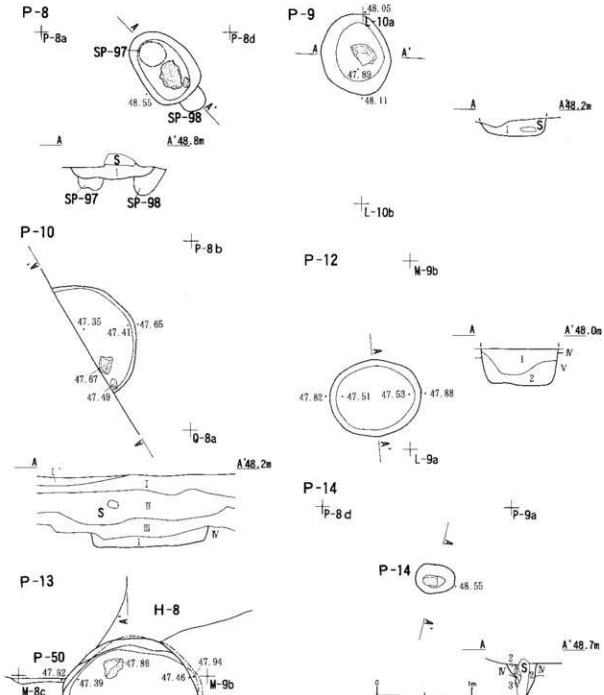


図Ⅴ－31　Ｈ－９の遺物



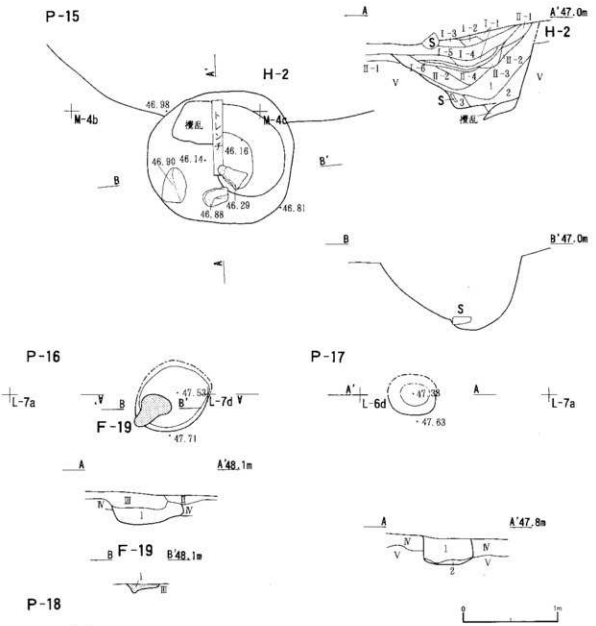
遺構名	層名	土色1	土色2	粘性	堅密度	その他
P-1	1	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム ブロック・ローム粒・焼土粒20%
	2	10YR2/3	黒褐色	強	堅	ローム粒・焼土粒5%
	3	10YR3/3	暗褐色	弱	堅	ローム ブロック・焼土ブロック30%
	4	10YR3/3	暗褐色	弱	堅	ローム粒・炭化材15%
	5	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒15%
	6	10YR3/3	暗褐色	弱	堅	ローム ブロック30%
P-2	1	10YR3/3	暗褐色	強	堅	ローム ブロック・ローム粒・焼土粒10%
	2	7.5YR3/4	暗褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック10%
	3	7.5YR4/4	褐色	弱	堅	ローム ブロック・ローム粒 ブロック30%
	4	10YR1.7/1	黒色	強	堅	一部5YR4/6赤褐色の粘土
P-3・F-34	1	10YR2/1	黒色	弱	すこぶる堅	ローム粒・炭化材5%
	2	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒15%
	3	10YR3/3	暗褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック30%
	4	5YR3/6	暗赤褐色	弱	堅	炭化材3%、焼土、土層2中
P-4・5	1	10YR3/3	暗褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒15%
	2	10YR3/3	暗褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック・ローム粒・焼土粒30%
	3	10YR3/3	暗褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒15%
	4	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒・炭化材20%
P-6	1	10YR2/3	黒褐色	弱	堅	ローム ブロック1%
F-10	1	5YR3/2	赤褐色	弱	堅	焼土
	2	5YR3/4	暗赤褐色	弱	堅	小礫混、焼土
P-7	1	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒20%

図Ⅴ－32　P－1～7、F－10・34



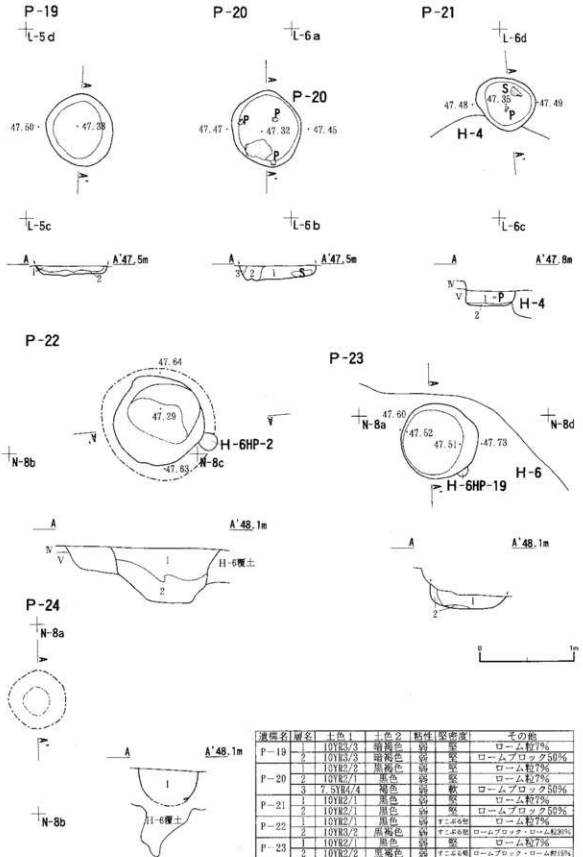
遺構名	層名	土色１	土色２	粘性	堅密度	その他
P－8	1	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒5%
P－9	1	10YR1.7/1	黒色	弱	軟	
P－10	1	10YR3/3	暗褐色	弱	堅	ローム粒3%
P－12	1	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	Ⅲ≫Ⅳ
	2	10YR3/2	黒褐色	中	堅	φ3cmローム・褐色土塊20%
P－13	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	中	やこまる堅	Ⅱ＋Ⅴ(白色)，炭化物1%
	2	10YR2/2	黒褐色	中	軟	ローム粒3%、炭化物3%
	3	10YR4/4	褐色	中	軟	Ⅳ＋Ⅴ＋Ⅲ
	4	10YR2/3	黒褐色	中	軟	ローム粒10%、炭化物5%
	5	2.5Y6/6	明黄褐色	中	軟	≒Ⅴ(白色)
	6	2.5Y5/4	黄褐色	中	軟	よごれたⅤ(白色)
	7	10YR2/1	黒色	中	やこまる堅	ローム粒1%、炭化物1%
	8	10YR2/3	黒褐色	中	堅	ローム粒10%、炭化物5%
P－14	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	弱	軟	ロームブロック10%
	2	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒3%
	3	10YR6/6	明黄褐色	弱	軟	ロームブロック

図Ⅴ－33　Ｐ－８～10、12～14



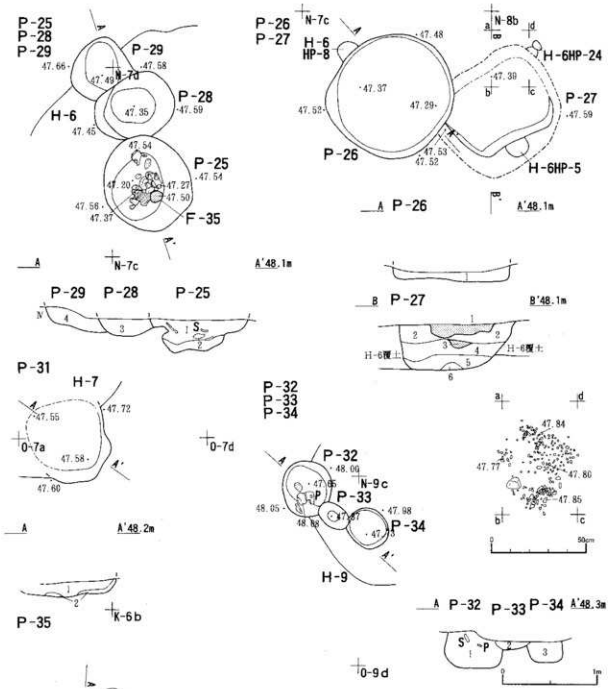
遺構名	層名	土色1	土色2	粘性	堅密度	その他
P-15	I-1	10YR2/1	黒色	弱	軟～堅	
	I-2	10YR2/2	黒褐色	弱	軟～堅	(-1≫Ko-d
	I-3	10YR3/2	黒褐色	弱	軟～堅	(-1≪Ko-d
	I-4	10YR2/1	黒色	弱	軟	I>Ko-d、Ko-d鉄状に30%
	I-S	2.5Y4/2	暗灰黄色	なし	軟	不明火山灰
	I-6	2.5Y3/1	黒褐色	中	軟	
	II-1	10YR4/3	にぶい黄褐色	弱	堅	B-Tm+II
	II-2	10YR5/8	黄褐色	なし	すこぶる堅	B-Tm
	II-3	10YR4/2	灰黄褐色	中	軟	B-Tm+II
	II-4	10YR5/4	にぶい黄褐色	なし	すこぶる堅	B-Tm
	1	10YR3/1	黒褐色	中	堅	ローム粒1%、炭化物1%、ホ環土の痕跡
	2	10YR3/1	黒褐色	中	軟	必3cmローム塊10%
	3	10YR3/2	黒褐色	中	すこぶる堅	必3cmローム塊5%、炭化物おびただ
P-16	1	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒・炭化材5%
P-19	1	5YR3/4	暗赤褐色	弱	堅	焼土
P-17	1	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒5%
	2	10YR3/3	暗褐色	弱	堅	ロームブロック50%
P-18・F-21	1	5YR3/2	暗赤褐色	弱	軟	焼土
	2	10YR2/1	黒色	弱	堅	ロームブロック・ローム粒20%
	3	10YR1.7/1	黒色	弱	堅	ローム粒3%

図V－34　P－15～18、F－19・21



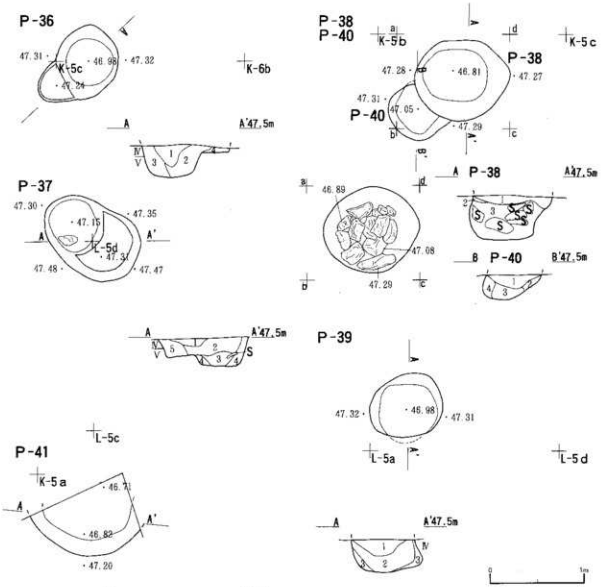
遺構名	層名	土色１	土色２	粘性	堅密度	その他
P－19	1	10YR3/3	暗褐色	弱	堅	ローム粒7%
	2	10YR2/3	黒褐色	弱	軟	ロームブロック50%
P－20	1	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒7%
	2	10YR3/1	黒色	弱	軟	ローム粒7%
	3	7.5YR4/4	褐色	弱	軟	ロームブロック50%
P－21	1	10YR2/1	黒色	弱	軟	ローム粒7%
	2	10YR2/1	黒色	弱	軟	ロームブロック50%
P－22	1	10YR2/1	黒色	弱	すこぶる軟	ローム粒7%
	2	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる軟	ロームブロック・ローム粒30%
P－23	1	10YR2/1	黒色	弱	堅	ローム粒7%
	2	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる軟	ロームブロック・ローム粒15%
P－24	1	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる軟	ロームブロック・ローム粒7%

図Ⅴ－35　P－19～24



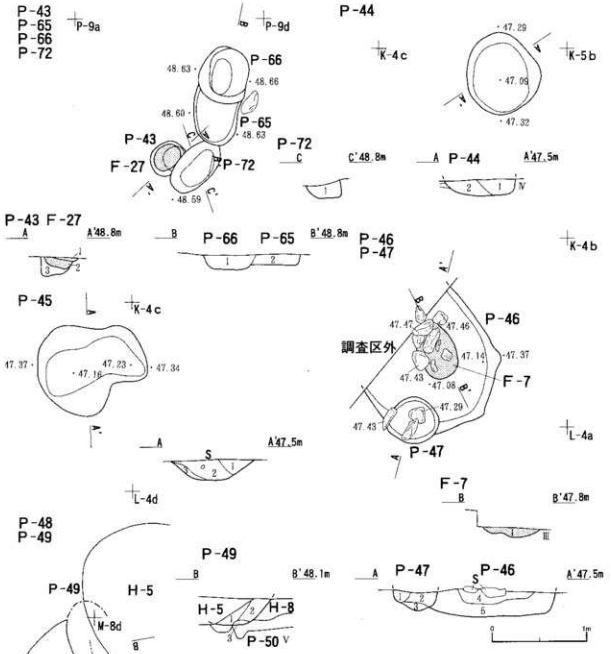
遺構名	層名	土色1	土色2	粘性	堅密度	その他
P-25・28・29	1	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム ブロック・ローム粒7%
	2	10YR5/4	にぶい黄褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック・クロボク ブロック10%
	3	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒7%
	4	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒3%
P-26	1	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム ブロック・ローム粒・炭化材3%
P-27	1	7.5YR3/3	暗褐色	弱	すこぶる堅	炭化材25%、F-17
	2	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒・炭化材5%
	3	7.5YR3/3	暗褐色	弱	堅	炭化材15%、焼土
	4	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒・炭化材7%
	5	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック30%
	6	10YR2/1	黒色	弱	堅	ローム ブロック15%
P-31	1	10YR1.7/1	黒色	弱	堅	ローム粒3%
	2	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム ブロック30%
P-32・33・34	1	10YR1.7/1	黒色	弱	堅	ローム粒・炭化材5%
	2	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒・炭化材7%
	3	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒・炭化材15%
	4	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム ブロック・ローム粒・炭化材30%
P-35	2	10YR1.7/1	黒色	弱	すこぶる堅	ローム粒・炭化材3%
	3	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム ブロック20%

図Ⅴ－36　P－25～29、31～35



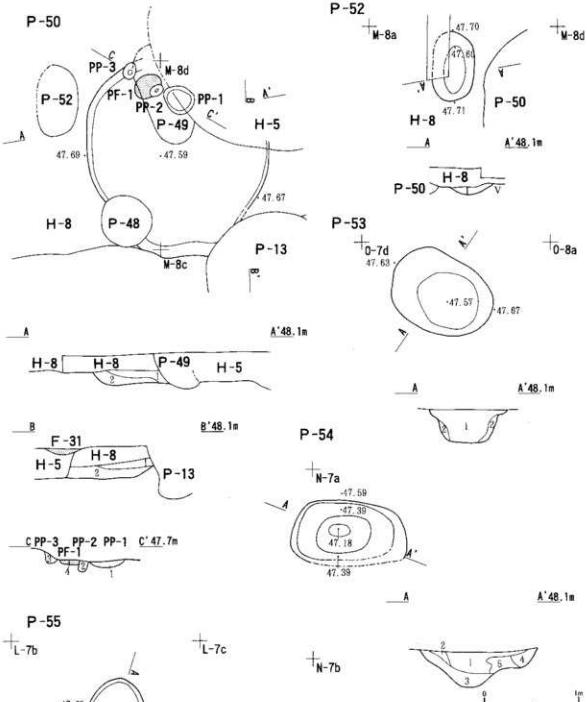
遺構名	層名	土色1	土色2	軟性	堅密度	その他
P－36	1	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒15%
	2	10YR2/1	黒色	弱	軟	ローム粒5%
	3	10YR1.7/1	黒色	弱	軟	ローム粒7%
	4	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ロームブロック・ローム粒7%
P－37	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	弱	すこぶる堅	ロームブロック
	2	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ロームブロック・ローム粒20%
	3	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒7%
	4	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ロームブロック20%
	5	10YR2/1	黒色	弱	堅	ローム粒3%
P－38	1	10YR1.7/1	黒色	弱	堅	ローム粒5%
	2	10YR2/1	黒色	弱	堅	ロームブロック50%
	3	10YR2/1	黒色	弱	堅	ローム粒25%
P－39	1	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒7%
	2	10YR2/1	黒色	弱	すこぶる堅	ローム粒5%
	3	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ロームブロック20%
P－40	1	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ロームブロック・ローム粒33%
	2	10YR3/4	暗褐色	弱	軟	ロームブロック・ローム粒30%
	3	10YR3/3	暗褐色	弱	軟	ロームブロック40%
	4	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒30%
P－41	1	10YR2/1	黒色	弱	軟	ローム粒3%
	2	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ロームブロック・ローム粒・砂粒85%
	3	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ロームブロック50%
	4	10YR1.7/1	黒色	弱	軟	ローム粒7%
P－42	1	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ロームブロック20%
	2	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒15%
	3	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ロームブロック25%

図Ⅴ－37　P－36～42



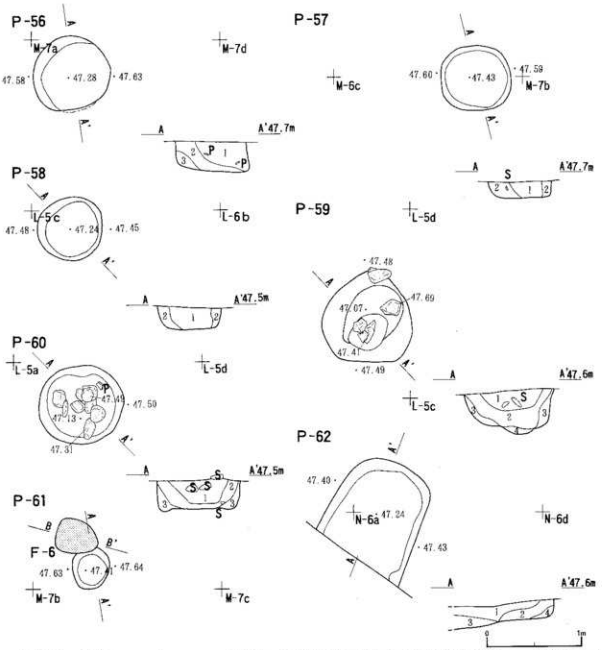
遺構名	層名	土色1	土色2	粘性	堅密度	その他
P-43・F-27	1	10YR3/3	暗褐色	弱	堅	ローム粒3%
	2	5YR4/4	にぶい赤褐色	弱	堅	焼土
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	弱	堅	ロームブロック・ローム粒15%
P-44	1	10YR2/2	黒色	弱	軟	ローム粒5%
	2	10YR1.7/1	黒色	弱	軟	ローム粒3%
P-45	1	10YR2/1	黒色	弱	軟	ローム粒・炭化材5%
	2	10YR1.7/1	黒色	弱	軟	ローム粒3%
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	弱	軟	ロームブロック50%
P-46・47	1	10YR2/1	黒色	弱	堅	ロームブロック・ローム粒・炭化材7%
	2	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒3%
	3	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ロームブロック15%
	4	10YR2/1	黒色	弱	軟	ローム粒・炭化材3%
	5	10YR3/3	暗褐色	弱	軟	ロームブロック・ローム粒・焼土材2%
F-7	1	2.5YR4/4	赤褐色	—	—	炭化材含む、焼土
P-65・66	1	10YR3/1	黒褐色	弱	堅	ロームブロック・ローム粒・炭化材10%
	2	10YR2/1	黒色	弱	堅	ローム粒・炭化材15%
P-48	1	10YR1.7/1	黒色	弱	軟	ローム粒5%
P-49	1	10YR2/1	黒色	弱	軟	ローム粒5%
	2	10YR2/3	黒褐色	弱	堅	ローム粒3%
	3	10YR2/1	黒色	弱	堅	ローム粒3%
P-72	1	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒・炭化材10%

図Ⅴ－38　P－43～49・65・66・72、F－27



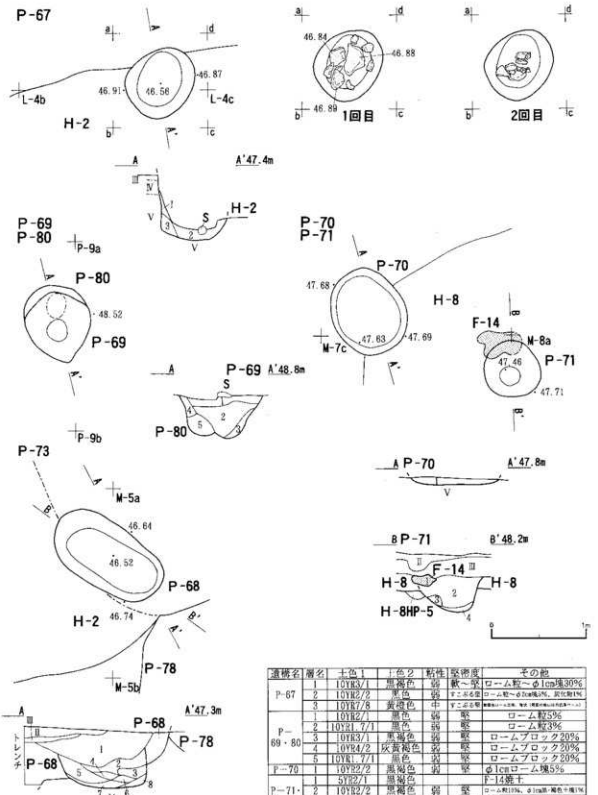
遺構名	層名	土色１	土色２	粘性	堅密度	その他
P－50	1	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム小粒多、ローム粒ローム塊5%
	2	2.5Y4/2	暗灰黄褐色	中	すこぶる堅	2.5Y4/2ローム土に黒色ローム土の斑点多く、ローム粒5%
P－50 PF-PP	1	10YR3/1	黒褐色	中	軟	ローム粒30%
	2	10YR2/1	黒色	弱	軟～堅	ローム粒3%
	3	10YR2/1	黒色	弱	軟	φ1cm白色ローム塊1%
	4	7.5YR5/8	明赤褐色	弱	すこぶる堅	焼土、φ1cmローム塊20%
P－52	1	10YR1.7/1	黒色	弱	軟	下端に炭化粒5%
P－53	1	10YR2/1	黒色	弱	堅	ローム粒・炭化材15%
	2	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ロームブロック25%
P－54	1	10YR1.7/1	黒色	弱	堅	ローム粒5%
	2	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒7%
	3	10YR2/1	黒色	弱	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	4	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒7%
	5	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒15%
P－55	1	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒7%
	2	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ロームブロック50%

図Ⅴ－39　P－50・52～55



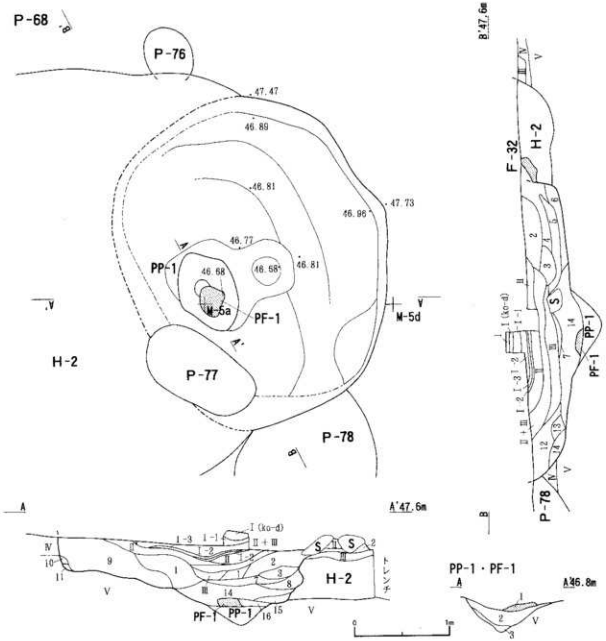
遺構名	層名	土色1	土色2	粘性	堅密度	その他
P-56	1	10YR1.7/1	黒色	弱	軟	ローム粒15%
	2	10Y2/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒15%
	3	10Y2/1	黒色	弱	軟	ロームブロック・ローム粒7%
P-57	1	10Y2/1	黒色	弱	軟	ローム粒10%
	2	10YR1.7/1	黒色	弱	軟	ローム粒7%
P-58	1	10YR2/1	黒色	弱	軟	ローム粒15%
	2	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ロームブロック・ローム粒・炭化粒5%
P-59	1	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる軟	ローム粒7%
	2	10YR2/1	黒色	弱	すこぶる軟	ロームブロック・ローム粒5%
	3	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる軟	ロームブロック20%
	4	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ロームブロック20%
P-60	1	10YR3/3	暗褐色	弱	軟	ローム粒15%
	2	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒7%
	3	10YR3/3	暗褐色	弱	軟	ロームブロック・ローム粒20%
P-61	1	10Y2/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒5%
	2	10Y3/2	黒褐色	弱	すこぶる軟	ロームブロック20%
F-6	1	2.5Y3/6	暗赤褐色	-	-	器2.5YR4/8赤褐色、鱗十
P-62	1	10Y3/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒3%
	2	10Y2/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒7%
	3	10Y2/1	黒色	弱	軟	ローム粒2%
	4	10YR4/6	褐色	弱	軟	ロームブロック50%
P-63	1	10Y2/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒7%
	2	10Y3/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒・炭化粒15%

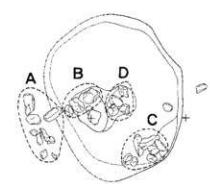
図Ⅴ－40　P－56～63、F－6



遺構名	層名	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	その他
P-67	1	10YR3/1	黒褐色	弱	軟～堅	ローム粒～φ1cm塊30%
	2	10YR2/2	黒色	弱	すこぶる堅	ローム粒～φ2cm塊5%、炭化物1%
	3	10YR7/8	黄褐色	中	すこぶる軟	粘質ローム主体、粒子均質のためスポット
P－69・80	1	10YR2/1	黒色	弱	軟	ローム粒5%
	2	10YR1.7/1	黒色	弱	軟	ローム粒3%
	3	10YR3/1	黒褐色	弱	軟	ロームブロック20%
	4	10YR4/2	灰黄褐色	弱	堅	ロームブロック30%
	5	10YR1.7/1	黒色	弱	堅	ロームブロック50%
F－70	1	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	φ1cmローム塊5%
P－71・F－14	1	5YR2/1	黒褐色			F-14焼土
	2	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒10%、φ1cm炭・褐色土塊1%
	3	10YR3/1	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒10%、φ1cm炭・褐色土・ローム塊5%
	4	2.5Y4/2	暗灰黄褐色	中	堅	褐色土とロームの混状混合し、炭化物1%
F－73	1	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒10%、炭化物3%、φ1.5cm塊5%
	2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒30%、炭化物1%
	3	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒20%
	4	2.5Y3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒50%
	5	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒10%、炭化物1%
	6	2.5Y5/4	黄褐色	中	すこぶる堅	土層4とロームの混状混合土
	7	2.5Y3/1	黒褐色	中	軟	ローム粒～φ1cm塊10%
	8	10YR1.7/1	黒色	弱	すこぶる堅	φ～5cmローム塊5%

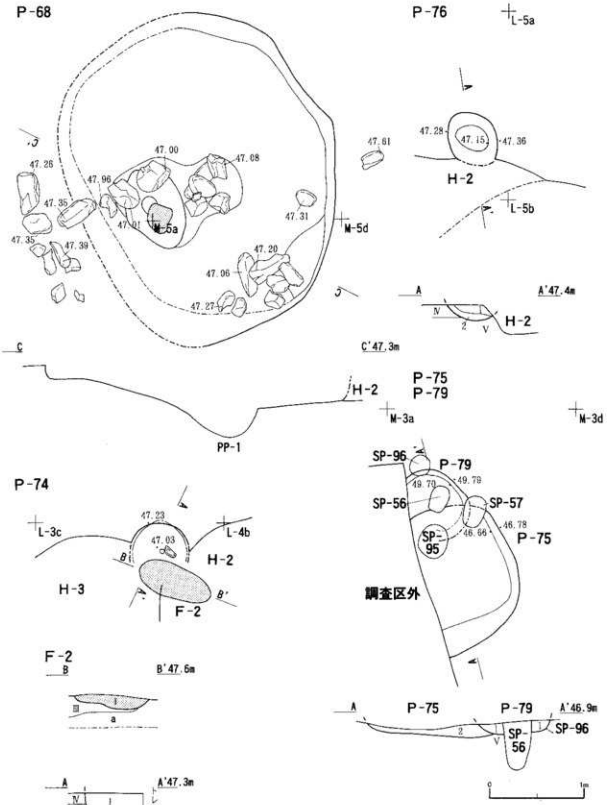
図Ⅴ－41　P－67・69～71・73・80、F－14





遺構名	層名	土色2	土色1	粘性	堅密度	その他
	I－1	10YR3/3	暗褐色	弱	堅	Ko-d＋褐色土
	I－2	10YR1.7/1	黒色	弱	軟	Ko-dがごくわずか
	I－3	2.5Y4/2	暗灰黄色	なし	軟	不明火山灰
	II＋III	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	
P－68	1	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒50%、炭化物1%
	2	10Y3/4	褐色	弱	堅	ローム粒30%
	3	2.5Y5/4	黄褐色	中	すこぶる堅	褐色土＋ローム
	4	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒30%、炭化物1%
	5	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	中	軟	ローム土＋暗4の炭状混合土
	6	10YR2/1	黒褐色	強	堅	φ5mm礫5%
	7	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒20%、炭化物2%
	8	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒10%、炭化物1%
	9	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒20%
	10	10YR3/4	暗褐色	弱	軟	ローム粒50%
	11	10YR2/1	黒色	中	軟	
	12	10YR3/3	暗褐色	弱	堅	ローム粒10%
	13	10YR3/3	暗褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒30%
	14	10YR3/1	黒褐色	中	すこぶる堅	ローム粒10%、白色ローム塊20%
	15		灰黄褐色			
	16	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒20%、炭化物1%
P－68	1	5YR4/8	赤褐色	なし	すこぶる堅	焼土。強状
PP・PF	2	10YR5/6	黄褐色	中	すこぶる堅	白色土粒状ローム（焼酒の為）10%以上含ぶ一ム
	3	2.5Y3/2	黒褐色	中	軟	

図V－42　P－68（1）



遺構名	層名	土色2	土色1	粘性	堅密度	その他
P－74	1	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒30%、φ1mm黄色土塊5%
P－75・79	1	10YR3/1	黒褐色	中	堅	ローム粒10%、炭化物1%
	2	10YR2/1	黒色	弱	堅	ローム粒5%
P－76	1	10YR2/1	黒色	弱	軟	ローム粒20%
	2	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒20%
F－2	1	2.5YR4/8	赤褐色			遺物即ち焼土粒多く、遺構確定されず
	a	7.5YR3/3	暗褐色			やや粘性あり。F-74覆土か？

図Ⅴ－43　Ｐ－68（２）・74～76・79、Ｆ－２

がある。このうちP－6・27は焼土と共に砂利も見られた。また、P－14では石皿（図Ⅴ－46－18）が立った状態で埋設されていた。形態では、P－13がフラスコ状を呈していた。

これらの所属時期であるが、遺物からは、坑底から中期前半の土器が出土しているもの（P－15・22・26・74）、覆土からまとまって中期前半の土器が出土しているもの（P－25）、坑底から中期後半の土器が出土しているもの（P－4）、覆土からまとまって中期後半の土器が出土しているもの（P－32）、覆土からまとまって後期前葉の土器が出土しているもの（P－4）などがある。ただ、重複関係からみると、住居より古いとみられるものは少なく、ほとんどが後期前葉に構築されたものと考えられる。

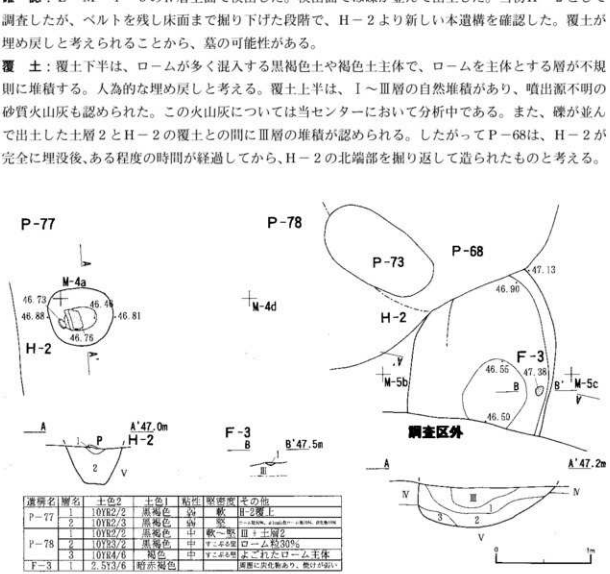
なお、P－52出土として掲載したⅢ群b類土器は、本来はH－8覆土であるベルトからの出土の可能性がある。また、P－24のように遺構覆土上面から掘り込まれたものは、坑底がローム層に達していないものがある。このような例は、調査時に見逃しているものもあると思われる。　（福井）

P－68（図Ⅴ－42・43・48、表Ⅴ－2・4・7、図版41・42・51）

立　地：調査区南側の無名の沢に突出した平坦部。

確　認：L・M－4・5のⅣ層上面で検出した。検出面では礫が並んで出土した。当初H－2として調査したが、ベルトを残し床面まで掘り下げた段階で、H－2より新しい本遺構を確認した。覆土が埋め戻しと考えられることから、墓の可能性がある。

覆　土：覆土下半は、ロームが多く混入する黒褐色土や褐色土主体で、ロームを主体とする層が不規則に堆積する。人為的な埋め戻しと考える。覆土上半は、Ⅰ～Ⅲ層の自然堆積があり、噴出源不明の砂質火山灰も認められた。この火山灰については当センターにおいて分析中である。また、礫が並んで出土した土層2とH－2の覆土との間にⅢ層の堆積が認められる。したがってP－68は、H－2が完全に埋没後、ある程度の時間が経過してから、H－2の北端部を掘り返して造られたものと考える。



遺構名	層名	土色2	土色1	粘性	堅密度	その他
P－77	1	10YR2/2	黒褐色	有	軟	H－2覆土
	2	10YR2/3	黒褐色	有	軟	ローム粒20%、φ1mm黒ボク土粒20%、焼土粒10%
	1	10YR2/2	黒褐色	中	軟～堅	Ⅲ＋土層2
P－78	2	10YR3/2	黒褐色	中	すこぶる堅	ローム粒30%
	3	10YR4/6	褐色	中	すこぶる堅	ほぼ全てローム主体
F－3	1	2.5YR/6	明赤褐色	－		炭化物に焼土多あり。粒が多い

図Ⅴ－44　P－77・78、F－3

構　造：Ｈ－２と重複する南半部の抗底はＨ－２床面とほぼ同レベルで平坦。北半部の抗底は中央へ傾斜しており、わずかに段がある。北東側の壁際の一部はテラス状に平坦な部分がある。

坑底では、付属土坑ＰＰ－１と焼土ＰＦ－１が検出された。ＰＰ－１の覆土はローム主体で、土坑本体の覆土と異なる。埋め戻しと考える。隣接して、礫を置いた浅い皿状の窪みが認められた。ＰＦ－１はＰＰ－１の覆土上面で検出されたもので、ＰＰ－１の埋め戻し後に形成されたものである。

遺物出土状況：検出面から坑底にかけて、人頭大前後の礫が20数点出土した。礫は４つのまとまりがある（Ａ～Ｄ）。礫Ａは検出面で出土したもので、埋め戻し後に置かれたと考えられる。礫Ｂは覆土の中位から出土した。礫Ｃは北西壁際の坑底直上、テラス状の部分に置かれたもので、石皿が１点含まれる。礫Ｄは土坑中央の坑底を掘り込んで置かれたものである。なお、覆土から出土した遺物については、ベルト部分以外はＨ－２として取り上げられているが、調査段階では、礫の周辺からⅣ群土器が出土するのを確認している。

時　期：縄文時代中期前半のＨ－２の埋没後に構築されていることと、覆土から出土した遺物から、縄文時代後期の可能性が高い。（柳瀬）

土坑出土の遺物（図Ⅴ－45～48、表Ⅴ－５～７、図版49～51）

土　器：図Ⅴ－45－１はＰ－15とＨ－２の覆土出土資料が接合したⅢ群a類土器。２はＰ－４出土のⅣ群ａ類土器。３はＰ－22出土のⅢ群ｂ類土器。４～６はＰ－25出土のⅢ群ａ類土器。円筒上層ｂ式に相当するものである。７～９はＰ－27出土のⅣ群ａ類土器。７・８は同一個体で、白坂３式に相当するもの。10はＰ－52出土のⅢ群ｂ類土器。11～14はⅢ群ａ類土器で、11はＰ－61、12はＰ－68、13はＰ－75、14はＰ－78のそれぞれ覆土から出土した。11～14はサイベⅦ式に相当するものである。

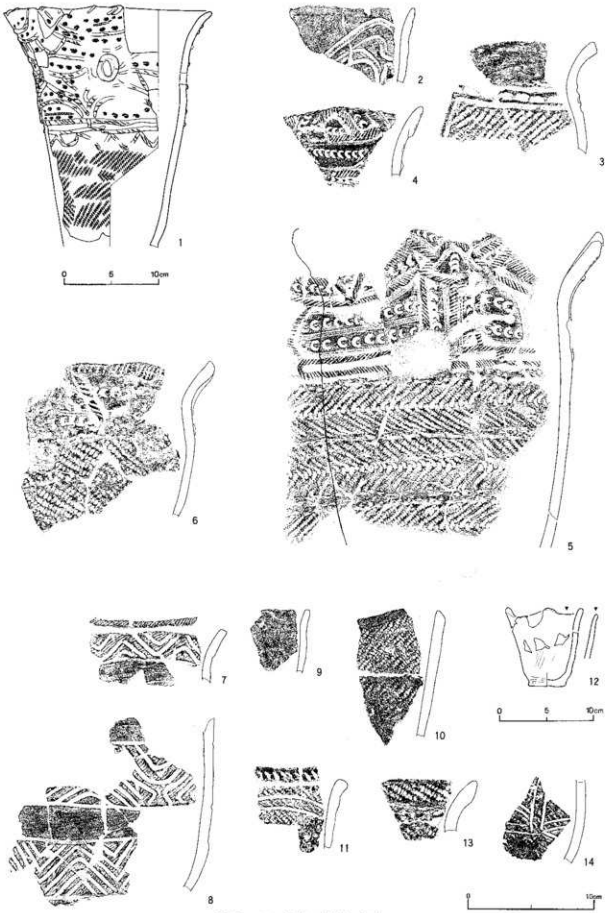
石　器：15はＰ－４坑底出土のスクレイパーである。両面の周縁部に軽微な刃部加工がなされている。欠損している。石材は頁岩である。16・17はＰ－13の遺物である。16は覆土出土の台石で、欠損している。石材は安山岩である。17は坑底出土のすり石である。石材は砂岩である。18はＰ－14覆土出土の石皿である。平坦部が楕円形に凹んでいる。欠損している。石材は砂岩である。19・20はＰ－22の覆土の遺物である。19は有茎凸基の石鏃、20は平面形が箆状を呈したスクレイパーである。石材はいずれも頁岩である。21・22はＰ－15の遺物である。21は覆土出土のスクレイパー、22は坑底出土の石皿で欠損している。石材は21が頁岩、22は安山岩である。23はＰ－25覆土出土の安山岩製の北海道式石冠である。24はＰ－27覆土出土の頁岩の石核である。25・26はＰ－38覆土出土石皿である。いずれも欠損している。石材は25が安山岩、26は砂岩である。27はＰ－47覆土出土の石皿である。欠損している。石材は砂岩である。28はＰ－68覆土出土の石皿である。石材は砂岩である。29はＰ－73覆土出土のたたき石である。石材は砂岩である。30はＰ－77覆土出土の台石である。欠損している。石材は安山岩である。

（３）焼　土（図Ⅴ－49、表Ⅴ－２・４）

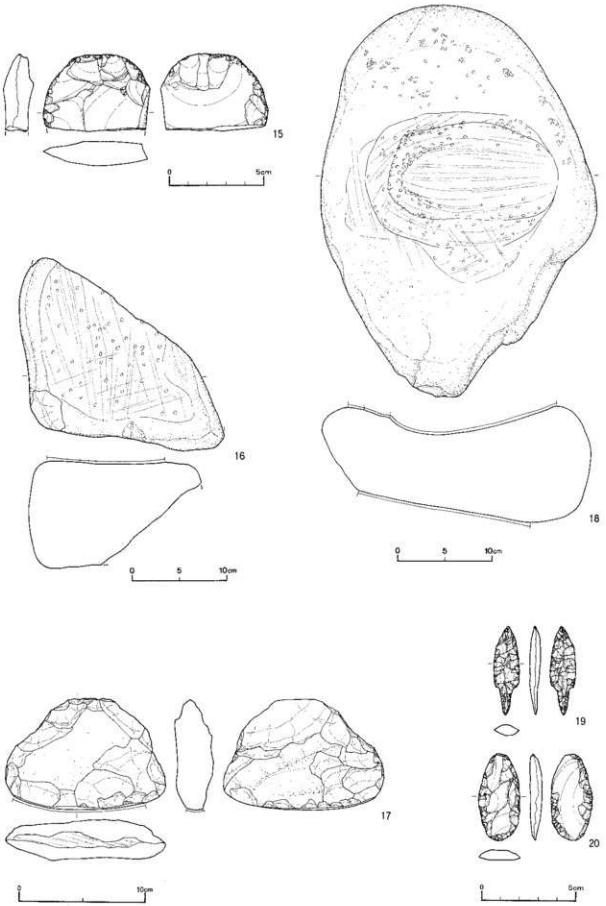
34か所検出された。遺構上位に位置するものが多く、特に住居跡では時期を異にする可能性が高いことから、すべて単独の焼土として遺構名を付けた。

住居跡や土坑の上位から検出された焼土は、28か所ある。ほとんどの住居跡上位には、焼土や石囲炉が検出された。特にＨ－６では規模も大きく、重層的であった。これらは、中期の可能性もあるが、ほとんどが後期前葉の時期と思われる。

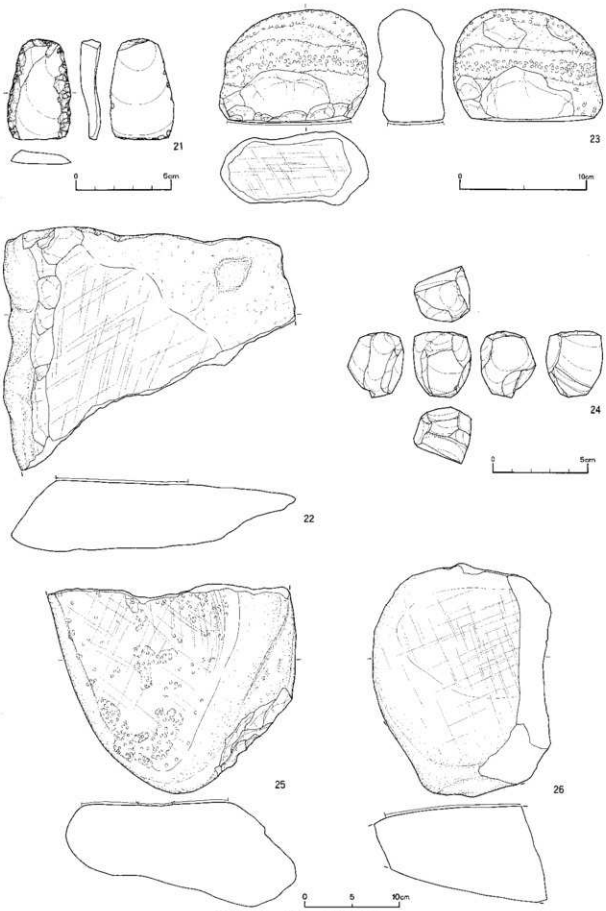
住居跡や土坑の上位に位置しない、単独の焼土は６か所と少ない。検出層位はⅢ層下部で、中期前半の可能性が考えられる。



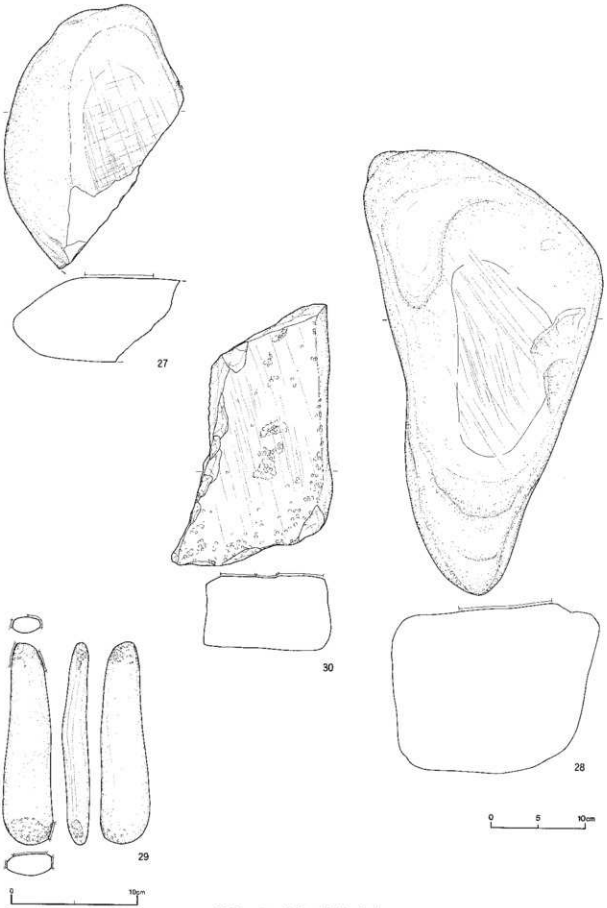
図Ⅴ－45　土坑の遺物（1）



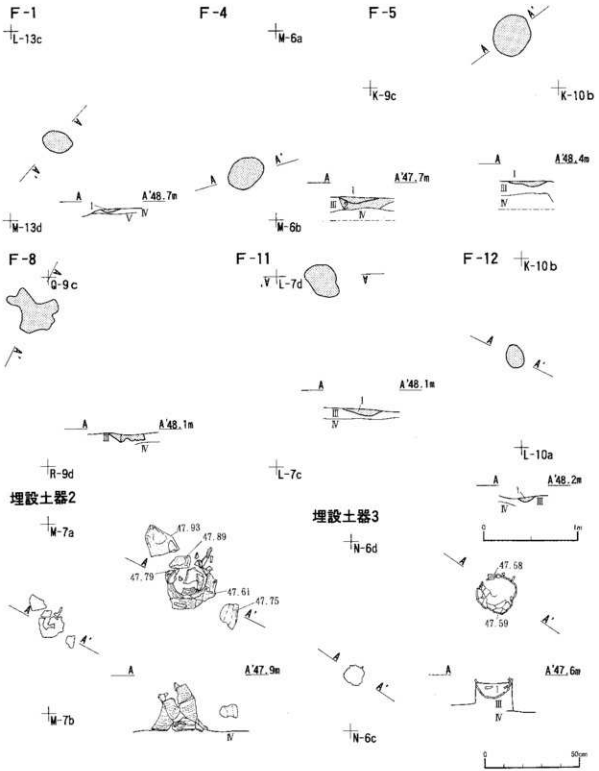
図Ⅴ－46　土坑の遺物（２）



図Ⅴ－47　土坑の遺物（3）

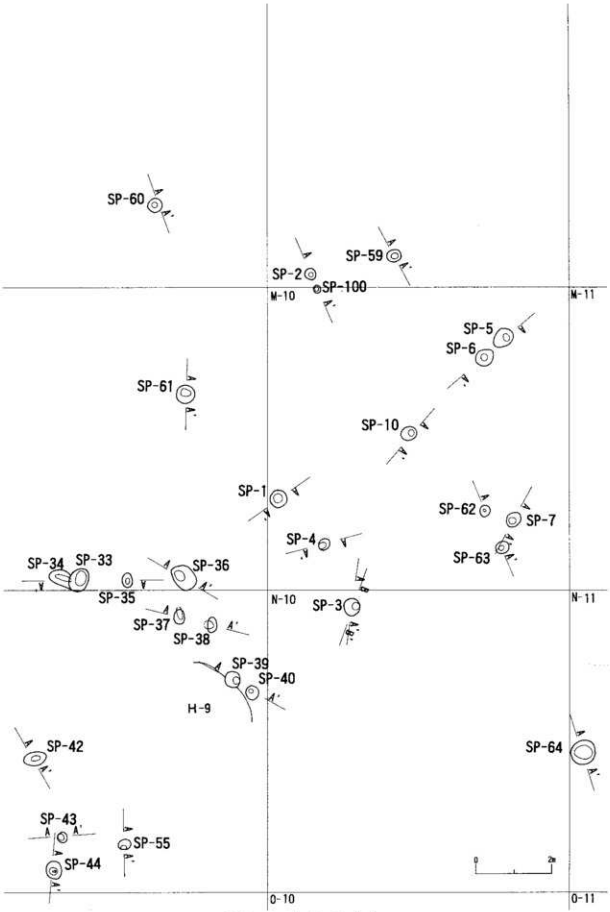


図Ⅴ－48　土坑の遺物（４）

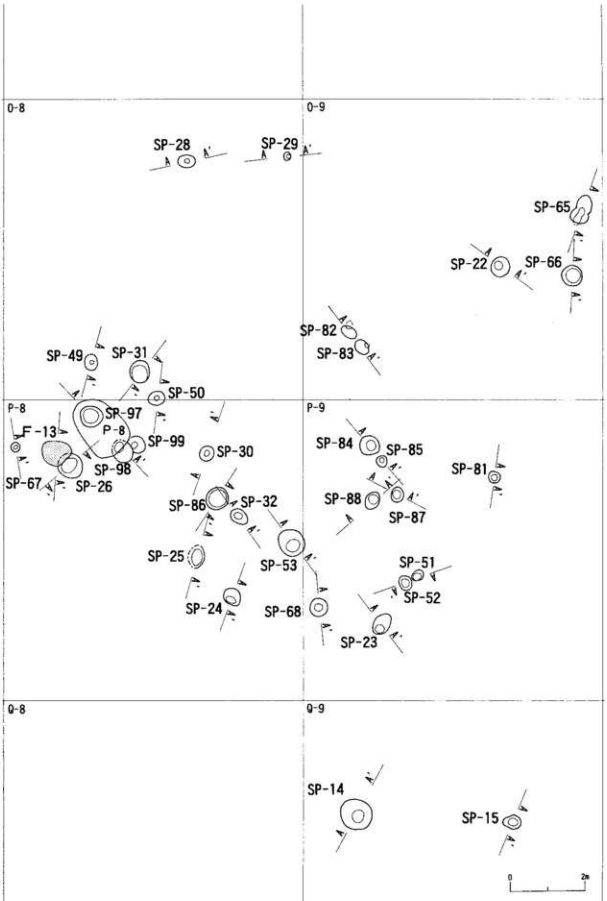


遺構名	層名	土色1	土色2	粘性	堅密度	その他
F-1	1	5YR4/6	赤褐色	弱	すこぶる粘	焼土
F-4	1	2.5YR5/8	明赤褐色	—	—	炭化材含む、焼土
	2	2.5YR3/6	暗赤褐色	—	—	焼土
F-5	1	2.5YR4/6	赤褐色	—	—	炭化材含む、焼土
F-8	1	5YR4/8	赤褐色	弱	すこぶる粘	炭化材3%、焼土
F-11	1	5YR4/8	赤褐色	弱	堅	焼土
F-12	1	5YR4/8	赤褐色	弱	堅	焼土
埋設土器3	1	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒3%

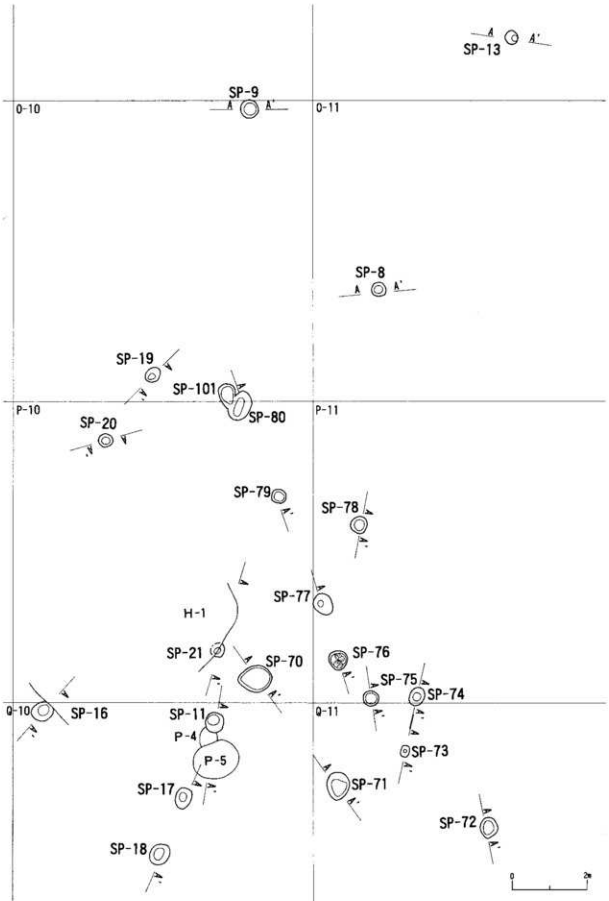
図Ⅴ－49　F－1・4・5・8・11・12、埋設土器2・3


SP-60
SP-59
SP-2
SP-100
M-10
M-11
SP-5
SP-6
SP-61
SP-10
SP-1
SP-62
SP-7
SP-4
SP-63
SP-34
SP-33
SP-36
SP-35
N-10
SP-3
N-11
SP-37
SP-38
SP-39
SP-40
H-9
SP-42
SP-64
SP-43
SP-55
SP-44
0-10
0-11

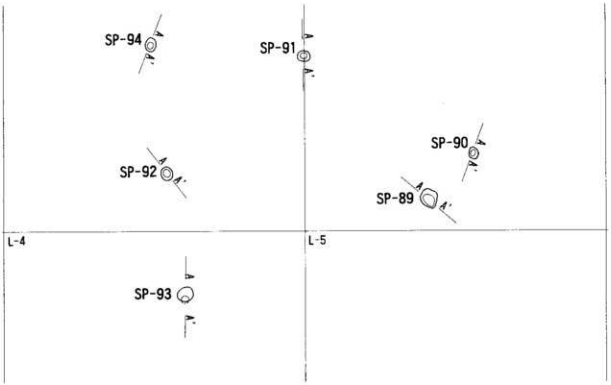
図Ⅴ－50　小ピット（１）

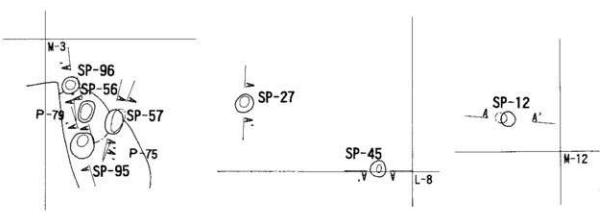

O-8
O-9
SP-28
SP-29
SP-65
SP-22
SP-66
SP-82
SP-83
SP-49
SP-31
SP-50
P-8
P-9
SP-97
F-13
P-8
SP-99
SP-30
SP-84
SP-85
SP-81
SP-98
SP-67
SP-26
SP-86
SP-32
SP-88
SP-87
SP-25
SP-53
SP-51
SP-52
SP-24
SP-68
SP-23
Q-8
Q-9
SP-14
SP-15
0
2m

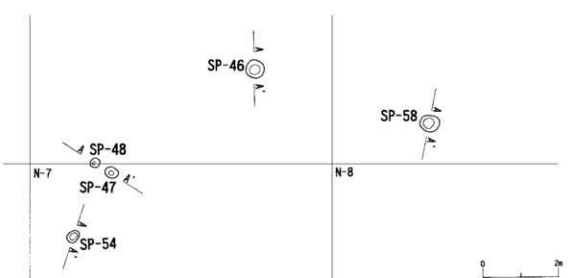
図Ⅴ－51　小ピット（2）


SP-13
SP-9
O-10
O-11
SP-8
SP-19
SP-101
SP-80
P-10
P-11
SP-20
SP-79
SP-78
SP-77
H-1
SP-21
SP-70
SP-76
SP-75
SP-74
Q-10
SP-16
SP-11
Q-11
P-4
P-5
SP-73
SP-17
SP-71
SP-72
SP-18
0
2m

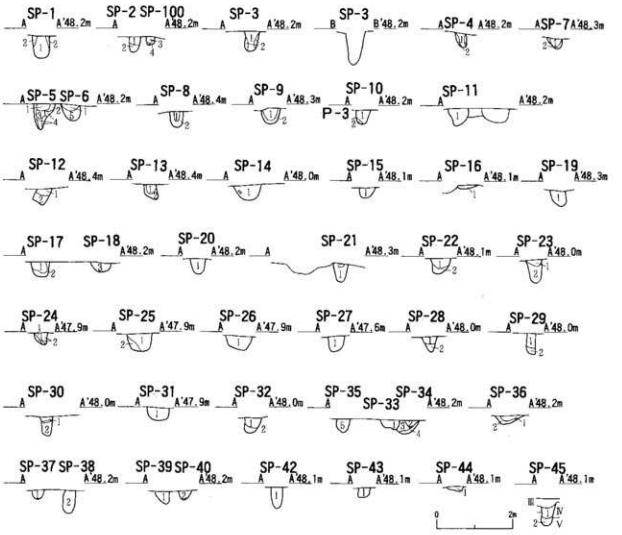
図Ⅴ－52　小ピット（３）


SP-94
SP-91
SP-90
SP-92
SP-89
L-4
L-5
SP-93


M-3
SP-96
SP-56
P-79
SP-57
P-75
SP-95
SP-27
SP-45
L-8
SP-12
M-12


SP-46
SP-58
SP-48
N-7
SP-47
N-8
SP-54
0
2m

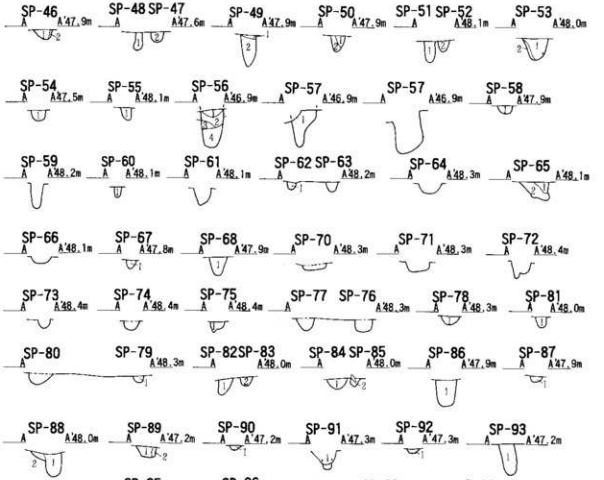
図Ⅴ－53　小ピット（4）



遺構名	層名	土色１	土色２	粘性	堅密度	その他
SP-1	1	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック・炭化材10%
	2	10YR3/4	暗褐色	弱	堅	ローム ブロック30%
	1	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム 粒30%
SP-2・100	2	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム ブロック10%
	3	10YR2/1	黒色	弱	堅	
	4	10YR3/3	暗褐色	弱	堅	ローム ブロック50%
SP-3	1	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック15%
	2	10YR3/3	暗褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック50%
SP-4	1	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック・炭化材7%
	2	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック40%
	1	10YR2/3	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム 粒・炭化材7%
SP-5・6	2	10YR2/4	褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック・ローム粒5%
	3	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック15%
	4	10YR4/3	にぶい黄色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック50%
	5	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック40%
SP-7	1	10YR1.7/1	黒色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック10%
	2	10YR3/1	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック50%
SP-8	1	10YR2/1	黒色	弱	すこぶる堅	ローム 粒25%
	2	10YR2/1	黒色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック50%
SP-9	1	10YR2/1	黒色	弱	すこぶる堅	ローム 粒5%
	2	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック30%
SP-10	1	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック10%
	2	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック20%
SP-11	1	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック・ローム粒25%
SP-12	2	10YR3/3	暗褐色	弱	すこぶる堅	
	3	10YR3/3	暗褐色	弱	すこぶる堅	ローム 粒20%
SP-13	1	10YR1.7/1	黒色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック・ローム粒15%
	2	10YR2/3	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック30%
SP-14	1	10YR1.7/1	黒色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック・ローム粒・炭化材5%
SP-15	1	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム ブロック15%
SP-16	1	10YR3/3	暗褐色	弱	すこぶる堅	ローム 粒・炭化材5%
SP-17・18	1	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム 粒15%
	2	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック30%
	3	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック・ローム粒20%

遺構名	層名	土色１	土色２	粘性	堅密度	その他
SP-19	1	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック7%
SP-20	1	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム 粒25%
SP-21	1	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム 粒・炭化材25%
SP-22	1	10YR2/1	黒色	弱	堅	ローム ブロック7%
	2	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム ブロック50%
SP-23	1	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	炭化材2%
	2	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム ブロック15%
SP-24	1	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム ブロック7%
	2	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム ブロック50%
SP-25	1	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム ブロック7%
	2	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム ブロック50%
SP-26	1	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム ブロック・ローム粒5%
SP-27	1	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム ブロック20%
SP-28	1	10YR1.7/1	黒色	弱	堅	ローム粒25%
	2	10YR1.7/1	黒色	弱	堅	ローム ブロック20%
SP-29	1	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム ブロック20%
	2	10YR3/2	黒褐色	弱	しまり	ローム粒10%
SP-30	1	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	炭化材2%
	2	10YR3/3	黒褐色	弱	堅	ローム ブロック50%
SP-31	1	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム ブロック・ローム粒5%
SP-32	1	10YR3/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒3%
	2	10YR3/3	暗褐色	弱	堅	ローム粒5%
SP-33・34・35	1	10YR2/1	黒色	弱	すこぶる堅	ローム粒3%
	2	10YR2/3	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック2%
	3	10YR2/1	黒色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック7%
	4	10YR1.7/1	黒色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック20%
	5	10YR2/1	黒色	弱	すこぶる堅	ローム粒5%
SP-36	1	10YR2/1	黒色	弱	すこぶる堅	ローム粒5%
	2	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック15%
SP-37・38	1	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック7%
	2	10YR2/1	黒色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック5%、炭化材5%
SP-39・40	1	10YR2/1	黒色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック・ローム粒10%
	2	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック7%
SP-42	1	10YR3/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック・ローム粒10%

図Ⅴ－54　小ピット（５）

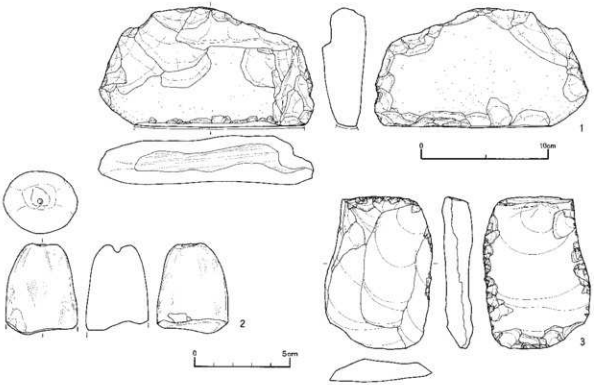


遺構名	層名	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	その他
SP-43	1	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム ブロック20%
SP-44	1	10YR2/2	黒褐色	弱	すこぶる堅	ローム粒5%
SP-45	1	10YR2/1	黒色	弱	堅	ローム ブロック10%
	2	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム ブロック30%
SP-46	1	10YR2/2	黒褐色	弱	堅	ローム粒・炭化材5%
	2	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム ブロック50%
SP-47・48	1	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒10%
	2	10YR2/1	黒色	弱	軟	ローム ブロック・ローム粒10%
SP-49	1	10YR2/1	黒色	強	軟	ローム粒2%
	2	10YR3/3	暗褐色	弱	軟	ローム粒5%
SP-50	1	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒3%
	2	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム ブロック15%
SP-51・52	1	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ローム ブロック・ローム粒10%
	2	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒3%
SP-53	1	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒3%
	2	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ローム ブロック20%
SP-54	1	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ローム ブロック・ローム粒10%
SP-55	1	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒5%
SP-56	1	10YR5/6	黄褐色	中	すこぶる軟	焼けたローム
	2	10YR3/1	黒褐色	中	軟	ローム粒10%、炭化材1%
	3	10YR3/4	暗褐色	中	軟	ローム粒30%
	4	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒20%
SP-57	1	10YR2/3	黒褐色	中	軟	ローム ブロック・ローム粒10%
SP-58	1	10YR2/1	黒色	弱	軟	ローム粒5%
SP-59	-	-	-	-	-	-
SP-60	1	10YR2/1	黒色	弱	軟	ローム ブロック・ローム粒15%
SP-61	-	-	-	-	-	-
SP-62	1	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒10%
SP-63	-	-	-	-	-	-
SP-64	-	-	-	-	-	-
SP-65	1	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒2%
	2	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒15%
SP-66	-	-	-	-	-	-
SP-67	1	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒7%

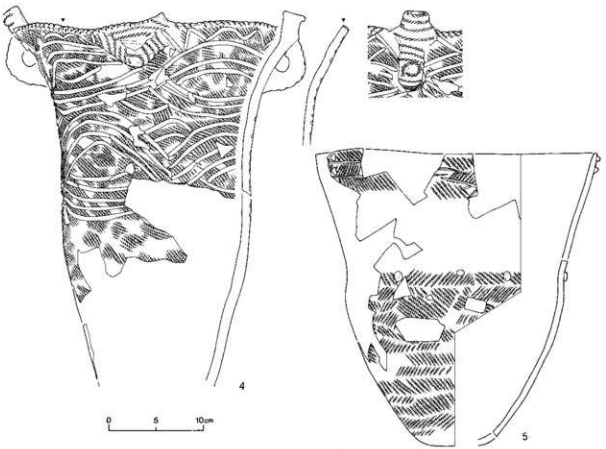
遺構名	層名	土色 1	土色 2	粘性	堅密度	その他
SP-68	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	-	-	-
SP-70	-	-	-	-	-	-
SP-71	-	-	-	-	-	-
SP-72	-	-	-	-	-	-
SP-73	-	-	-	-	-	-
SP-74	-	-	-	-	-	-
SP-75	1	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒10%
SP-76	-	-	-	-	-	-
SP-77	-	-	-	-	-	-
SP-78	1	10YR2/1	黒色	弱	軟	ローム粒10%
SP-79	1	10YR2/1	黒色	弱	軟	ローム粒10%
SP-80	-	-	-	-	-	-
SP-81	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	弱	軟	ローム粒2%
SP-82・83	1	10YR2/1	黒色	弱	軟	ローム ブロック・ローム粒5%
	2	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム ブロック・ローム粒10%
SP-84・85	1	10YR3/3	暗褐色	弱	軟	ローム粒5%
	2	10YR3/3	暗褐色	弱	軟	ローム粒5%
SP-86	1	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒・炭化材10%
SP-87	1	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ローム ブロック・炭化材5%
SP-88	1	10YR3/3	暗褐色	弱	軟	ローム ブロック・ローム粒・炭化材5%
	2	7.5YR5/8	明褐色	弱	軟	ローム粒・炭化材5%
SP-89	1	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム ブロック・ローム粒3%
	2	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ローム ブロック50%
SP-90	1	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム ブロック・ローム粒5%
SP-91	1	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ローム ブロック・ローム粒10%
SP-92	1	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒3%
SP-93	1	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ローム粒2%
SP-94	1	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ローム ブロック・ローム粒5%
SP-95	1	10YR2/1	黒褐色	弱	軟	ローム粒10%
SP-96	1	10YR2/1	黒褐色	弱	軟	ローム粒20%
SP-97・98	1	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム ブロック15%
	2	10YR2/2	黒褐色	弱	軟	ローム ブロック7%
	3	10YR3/2	黒褐色	弱	軟	ローム ブロック50%
F-13	1	5YR3/4	暗褐色	-	-	焼土

図Ⅴ−55　小ピット（6）

小ピットの遺物（１～３）



埋設土器（４・５）



図Ⅴ－56　小ピットの遺物、埋設土器

（4）小ピット（図Ⅴ－50～56、表Ⅴ－２・４・７、図版51・52）

Ｋ～Ｑ－８～11グリッドに集中していた。特にＰ－８・９でまとまり、Ｐ－14・43・66・65・69・72・80と関わりながら構築されたものとみられる。ただ、配列は明らかにできなかった。確認面は、Ⅳ層上面。坑底直径で５～20㎝、確認面からの深さ10～35㎝の規模にほとんどが収まる。出土遺物は、ＳＰ－２・14・29で後期中葉の土器、ＳＰ－14・28・35で中期後半の土器、ＳＰ－３・４・18・25・57・60・61・63・64・70で中期前半の土器が含まれていた。ただ、小ピットが集中する範囲からは後期前葉の土器が多く出土していることから、同時期の可能性を考えている。（福井）

小ピット出土の遺物（図Ⅴ－56、表Ⅴ－７、図版51・52）

石　器：図Ⅴ－56－１はＳＰ－14覆土出土のすり石である。平面形は台形を呈する。欠損している。すり面の幅は1.5㎝ほどである。石材は砂岩である。２はＳＰ－25覆土出土の石製品である。頂部が凹状に加工されている。石材は凝灰岩である。下部は欠損している。３はＳＰ－82覆土出土のスクレイパーである。背面上部・右側縁、腹面下部・両側縁に軽微な刃部調整加工が施されている。石材は頁岩である。

（5）埋設土器（図Ⅴ－56、表Ⅴ－５、図版43・52）

図Ⅴ－56－４は埋設土器２。Ⅲ群ａ類土器である。縄文地に沈線で文様を施すもので、サイベ沢Ⅶ式に相当するものである。内面は丁寧に磨かれている。５は埋設土器３。Ⅳ群ｃ類土器である。頸部に無文帯がある。口縁部と体部上縁に貼瘤文が施されている。

（6）Ｔピット（図Ⅴ－57・58、表Ⅴ－１、図版43）

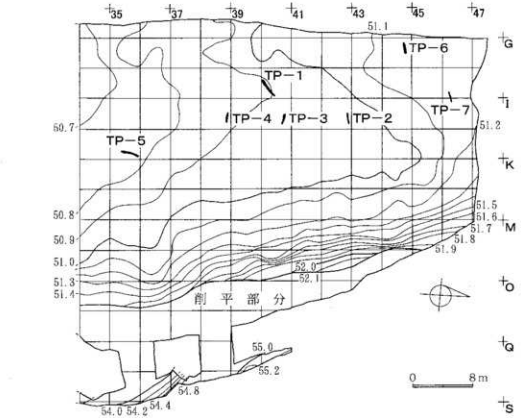
調査範囲北側、遺構確認調査のためⅤ層（ローム層）を10㎝ほどの深さまで重機で掘削した範囲で、Ｔピットを７基検出した。この周辺は緩やかな沢地形であり、地下水位が高く、ロームがグライ化している。規模等は表Ⅴ－１に記載した。３基は湧水のため計測値は水面でのものである。覆土は自然堆積である。底面長短比はすべて12以上であり、杭跡はない。湧水のあったＴピットの水面下を探ってみたが、深くなるにつれて幅が狭く先細りになる。平成14年度に当センターが調査した浜厚真３遺跡ではＴピットを173基検出し、534基検出した「苫小牧東部工業地帯の遺跡群」（佐藤ほか 1986・1987・1990・1991）との対比をはかるために「苫東分類」（大泉　1987）を若干手直しした基準によって分類している（山中　2003）。本書では、これらとの対比のため、Ａ型：長短比が９以上のもの（Ａ１：長径２ｍ以上、Ａ２：長径２ｍ未満）、Ｂ型：長短比が５～８のもの（Ｂ１：杭跡なし、Ｂ２：杭跡あり）、Ｃ型：長短比が４以下もの（Ｃ１：杭跡なし、Ｃ２：杭跡あり）、Ｄ型：長さ１ｍ、幅0.2ｍ前後の小規模なタイプで深さ0.5ｍ以下のもの、という基準で分類した。

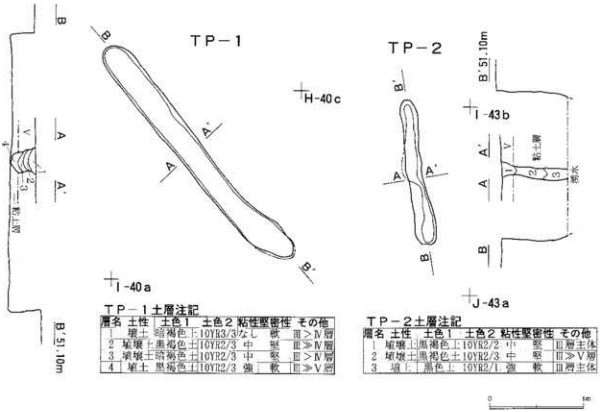
本遺跡で検出したものはいずれも底面長短比が９以上であり、長径２ｍ以上のものは２基、長径２ｍ未満もの５基である。前者はＡ１型、後者はＡ２型となる。（鎌田）

表Ⅴ－１　Ｔピット一覧

遺構名	調査区	確認面規模		底面規模		深さ(m)	長軸方向	底面長短比	分類
		長径(m)	短径(m)	長径(m)	短径(m)				
ＴＰ－１	H39ｄ，H40ａ・ｂ	2.92	0.28	2.93	0.18	0.28	Ｎ－37°－Ｅ	16.28	Ａ１
ＴＰ－２	I 42ｃ・ｄ	1.54	0.15	▲1.47	▲0.09	▲0.7	Ｎ－68°－Ｅ	▲16.33	Ａ２
ＴＰ－３	I 40ｃ	1.37	0.17	1.44	0.06	0.88	Ｎ－87°－Ｗ	24	Ａ２
ＴＰ－４	I 38ｃ・ｄ	1.39	0.3	1.37	0.03	0.63	Ｎ－82°－Ｅ	45.67	Ａ２
ＴＰ－５	J 35ｂ・ｃ	2.58	0.22	2.5	0.15	0.38	Ｎ－4°－Ｗ	16.67	Ａ１
ＴＰ－６	G 44ｄ	1.58	0.29	▲1.6	▲0.13	▲0.38	Ｎ－61°－Ｅ	▲12.31	Ａ２
ＴＰ－７	H 46ｂ・I 46ａ	1.54	0.18	▲1.57	▲0.1	▲0.3	Ｎ－63°－Ｅ	▲15.7	Ａ２

※▲印は湧水のため水面での計測値





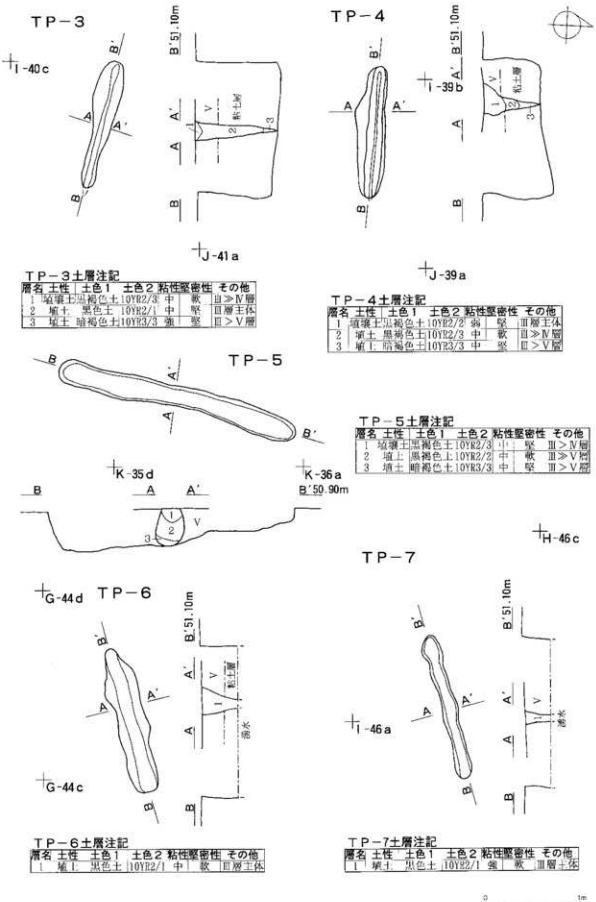
TP−1土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密性	その他
1	壌土	暗褐色土	10YR3/3	なし	軟	Ⅲ>Ⅳ層
2	埴壌土	黒褐色土	10YR2/3	中	堅	Ⅲ≫Ⅳ層
3	埴壌土	暗褐色土	10YR2/3	中	堅	Ⅲ≫Ⅳ層
4	埴土	黒褐色土	10YR2/3	強	軟	Ⅲ≫Ⅴ層

TP−2土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密性	その他
1	埴壌土	黒褐色土	10YR2/2	中	堅	Ⅲ層主体
2	埴壌土	黒褐色土	10YR2/3	中	堅	Ⅲ≫Ⅴ層
3	埴土	黒色土	10YR2/1	強	軟	Ⅲ層主体

図V−57　Tピット（1）



TP−3土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密性	その他
1	埴壌土	黒褐色土	10YR2/3	中	軟	Ⅱ≫Ⅳ層
2	埴土	黒色土	10YR2/1	中	堅	Ⅱ層主体
3	埴土	暗褐色土	10YR3/3	強	堅	Ⅱ＞Ⅴ層

TP−4土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密性	その他
1	埴壌土	黒褐色土	10YR2/2	強	堅	Ⅲ層主体
2	埴土	黒褐色土	10YR2/3	中	軟	Ⅱ≫Ⅳ層
3	埴土	暗褐色土	10YR3/3	中	堅	Ⅱ＞Ⅴ層

TP−5土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密性	その他
1	埴壌土	黒褐色土	10YR2/3	中	堅	Ⅱ＞Ⅳ層
2	埴土	黒褐色土	10YR2/2	中	軟	Ⅱ≫Ⅴ層
3	埴土	暗褐色土	10YR3/3	中	堅	Ⅱ＞Ⅴ層

TP−6土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密性	その他
1	埴土	黒色土	10YR2/1	中	軟	Ⅱ層主体

TP−7土層注記

層名	土性	土色1	土色2	粘性	堅密性	その他
1	埴土	黒色土	10YR2/1	強	軟	Ⅲ層主体

図Ⅴ−58　Tピット（2）

表Ｖ－２　遺構一覧

遺構名	時期	位置	規模(cm) 確認面 長軸	確認面 短軸	床面 長軸	床面 短軸	深さ	平面形態	長軸方向	確認面	重複関係	備考
H－1	後期前葉	P-Q10	302	242	274	216	20	隅丸方形	N-58°-W	Ⅴ層上面	SP-16・21との関係不明	
H－2	中期前半	L・M・3・4・5	(506)	460	(488)	410	71	隅丸長方形or舟形	N-8°-W	Ⅳ層上面	H-3、P-77より新しく、P-15・67・68・73・74、S-1、F-20・23～26・32より古い、P-76・78との関係不明	円筒上層式の焼失住居、埋甕土器が
H－3	中期前半	L-M-3	(408)	(372)	(404)	356	34	楕円形?	N-37°-W	Ⅳ層上面	H-2、P-74・75・79、SP-67より古い、SP-56・95・96との関係不明	円筒上層式
H－4	中期前半	L-M-3・4	494	374	472	346	50	隅丸方形	N-58°-W	Ⅳ層上面	P-21、F-22・28・30・33、S-3、埋設土器より古い	焼失住居
H－5	中期前半	L-M-4・5	550	192	234	176	47	不整楕形	N-10°-W	Ⅳ層上面	H-8、P-49・50より新しい、覆土にF-31	
H－6	中期前半	M・N・O・P・5	616	494	600	484	40	楕円形	N-21°-E	Ⅳ層上面	P-22～29、F-15～18、H-7より古い	
H－7	中期	N-O6・7	352	325	344	314	14	隅丸方形	N-88°-W	Ⅳ層上面	P-31、S-7より古く、H-6より新しい、P-63との関係不明	土器ブロック群残存
H－8	中期前半	L-M・N・4・5	(734)	366	718	342	34	長楕円形	N-10°-W	Ⅳ層上面	F-36・37より新しく、H-9、P-13・48・49・71より古い、P-70との関係不明	北半部に焼清
H－9	中期前半～後期前葉	N9	242	210	224	202	14	楕円形	N-51°-W	Ⅳ層上面	F-29、P-32・33・34より古い	
H－10	後期前葉	K7・8	266	(232)	250	212	30	楕円形	N-79°-E	Ⅴ層上面		
P－1	後期前葉	M9・10	166	108	144	88	20	隅丸方形	N-50°-W	Ⅴ層上面		
P－2	中期?	M10	52	48	36	34	30	円形	N-85°-E	Ⅴ層上面	覆土にF－34、SP－10との関係不明	
P－3	中期後半?	M10	74	68	50	42	22	円形	N-52°-W	Ⅴ層上面		
P－4	後期前葉	Q10	(30)	24	(16)	14	12	楕円形	N-86°-W	Ⅴ層上面	P-5、SP-11より古い	
P－5	後期前葉	Q10	60	38	22	22	18	楕円形	N-14°-W	Ⅴ層上面	P-4より新しい	
P－6	不明	H6・7	(156)	116	(140)	110	24	楕円形	N-78°-E	Ⅳ層上面	上位にF-10	
P－7	不明	M10	48	28	12	14	20	楕円形	N-58°-W	Ⅴ層上面		
P－8	後期前葉	P8	84	60	70	44	14	楕円形	N-41°-E	Ⅳ層上面	SP-97、98より新しい	
P－9	不明	L9・10	88	70	82	50	20	楕円形	N-65°-E	Ⅳ層上面		
P－10	後期前葉	P7	128	(58)	118	(52)	14	円形?	N-44°-E	Ⅳ層上面		
P－12	中期～後期葉?	M8・9	98	83	82	68	40	楕円形	N-12°-W	Ⅳ層上面		
P－13	後期前葉?	M8	143	140	135	124	55	円形	－	Ⅳ層上面	H-8、P-50より新しい	プラスコ状土坑
P－14	中期	P8	42	32	16	12	36	楕円形	N-9°-W	Ⅳ層上面		
P－15	後期前葉?	M4	140	154	54	(31)	95	円形	－	Ⅳ層上面	H-2より新しい	
P－16	不明	K・L7	78	64	76	66	26	楕円形	N-58°-W	Ⅳ層上面	上位にF-19	
P－17	不明	L6	52	(40)	30	(24)	28	楕円形	N-12°-W	Ⅳ層上面		
P－18	後期前葉	O7	74	74	34	30	36	円形	N-79°-E	Ⅳ層上面		
P－19	不明	L5	74	70	54	54	10	円形	N-43°-E	Ⅳ層上面		
P－20	中期前半?	L・5・6	76	72	66	64	16	円形	N-24°-E	Ⅳ層上面		
P－21	中期前半?	L6	62	54	50	46	16	楕円形	N-24°-E	Ⅳ層上面	H-4より新しい	
P－22	後期前葉	N8	92	94	70	42	58	円形	N-19°-E	H-6土	H-6より新しい	
P－23	不明	M・N8	78	80	68	62	26	円形	N-84°-W	H-6土	H-6より新しい	
P－24	中期後半?	N7・8	(62)	(30)	－	－	40	円形?	－	H-6土	H-6より新しい	
P－25	中期前半	N7	94	96	72	54	32	楕円形	N-89°-E	H-6土	H-6、P-28、29より新しい、覆土にF-35	
P－26	不明	N7	132	122	128	116	18	円形	N-58°-W	H-6土	H-6、P-27より新しい	
P－27	不明	N7・8	(120)	(114)	(104)	(68)	48	方形？	N-45°-W	H-6土	H-6、P-28より古い	
P－28	中期前半	N6・7	86	(68)	48	38	18	楕円形	N-13°-W	H-6土	H-6、P-29より新しく、P-25より古い	
P－29	中期前半	M・N6・7	(66)	66	50	36	30	楕円形	N-75°-W	H-6土	H-6、P-28、29より新しい	
P－31	不明	N・O7	(94)	90	(86)	74	20	円形	N-23°-E	Ⅳ層上面	H-7より新しい	
P－32	後期前葉	N9	54	58	48	38	38	円形	N-18°-E	Ⅳ層上面	H-9より新しく、P-33より古い	
P－33	不明	N9	36	24	12	10	10	楕円形	N-20°-E	H-9土	H-9、P-32・34より新しい	
P－34	中期前半?	N9	44	38	38	34	22	円形	N-38°-E	H-9土	H-9より新しく、P-33、F-29より古い	
P－35	不明	K・L8・9	136	130	116	92	38	楕円形	N-2°-W	Ⅳ層上面		
P－36	不明	K5	96	70	50	50	34	円形	N-62°-W	Ⅳ層上面		
P－37	不明	K・L5	108	68	52	52	30	楕円形	N-18°-E	Ⅳ層上面		
P－38	中期前半?	K5	100	86	68	56	48	楕円形	N-12°-W	Ⅳ層上面	P-40より新しい	
P－39	不明	K5	98	68	62	62	34	楕円形	N-31°-W	Ⅳ層上面		
P－40	不明	K5	58	(40)	48	(30)	26	楕円形?	N-38°-E	Ⅳ層上面	P-38より古い	
P－41	不明	K4・5	(116)	(98)	(90)	(82)	40	楕円形?	N-5°-E	Ⅳ層上面		
P－42	不明	K5	94	80	68	58	38	円形	N-70°-E	Ⅳ層上面		
P－43	不明	P9	38	(30)	26	(20)	20	楕円形	N-57°-W	Ⅳ層上面	P-72より古い、覆土にF-27	
P－44	不明	K4	88	80	72	58	18	楕円形	N-33°-E	Ⅳ層上面		
P－45	不明	K4	114	100	96	42	22	不整	N-29°-W	Ⅳ層上面		
P－46	中期前半?	K・L3	(130)	142	(116)	134	30	楕円形	N-40°-E	Ⅳ層上面	P-47より古い、上位にF-7	
P－47	中期前半?	K・L3	56	48	48	40	20	楕円形	N-46°-W	Ⅳ層上面	P-46より新しい	
P－48	中期～後期前葉?	M8	55	54	46	42	35	円形	－	H-8土	H-8、P-50より新しい	
P－49	中期～後期前葉?	M8	111	－	81	－	28	楕円形	N-69°-E	H-5・8土	H-8、P-50より新しく、H-5より古い	
P－50	中期前半	M8	(208)	192	(182)	188	17	円形	－	H-8土	H-5・8、P-13・48～50より古い	覆土ローム質、焼砂混入
P－52	中期前半?	M8	74	46	50	24	13	楕円形	N-89°-W	H-8土	H-8より古い	
P－53	不明	O7	112	78	68	56	34	楕円形	N-18°-E	Ⅳ層上面		
P－54	中期前半?	N6・7	120	(70)	22	14	36	方形？	N-7°-W	Ⅳ層上面		
P－55	不明	L7	56	56	48	48	8	円形	N-59°-W	Ⅳ層上面		
P－56	中期前半?	M7	82	78	74	66	32	円形	N-34°-W	Ⅳ層上面		
P－57	不明	M6	74	68	66	58	18	楕円形	N-18°-W	Ⅳ層上面		
P－58	不明	L5	70	68	58	54	24	楕円形	N-38°-W	Ⅳ層上面		
P－59	中期後半?	L5	98	96	72	52	48	楕円形	N-26°-W	Ⅳ層上面		

遺構名	時期	位置	規模(cm) 確認面 長軸	確認面 短軸	床面 長軸	床面 短軸	深さ	平面形態	長軸方向	確認面	重複関係	備考
P−60	中期前半?	L5	90	96	74	64	36	楕円形	N-12°-W	Ⅳ層上面		
P−61	中期前半?	M7	46	40	34	32	12	楕円形	N-79°-W	Ⅳ層上面	上位にF−6	
P−62	中期前半?	M-N6-9	(116)	106	(100)	90	20	楕円形	N-75°-W	Ⅳ層上面		
P−63	不明	M6	88	(32)	56	(22)	10	楕円形?	N-27°-W	Ⅳ層上面	H−7との関係不明	
P−65	不明	P9	(60)	48	(52)	42	10	楕円形	N-88°-E	Ⅳ層上面	P−72より新しく、P−66より古い	
P−66	後期前葉	P9	60	50	38	20	14	楕円形	N-87°-E	Ⅳ層上面	P−65、72より新しい	
P−67	平安〜後期前葉?	L4	72	70	59	44	25	楕円形	N-77°-W	H−2上面	H−2より新しい	礫多数
P−68	後期?	L-M-5	340	(282)	314	(245)	74	楕円形	N-62°-E	Ⅳ層上面	H−2、P−78より新しく、P−77より古い	配石を伴う
P−69	中期前半?	P8・9	76	70	24	22	46	楕円形	N-65°-E	Ⅳ層上面	P−80より新しい	
P−70	平安〜後期前葉?	L・M7	91	77	78	65	9	楕円形	N-64°-E	Ⅳ層上面		
P−71	平安〜後期前葉?	M7・8	62	60	21	22	40	円形	−	H−8床面	H−8より新しい、上位にF−14。	
P−72	不明	P9	64	38	44	22	20	楕円形	N-57°-W	Ⅳ層上面	P−43、F−27より新しく、P−65、66より古い	
P−73	後期?	M4・5	(26	69	104	41	44	楕円形	N-28°-E	P−68床面	H−2、P−68より新しい	
P−74	平安〜後期前葉?	L3	(64)	−	(56)	−	25	円形?	−	Ⅳ層上面	H−2・3より新しい。上位にF−2	
P−75	平安〜後期前葉?	M3	153	(96)	(119)	(88)	17	隅丸方形?	−	H−3床面	H−3より新しく、P−79、SP−57より古い。SP−95・96との関係不明	
P−76	平安〜後期前葉?	L4	52	(48)	36	26	18	円形	−	Ⅳ層上面	H−2との関係不明	
P−77	中期前半	M4	64	53	34	25	44	楕円形	N-10°-W	H−2床面	H−2より古い	
P−78	後期前葉?	M5	(170)	155	(138)	67	50	楕円形?	N-84°-W	Ⅳ層上面	P−68より古い。上位にF−3	
P−79	平安〜後期前葉?	M3	84	(41)	64	(36)	15	楕円形?	−	H−3床面	H−3、P−75より新しく、SP−56より古い。SP−57・96との関係不明	
P−80	不明	P8・9	(30)	68	26	22	44	−	−	Ⅳ層上面	P−69より古い	
F−1	中期前半?	L13	32	22			4			Ⅳ層上面		
F−2	平安〜後期前葉?	L3	79	37			17			Ⅲ層中	H−2、P−74より新しい	
F−3	後期前葉?	M5	12	7			3			Ⅲ層中	P−78より新しい	
F−4	中期前半?	M5	40	30			5			Ⅲ層中		
F−5	中期前半?	K9	42	38			6			Ⅲ層中		
F−6	中期前半?	M7	46	36			14			Ⅲ層中	P−61より新しい	
F−7	中期前半?	K3	62	40			10			Ⅲ層中	P−46より新しい	
F−8	中期前半?	Q9	54	46			8			Ⅲ層中		
F−10	不明	H6	90	40			10			Ⅲ層中	P−6より新しい	
F−11	中期前半?	L7	40	28			8			Ⅲ層中		
F−12	中期前半?	K9	24	18			5			Ⅲ層中		
F−13	不明	P8	38	36			4			Ⅲ層中	SP26より新しい	
F−14	中期前半?	M7・8	48	30			12			Ⅲ層中	P−71より新しい	
F−15	後期前葉	N7	82	82			8			H−4層上面	H−6、F−16より新しい	
F−16	後期前葉	N7・8	218	102			12			H−4層上中位	H−6より新しく、F−15・17より古い	
F−17	後期前葉	N7・8	252	84			13			H−5層上上部	H−6、F−16より新しい	
F−18	後期前葉	O7・8	80	36			6			H−5層上上部	H−6より新しい	
F−19	不明	L7	40	30			10			Ⅲ層中	P−16より新しい	
F−20	平安〜後期前葉?	M4	40	32			8			H−7層上上部	H−2、F−23より新しい	
F−21	後期前葉	O7	42	36			12			P−18層上上部	P−18より新しい	
F−22	後期前葉	L6	16	16			4			H−4層上上部	H−4より新しい	
F−23	平安〜後期前葉?	M4	60	51			16			H−7層上上部	H−2より新しく、F−20より古い	
F−24	平安〜後期前葉?	L4	62	50			15			H−7層上上部	H−2、P−77より新しい	
F−25	中期後半?	L4	106	58			10			H−7層上上部	H−2より新しく、S−1より古い	
F−26	中期後半?	M4	50	31			7			H−7層上上部	H−2より新しい	
F−27	不明	P9	32	24			10			P−43層上上部	P−43より新しい	
F−28	後期前葉	L6	36	32			6			H−4層上中位	H−4より新しく、F−33、S−3より古い	
F−29	後期前葉?	N9	166	98			10			H−9層上上部	H−9、P−32・33・34より新しい	
F−30	後期前葉	L6	40	28			2			H−4層中位	H−4より新しい	
F−31	後期前葉	M8	107	(52)			12			H−8上位の石積	H−5より新しい	
F−32	平安〜後期前葉?	L4	(22)	30			12			H−7層上上部	H−2より新しく、P−68より古い	
F−33	後期前葉	L6	32	20			10			H−4層上中位	H−4、F−33より新しく、S−3より古い	
F−34	中期後半?	M10	30	14			−			P−3底土	P−3より新しい	
F−35	中期前半	N7	14	12			−			P−25底土	H−6より新しい	
埋設土器1	後期後葉	L6								H−4層上上部	H−4より新しい	
埋設土器2	前期前半	M6・7								Ⅲ層中		
埋設土器3	後期後葉	N6								Ⅲ層中		
S−1	後期	L・M4	34	56			14			H−7層上上部	H−2、F−23・25より新しい。	方形
S−2	後期前葉	N6	40	30			6			H−7層上上部	H−7より新しい	石敷いは不明瞭
S−3	後期前葉	L6	54	42			12			H−4層上上部	H−4、F−28・33より新しい	石敷いは不明瞭
SP−1	不明	M10	22	22	11	12	31			Ⅴ層上面		
SP−2	後期中葉?	L10	16	15	6	6	20			Ⅴ層上面		
SP−3	中期前半?	N10	24	20	10	10	26			Ⅴ層上面		
SP−4	中期前半?	M10	17	14	10	9	18			Ⅴ層上面		
SP−5	不明	M10	23	29	10	9	34			Ⅴ層上面		
SP−6	不明	M10	25	22	10	9	23			Ⅴ層上面		
SP−7	不明	M10	20	19	10	9	14			Ⅴ層上面		

遺構名	時期	位置	規模(cm) 確認面 長軸	確認面 短軸	床面 長軸	床面 短軸	深さ	平面形態	長軸方向	確認面	重複関係	備考
SP－8	不明	O11	18	18	11	10	21			Ⅴ層上面		
SP－9	不明	O10	24	23	16	16	20			Ⅴ層上面		
SP－10	不明	M10	20	19	8	9	18			Ⅴ層上面		
SP－11	不明	Q10	26	23	14	16	22			Ⅴ層上面	P－4より新しい	
SP－12	不明	L11	20	19	16	13	21			Ⅳ層上面		木根?
SP－13	不明	N11	18	16	8	7	20			Ⅴ層上面		
SP－14	後期中葉?	O9	41	44	17	16	22			Ⅳ層上面		
SP－15	不明	Q9	24	18	13	10	15			Ⅳ層上面		
SP－16	不明	Q10	(28)	26	16	14	4			Ⅴ層上面		
SP－17	不明	Q10	28	23	12	10	18			Ⅴ層上面		
SP－18	中期前半?	Q10	30	26	16	14	14			Ⅴ層上面		
SP－19	不明	O10	21	19	10	10	21			Ⅴ層上面		
SP－20	不明	P10	18	18	11	10	21			Ⅴ層上面		
SP－21	不明	P10	20	(18)	10	(8)	24			Ⅴ層上面	H－1との関係不明	
SP－22	不明	O9	24	26	12	10	20			Ⅳ層上面		
SP－23	不明	P9	30	21	12	12	31			Ⅳ層上面		
SP－24	不明	P8	24	22	14	8	15			Ⅳ層上面		
SP－25	中期前半?	P8	31	23	22	14	24			Ⅳ層上面		
SP－26	不明	P8	34	34	24	18	18			Ⅳ層上面	上位にF－13	
SP－27	不明	K7	24	23	16	12	21			Ⅳ層上面		
SP－28	中期後半?	O8	24	16	6	6	20			Ⅳ層上面		
SP－29	後期中葉?	O8	12	10	6	6	28			Ⅳ層上面		
SP－30	不明	P8	20	19	8	7	25			Ⅳ層上面		
SP－31	不明	O8	30	26	23	21	18			Ⅳ層上面		
SP－32	不明	P8	24	19	10	10	20			Ⅳ層上面		
SP－33	不明	M9	32	25	19	16	12			Ⅳ層上面	SP34より新しい	
SP－34	不明	M9	30	19	21	6	18			Ⅳ層上面	SP33より新しい	
SP－35	中期後半?	M9	18	14	8	6	18			Ⅳ層上面		
SP－36	不明	M9	37	29	16	12	10			Ⅳ層上面		
SP－37	不明	N9	19	14	15	8	12			Ⅳ層上面		
SP－38	不明	N9	20	12	11	13	32			Ⅳ層上面		
SP－39	不明	N9	22	19	11	9	18			Ⅳ層上面	H－9との関係不明	
SP－40	不明	N9	18	16	6	6	12			Ⅳ層上面		
SP－42	不明	N9	30	17	12	7	48			Ⅳ層上面		
SP－43	不明	N9	12	12	10	9	13			Ⅳ層上面		
SP－44	不明	N9	22	19	10	10	6			Ⅳ層上面		
SP－45	不明	K・L7	22	20	11	7	33			Ⅳ層上面		
SP－46	不明	M7	24	24	14	13	12			Ⅳ層上面		
SP－47	不明	N7	18	17	7	6	14			Ⅳ層上面		
SP－48	不明	M・N7	13	11	4	4	24			Ⅳ層上面		
SP－49	不明	O8	21	18	5	5	41			Ⅳ層上面		
SP－50	不明	O・P8	22	19	6	6	21			Ⅳ層上面		
SP－51	不明	P9	17	14	12	10	28			Ⅳ層上面		
SP－52	不明	P9	20	14	12	12	14			Ⅳ層上面		
SP－53	不明	P8	36	34	17	19	49			Ⅳ層上面		
SP－54	不明	N7	18	14	11	9	14			Ⅳ層上面		
SP－55	不明	N9	18	13	8	5	16			Ⅳ層上面		
SP－56	不明	M3	30	22	21	15	53			Ⅴ層上面	P－79より新しい	
SP－57	中期前半?	M3	35	25	32	16	56			Ⅴ層上面	P－75・79との関係不明	
SP－58	不明	M8	26	22	14	14	10			Ⅳ層上面		
SP－59	不明	L10	19	16	9	8	34			Ⅴ層上面		
SP－60	中期前半?	L9	20	18	7	7	14			Ⅳ層上面		
SP－61	中期前半?	M9	24	23	13	10	22			Ⅳ層上面		
SP－62	不明	M10	14	14	4	4	11			Ⅴ層上面		
SP－63	中期前半?	M10	18	15	8	7	12			Ⅴ層上面		
SP－64	中期前半?	N11	33	31	24	19	14			Ⅴ層上面		
SP－65	不明	O9	40	24	24	11	24			Ⅳ層上面		
SP－66	不明	O9	28	28	19	18	8			Ⅳ層上面		
SP－67	不明	P8	12	12	7	6	12			Ⅳ層上面		
SP－68	不明	P9	24	24	11	9	24			Ⅳ層上面		
SP－70	中期前半?	P10	44	36	40	30	9			Ⅴ層上面		
SP－71	不明	Q11	37	30	22	20	14			Ⅴ層上面		
SP－72	不明	Q11	28	23	20	14	22			Ⅴ層上面		
SP－73	不明	Q11	16	13	5	5	12			Ⅴ層上面		
SP－74	不明	P11	24	18	11	10	12			Ⅴ層上面		
SP－75	不明	P11	20	19	16	15	14			Ⅴ層上面		
SP－76	不明	P11	24	24	21	20	15			Ⅴ層上面		

遺構名	時期	位置	規模(cm) 確認面 長軸	確認面 短軸	床面 長軸	床面 短軸	深さ	平面形態	長軸方向	確認面	重複関係	備考
SP−77	不明	P11	30	24	9	8	16			Ⅴ層上面		
SP−78	不明	P11	22	22	14	13	12			Ⅴ層上面		
SP−79	不明	P10	20	17	15	12	10			Ⅴ層上面		
SP−80	不明	O・P10	40	(27)	26	10	14			Ⅴ層上面	SP−101との関係不明	
SP−81	不明	P9	18	16	9	9	14			Ⅳ層上面		
SP−82	不明	O9	22	14	10	10	23			Ⅳ層上面		
SP−83	不明	O9	21	16	7	6	13			Ⅳ層上面		
SP−84	不明	P9	27	26	14	13	14			Ⅳ層上面		
SP−85	不明	P9	15	14	6	6	11			Ⅳ層上面		
SP−86	不明	P8	30	29	24	23	55			Ⅳ層上面		
SP−87	不明	P9	20	18	12	12	8			Ⅳ層上面		
SP−88	不明	P9	24	19	12	14	32			Ⅳ層上面		
SP−89	不明	K5	14	13	8	8	14			Ⅳ層上面		
SP−90	不明	K5	24	22	18	12	6			Ⅳ層上面		
SP−91	不明	K4	18	14	9	9	26			Ⅳ層上面		
SP−92	不明	K4	16	15	10	9	6			Ⅳ層上面		
SP−93	不明	L4	20	20	10	10	42			Ⅳ層上面		
SP−94	不明	K4	18	14	10	8	12			Ⅳ層上面		
SP−95	不明	M3	36	31	16	15	19			P−75・79抗底	P−75・79との関係不明	
SP−96	不明	M3	24	21	13	12	17			Ⅴ層上面	P−79との関係不明	
SP−97	不明	P8	30	28	20	19	24			Ⅳ層上面	P−8より古い	
SP−98	不明	P8	32	27	12	14	31			Ⅳ層上面	SP−99より新しく、P−8より古い	
SP−99	不明	P8	27	(20)	8	10	—			Ⅳ層上面	SP−98より古い	
SP−100	不明	L・M10	10	9	6	6	10			Ⅴ層上面		
SP−101	不明	O・P10	(32)	22	24	16	—			Ⅴ層上面	SP−80との関係不明	

表Ⅴ−3　付属遺構一覧

遺構名	時期	位置	規模(cm) 確認面 長軸	確認面 短軸	床面 長軸	床面 短軸	深さ	平面形態	長軸方向	確認面	重複関係	備考
H−1HP−1		Q10	40	30	24	16	8					
H−1HP−2		P10	32	36	20	16	16					
H−2HF−1		L・M4	90	57			7					土器埋設炉
H−2HF−2		L−4	82	68			8				HP−13より新しく、HP−17より古い	
H−2HF−3		L・M4	88	76			5					住居跡焼土等の集之
H−2HP−1		L4	34	31	19	15	48					主柱穴
H−2HP−2		M4	29	19	15	24	66					主柱穴
H−2HP−3		M4	21	27	20	12	42					主柱穴
H−2HP−4		M4	37	30	22	19	68				HP−16より古い	主柱穴
H−2HP−5		L4	30	33	19	16	50					主柱穴
H−2HP−6		L4	30	30	19	15	36					主柱穴
H−2HP−7		L4	17	15	6	6	13					
H−2HP−8		L4	15	15	6	6	13					
H−2HP−9		L3	20	20	10	11	24					
H−2HP−10		M3	17	17	5	6	28					
H−2HP−11		L4	10	9	5	5	3					
H−2HP−12		L3	16	13	6	6	24					
H−2HP−13		L4	31	20	20	16	10				HF−2より古い	
H−2HP−14		L4	46	28	26	18	9					
H−2HP−15		M4	11	12	4	5	8					
H−2HP−16		M4	32	21	23	17	6				HP−4より古い	
H−2HP−17		L4	26	22	17	14	12				HF−2より新しい	
H−2HP−18		L・M4	15	14	6	4	19					
H−2HP−19		L・M4	(25)	24	10	11	23				埋設土器胴方より古い	炉に埋設土器の胴方
埋設土器胴方		L・M4	33	30	10	9	27				HP−19より新しい	
H−3HP−1		L・M3	20	12	10	8	48					主柱穴
H−3HP−2		L・M3	13	14	7	7	22					主柱穴
H−3HP−3		L3	13	17	4	5	17					主柱穴
H−3HP−4		L3	22	16	8	8	37					主柱穴
H−3HF−1		L・M3	119	57			23					
H−4HP−1		L6	14	12	10	8	38					主柱穴
H−4HP−2		L6	21	18	10	14	34					主柱穴
H−4HP−3		M6	18	13	12	8	32					主柱穴
H−4HP−4		L6	16	13	10	8	30					主柱穴
H−4HP−5		M6	34	30	18	14	34					
H−4HP−6		L・M6	40	34	20	16	18					
H−4HP−7		L6	54	50	32	18	16				覆土にH−4HF−3	
H−4HF−1		L6	44	22			8					

表Ⅴ－4　遺構出土遺物点数一覧

遺構名	層位	土器										石器等																						土製品	石製品	合計
		Ⅲ	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	Ⅳa	Ⅳb	Ⅳc	不明	計	石鏃	石槍	石錐	つまみ付ナイフ	スクレイパー	両面調整石器	石核	Rフレイク	Uフレイク	原石	フレイク	石斧	たたき石	すり石	北海道式石冠	扁平打製石器	石錘	紡石	石皿	台石	加工痕のある礫	礫	計	焼成粘土塊		
H－1	覆土		39	20						59											7											6	13			72
	床面		9	1						10																						3	3			13
	計		48	21						69											7											9	16			85
H－2	検出面																						1									15	16			16
	覆土	13	569	74		83	1	38		778	1			1	10	1			3	1	170	1	4	1		4	1		1		2	45	266			1024
	覆土１		125	3		4				132					1			1			13										1	5	21			153
	覆土２		39							39											1											3	4			43
	覆土３		14							14											5					1						2	8			22
	覆土４		4							4											1												1			5
	床面	2	173							175		1			1	1	1	2			28		4		4	4			1			59	106			281
	ＨＰ－２　覆土		5							5					1						1											1	3			8
	ＨＰ－３　覆土																	1															1			1
	ＨＰ－４　覆土										1																						1			1
	ＨＰ－５　覆土																				2											3	5			5
	ＨＰ－10　覆土		1							1					1																		1			2
	ＨＰ－13　覆土																						1									1	2			2
	ＨＰ－14　覆土																	1															1	2		3
	ＨＰ－16　覆土	5								5											1												1			6
	埋設土器		48							48																										48
	計	20	978	77		87	1	38		1201	2	1		1	14	2	1	5	3	1	222	1	10	1	4	9	1		2		3	134	417	2		1620
H－3	検出面																						1			1		2				2	6			6
	覆土		36							36					1			3			35		2									2	43			79
	攪乱														1						1												2			2
	床面		554							554							2				10			1									13			567
	ＨＦ－１　焼土		7							7																										7
	計		597							597					2		2	3			46		3	1		1		2				4	64			661
H－4	覆土	61	242	142		266				711		1			1		1	1	1	3	92	2	1		1			1	1			68	174			885
	覆土３		27			4				31								1			1			2					1			2	6			37
	攪乱	6	31	23		46			2	108	1							1			2											13	17			125
	ＨＦ－１直上		53							53																										53
	床面											1										1						1				1	4			5
	ＨＰ－２　覆土																												1			1	2			2
	計	67	353	165		316			2	903	1	2			1		1	2	1	3	95	3	1	2	1			2	3			85	203			1106
H－5	検出面		6	1		169				176											2		3			3		1	1	1	1	24	36			212
	覆土上面																															3	3			3
	覆土	11	309	48		30				398	2	1			3		1	2	2	1	39			1	2	2			2			14	72			470
	床面		1							1					1									1									2			3
	ＨＰ－２　覆土																															1	1			1
	計	11	316	49		199				575	2	1			4		1	2	2	1	41		3	2	2	5		1	3	1	1	42	114			689

遺構名	層位		土器									石器等																					土製品	石製品	合計
			Ⅲ	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	Ⅳa	Ⅳb	Ⅳc	不明	計	石鏃	石槍	石錐	つまみ付きナイフ	スクレイパー	両面調整石器	石核	Rフレイク	Uフレイク	原石	フレイク	石斧	たたき石	すり石	北海道式石冠	磨製石斧類	石錘	紡石	石皿	台石	加工痕のある礫	礫	計	焼成粘土塊		
H－6	覆土		9	683	19		131				842	2		1		6	2	2	3		1	132	1	3		1	1					1	33	189			1031
	床面			10							10						1					4											3	3			18
	貼床内			8							8											1												1			9
	HP－1	覆土																				3												3			3
	HP－3	覆土																															1	1			1
	HP－7	覆土																				4											1	5			5
	HP－8	覆土																															4	4			4
	HP－9	覆土												1																				1			1
	HP－17	覆土		2							2																										2
		坑底																															1	1			1
		計		2							2																						1	1			3
	HP－23	覆土	1								1																										1
	HP－24	覆土																				1												1			1
	計		10	703	19		131				863	2		2		6	3	2	3		1	145	1	3		1	1					1	43	214			1077
H－7	覆土			11	8		18				37					1			1			18			1		1					1	16	39		1	77
	床面				1						1												1											1			2
	HF－1	鍋土																															5	5			5
	HP－1	坑底																																		1	1
	HP－5	覆土			1						1																										1
	計			11	10		18				39					1			1			18	1		1		1					1	21	45		2	86
H－8	覆土			81			1				82											4												4			86
	覆土1															2																		2			2
	覆土2																					1												1			1
	床面			16							16					1					1	3											4	9			25
	HP－4	覆土														1																		1			1
	HP－12	覆土		1							1																										1
	計			98			1				99					4					1	8											4	17			116
H－9	覆土			48	120		2				170					1						9					1					2	2	15			185
H－10	覆土						1				1																						1	1			2
P－1	覆土			6			8				14											2												2			16
P－2	覆土				1						1																										1
P－3	覆土			2	1						3											1												1			4
P－4	覆土						14				14											1											2	3	1		18
	坑底				1						1					1			1			6												8			9
	計				1		14				15					1			1			7											2	11	1		27
P－5	覆土				2		1				3																										3
P－6	覆土																															1	1	2			2
P－7	覆土																					1												1			1
P－8	覆土			8			2				10										1	1											1	3			13
P－9	覆土																																1	1			1

遺構名	層位	土器								石器等																						土製品	石製品	合計
		Ⅲ	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	Ⅳa	Ⅳb	Ⅳc	不明	計	石鏃	石槍	石錐	つまみ付きナイフ	スクレイパー	両面調整石器	石核	Rフレイク	Uフレイク	原石	フレイク	石斧	たたき石	すり石	北海道式石冠	扁平打製石器	石錘	紡石	石皿	台石	加工痕のある礫	礫	計	焼成粘土塊		
P－10	覆土			1		1				2																					1	1	2			4
P－12	覆土		3							3											1											1	2			5
P－13	覆土		2	1		17				20											3									1		1	5			25
	坑底																							1									1			1
	計		2	1		17				20											3			1						1		1	6			26
P－14	覆土	4								4																			1			3	4			8
P－15	覆土		21			1				22					1						2											2	5			27
	覆土1		18							18											2												2			20
	坑底		3							3																			1				1			4
	計		42			1				43					1						4								1			2	8			51
P－18	覆土		3			1				4																						3	3			7
P－20	覆土		4							4																						1	1			5
P－21	覆土		2							2																						1	1			3
P－22	坑底		1							1																										1
	覆土	2	2	3		3				10	2				2						17												21			31
	計	2	3	3		3				11	2				2						17												21			32
P－23	覆土																				1											1	2			2
P－24	覆土		5	4						9											6												6			15
P－25	覆土		51							51											6				2							7	15			66
P－26	坑底		1							1																										1
	覆土		6							6																						1	1			7
	計		7							7																						1	1			8
P－27	覆土		6	1		27	35			69							2				10										1	353	366			435
P－28	覆土																				1											2	3			3
P－29	覆土		1							1																										1
P－32	覆土		4	13		5				22											2											1	3			25
P－34	覆土		1							1																										1
P－35	覆土															1					23											1	25			25
P－36	覆土																				1												1			1
P－37	覆土																															1	1			1
P－38	覆土																			1									3			29	33			33
P－39	覆土																															2	2			2
P－41	覆土																				1												1			1
P－42	覆土																			1												2	3			3
P－46	覆土		1							1											1											9	10			11
P－47	覆土		2							2																			2			1	3			5
P－48	覆土		3							3											1											2	3			6
P－50	覆土		3							3																										3
P－52	覆土			4						4																						2	2			6
P－54	覆土		5							5											20											4	24			29

遺構名	層位	土器								石器等																					土製品	石製品	合計
		Ⅲ	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	Ⅳa	Ⅳb	Ⅳc	不明	計	石鏃	石槍	石錐	つまみ付きナイフ	スクレイパー	両面調整石器	石核	Rフレイク	Uフレイク	原石	フレイク	石斧	たたき石	すり石	北海道式石冠	扁平打製石器	石錘	紡石	石皿	台石	加工痕のある礫	礫	計	焼成粘土塊		
P－56	覆土		6							6											3											3	6			12
P－59	覆土		1	1						2											1											4	5			7
P－60	覆土		2							2																					1	9	10			12
	坑底																															1	1			1
	計			2						2																					1	10	11			13
P－61	覆土		5							5																										5
P－62	覆土		9							9																										9
P－63	覆土																				1												1			1
P－66	覆土		1			2				3							1				5												6			9
P－67	覆土		4	2						6											2										1	22	25			31
	覆土３	4		1						5											1												1			6
	計	4	4	3						11											3										1	22	26			37
P－68	覆土上面																															10	10			10
	覆土	1	7	1						9											3											1	4			13
	覆土２	1	5			1				7											2											4	4			11
	覆土３	7	4			1				12											9											7	16			28
	覆土４					1				1											2								1			6	9			10
	覆土５																				1												1			1
	ＰＰ－１　覆土																				1												1			1
	計	9	16	1		3				29											18								1			26	45			74
P－69	覆土	3	5							8											1											3	4			12
P－70	覆土		1							1											1												1			2
P－72	覆土																				2												2			2
P－73	覆土		2							2								1					1									2	4			6
P－74	覆土		1							1											5												5			6
	坑底		1							1																						1	1			2
	計		2							2											5											1	6			8
P－75	覆土		3							3					1																		1			4
P－77	覆土		5							5					1			1			4									1		1	8			13
P－78	覆土		1							1																1							1			2
S－1	―																												3			11	14			14
S－2	―																			1												3	4			4
S－3	―					2				2																						7	7			9
	焼土					20				20																										20
	計					22				22																						7	7			29
F－8	焼土					6				6				1							6												7			13
F－10	焼土																															237	237			237
F－14	焼土		1							1																										1
F－15	焼土		4	2						6											10		2									4	16			22
F－16	焼土		28			4				32								1			8											4	14			45

遺構名	層位	土器									石器等																								土製品	石製品	合計
		Ⅲ	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	Ⅳa	Ⅳb	Ⅳc	不明	計	石鏃	石槍	石錐	つまみ付きナイフ	スクレイパー	両面調整石器	石核	Rフレイク	Uフレイク	原石	フレイク	石斧	たたき石	すり石	北海道式石冠	扁平打製石器	石錘	紡石	石皿	台石	加工痕のある礫	礫	計	焼成粘土塊		
F－17	焼土		10	2		4				16											2												3			19
F－23	焼土					1				1											1											1	2			3
F－24	焼土		7							7																										7
F－25	焼土		9							9											1												1			10
F－26	焼土		33							33											1												1			34
SP－2	覆土					2				2																										2
SP－3	覆土		2							2																										2
SP－4	覆土		2							2																										2
SP－12	覆土																				1												1			1
SP－13	覆土																				1												1			1
SP－14	覆土			5		5				10											1			1									2			12
SP－16	覆土																				1												1			1
SP－18	覆土		1							1																										1
SP－21	覆土																															2	2		1	3
SP－22	覆土																				1												1			1
SP－25	覆土		2							2																										2
SP－28	覆土			1						1																										1
SP－29	覆土					2				2																										2
SP－30	覆土																															1	1			1
SP－35	覆土			1						1																										1
SP－44	覆土																															1	1			1
SP－53	覆土																				1												1			1
SP－57	覆土		1							1								1														1	2			3
SP－60	覆土		1							1																										1
SP－61	覆土		2							2											2												2			4
SP－63	覆土		1							1																										1
SP－64	覆土		2							2																										2
SP－70	覆土		1							1																										1
SP－82	覆土														1																		1			1
SP－84	覆土																															1	1			1
SP－85	覆土																															1	1			1
埋設土器1	－			3	1			141		145											1											1				146
埋設土器2	－		106							106																										106
埋設土器3	－							64		64											1												1			65
合計		130	3592	512	1	886	36	243	2	5402	9	4	2	2	40	6	10	21	6	11	784	6	23	9	10	19	1	5	19	4	12	1128	2131	3	3	7539

表Ⅴ－5　遺構出土掲載土器一覧（復元土器）

挿図番号		掲載番号	分　類	遺構名・発掘区	層　位	点　数	口径(cm.)	底径(cm)	器高(cm)	備　考
Ⅴ	7	1	Ⅲa	H－2	床	1	14.4	5.2	13.7	
					覆土	2				
Ⅴ	7	2	Ⅲa	H－2	床	38	18.2	8.0	21.3	
Ⅴ	7	3	Ⅲa	H－2	床	52	23.0	9.8	31.3	
Ⅴ	7	4	Ⅲa	H－2	埋設	42	(23.1)	9.0	27.6	
					覆土	3				
				M3	Ⅲ	9				
Ⅴ	7	5	Ⅲa	H－2	床	15	(23.7)	10.0	35.6	
					覆土	45				
				H－3	覆土	1				
				M3	Ⅲ	9				
Ⅴ	12	1	Ⅲa	H－3	床	237	36.7	18.8	72.6	
				M4	Ⅲ	1				
Ⅴ	12	2	Ⅲa	H－3	床	61	24.0	7.8	33.5	
				M3	Ⅲ	9				
Ⅴ	16	1	Ⅲa	H－4	HF－1直上	50	－	(20.2)	(20.0)	
Ⅴ	16	10	Ⅳc	H－4	覆土	116	33.3	8.8	34.3	理設土器1
				L6	Ⅲ	4				
Ⅴ	22	1	Ⅳa	H－5	覆土	115	26.4	12.2	42.5	検出面
				L8	Ⅲ	86				
Ⅴ	23	1	Ⅲa	H－8	覆土	39	28.5	11.5	38.0	
				H－5	覆土	29				
				M9	Ⅲ	2				
Ⅴ	23	2	Ⅲa	H－8	床	16	9.2	4.2	11.4	
				H－5	覆土	17				
Ⅴ	45	1	Ⅲa	P－15	覆土	15	22.1	－	(25.5)	
				H－2	覆土	11				
Ⅴ	56	4	Ⅲa	埋設土器2		81	32.3	－	(4.02)	M6、M8
				M6	Ⅲ	1				
				M7	Ⅲ	8				
Ⅴ	56	5	Ⅳc	埋設土器3		25	(29.8)	(6.0)	31.5	N6
				M6	Ⅲ	1				
				N6	Ⅲ	48				

表Ⅴ－6　遺構出土掲載土器一覧（拓影）

挿図番号		掲載番号	分類	遺構名・発掘区	層位
Ⅴ	1	1	Ⅲb	H－1	床
Ⅴ	1	2	Ⅲb	H－1	覆土
Ⅴ	7	6	Ⅲa	H－2	覆土
Ⅴ	7	7	Ⅲa	H－2	床
Ⅴ	8	8	Ⅲa	H－2	覆土
Ⅴ	8	9	Ⅲa	H－2	覆土
Ⅴ	8	10	Ⅲa	H－2	覆土
Ⅴ	8	11	Ⅲa	H－2	覆土
Ⅴ	8	12	Ⅲa	H－2	覆土
				L3	Ⅲ
				L4	Ⅲ
Ⅴ	8	13	Ⅲb	H－2	覆土
Ⅴ	8	14	Ⅳa	H－2	覆土
Ⅴ	8	15	Ⅳa	H－2	覆土
Ⅴ	8	16	Ⅲ	H－2	覆土
Ⅴ	8	17	Ⅳb	H－2	覆土
Ⅴ	8	18	Ⅳc	H－2	覆土
Ⅴ	12	3	Ⅲa	H－3	床
Ⅴ	12	4	Ⅲa	H－3	HF
Ⅴ	16	2	Ⅲa	H－4	覆土
Ⅴ	16	3	Ⅲb	H－4	覆土
Ⅴ	16	4	Ⅲb	H－4	覆土
Ⅴ	16	5	Ⅳa	H－4	覆土
				L6	Ⅲ
				M6	Ⅲ

挿図番号		掲載番号	分類	遺構名・発掘区	層位
Ⅴ	16	6	Ⅳa	H－4	覆土
Ⅴ	16	7	Ⅳa	H－4	覆土
Ⅴ	16	8	Ⅳa	H－4	覆土
Ⅴ	16	9	Ⅳa	H－4	覆土
				L6	Ⅲ
Ⅴ	17	11	Ⅳc	埋設土器1	
				L6	Ⅲ
Ⅴ	22	2	Ⅲa	H－5	覆土
Ⅴ	22	3	Ⅲa	H－5	覆土
Ⅴ	22	4	Ⅲa	H－5	覆土
Ⅴ	22	5	Ⅲb	H－5	覆土
				N18	Ⅲ
Ⅴ	22	6	Ⅲb	H－5	覆土
Ⅴ	22	7	Ⅳa	H－5	覆土
Ⅴ	23	3	Ⅲa	H－8	覆土
Ⅴ	23	4	Ⅲa	H－6	覆土
Ⅴ	24	1	Ⅲa	H－6	覆土
Ⅴ	24	2	Ⅲa	H－6	覆土
Ⅴ	24	3	Ⅲa	H－6	覆土
				N7	Ⅲ
Ⅴ	24	4	Ⅲa	H－6	覆土
Ⅴ	24	5	Ⅲa	H－6	貼床内
Ⅴ	24	6	Ⅲa	H－6	覆土
Ⅴ	24	7	Ⅲa	H－6	覆土
Ⅴ	24	8	Ⅳa	H－6	覆土

挿図番号		掲載番号	分類	遺構名・発掘区	層位
Ⅴ	24	9	Ⅳa	H－6	覆土
Ⅴ	24	10	Ⅳa	H－6	覆土
Ⅳ	30	1	Ⅲb	H－7	覆土
Ⅳ	30	2	Ⅳa	H－7	覆土
Ⅳ	31	1	Ⅲa	H－9	覆土
Ⅳ	31	2	Ⅲb	H－9	覆土
Ⅳ	31	3	Ⅲb	H－9	覆土
Ⅳ	31	4	Ⅲb	H－9	覆土
				P－3	覆土
Ⅳ	45	2	Ⅳa	P－4	覆土
Ⅳ	45	3	Ⅲb	P－22	覆土
Ⅳ	45	4	Ⅲa	P－25	覆土
Ⅳ	45	5	Ⅲa	P－25	覆土
				L4	Ⅲ
				L5	Ⅲ
Ⅳ	45	6	Ⅲa	P－25	覆土
Ⅳ	45	7	Ⅳa	P－25	覆土
				P－27	覆土
Ⅳ	45	8	Ⅳa	O7	Ⅲ
				N8	Ⅲ
Ⅳ	45	9	Ⅳa	P－27	覆土
Ⅳ	45	10	Ⅲb	P－52	覆土
Ⅳ	45	11	Ⅲa	P－61	覆土
Ⅳ	45	13	Ⅲa	P－75	覆土
Ⅳ	45	14	Ⅲa	P－78	覆土

表Ⅴ－７　遺構掲載石器等一覧

挿図番号		挿図番号	遺構名	分　類	層　位	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石　材	備　考
Ⅴ	9	19	H－2	石　鏃	HP－2覆土	1	3.9	2	0.8	6.3	頁　岩	
Ⅴ	9	20	H－2	スクレイパー	HP－2覆土	4	5.2	5.6	1.2	25.1	頁　岩	光沢あり
Ⅴ	9	21	H－2	スクレイパー	床	266	3.3	5.9	0.7	10.8	頁　岩	
Ⅴ	9	22	H－2	石　核	床	260	10.4	9.9	6.5	749	頁　岩	縮尺１／３
Ⅴ	9	23	H－2	たたき石	床	268	8.4	5.8	5.8	490	チャート	
Ⅴ	9	24	H－2	扁平打製石器	床	258	9.8	17.3	2.4	499	安山岩	接合
Ⅴ	9	25	H－2	北海道式石冠	床	282	8.3	(10.1)	8.5	695	閃緑岩	欠損
Ⅴ	10	26	H－2	石　皿	床	229	(35.0)	(30.3)	8.3	12,000	安山岩	欠損
Ⅴ	12	5	H－3	石　核	床	28	5.6	3.1	2.5	32.2	頁　岩	２点接合
Ⅴ	12	6	H－3	すり石	床	26	10.4	19	4.8	1,603	閃緑岩	
Ⅴ	17	12	H－4	石　槍	覆土	100	5.6	3.5	0.9	14.4	黒曜石	
Ⅴ	17	13	H－4	石　槍	床	160	10	3.3	1.1	32.7	頁　岩	
Ⅴ	17	14	H－4	スクレイパー	覆土	98	8.5	3.5	1.6	47.5	頁　岩	
Ⅴ	17	15	H－4	石　斧	床	161	11	4.5	1.7	137.6	緑色泥岩	
Ⅴ	18	16	H－4	砥　石	床	162	(27.7)	(12.7)	8.7	3,770	砂　岩	
Ⅴ	22	8	H－5	石　槍	覆土	58	10.3	3.8	1.7	51.6	頁　岩	
Ⅴ	22	9	H－5	スクレイパー	床	113	7.7	5.5	1.4	66.6	頁　岩	
Ⅴ	22	10	H－5	すり石	床	114	9.4	14.8	3.9	711	砂　岩	
Ⅴ	23	5	H－8	スクレイパー	床	22	12.3	5.4	1.9	88.8	頁　岩	
Ⅴ	23	6	H－8	スクレイパー	覆土	1	8.3	4.4	1.3	50.0	頁　岩	
Ⅴ	27	11	H－6	両面調整石器	床	110	8.7	4.2	1.6	51.5	頁　岩	
Ⅴ	30	3	H－7	石製品	HP－1坑底	1	5.3	5.6	1.5	48.5	泥　岩	穿孔
Ⅴ	30	4	H－7	石　斧	床	15	(8.8)	4.4	2.7	189	片　岩	
Ⅴ	30	5	H－7	台　石	覆土	22	43	20.5	7.2	10,000	砂　岩	欠損
Ⅴ	31	5	H－9	スクレイパー	覆土	18	8.7	2.5	0.6	16.3	頁　岩	
Ⅴ	31	6	H－9	扁平打製石器	覆土	10	(7.0)	11.5	2.5	207	砂　岩	欠損
Ⅴ	46	15	P－4	スクレイパー	坑底	9	(4.1)	5.7	1.6	41.4	頁　岩	欠損
Ⅴ	46	16	P－13	台　石	覆土	10	20.3	21.7	11.4	5,110	安山岩	欠損
Ⅴ	46	17	P－13	すり石	坑底	5	8.8	12.8	3.0	343	砂　岩	
Ⅴ	46	18	P－14	石　皿	覆土	3	41.6	29.2	12.2	18,300	砂　岩	欠損
Ⅴ	46	19	P－22	石　鏃	覆土	6	4.7	1.4	0.6	3.0	頁　岩	
Ⅴ	46	20	P－22	スクレイパー	覆土	10	4.5	2.2	0.7	6.4	頁　岩	
Ⅴ	47	21	P－15	スクレイパー	覆土	11	5.3	3.4	1.0	15.9	頁　岩	
Ⅴ	47	22	P－15	石　皿	坑底	16	(25.7)	31.0	7.5	6,260	安山岩	欠損
Ⅴ	47	23	P－25	北海道式石冠	覆土	5	8.8	11.8	5.7	896	安山岩	欠損
Ⅴ	47	24	P－27	石　核	覆土	10	3.5	3.0	2.9	31.5	頁　岩	
Ⅴ	47	25	P－38	石　皿	覆土	13	(22.1)	26.3	10.8	5,420	安山岩	欠損
Ⅴ	47	26	P－38	石　皿	覆土	19	(24.7)	(19.0)	12.5	7,000	砂　岩	欠損
Ⅴ	48	27	P－47	石　皿	覆土	3	(27.8)	(19.0)	9.8	5,230	砂　岩	欠損
Ⅴ	48	28	P－68	石　皿	覆土４	33	47.3	25.2	17.3	28,000	砂　岩	
Ⅴ	48	29	P－73	たたき石	覆土	4	15.9	4.0	2.0	186	砂　岩	
Ⅴ	48	30	P－77	台　石	覆土	3	(27.7)	(17.2)	8.0	5,500	安山岩	欠損
Ⅴ	56	1	SP－14	すり石	覆土	4	9.4	(16.9)	3.7	752	砂　岩	欠損
Ⅴ	56	2	SP－25	石製品	覆土	2	(4.8)	3.8	3.3	42.0	凝灰岩	欠損
Ⅴ	56	3	SP－82	スクレイパー	覆土	1	8.0	5.7	1.5	78.4	頁　岩	

2　包含層出土の遺物

（1）土　器

土器にはⅠ群からⅣ群に属するものまである。

Ⅰ群ａ類土器（図Ⅴ－59－７）

７は尖底土器の無文の底部である。焼成は良く堅い。胎土には細砂粒を含む。

Ⅲ群ａ類土器（図Ⅴ－59－８～21）

本類はａ－１類、ａ－２類に細分される。

ａ－１類（８～11）：円筒上層ｂ式に相当するもの。

ａ（８・９）は無文地に太い貼付帯で文様が描かれるもの。８には馬蹄形圧痕文、９には半截竹管状工具による刺突文が施されている。

ｂ（10）は縄文地に貼付帯で文様が描かれるものである。

ｃ（11）は縄文だけが施されたもの。結束羽状縄文が施されている。

ａ－２類（12～21）：サイベ沢Ⅶ式に相当するもの。

ａ（12）は縄文地に細い貼付帯で文様を描くもの。比較的薄手で内面は丁寧に磨かれている。

ｂ（13～15）は縄文地に沈線で文様が描かれるもの。13・14の口唇上には鋭い刻み目がある。

ｃ（16・17）は縄文地に細い貼付帯のある突起部である。18～21は器面に縄文だけが施されたもの。20の口唇上には浅く鋭い刻み目が密に施されている。

Ⅲ群ｂ類土器（図Ⅴ－59－１・２、図Ⅴ－61－22～47）

本類はａ－１類、ａ－２類に細分される。

ａ－１類（１・２・22～43）：元和Ｄ群に相当するもの。

ａ（22～28）は口縁が肥厚するもの。22～27は口縁に、28は頸部に沈線が施されている。

ｂ（１・２・32～43）は口縁が肥厚しないもの。１・32～39は縄文だけのもの。１は口縁に３か所の山形突起がある。39には複節の縄文が施されている。２は底部が張り出す小型のもので縦位の条線が密に施されている。40～43は撚糸文が施されたものである。43は薄手で堅く、ａ－２類あるいはⅣ群ａ類に属する可能性もあるが、一応ここに含めておく。

ｃ（29～31）は沈線文が施された胴部片。30・31の地文は撚糸文である。

ａ－２類（44～47）：大安在Ｂ式に相当するもの。

44は沈線文が施されたもの。45は沈線文と縄線文が施されたもの。46は縄文だけのものである。47は隆帯に刺突が加えられている。

Ⅳ群ａ類土器（図Ⅴ－59－３・４、図Ⅴ－61－48～図Ⅴ－62－87）

本類はつぎのように細分される。

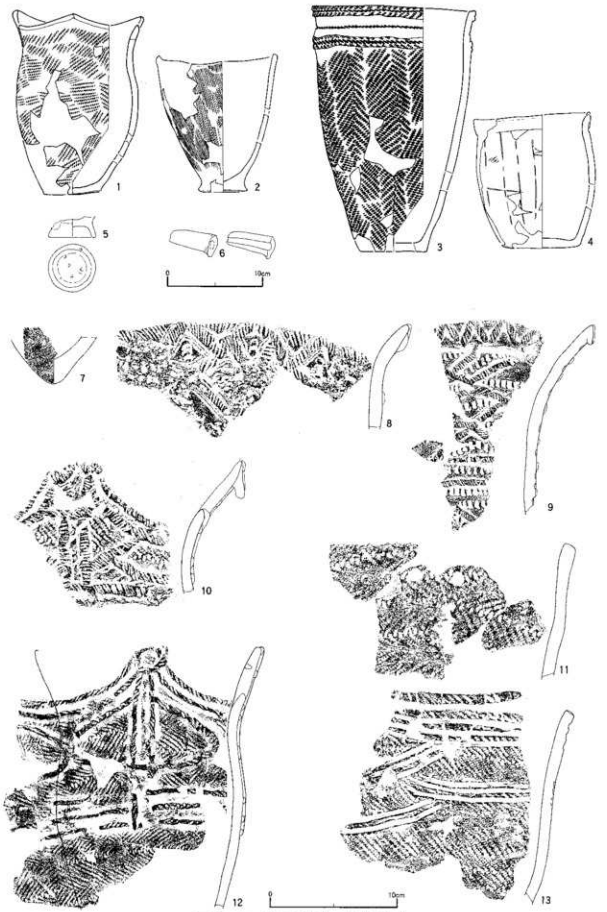
ａ－１類（３・４・48～71）：天祐寺式ないし涌元１式に相当するもの。

ａ（３、48～62）は貼付帯のあるもの。３・51～55・57には貼付帯に縄線文が施されている。貼付帯の縄線文は無文地に施されるものと縄文地に施されるものがある。３の体部には縦位に施文した結束羽状縄文が施されている。

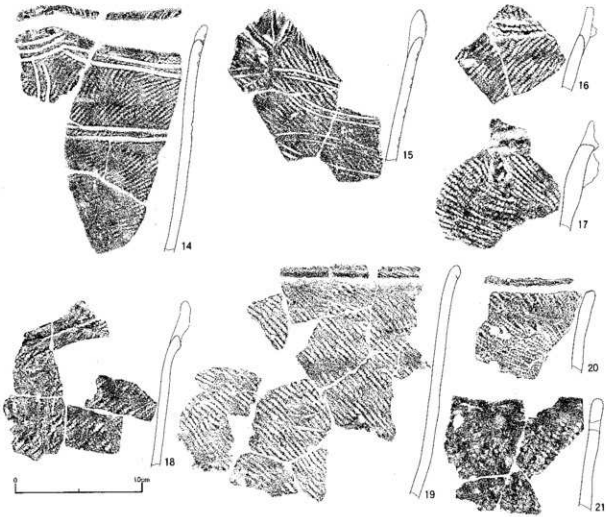
ｂ（63～66）は縄文だけが施されたもの。66はＬＲの縄文がナデ消されたものかとみられる。

ｃ（67～71）は無文のもの。

ｄ（４）は平縁の小型土器。口唇断面はやや尖りぎみで、口縁は折り返されている。体部には２～３cm間隔で鋭い工具による縦位の沈線が引かれ、一部で縄文が認められる。ｃ・ｄは便宜的にここに含めておく。



図Ⅴ－59　包含層出土の土器（１）



図Ⅴ－60　包含層出土の土器（2）

a－2類（72～84）：新道4遺跡盛土1類に相当するもの。

a（72～81）は無文地に沈線で文様が施されるもの。

b（82～84）は磨消縄文が施されたもの。

a－3類（85～87）：新道4遺跡盛土2類に相当するもの。

85～87は櫛状工具で文様を描いた後、沈線で縁取りするものである。

Ⅳ群b類土器（図Ⅴ－62－88）

88はウサクマイC式に相当するものである。口唇にも縄文が施文されている。

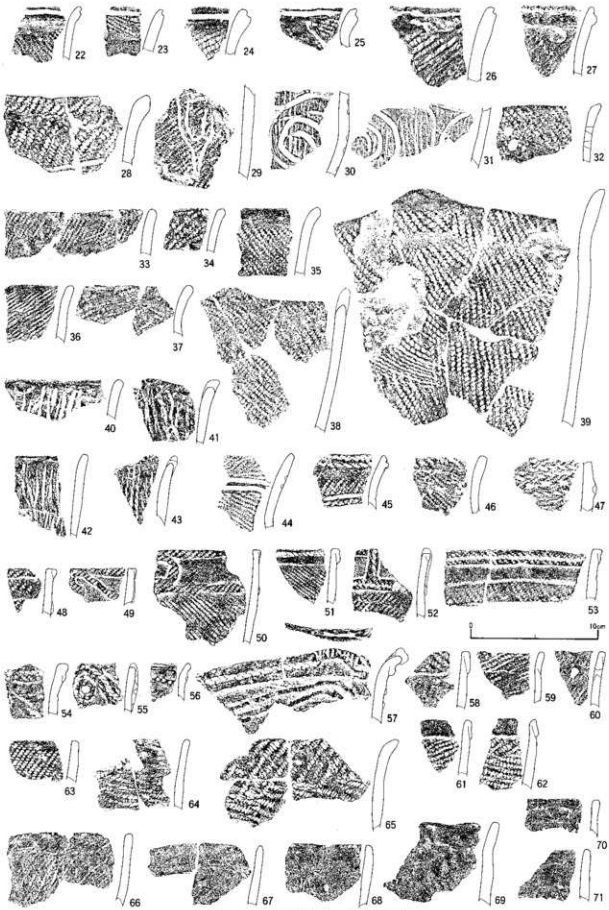
Ⅳ群c類土器（図Ⅴ－59－5、6、図Ⅴ－62－89～93）

89～91は磨消縄文で文様が描かれるもの。89、90は同一個体。92は羽状縄文が施されたもの。93は台付き土器の台である。6は注口土器の注口部。基部に沈線が施されている。5は小型の台付き土器の底部である。底面に半截竹管状工具による刺突文が施されている。仮にここに含めておく。

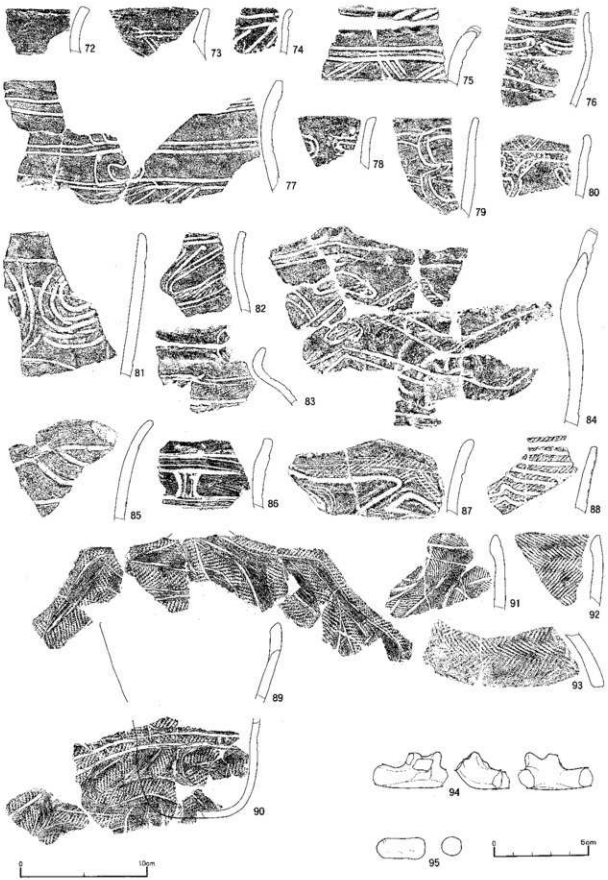
土製品（94、95）

95は土器の装飾の可能性がある。96は短い棒状のもの。

（工藤）



図V－61　包含層出土の土器（3）



図Ⅴ－62　包含層出土の土器（4）

表Ⅴ－８　包含層出土掲載土器一覧（復元土器等）

挿図番号		掲載番号	分　類	遺構名・発掘区	層　位	点　数	口径(cm.)	底径(cm)	器高(cm)	備　考
Ⅴ	59	1	Ⅲ b	M３	Ⅲ	45	(13.2)	6.0	19.2	
				M34	Ⅲ	9				
Ⅴ	59	2	Ⅲ b	K９	Ⅲ	28	(12.8)	5.2	14.5	
Ⅴ	59	3	Ⅳ a	M６	Ⅲ	50	17.4	7.0	26.1	
Ⅴ	59	4	Ⅳ a	N７	Ⅲ	3	(12.4)	8.3	13.7	
				O７	Ⅲ	25				
Ⅴ	59	5	Ⅳ	L５	Ⅲ	1	—	—	—	
Ⅴ	59	6	Ⅳ c	—		1				注口部
Ⅴ	62	94	土製品	L８	Ⅲ	1				
Ⅴ	62	95	土製品	P８	Ⅲ	1				

表Ⅴ－９　包含層出土掲載土器一覧（拓影）

挿図番号		掲載番号	分類	遺構名・発掘区	層位
Ⅴ	59	7	Ⅰ a	N16	Ⅲ
Ⅴ	59	8	Ⅲ a	I 18	Ⅲ
Ⅴ	59	9	Ⅲ a	L８	Ⅲ
Ⅴ	59	10	Ⅲ a	H７	Ⅲ
Ⅴ	59	11	Ⅲ a	M３	Ⅲ
Ⅴ	59	12	Ⅲ a	K８	Ⅱ
Ⅴ	59	13	Ⅲ a	M４	Ⅲ
Ⅴ	60	14	Ⅲ a	P17	Ⅲ
Ⅴ	60	15	Ⅲ a	M19	Ⅲ
Ⅴ	60	16	Ⅲ a	Q18	Ⅲ
Ⅴ	60	17	Ⅲ a	Q18	Ⅲ
Ⅴ	60	18	Ⅲ a	P16	攪乱
Ⅴ	60	19	Ⅲ a	R16	Ⅲ
Ⅴ	60	20	Ⅲ a	J７	Ⅲ
				J８	Ⅲ
Ⅴ	60	21	Ⅲ a	Q16	Ⅲ
Ⅴ	61	22	Ⅲ b	I８	Ⅲ
Ⅴ	61	23	Ⅲ b	H７	Ⅲ
Ⅴ	61	24	Ⅲ b	N６	Ⅲ
Ⅴ	61	25	Ⅲ b	H７	Ⅲ
Ⅴ	61	26	Ⅲ b	Q16	Ⅲ
Ⅴ	61	27	Ⅲ b	Q17	Ⅲ
Ⅴ	61	28	Ⅲ b	N７	Ⅲ
Ⅴ	61	29	Ⅲ b	L４	Ⅲ
Ⅴ	61	30	Ⅲ b	N８	Ⅲ
Ⅴ	61	31	Ⅲ b	M８	Ⅲ
Ⅴ	61	32	Ⅲ b	N９	Ⅲ
Ⅴ	61	33	Ⅲ b	I８	Ⅲ
Ⅴ	61	34	Ⅲ b	N７	Ⅲ
Ⅴ	61	35	Ⅲ b	H７	Ⅲ
Ⅴ	61	36	Ⅲ b	L７	Ⅲ
Ⅴ	61	37	Ⅲ b	N７	Ⅲ

挿図番号		掲載番号	分類	遺構名・発掘区	層位
Ⅴ	61	38	Ⅲ b	P７	Ⅲ
Ⅴ	61	39	Ⅲ b	I８	Ⅲ
Ⅴ	61	40	Ⅲ b	M７	Ⅲ
Ⅴ	61	41	Ⅲ b	M７	Ⅲ
Ⅴ	61	42	Ⅲ b	N７	Ⅲ
Ⅴ	61	43	Ⅲ b	O７	Ⅲ
Ⅴ	61	44	Ⅲ b	N７	Ⅲ
Ⅴ	61	45	Ⅲ b	M８	Ⅲ
Ⅴ	61	46	Ⅲ b	Q19	Ⅲ
Ⅴ	61	47	Ⅲ b	L６	Ⅲ
Ⅴ	61	48	Ⅳ a	I８	Ⅲ
Ⅴ	61	49	Ⅳ a	P８	Ⅲ
Ⅴ	61	50	Ⅳ a	L６	Ⅲ
Ⅴ	61	51	Ⅳ a	H７	Ⅲ
Ⅴ	61	52	Ⅳ a	L８	Ⅲ
Ⅴ	61	53	Ⅳ a	I７	Ⅲ
				J７	Ⅲ
Ⅴ	61	54	Ⅳ a	H７	Ⅲ
Ⅴ	61	55	Ⅳ a	I８	Ⅲ
Ⅴ	61	56	Ⅳ a	J８	Ⅲ
Ⅴ	61	57	Ⅳ a	H７	Ⅲ
Ⅴ	61	58	Ⅳ a	M６	Ⅲ
Ⅴ	61	59	Ⅳ a	M７	Ⅲ
Ⅴ	61	60	Ⅳ a	H８	Ⅲ
Ⅴ	61	61	Ⅳ a	I８	Ⅲ
Ⅴ	61	62	Ⅳ a	M７	Ⅲ
Ⅴ	61	63	Ⅳ a	H７	Ⅲ
Ⅴ	61	64	Ⅳ a	Q15	Ⅲ
Ⅴ	61	65	Ⅳ a	H７	Ⅲ
				J７	Ⅲ
Ⅴ	61	66	Ⅳ a	I８	Ⅲ

挿図番号		掲載番号	分類	遺構名・発掘区	層位
Ⅴ	61	67	Ⅳ a	I８	Ⅲ
				M８	Ⅲ
Ⅴ	61	68	Ⅳ a	H８	Ⅲ
Ⅴ	61	69	Ⅳ a	H８	Ⅲ
Ⅴ	61	70	Ⅳ a	Q７	Ⅲ
Ⅴ	61	71	Ⅳ a	H７	Ⅲ
Ⅴ	62	72	Ⅳ a	P８	Ⅲ
Ⅴ	62	73	Ⅳ a	M８	Ⅲ
Ⅴ	62	74	Ⅳ a	J８	Ⅲ
Ⅴ	62	75	Ⅳ a	O８	Ⅲ
Ⅴ	62	76	Ⅳ a	Q15	Ⅲ
				Q16	不明
Ⅴ	62	77	Ⅳ a	N７	Ⅲ
Ⅴ	62	78	Ⅳ a	P９	Ⅲ
Ⅴ	62	79	Ⅳ a	Q15	Ⅲ
Ⅴ	62	80	Ⅳ a	R18	Ⅲ
Ⅴ	62	81	Ⅳ a	N７	Ⅲ
Ⅴ	62	82	Ⅳ a	H７	Ⅲ
Ⅴ	62	83	Ⅳ a	N７	Ⅲ
Ⅴ	62	84	Ⅳ a	Q17	Ⅲ
				R17	攪乱
Ⅴ	62	85	Ⅳ a	H９	Ⅲ
Ⅴ	62	86	Ⅳ a	P９	Ⅲ
Ⅴ	62	87	Ⅳ a	L８	Ⅲ
				N８	Ⅲ
Ⅴ	62	88	Ⅳ b	H７	Ⅲ
Ⅴ	62	89	Ⅳ c	P９	Ⅳ
Ⅴ	62	90	Ⅳ c	P９	Ⅳ
Ⅴ	62	91	Ⅳ c	M４	Ⅲ
Ⅴ	62	92	Ⅳ c	N16	Ⅲ
Ⅴ	62	93	Ⅳ c	L６	Ⅲ

（2）石器等

器種・層位ごと点数は表Ⅰ－3、掲載遺物のデータは表Ⅴ－10、実測図は図Ⅴ－63～66、写真は図版55・56に掲載した。館野4遺跡包含層出土の石器等で掲載したものは、石鏃4点、石錐1点、つまみ付きナイフ3点、スクレイパー16点、両面調整石器2点、楔形石器2点、石核1点、石斧1点、たたき石3点、扁平打製石器4点、北海道式石冠2点、石錘1点、石製品3点である。

石　鏃（図Ⅴ－63－1～4、表Ⅴ－、図版55）

8点（Ⅲ層：7点、表採：1点）出土した。石材は頁岩である。完形5点、欠損品3点である。1は木葉形鏃、2は木葉形有茎鏃、3・4は三角形有茎鏃である。

石　槍

Ⅳ層から頁岩製が1点出土した。先端部と基部が欠損しているため掲載していない。

石　錐（図Ⅴ－63－5、表Ⅴ－8、図版55）

Ⅲ層から頁岩製が1点出土した。5は両面加工だが機能部のみ加工されている。原石面が残る。

つまみ付きナイフ（図Ⅴ－63－6～8、表Ⅴ－8、図版55）

7点（Ⅲ層：6点、風倒：1点）出土した。完形5点、欠損品1点、未製品1点である。石材はいずれも頁岩である。6～8は縦長剥片を加工したものである。

スクレイパー（図Ⅴ－63－9～15、図Ⅴ－67－16～24、表Ⅴ－8、図版55）

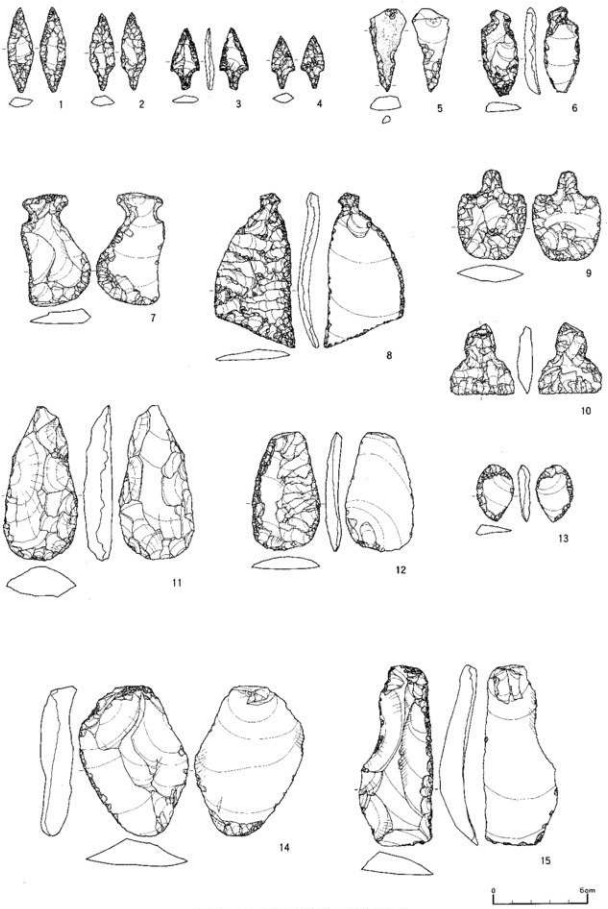
124点（Ⅲ層：118点、撹乱：6点）出土した。完形もしくは2／3以上残存するもの86点、2／3以下残存のものや破片は38点である。石材はチャート1点（Ⅲ層）、流紋岩1点（Ⅲ層）のほかは頁岩である。完形もしくは2／3以上残存するもののうち、石篦・篦状石器に類するもの（9～12）は4点、掻器（13・14）は3点ある。9～11は篦状石器に類するものである。12は石篦形で長軸端の一部が掻器的である。13はサムネイル・スクレイパーに似る。14はエンド・スクレイパーである。削器では素材である剥片の形状をほとんど変えることなく周辺加工によって直刃や内・外湾する刃部を作り出したものがある。これには直刃削器（15）が11点、外湾刃削器（16）が15点、内湾刃削器（17）が1点、抉入削器が2点、複刃削器（18）が4点、いわゆる複刃削器で長軸端にも刃部調整剥離があるもの（19）が1点ある。また、片側縁に連続的な調整剥離、対する片側縁に粗雑な調整のあるものがある。これには平面形が短冊形に近いもの（20）が11点、平面形が三角形に近いものが6点ある。そのほか、一辺に礫皮面や風化面を残し、対にある一片に刃部もしくは微細な剥離痕をもつものがある。これには、礫皮面が主剥離面に対して垂直に近いものとそれほどの角度をもたないものがある。前者には直刃削器（21）が1点、外湾刃削器が3点ある。後者には直刃削器が6点、外湾刃削器（24）が12点、内湾刃削器が1点、抉入削器が1点ある。24は掻器的な急角度の刃部を合わせ持つ。なお、背・腹面に礫皮面・風化面を残し、軽微・粗雑な刃部調整加工をもつものが4点出土した。石材は23がチャート、9～22・24は頁岩である。

両面調整石器（図Ⅴ－64－25・26、表Ⅴ－8、図版55）

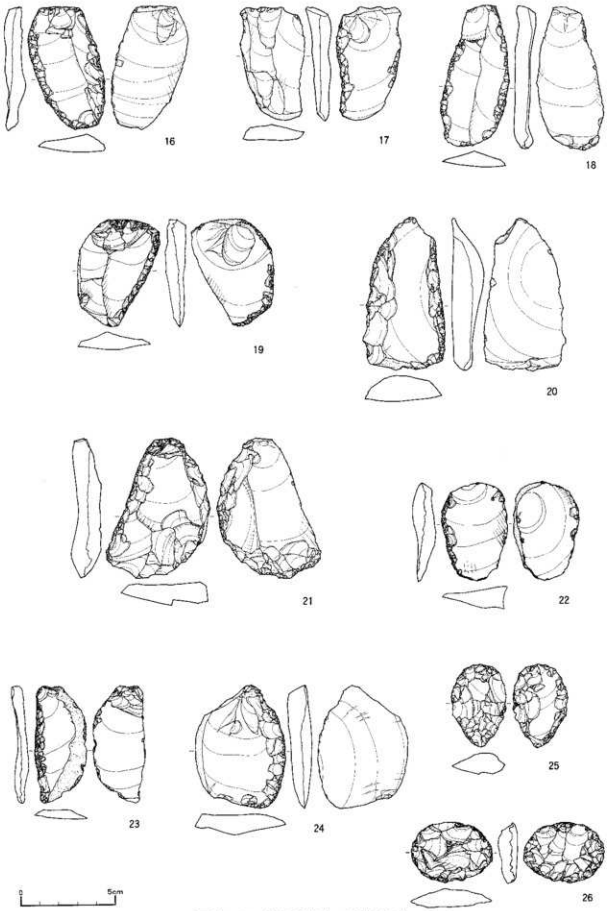
Ⅲ層から12点出土した。石材は頁岩である。25は縦長剥片、26は横長剥片を加工したものである。

楔形石器（図Ⅴ－65－27・28、表Ⅴ－8、図版55）

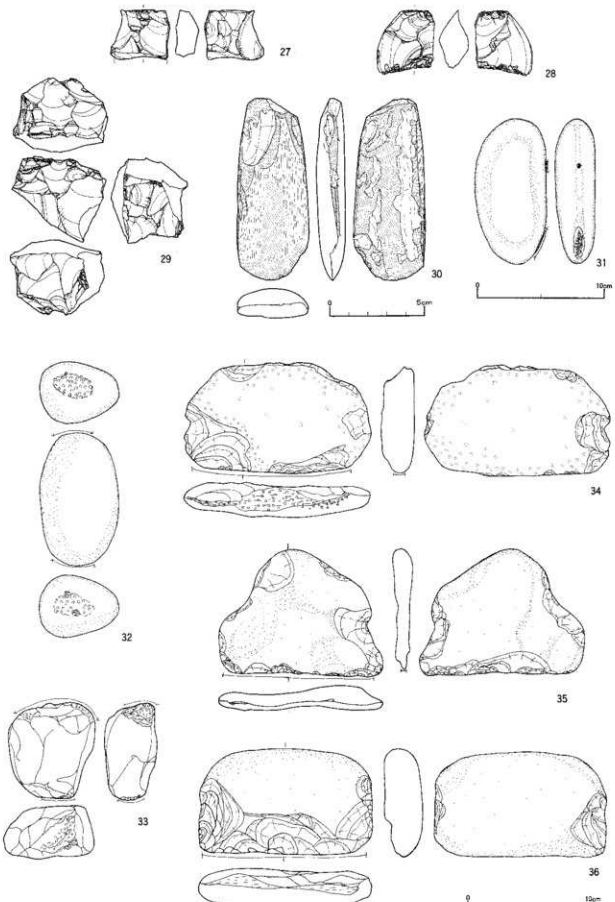
Ⅲ層から3点出土した。石材は頁岩である。27は当初上下方向に使用され、途中で転位して横方向の作業が行なわれた。右・左・上端に平坦面を設定しており、下端に観察される樋状剥離部分にも上下方向作業時には平坦面を有していたものと推測される。28は上下方向のみの剥離が見られ、下端部に階段状剥離、右側面に樋状剥離がある。若干分厚い素材が使われており、素材剥離面が大きき残置するためそれほど使われてはいないと思われる。



図Ⅴ－63　包含層出土の石器（１）



図Ⅴ－64　包含層出土の石器（2）



図V－65　包含層出土の石器（3）

Rフレイク・フレイク

Rフレイクは68点（Ⅰ層：1点、Ⅱ層：13点、Ⅲ層：54点）、フレイクは1,668点（Ⅰ層：30点、Ⅱ層：275点、Ⅲ層：1,313点、表採など50点）出土している。いずれも黒曜石・チャート・流紋岩・角閃岩などがわずかに出土したほかは、大部分は頁岩である。

石　核（図Ⅴ－65－29、表Ⅴ－8、図版55）

56点（Ⅱ層：1点、Ⅲ層：55点）出土した。石材は流紋岩2点（Ⅲ層）のほかは頁岩である。29は打面と作業面を不規則に入れ替えて作業した、いわゆるサイコロ状の石核である。

石　斧（図Ⅴ－65－30、表Ⅴ－8、図版56）

Ⅱ層から1点、Ⅲ層から14点出土した。2／3以上残存するものは3点、2／3以下残存のものや破片は11点である。石材は閃緑岩1点（Ⅱ層）、片岩7点、緑色泥岩4点、砂岩2点、粘板岩1点である。30は片岩製である。

たたき石（図Ⅴ－65－31～33、表Ⅴ－8、図版56）

Ⅲ層から15点出土した。完形もしくは2／3以上残存するものは12点、2／3以下残存のものや破片は3点である。石材はチャート1点のほかは砂岩である。31は砂岩の扁平楕円礫の長軸側縁端、32はチャートのやや扁平な円礫の両長軸端、33は砂岩の楕円礫の両長軸端に敲打痕がある。

扁平打製石器（図Ⅴ－65－34～36、図Ⅴ－66－37、表Ⅴ－8、図版56）

35点（Ⅲ層：32点、風倒：2点、木根：1点）出土した。完形もしくは2／3以上残存のもの26点、2／3以下残存のものもしくは破片9点である。石材は砂岩13点（風倒1点、木根1点）、流紋岩12点、安山岩6点、凝灰岩4点（風倒1点）である。34～37はいずれも左右端打ち欠きがある。すり面幅は1㎝を超える広いもの（34・36・37）がある。石材は34が安山岩、35は流紋岩、36・37は砂岩である。

すり石

Ⅲ層から2点（M7区、N6区）出土している。石材は砂岩である。2／3以下の残存で、すり面に欠損があるため掲載していない。長軸両端に打ち欠きがある。

北海道式石冠（図Ⅴ－66－38・39、表Ⅴ－12、図版56）

4点（Ⅲ層：3点、撹乱：1点）出土した。いずれも器体の2／3以上残存する欠損品である。石材は砂岩2点、閃緑岩2点（Ⅲ層1点、撹乱1点）である。38は頂部に溝がある。38は砂岩、39は閃緑岩製である。

石　錘（図Ⅴ－66－40、表Ⅴ－12、図版56）

Ⅲ層から3点出土した。完形2点、2／3以上残存するもの1点である。石材は凝灰岩2点、砂岩1点である。37は砂岩の扁平楕円礫長軸両端に打ち欠きがあり、長軸側縁に軽微な敲打痕がある。

砥　石

Ⅲ層から砂岩の扁平円礫を用いたものが1点出土した。擦痕が不明瞭であるため掲載していない。

石　皿

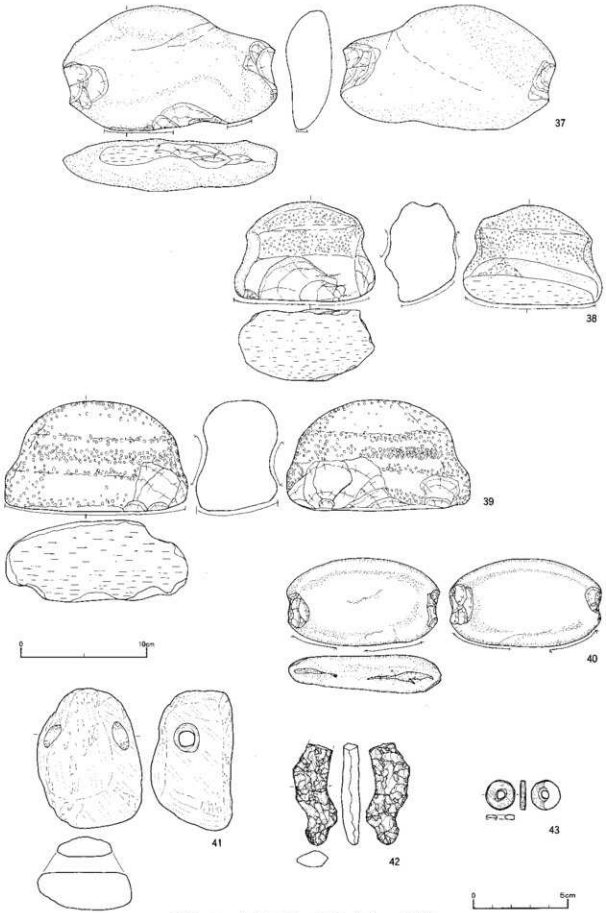
5点（Ⅲ層：4点、風倒：1点）出土した。石材は安山岩である。いずれも2／3以下の残存もしくは破片のため掲載していない。

台　石

L3区のⅢ層から1点出土した。器体の2／3以下の残存であるため掲載していない。安山岩である。

石製品（図Ⅴ－66－41～43、表Ⅴ－12、図版56）

Ⅲ層から4点出土している。41は軽石に粗雑な面取りをして穿孔してある。42は黒曜石製の異形石器である。43は粘板岩製の平玉である。（鎌田）



図V－66　包含層出土の石器（4）・石製品

表Ⅴ－10　包含層掲載石器等一覧

挿図番号		掲載番号	分　類	発掘区	層　位	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石　材	備　考
Ⅴ	63	1	石　鏃	H 8	Ⅲ	30	4.5	1.4	0.6	2.4	頁　岩	
Ⅴ	63	2	石　鏃	L 9	Ⅲ	16	4.1	1.3	0.6	2.4	頁　岩	茎部に付着物。
Ⅴ	63	3	石　鏃	R15	Ⅲ	10	3.3	1.5	0.4	0.6	頁　岩	
Ⅴ	63	4	石　鏃	Q 9	Ⅲ	20	2.8	1.2	0.5	1.0	頁　岩	
Ⅴ	63	5	石　錐	L 8	Ⅲ	72	4.3	1.9	1.0	5.5	頁　岩	
Ⅴ	63	6	つまみ付きナイフ	L 8	Ⅲ	80	4.6	1.9	0.6	6.4	頁　岩	
Ⅴ	63	7	つまみ付きナイフ	N 6	Ⅲ	21	5.9	3.7	0.9	18.4	頁　岩	
Ⅴ	63	8	つまみ付きナイフ	O18	風倒	63	8.2	4.1	0.6	21.8	頁　岩	
Ⅴ	63	9	スクレイパー	N 7	Ⅲ	88	4.7	3.6	0.9	13.5	頁　岩	
Ⅴ	63	10	スクレイパー	P 8	Ⅲ	18	3.7	3.3	0.8	7.8	頁　岩	
Ⅴ	63	11	スクレイパー	M 3	Ⅲ	11	8.2	3.9	1.5	49.3	頁　岩	
Ⅴ	63	12	スクレイパー	O16	Ⅲ	6	6.3	3.6	0.8	16.3	頁　岩	
Ⅴ	63	13	スクレイパー	I 13	Ⅲ	4	3.0	2.0	0.6	2.8	頁　岩	
Ⅴ	63	14	スクレイパー	L 8	Ⅲ	8	8.0	5.8	1.8	65.6	頁　岩	
Ⅴ	63	15	スクレイパー	K 3	Ⅲ	8	9.0	3.9	1.3	41.8	頁　岩	
Ⅴ	64	16	スクレイパー	L 3	Ⅲ	11	6.4	4.1	1.0	25.4	頁　岩	光沢あり。
Ⅴ	64	17	スクレイパー	P19	Ⅲ	11	6.0	3.4	1.2	20.1	頁　岩	
Ⅴ	64	18	スクレイパー	Q18	Ⅲ	14	7.5	3.6	1.0	22.6	頁　岩	
Ⅴ	64	19	スクレイパー	Q15	風倒	30	5.7	4.2	1.1	22.8	頁　岩	
Ⅴ	64	20	スクレイパー	P 7	Ⅲ	6	8.1	4.3	1.7	54.0	頁　岩	
Ⅴ	64	21	スクレイパー	N 6	Ⅲ	43	7.4	5.5	1.6	49.5	頁　岩	光沢あり。
Ⅴ	64	22	スクレイパー	P 7	Ⅲ	17	5.2	3.5	1.1	16.6	頁　岩	光沢あり。
Ⅴ	64	23	スクレイパー	K 9	Ⅲ	13	6.2	2.8	0.7	13.0	チャート	
Ⅴ	64	24	スクレイパー	M 4	Ⅲ	15	6.5	4.8	1.2	38.5	頁　岩	光沢あり。
Ⅴ	64	25	両面調整石器	R18	Ⅲ	17	4.4	2.9	1.2	12.4	頁　岩	
Ⅴ	64	26	両面調整石器	Q16	Ⅲ	50	3.2	4.3	1.0	14.8	頁　岩	
Ⅴ	65	27	楔形石器	J 8	Ⅲ	9	(2.6)	3.1	1.2	9.9	頁　岩	
Ⅴ	65	28	楔形石器	J 6	Ⅲ	10	3.2	3.0	1.5	16.5	頁　岩	
Ⅴ	65	29	石　核	Q17	Ⅲ	14	4.5	5.0	4.0	73.4	頁　岩	
Ⅴ	65	30	石　斧	N 6	Ⅲ	76	9.6	3.8	1.5	85.0	片　岩	
Ⅴ	65	31	たたき石	Q17	Ⅲ	7	11.5	5.6	4.2	291	砂　岩	
Ⅴ	65	32	たたき石	L 8	Ⅲ	65	10.5	6.3	4.9	426	砂　岩	
Ⅴ	65	33	たたき石	P 8	Ⅲ	31	7.5	6.9	4.0	297	チャート	
Ⅴ	65	34	扁平打製石器	O 6	Ⅲ	1	8.8	14.7	2.7	157	安山岩	
Ⅴ	65	35	扁平打製石器	M 8	Ⅲ	36	10.0	13.0	1.8	241	流紋岩	
Ⅴ	65	36	扁平打製石器	K 6	Ⅲ	13	8.5	13.7	3.1	576	砂　岩	
Ⅴ	66	37	扁平打製石器	J 7	Ⅲ	6	9.8	17.0	4.1	826	砂　岩	被熱。
Ⅴ	66	38	北海道式石冠	O23	Ⅲ	3	7.8	11.0	5.6	673	砂　岩	
Ⅴ	66	39	北海道式石冠	M 7	Ⅲ	41	8.7	14.4	6.4	1,205	閃緑岩	欠損。
Ⅴ	66	40	石　錘	P17	Ⅲ	20	6.9	12.1	3.0	350	砂　岩	
Ⅴ	66	41	石製品	L 6	Ⅲ	52	7.4	5.6	4.7	24.0	軽　石	穿孔。
Ⅴ	66	42	石製品	H 7	Ⅲ	54	(5.3)	2.3	1.0	10.0	黒曜石	異形石器。
Ⅴ	66	43	石製品	J 8	Ⅲ	7	1.5	1.5	0.25	0.6	粘板岩	平玉。

第Ⅵ章　自然科学的分析

1　館野４遺跡放射性炭素（ＡＭＳ）測定結果

株式会社　加速器分析研究所

1）年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用しています。
2）BP 年代値は、1950 年からさかのぼること何年前かを表しています。
3）付記した誤差は、次のように算出しています。
　複数回（通常は４回）の測定値について χ^2 検定を行い、通常報告する誤差は測定値の統計誤差から求めた値を用い、測定値が１つの母集団とみなせない場合には標準誤差を用いています。
4）$\delta^{13}C$ の値は、通常は質量分析計を用いて測定しますが、AMS 測定の場合に同時に測定される $\delta^{13}C$ の値を用いることもあります。
　$\delta^{13}C$ 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載しておきます。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰；パーミル）で表したものです。

$$\delta^{14}C = [(^{14}A_S - {}^{14}A_R) / {}^{14}A_R] \times 1000 \qquad (1)$$

$$\delta^{13}C = [(^{13}A_S - {}^{13}A_{PDB}) / {}^{13}A_{PDB}] \times 1000 \qquad (2)$$

ここで、　$^{14}A_S$：試料炭素の ^{14}C 濃度：$(^{14}C/^{12}C)_S$ または $(^{14}C/^{13}C)_S$
　　$^{14}A_R$：標準現代炭素の ^{14}C 濃度：$(^{14}C/^{12}C)_R$ または $(^{14}C/^{13}C)_R$

$\delta^{13}C$ は、質量分析計を用いて試料炭素の ^{13}C 濃度（$^{13}A_S = {}^{13}C/^{12}C$）を測定し、PDB（白亜紀のベレムナイト（矢石）類の化石）の値を基準として、それからのずれを計算します。
　但し、IAA では加速器により測定中に同時に $^{13}C/^{12}C$ も測定していますので、標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{13}C$ を用いることもあります。この場合には表中に〔加速器〕と注記します。
　また、$\Delta^{14}C$ は、試料炭素が $\delta^{13}C = -25.0$（‰）であるとしたときの ^{14}C 濃度（$^{14}A_N$）に換算した上で計算した値です。（1）式の ^{14}C 濃度を、$\delta^{13}C$ の測定値をもとに次式のように換算します。

$$^{14}A_N = {}^{14}A_S \times (0.975/(1 + \delta^{13}C/1000))^2 \quad (^{14}A_S \text{ として } ^{14}C/^{12}C \text{ を使用するとき})$$

または

$$= {}^{14}A_S \times (0.975/(1 + \delta^{13}C/1000)) \quad (^{14}A_S \text{ として } ^{14}C/^{13}C \text{ を使用するとき})$$

$$\Delta^{14}C = [(^{14}A_N - {}^{14}A_R) / {}^{14}A_R] \times 1000 \quad (‰)$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気の炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行なった年代値は実際の年代との差が大きくなります。多くの場合、同位体補正をしない $\delta^{14}C$ に相当する BP 年代値が比較的よくその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致します。

^{14}C 濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC（percent Modern Carbon）がよく使われており、$\Delta^{14}C$ との関係は次のようになります。

$$\Delta^{14}C = (pMC/100 - 1) \times 1000 \quad (‰)$$

$$pMC = \Delta^{14}C/10 + 100 \quad (\%)$$

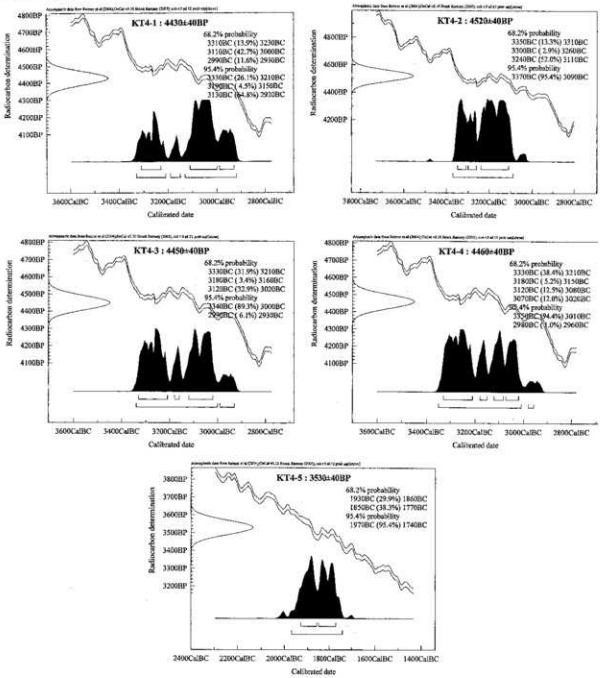
国際的な取り決めにより、この $\Delta^{14}C$ あるいは pMC により、放射性炭素年代(Conventional Radiocarbon Age；yrBP)が次のように計算されます。

$$T = -8033 \times \ln[(\Delta^{14}C/1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln(pMC/100)$$

IAA Code No.	試　　料	BP 年代および炭素の同位体比
IAAA-51663	試料採取場所 ：北海道上磯町字館野４遺跡	Libby Age(yrBP) : 4,430 ± 40
		δ 13C(‰)、(加速器) = -27.72 ± 0.81
	試料形態 ： 木炭	Δ 14C(‰) = -424.0 ± 2.9
	試料名(番号) ：KT4-1	pMC(%) = 57.60 ± 0.29
		δ 14C(‰) = -427.2 ± 2.7
	(参考)　　δ 13C の補正無し	pMC(%) = 57.28 ± 0.27
#1093-1		Age (yrBP) : 4,480 ± 40
IAAA-51664	試料採取場所 ：北海道上磯町字館野４遺跡	Libby Age(yrBP) : 4,520 ± 40
		δ 13C(‰)、(加速器) = -28.31 ± 0.89
	試料形態 ： 木炭	Δ 14C(‰) = -430.3 ± 2.9
	試料名(番号) ：KT4-2	pMC(%) = 56.97 ± 0.29
		δ 14C(‰) = -434.2 ± 2.7
	(参考)　　δ 13C の補正無し	pMC(%) = 56.58 ± 0.27
#1093-2		Age (yrBP) : 4,580 ± 40
IAAA-51665	試料採取場所 ：北海道上磯町字館野４遺跡	Libby Age(yrBP) : 4,450 ± 40
		δ 13C(‰)、(加速器) = -29.14 ± 0.87
	試料形態 ： 木炭	Δ 14C(‰) = -425.5 ± 2.8
	試料名(番号) ：KT4-3	pMC(%) = 57.45 ± 0.28
		δ 14C(‰) = -430.4 ± 2.6
	(参考)　　δ 13C の補正無し	pMC(%) = 56.96 ± 0.26
#1093-3		Age (yrBP) : 4,520 ± 40
IAAA-51666	試料採取場所 ：北海道上磯町字館野４遺跡	Libby Age(yrBP) : 4,460 ± 40
		δ 13C(‰)、(加速器) = -27.19 ± 0.93
	試料形態 ： 木炭	Δ 14C(‰) = -425.7 ± 3.0
	試料名(番号) ：KT4-4	pMC(%) = 57.43 ± 0.30
		δ 14C(‰) = -428.3 ± 2.8
	(参考)　　δ 13C の補正無し	pMC(%) = 57.17 ± 0.28
#1093-4		Age (yrBP) : 4,490 ± 40
IAAA-51667	試料採取場所 ：北海道上磯町字館野４遺跡	Libby Age(yrBP) : 3,530 ± 40
		δ 13C(‰)、(加速器) = -26.27 ± 0.85
	試料形態 ： 木炭	Δ 14C(‰) = -355.9 ± 3.0
	試料名(番号) ：KT4-5	pMC(%) = 64.41 ± 0.30
		δ 14C(‰) = -357.6 ± 2.7
	(参考)　　δ 13C の補正無し	pMC(%) = 64.24 ± 0.27
#1093-5		Age (yrBP) : 3,550 ± 40

【参考値：暦年較正 Radiocarbon determination】



表Ⅵ－１　試料一覧

試料番号	試料種類	採取地点	採取層位	乾燥重量	備考
KT4－1	炭化材	TH－2	覆土	0.20	№6（構築材）
KT4－2	炭化材	TH－2	覆土	0.12	№12（構築材）
KT4－3	炭化材	TH－4	覆土	0.15	№4（構築材）
KT4－4	炭化材	TH－4	覆土	0.31	№10（構築材）
KT4－5	炭化材	TF－17	焼土	0.76	

2　館野４遺跡焼失住居跡出土炭化材の樹種同定

植田弥生（パレオ・ラボ）

１．はじめに

ここでは、焼失住居跡Ｈ－２（14点）とＨ－４（９点）の構築材、Ｈ－３とＨ－６から出土した燃料材２点、合計25点の炭化材樹種同定結果を報告する。炭化材25点は、縄文時代中期（円筒上層b式期）に比定される遺構から出土し、構築材は住居跡覆土から、燃料材はＨＦ－１と床付近から出土した試料である。

上磯町の対岸の函館市に所在する桔梗２遺跡や石川１遺跡で調査された縄文時代中期の住居跡出土炭化材は、クリとトネリコ属が出土し、クリが圧倒的に多く出土している（千野、1991、を参照）。津軽海峡を挟み対岸の本州北部でも、縄文時代中期の住居構築材にはほとんどと言っていいほどにクリが使用されていたことが知られている。青森市の著名な三内丸山遺跡・三内沢部遺跡・近野遺跡（嶋倉、1979、千野、1991など）においても、縄文時代中期の住居跡出土炭化材はトネリコ属・キハダ？・アスナロ？などクリ以外も随伴するが、クリが多く報告されている。

当遺跡は函館湾に面した上磯町に所在し、標高約50ｍの海岸段丘上に立地し、住居跡は南側の緩斜面に営まれていた。道内の遺跡における住居構築材の樹種選択性を知る基礎的資料の蓄積として、当遺跡の炭化材樹種同定が実施された。

２．試料と方法

同定は、炭化材の横断面（木口）を手で割り実体顕微鏡で予察し、次に材の３方向（横断面・接線断面・放射断面）の断面を作成し、走査電子顕微鏡で拡大された材組織を観察した。走査電子顕微鏡用の試料は、３断面を５㎜角以下の大きさに整え、直径１㎝の真鍮製試料台に両面テープで固定し、試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡（日本電子㈱製　ＪＳＭ－Ｔ100型）で観察と写真撮影を行った。

同定した炭化材の残り破片は、北海道立埋蔵文化財センターに保管されている。

３．結　果

覆土から出土した構築材23点は、すべてクリであった。これらは、出土した各炭化材から一部を採取した破片を樹種同定試料としているので、本来利用されていた材のごく一部分を観察した印象ではあるが、年輪幅は２mm前後の破片が多かった。試料５は推定直径２cm前後の芯持ち丸木材で、試料15は年輪線のカーブから樹芯に近い部位の材と推定された。

燃料材２点は、アサダとクリであった。ＨＦ－１から出土した試料24には、接合しない１cm角前後の破片が３片あり、すべてがアサダであった。床付近から出土した試料25はクリで、推定直径３cm前後の芯持ち丸木の破片であった。

樹種記載

（1）ク　リ　*Castanea-crenata*　Sieb. et Zucc.　ブナ科

図版１　　１ａ・１ｃ：クリ（試料番号１）　　２ａ：クリ（試料番号４）
　　３ａ：クリ（試料番号５）　　４ａ：クリ（試料番号25）

年輪の始めに中型～大型の管孔が１～２層配列し、徐々にまたは年輪幅が狭い時は急に径を減じ非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性、道管との壁孔は孔口が大きく交互状・柵状である。

クリは北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。果実は食用になり、材は加工がやや困難であるが狂いは少なく粘りがあり耐朽性にすぐれている。特に縄文時代では柱材や構築材にクリが使われていることが多い。

（2）アサダ　*Ostrya　japonica*　Sarg.　カバノキ科

図版１　　５ａ－５ｃ：アサダ（試料番号24）

小型の管孔が単独または２～数個が放射方向に複合して散在し、年輪界では径を減じる散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、内腔に細いらせん肥厚がある。放射組織は同性、２細胞幅、道管との壁孔は大きくて交互状に配置している。

アサダは温帯の山地に生育する落葉高木である。

４．考　察

道南に位置する当遺跡においても、函館市桔梗２遺跡と同様に、縄文時代中期の住居跡２軒の構築材にはクリが多く利用されていた事が確認された。燃料材にもクリが使用され、クリ以外にアサダが検出された。燃料材と考えられた炭化材（№25）のクリは、推定直径が３cm前後の枝材のようであった。クリとアサダは、落葉広葉樹林に普通の樹種であり、入手容易な樹種の枝材を燃料に使用していたと推測される。屋外炉の集石遺構から出土する炭化材も、クリが非常に多いことは知られている（千野、1983）。しかし、住居内で使用されていた燃料材の樹種については、出土例が少なく、充分には判っていないようである。当住居跡では、クリ以外にもアサダが利用されていた可能性があることが判った。

縄文時代は、現在よりも森林面積は広く、生育していた樹種の種類数も豊富であった。それにも関らず、縄文時代中期の住居跡構築材には、当遺跡でもクリが強く選択使用されたいたことが今回の調査でも確認ができたと言える。

引用文献

千野裕道（1983）縄文時代のクリと集落周辺植生－南関東地方を中心に－，「研究論集 Ⅱ」：25－42，東京都埋蔵文化財センター．

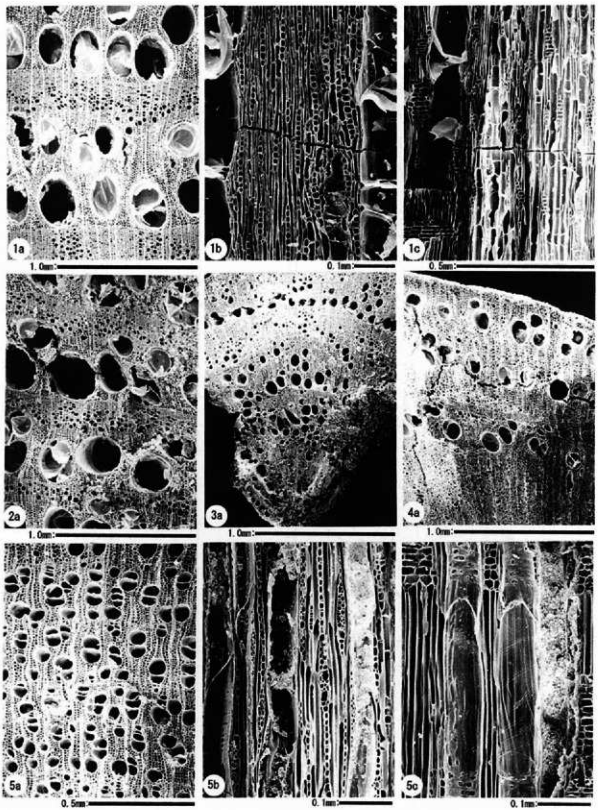
千野裕道（1991）縄文時代に二次林はあったか－遺跡出土の植物性遺物からの検討－，「研究論集 Ⅹ」：214－249，東京都埋蔵文化財センター．

嶋倉巳三郎（1979）青森県近野遺跡から出土した炭化材の樹種，「近野遺跡 発掘調査報告書（Ⅳ）」：321－323，青森県教育委員会．

表Ⅵ－２　館野４遺跡縄文時代中期住居

出土炭化材の樹種同定結果一覧

試料番号	遺構名	取り上げ番号	層位	樹種	備考
1	T･H-2	1	覆土	クリ	構築材
2	T･H-2	5	覆土	クリ	構築材
3	T･H-2	6	覆土	クリ	構築材
4	T･H-2	7	覆土	クリ	構築材
5	T･H-2	8	覆土	クリ	構築材
6	T･H-2	9	覆土	クリ	構築材
7	T･H-2	10	覆土	クリ	構築材
8	T･H-2	12	覆土	クリ	構築材
9	T･H-2	13	覆土	クリ	構築材
10	T･H-2	14	覆土	クリ	構築材
11	T･H-2	16	覆土	クリ	構築材
12	T･H-2	17	覆土	クリ	構築材
13	T･H-2	18	覆土	クリ	構築材
14	T･H-2	19	覆土	クリ	構築材
15	T･H-4	1	覆土	クリ	構築材
16	T･H-4	2	覆土	クリ	構築材
17	T･H-4	3	覆土	クリ	構築材
18	T･H-4	4	覆土	クリ	構築材
19	T･H-4	5	覆土	クリ	構築材
20	T･H-4	6	覆土	クリ	構築材
21	T･H-4	7	覆土	クリ	構築材
22	T･H-4	9	覆土	クリ	構築材
23	T･H-4	10	覆土	クリ	構築材
24	T･H-3		HF-1	アサダ	燃料材
25	T･H-6		床付近	クリ	燃料材



図版１　館野４遺跡焼失住居跡出土炭化材材組織の走査電子顕微鏡写真
1a-1c：クリ（試料番号１）　2a：クリ（試料番号４）　3a：クリ（試料番号５）　4a：クリ（試料番号25）
5a-5c：アサダ（試料番号24）　a：横断面　b：接線断面　c：放射断面

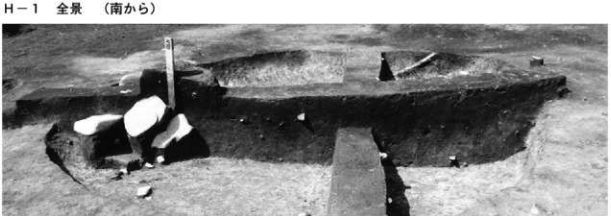
写真図版

館野４遺跡　調査区南側の沢から望む函館山　（北西から）

Ｈ－１・２・３　（西から）

調査状況　（南から）

Ｈ－１　全景　（南から）



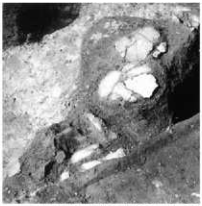
Ｈ－１　セクション　（北東から）

Ｈ－１　床面土器出土状況　（南から）

Ｈ－２ＨＰ－２・３　セクション　（南東から）

Ｈ－２　全景　（南東から）

Ｈ－２　セクション　（南西から）



Ｈ－２覆土土器出土状況（南から）

Ｈ－２　セクション　（南東から）

Ｈ－２覆土土器出土状況（東から）

Ｈ－３　全景　（南東から）

Ｈ－３　セクション　（南から）

Ｈ－３ＨＰ－１セクション（南から）

Ｈ－３　セクション　（西から）

Ｈ－３ＨＰ－２セクション（南から）

Ｈ－４　全景　（南西から）

Ｈ－４　セクション　（東から）

Ｈ－４覆土遺物出土状況（東から）

Ｈ－４ＨＰ－１セクション（南から）

Ｈ－４ＨＰ－２セクション（東から）

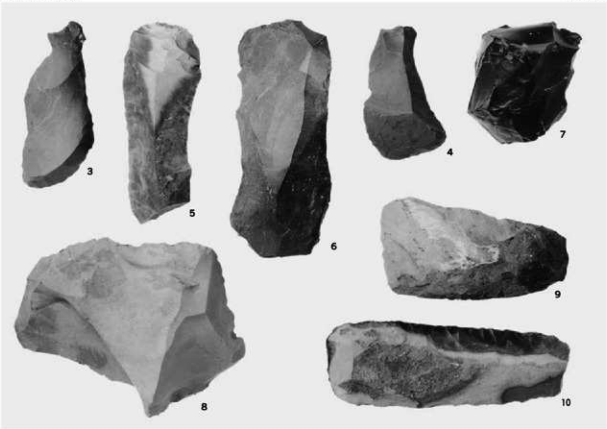
配石２・埋設土器　検出状況　（南から）

Ｐ－１　セクション　（南から）

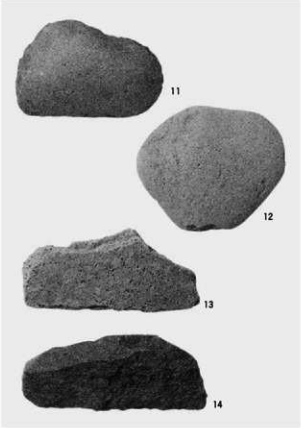
配石１　検出状況　（南東から）

埋設土器　セクション　（南東から）

包含層遺物出土状況　Ⅱ群ｂ類土器（東から）

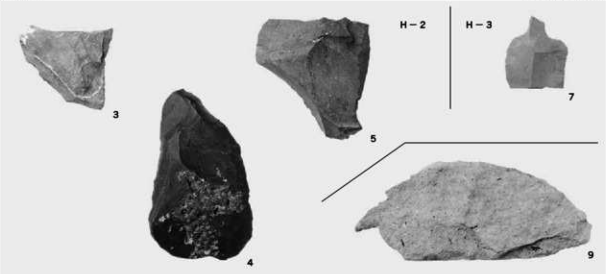


Ｈ－１



Ｈ－１

Ｈ－２（図Ⅲ－８－１）



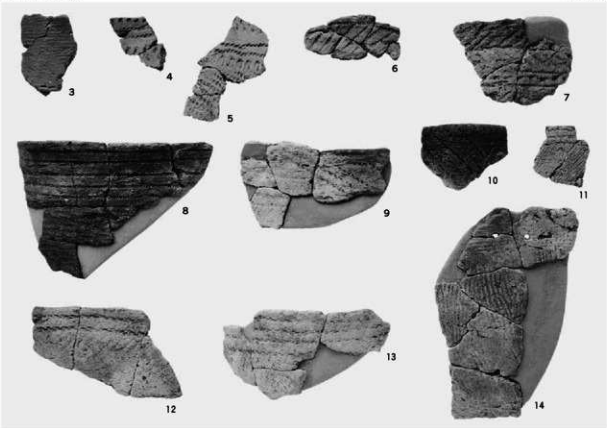
H－２・３・４

H－４（図Ⅲ－８－８）

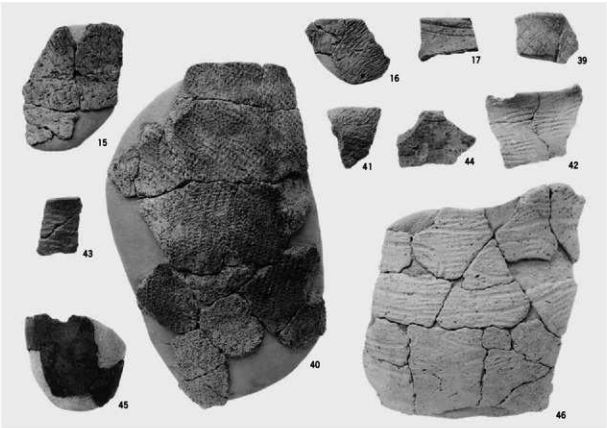
埋設土器（図Ⅲ－12－２）

Ⅱ群ｂ類（図Ⅲ－15－１）

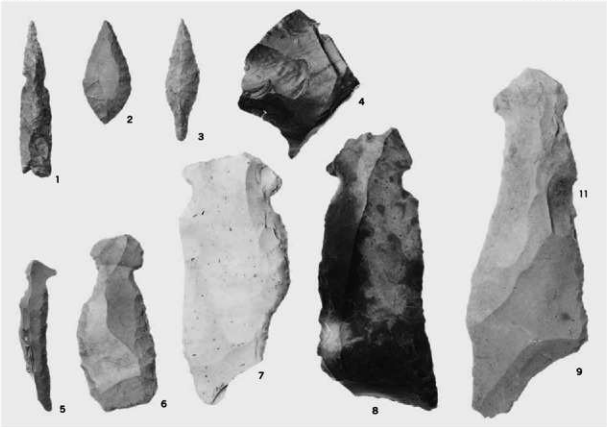
Ⅳ群ａ類（図Ⅲ－15－２）



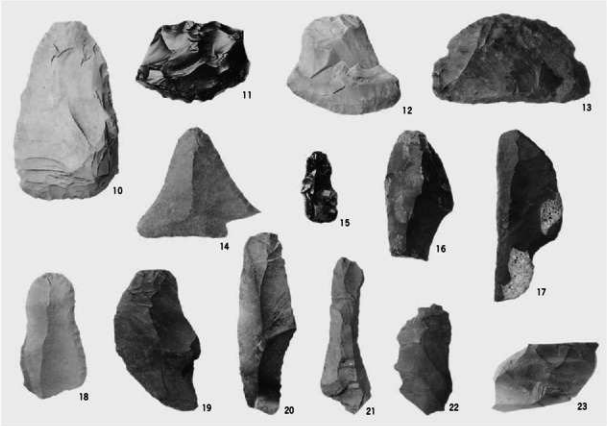
Ⅰ群ａ類・Ⅰ群ｂ類・Ⅱ群ｂ類



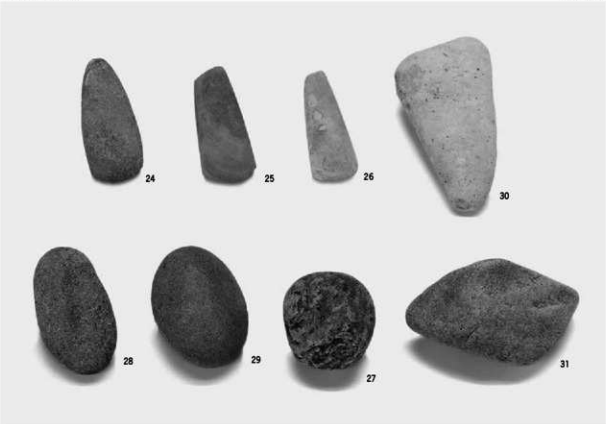
Ⅱ群ｂ類・Ⅳ群ａ類



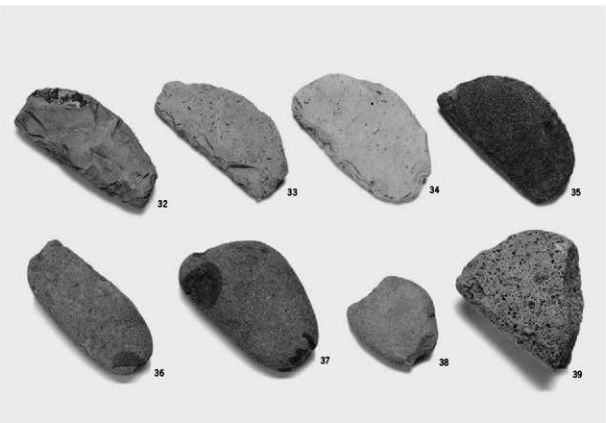
剥片石器１



剥片石器２

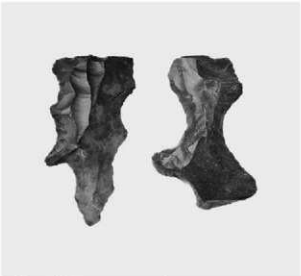


石斧・たたき石



扁平打製石器・北海道式石冠・石錘

石皿（図Ⅲ－23－40）



石製品（図Ⅲ－24－41・42）

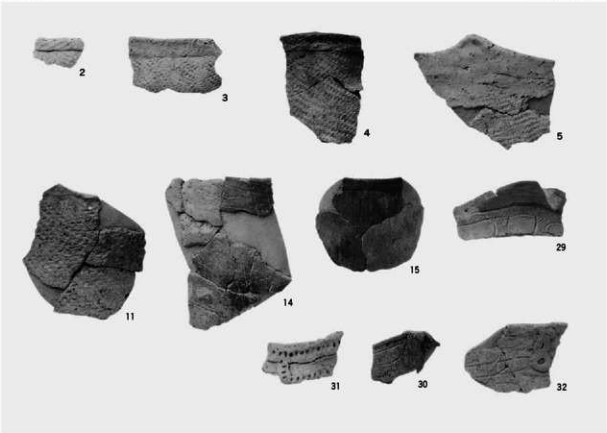
金属製品（図Ⅲ－24－43・44）

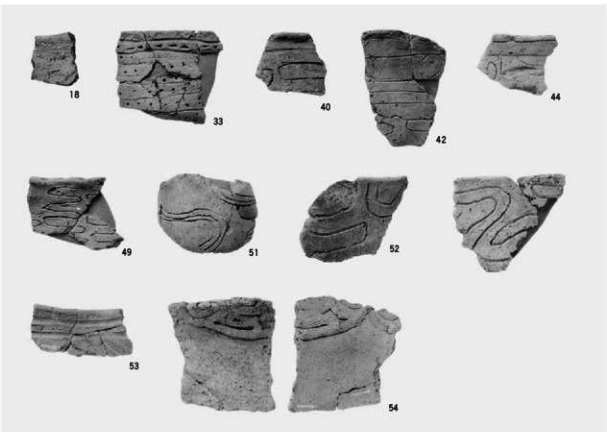
矢不来11遺跡石製品（図Ⅳ－６－22・23）

矢不来11遺跡金属製品（図Ⅳ－６－24）

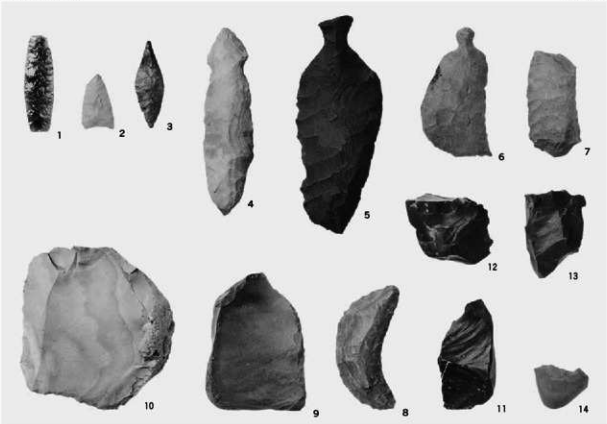
遺物出土状況　（北東から）

調査状況　（東から）

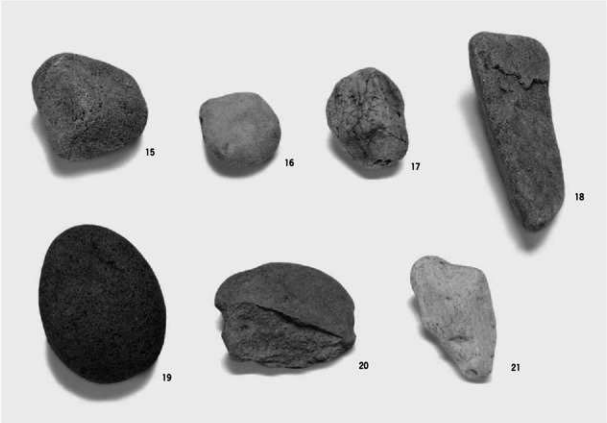




Ⅳ群 a 類



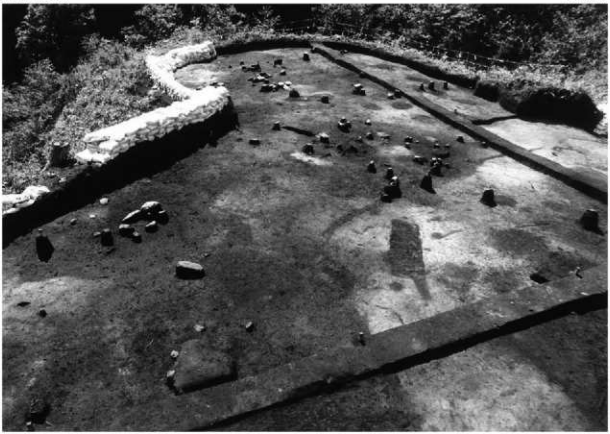
剥片石器・石斧



礫石器

調査状況　（北から）

Ｂ地区　調査前状況　（北西から）



Ｂ地区　遺構検出状況　（北東から）

Ｂ地区　調査終了状況　（北から）

Ｈ－１　全景　（南西から）

Ｈ－１　セクション　（北西から）

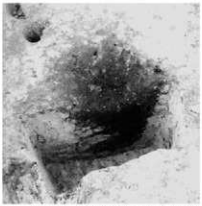
Ｈ－１　セクション　（南西から）

Ｈ－２・３　全景　（北西から）

Ｈ－２　セクション　（南から）

Ｈ－２ＨＰ－２セクション（南から）

Ｈ－２ＨＰ－３セクション（南から）



Ｈ－２ＨＰ－５セクション（南から）

Ｈ－２　炭化材出土状況　（南西から）

Ｈ－２　炭化材出土状況（西から）

Ｈ－２　炭化材出土状況　（南から）

Ｈ－２　埋設土器　（西から）

Ｈ－２　床面遺物出土状況　（南西から）

Ｈ－２　床面遺物出土状況　（北西から）

Ｈ－２・Ｐ－68　覆土の焼土・礫検出状況　（西から）

Ｈ－２　覆土土器出土状況　（東から）

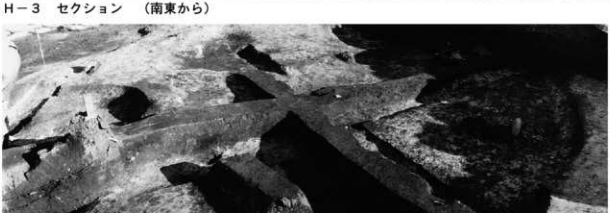
Ｓ－１・Ｆ－20　セクション　（南から）

Ｆ－25　セクション　（南東から）

Ｆ－23　セクション　（南西から）

Ｈ－３　全景　（北西から）

Ｈ－３　セクション　（南東から）



Ｈ－３　セクション　（北西から）

Ｈ－３　ＨＦ－１　セクション　（南西から）

Ｈ－３　床面遺物・炭化材出土状況　（北東から）

Ｈ－３　ＨＰ－２　セクション　（南西から）

Ｈ－３　ＨＰ－３　セクション　（南西から）

Ｈ－３　床面遺物出土状況　（北から）

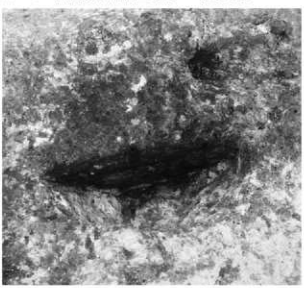
Ｈ－４　全景　（北西から）

Ｈ－４　セクション　（南から）

Ｈ－４　セクション　（南西から）

Ｈ－４　床面炭化材出土状況　（西から）

Ｈ－４　ＨＦ－１直上遺物出土状況　（南から）



Ｈ－４ＨＰ－６　セクション　（南西から）

Ｈ－４ＨＰ－３　セクション　（南から）

Ｓ－３　セクション　（東から）

埋設土器１　検出状況　（北から）

Ｈ－５・８　全景　（北東から）

Ｈ－８　周溝検出状況　（南西から）

Ｈ－５・８　セクション　（北西から）

Ｈ－５・８　セクション　（北東から）

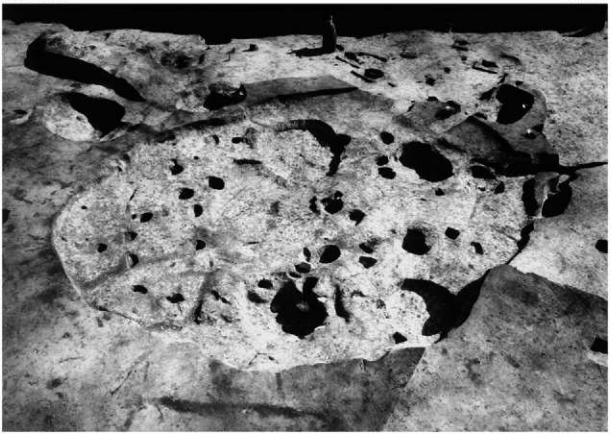
Ｈ－５・８　検出面遺物出土状況・Ｆ－31　（北西から）

Ｈ－５・８　検出面Ⅳ群ａ類土器出土状況　（北から）

Ｆ－31　セクション　（北西から）

Ｈ－８　覆土Ⅲ群ａ類土器出土状況　（北東から）

Ｈ－８　周溝セクション　（北から）



Ｈ－６　全景　（南西から）

Ｈ－６　セクション　（南から）

Ｈ－６　セクション　（西から）

Ｈ－６　覆土内の土坑とＦ－16・17検出　（南西から）

Ｈ－６　覆土土器出土状況　（北西から）

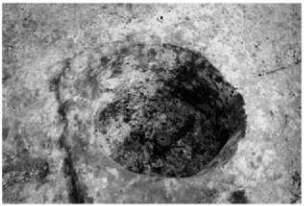
Ｈ－６　覆土土器出土状況　（西から）

Ｈ－６　覆土上Ⅲ層土器出土状況　（南から）

Ｈ－７　全景　（南から）

Ｈ－７ＨＰ－１　セクション　（北から）

Ｈ－７ＨＰ－４　セクション　（南から）



Ｈ－７ＨＰ－１　遺物出土状況　（南西から）

Ｓ－２　検出　（西から）

Ｈ－７　セクション　（西から）

Ｈ－７　セクション　（南から）

Ｈ－９　全景　（南東から）

Ｈ－９・Ｆ－29　セクション　（南西から）

Ｈ－10　全景　（南西から）

Ｈ－10　セクション　（南西から）

Ｐ－１～３・７　全景　（南西から）

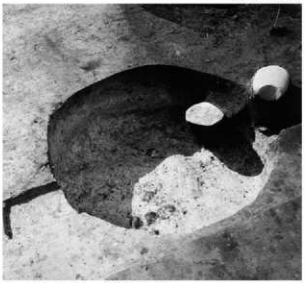
Ｐ－１　セクション　（南西から）

Ｐ－４・５、ＳＰ－11　セクション　（南から）

Ｐ－６　全景　（北東から）

Ｐ－14　セクション　（南から）

Ｐ－13　セクション　（北から）



Ｐ－13　全景　（北東から）

Ｐ－15　セクション　（北から）

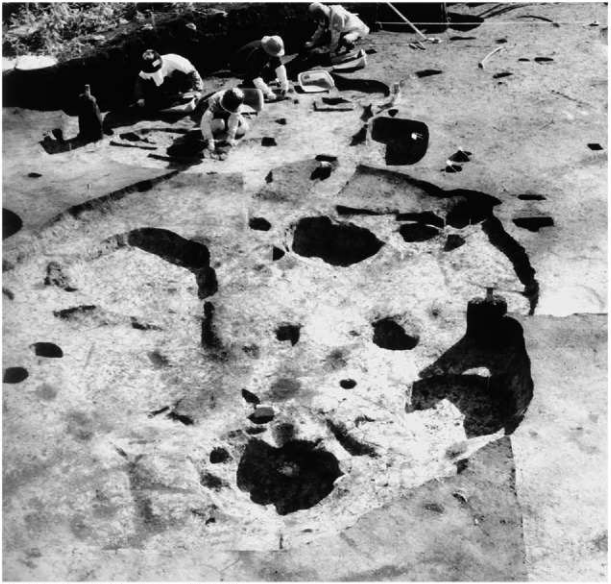
Ｐ－22　セクション　（西から）

Ｐ－23　セクション　（北から）

Ｐ－24　セクション　（南西から）

Ｐ－25　遺物出土状況・Ｆ－35　（南から）

Ｐ－27　小礫出土状況　（南東から）



Ｐ－22・23・25～29　全景　（北から）

Ｐ－19・20・35～42・44・58～60　全景　（北から）

Ｐ－35　セクション　（南から）

Ｐ－38　遺物出土状況　（北西から）

Ｐ－39・40　セクション　（南から）

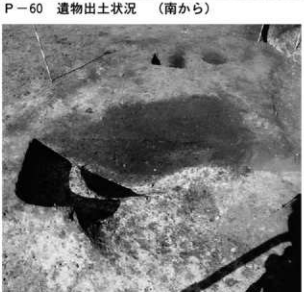
Ｐ－41　セクション　（西から）

Ｐ－42　遺物出土状況　（南東から）

Ｐ－59　セクション　（南東から）

Ｐ－60　遺物出土状況　（南から）

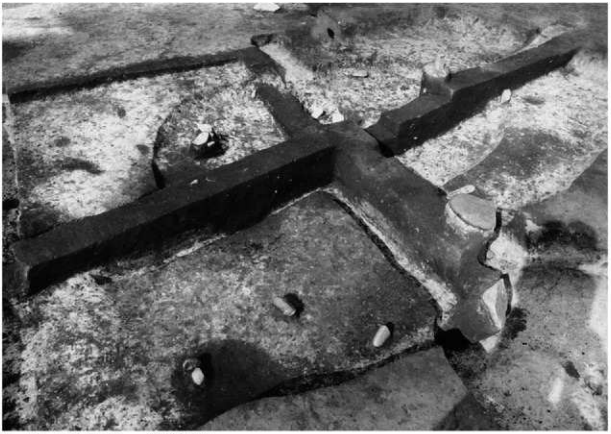
Ｐ－32～34　セクション　（南東から）



Ｐ－54・64　セクション　（南東から）

Ｐ－46・47　セクション　（北から）

Ｐ－50　全景　（西から）



Ｐ－50　セクション　（南東から）

Ｐ－67　遺物出土状況　（南西から）

Ｐ－77　遺物出土状況　（北東から）

Ｐ－68　ＰＰ－１・ＰＦ－１セクション　（南から）

Ｐ－50　ＰＰ・ＰＦセクション　（南東から）

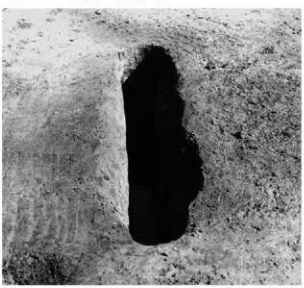
Ｐ－68　セクション　（西から）

Ｐ－68　全景　（北東から）

Ｐ－68　遺物出土状況・セクション　（北から）

ＴＰ－１　全景　（西から）

ＴＰ－２　セクション　（東から）



ＴＰ－６　全景　（西から）

ＴＰ－５　セクション　（南から）

埋設土器２　検出　（東から）

埋設土器３　検出　（東から）

Ｈ－２（図Ⅴ－７－１）

Ｈ－２（図Ⅴ－７－２）

Ｈ－２（図Ⅴ－７－３）

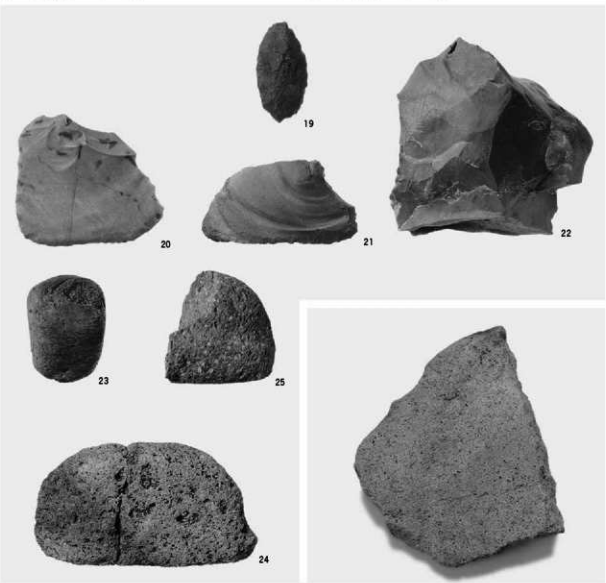
Ｈ－２（図Ⅴ－７－５）

Ｈ－２（図Ⅴ－７－４・正面）

Ｈ－２（図Ⅴ－７－４・背面）

Ｈ－２（図Ⅴ－８－11）

Ｈ－２（図Ⅴ－８－12）



Ｈ－２

Ｈ－２（図Ⅴ－10－26）

Ｈ－３（図Ⅴ－12－１）

Ｈ－３（図Ⅴ－12－２）

Ｈ－３

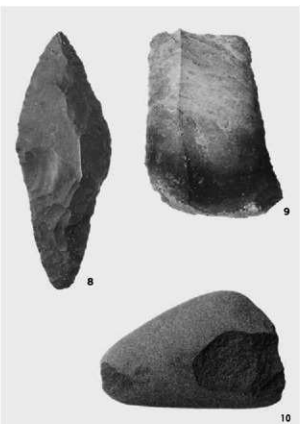
Ｈ－４（図Ⅴ－16－１）

埋設土器１（図Ⅴ－16－10）

Ｈ－４

Ｈ－４（図Ⅴ－18－16）

Ｈ－５（図Ⅴ－22－１）



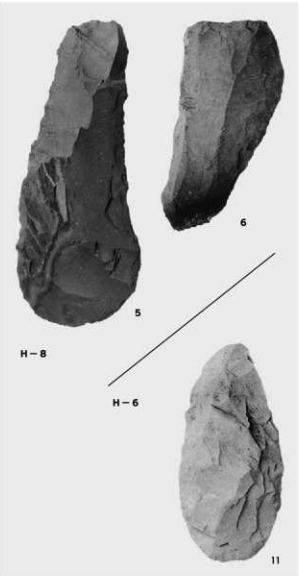
Ｈ－５

Ｈ－８（図Ⅴ－23－１）

Ｈ－８（図Ⅴ－23－２）

Ｈ－６（図Ⅴ－27－２）

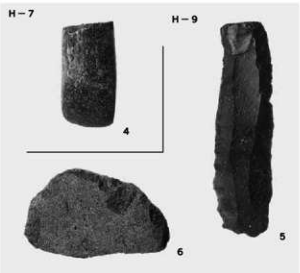
Ｈ－６（図Ⅴ－27－３）



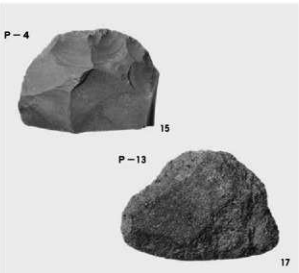
Ｈ－８・６

Ｈ－７　ＨＰ－１（図Ⅴ－30－３）

Ｈ－７（図Ⅴ－30－５）



Ｈ－７・９



Ｐ－４・13

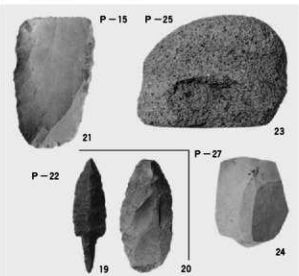
Ｐ－14（図Ⅴ－46－18）

Ｐ－13（図Ⅴ－46－16）

Ｐ－15（図Ⅴ－45－１）

Ｐ－15（図Ⅴ－47－22）

Ｐ－25（図Ⅴ－45－５）



Ｐ－15・25・22・27

Ｐ－38（図Ⅴ－47－25）

Ｐ－38（図Ⅴ－47－26）

Ｐ－68（図Ⅴ－45－12）

Ｐ－68（図Ⅴ－48－28）

Ｐ－47（図Ⅴ－48－27）

Ｐ－73

Ｐ－77（図Ⅴ－48－30）

ＳＰ－14

ＳＰ－25（図Ⅴ－56－２）

ＳＰ－82

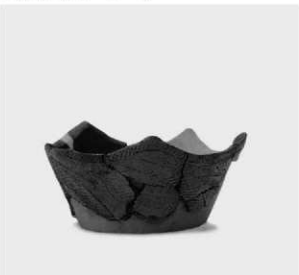
埋設土器２（図Ⅴ－56－４）

埋設土器３（図Ⅴ－56－５）

Ⅲ群ｂ類（図Ⅴ－59－１）

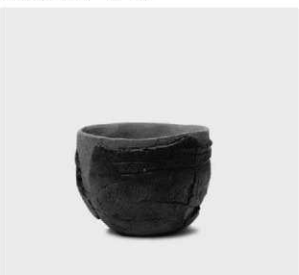
Ⅲ群ｂ類（図Ⅴ－59－２）

Ⅳ群ａ類（図Ⅴ－59－３）

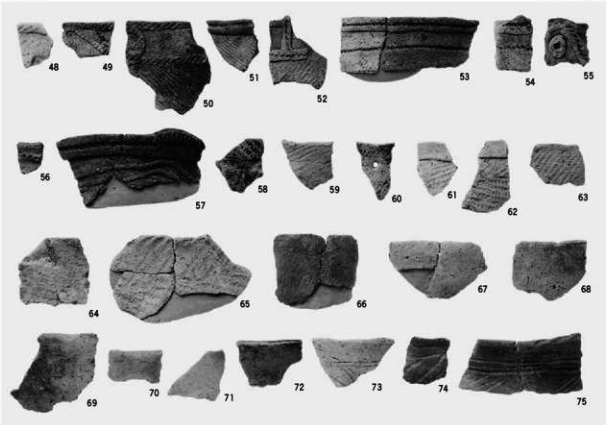


Ⅳ群ｃ類（図Ⅴ－62－89）

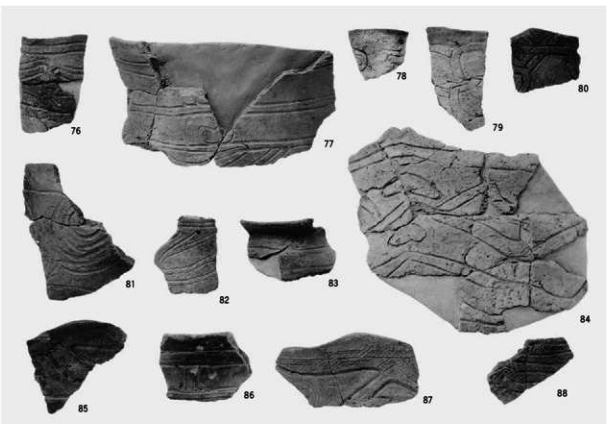
Ⅳ群ａ類（図Ⅴ－59－４）



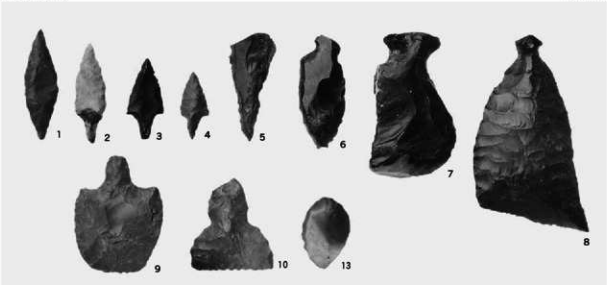
Ⅳ群ｃ類（図Ⅴ－62－90）



Ⅳ群ａ類

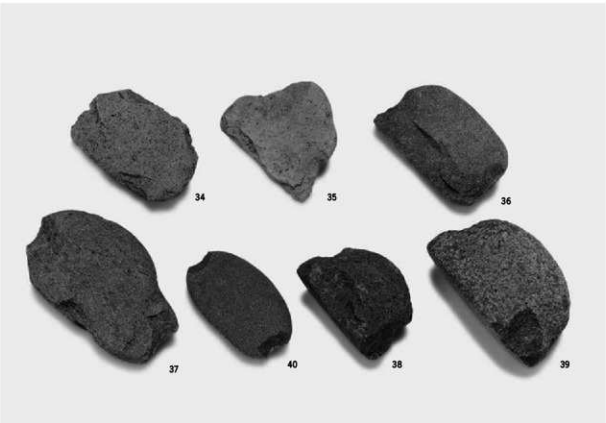


Ⅳ群ａ類・Ⅳ群ｂ類



剥片石器

石斧・たたき石



扁平打製石器・北海道式石冠

石製品（図Ⅴ－66－41）

石製品（図Ⅴ－66－42）

石製品（図Ⅴ－66－43）

引用・参考文献

上磯町　1997　『上磯町史　上巻』上磯町

菊地　明・横田　淳　1999　『函館戦争写真集』新人物往来社

河野常吉　1974　『北海道史蹟名勝天然紀念物調査報告書』名著出版

河野常吉　1975　「北海道名勝誌」『河野常吉著作集　Ⅲ　北海道史編』北海道出版企画センター

佐藤一夫・工藤　肇ほか　1986　『苫小牧市東部工業地帯の遺跡群Ⅰ』苫小牧市教育委員会

佐藤一夫・工藤　肇ほか　1987　『苫小牧市東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』苫小牧市教育委員会

佐藤一夫・工藤　肇ほか　1990　『苫小牧市東部工業地帯の遺跡群Ⅲ』苫小牧市教育委員会

佐藤一夫・工藤　肇ほか　1992　『苫小牧市東部工業地帯の遺跡群Ⅳ』苫小牧市教育委員会

市立函館博物館　1977　『函館空港第４地点・中野遺跡』函館市教育委員会

藤本英夫編　1980　『日本城郭大系１　北海道・沖縄』新人物往来社

北海道庁　1918　『北海道史　第一』（松前景広　正保３年　「新羅之記録」）清文堂

北海道文化財保護協会　1981　『館野２遺跡』上磯町教育委員会

（財）北海道埋蔵文化財センター　1987　『上磯町　矢不来２遺跡』（北埋調報37）

（財）北海道埋蔵文化財センター　1988　『上磯町　矢不来天満宮跡』（北埋調報47）

（財）北海道埋蔵文化財センター　1988　『木古内町　新道４遺跡』（北埋調報52）

（財）北海道埋蔵文化財センター　1998　『上磯町　茂別遺跡』（北埋調報121）

（財）北海道埋蔵文化財センター　2003　『厚真町　浜厚真３遺跡』（北埋調報186）

松浦武四郎（著）／秋葉　実（解読）　1988　「渡島日誌　巻之壱」
『武四郎蝦夷地紀行』北海道出版企画センター

森　靖裕・工藤研治　1988　『富川砲塁跡』上磯町教育委員会

森　靖裕　1989　『矢不来３遺跡』上磯町教育委員会

森　靖裕　2001　『町内遺跡発掘調査事業報告書－平成11・12年度発掘調査概要報告－』
上磯町教育委員会

報 告 書 抄 録

ふりがな	ほくとし　やふらいろくいせき・やふらいじゅういちいせき・たてのよんいせき
書名	北斗市　矢不来６遺跡・矢不来11遺跡・館野４遺跡
副書名	高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	（財）北海道埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第235集
編著者名	工藤研治・鎌田　望・福井淳一・柳瀬由佳
編集機関	（財）北海道埋蔵文化財センター
所在地	〒069-0832　北海道江別市西野幌685番地１
発行年月日	西暦2006年６月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地（調査当時のもの）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
やふらいろくいせき 矢不来６遺跡	ほくとしぐんかいしぐんかいしちょう 北海道上磯郡上磯町 あざやふらい 字矢不来253－１ほか	1335	B－06－60	41° 46′ 45.1370″	140° 36′ 50.6618″	20050512 ～ 20050831	4,660	高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事
やふらいじゅういちいせき 矢不来11遺跡	ほくとしぐんかいしぐんかいしちょう 北海道上磯郡上磯町 あざやふらい 字矢不来252ほか		B－06－77	41° 46′ 42.4305″	140° 36′ 46.9386″	20050512 ～ 20050831	5,300	
たてのよんいせき 館野４遺跡	ほくとしぐんかいしぐんかいしちょう 北海道上磯郡上磯町 あざたての 字館野17－30		B－06－49	41° 47′ 41.7542″	140° 37′ 12.1098″	20050901 ～ 20051027	7,100	

ふりがな 所収遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
やふらいろくいせき 矢不来６遺跡	集落跡	縄文時代 前期後半	住居跡　４軒 土坑　２基 焼土　22か所 小ピット12基	縄文土器10,107点（前期後半・後期初頭～前葉等）。石器等3,120点（石鏃・石錐・つまみ付きナイフ・スクレイパー・両面調整石器・石核・Ｒフレイク・フレイク・石斧・たたき石・すり石・北海道式石冠・扁平打製石器・石皿・台石・原石・礫・石製品・銭弾等）	なし
やふらいじゅういちいせき 矢不来11遺跡	遺物包含地	縄文時代 後期初頭	焼土　５か所	縄文土器3,023点（後期初頭～前葉など）。石器等3,552点（石鏃・つまみ付きナイフ・スクレイパー・楔形石器・Ｒフレイク・フレイク・石核・石斧・たたき石・すり石・石錐・砥石・石皿・礫・土製品・石製品・銭弾等）	なし
たてのよんいせき 館野４遺跡	集落跡	縄文時代 中期	住居跡　10軒 土坑　76基 焼土　34か所 小ピット99基 Ｔピット７基	縄文土器15,492点（中期前半・中期後半・後期初頭～前葉等）。石器等20,744点（石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・スクレイパー・Ｒフレイク・Ｕフレイク・フレイク・石斧・たたき石・すり石・北海道式石冠・扁平打製石器・石錐・砥石・石皿・台石・原石・礫・土製品・石製品等）	縄文時代中期前半の焼失住居２軒

（財）北海道埋蔵文化財センター調査報告書　第235集
北斗市
矢不来６遺跡・矢不来11遺跡・館野４遺跡

－高規格幹線道路函館江差自動車道建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書－
平成18年６月30日発行

編集・発行　財団法人　北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832　江別市西野幌685番地－１
TEL(011)386－3231　FAX(011)386－3238
[E-mail]mail@domaibun.or.jp
[URL]http://www.domaibun.or.jp
印　　刷　三浦印刷㈱
〒064-0809　札幌市中央区南９条西６丁目
TEL(011)511－6191　FAX(011)512－6041